

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った
参加型授業に関する実態調査 2017

報 告 書

木村 充, 村松 灯, 田中 智輝, 町支 大祐, 渡邊 優子,
裴 麗瑩, 吉村 春美, 高崎 美佐, 中原 淳

2018年10月24日

立教大学 経営学部 中原淳研究室

日本教育研究イノベーションセンター (JCERI)

新生マナビラボ・プロジェクト宣言

今から3年前、中原淳研究室と日本教育研究イノベーションセンターは、日本全国の高校で授業をなさっている先生方が、その授業をさらに「インタラクティブ」に、さらに「知的にわくわく」したものにするお手伝いをさせていただきたいと願い、「マナビラボ」プロジェクトを立ち上げました。この3年間、マナビラボ・プロジェクトでは、主に、下記の3つの活動にラボメンバー一同で従事してきました。

1. 日本全国の高校のアクティブラーニングの実態を「見える化」するべく、モニタリング調査を行わせていただくこと
2. アクティブラーニングの視点に立った高校の先進的な授業実践事例を収集し、多くの人々に知っていただく機会をつくりだすこと
3. それらをWeb、書籍、報告書などのメディアを用いて世に広く問い、アクティブ・ラーナーの育成に貢献すること

わたしたちは、これら3つの活動を、5つの信念をもって実施してきたつもりです。以下では、それを改めて振り返ってみましょう。

私たちの1つ目の信念は、アクティブラーニングを「新しいもの」とは「みなさない」という信念です。

活動を始めてからというもの、高校の先生方にも様々ヒアリングなどもさせていただきましたが、強く感じたのはアクティブラーニングという言葉に対する強い拒否感、あるいはやらされ感でした。多くの先生方が思っているのは「確かに新しいけれど、今までだってあったよね」というものです。

マナビラボでは、多くの心ある先生方がお取り組みになってきたアクティブラーニング的な授業を「再発見」し、さらに多くの人々により知っていただくお手伝いをさせていただこうと思っております。

私たちは、アクティブラーニングを「新しいもの」であるとはみなしません。それは多くの心ある教員の方々によって、これまでも追求されてきたものであり、今後の社会を生き抜く人材にとって重要な学習機会であると考えます。

2つ目の信念は、「私たちはパブリックをめざす」というものです。

昨今、巷では、アクティブラーニングが大きな流行とも言える状況になっているわけですが、それを「商業化」のチャンスとみなす人も少なくありません。アクティブラーニングで「一旗揚げよう」という人もいないわけではありません。

私たちは、プロジェクトメンバーの誰一人として、アクティブラーニングの「専業の研究者」ではありません。マナビラボ・プロジェクトのメンバーは、人材開発研究をしている者、哲学研究をしている者など、多岐にわたります。それぞれの学問的立場から、新たな学びが高校に必要だと感じ、自らの研究のかたわら、この仕事をしています。私たちは、よりパブリックな立場から、アクティブラーニングを元気にするお手伝いをしたいと思います。

私たちは、これからを生き抜く子どもたち、そして、そうした子どもたちと日々相對する先生方のために、パブリックな活動に従事します。

3つ目の信念は、これからの学びを考えるときの姿勢です。

これからの学びのあり方を議論する際には、教育機関だけを取り出して考えるのではなく、社会と教育機関とのつながりを考えて取り組むべきであると、私たちは信じています。

例えば、高校を変えていかなければならないというのは、大学入試、その先の大学での教育、さらにその先の社会と、トータルに考えていく必要があります。そして、そこでの移行を円滑に進めていくということを目的にする必要があります。

つまり、高校をひとりぼっちにしないということです。

私たちは、志ある高校の授業を、社会につなぐお手伝いをさせていただきます。社会の心ある人々は、教育現場で日々格闘なさっている先生方と、適切なかたちで出会い、願わくば協力をしたいと思っています。これまで、多くの教育運動は「教育の世界」の独自性を主張するあまり、「教育」と「教育以外」の世界の「境界」を強固にし、固定化してきました。私たちは、そうした視点を一切とりません。教育のあり方を、社会や仕事のあり方と接続して考えます。

4つ目の信念は、私たちは「見える化」にこだわるということです。

例えば、教育制度の決め方がいわゆる審議会・協議会方式になっていることに代表されるように、教育改革談義・議論というのは、どうしても印象論・理念論で進んでしまっています。私は、今あるものが「見える化」していないのに、それを適切に「変えること」はできないと思います。

「イメージ」できないものは「マネージ」できません。またイメージできないものは「達成」すらできないのです。なぜなら、「達成したかどうか」もわからないからです。

生産的な議論を起こしていくのは、数字であり事例です。私たちは、アクティブラーニングにまつわる数字や事例を「見える化」するお手伝いをします。私たちは、印象論や理念論で教育や学習を語りません。しっかりとしたエビデンスに基づき、物事を語る姿勢を持ちます。

最後の5つ目は、私たちは「対話の素材」を現場の先生方に提供したいということです。

「現場を変えうる力」を持っているのは、私たちではありません。現場を本当に変えうる力を持っていらっしゃるの、日々現場に立っておられる先生方の献身的な努力です。しかし、これまでの教育運動は、現場で日々相對している人々を「エンパワーメント」するどころか、意欲を減退する方向で行われてきました。

私たちは「無力」です。

私たちに為しえるのは、現場の改善や日々の実践に邁進しておられる先生方が、日々の実践を振り返ったり、新たな物事を構想していくときに必要になる対話の素材を提供することです。

わたしたちは、このような5つの信念のもと、プロジェクトを遂行してきました。

そして、それから3年・・・。

2018年4月より、マナビラボ・プロジェクトは、新しく生まれ変わりました。

立教大学 経営学部 寄附型研究プロジェクト「マナビラボ」として再スタートを切ることになりました。

アクティブラーニングを生み出すための「学校づくり」「組織づくり」をいかに進めればよいのか？
「3K（勘と経験と気合い）に依存した組織づくり」ではなく、データに基づいたカリキュラム・マネジメントをいかに実現すればいいのか？

わたしたちの新しいビジョンは、より持続的に、かつ効果的に、アクティブラーニングを生み出し続けることのできる環境を、現在の学校においていかに整備すればいいのか、という方向にむけて開かれています。

「アクティブラーニングの教育論」から「アクティブラーニングの組織論」へ

わたしたちの活動が、この国の学校の教育改善に、微力ながら貢献できることを願っています。

立教大学 経営学部
教授 中原 淳

はじめに

本報告書は、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室（現立教大学経営学部）と 一般財団法人日本教育研究イノベーションセンターが、2017 年 7 月から 9 月にかけて共同研究として実施した「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査 2017」（以下、本調査）の調査概要及び集計結果をまとめたものである。本調査では、アクティブラーニングと同義で「参加型学習」という言葉を用いている。

本研究プロジェクトでは、高等学校におけるアクティブラーニングの現状と変化、その要因を質問紙調査の方法で把握することを目的に、「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査」という縦断調査を実施している。本調査は、その一連の調査の 3 年目に当たるものである。1 年目（2015 年度）は、普通科またはそれに準ずる学科、及び総合学科を設置する全国の高等学校 3,893 校を対象に全数調査を実施し、62.0%に当たる 2,414 校から回答をいただいた。2 年目（2016 年度）は、2015 年度の調査回答校 2,414 校を対象に追跡調査を実施し、74.3%に当たる 1,793 校から回答をいただいた。そして、3 年目の調査（2017 年度）は、普通科またはそれに準ずる学科、及び総合学科を設置する全国の高等学校 3,857 校を対象に全数調査を実施し、56.7%に当たる 2,188 校から回答をいただいた。

本調査が可能となったのは、ご多忙な中で、本調査の趣旨を理解し、回答をお寄せくださった全国の高等学校の先生方の熱意とご協力によるものである。この場を借りて、心から厚く感謝を申し上げたい。また、このたびの調査の趣旨をご理解いただき、様々な支援をいただいた一般財団法人日本教育研究イノベーションセンターの皆様にご心より感謝する。本当にありがとうございました。

多くの方々のご理解とご協力の賜物である本調査の結果が、今後の高等学校におけるアクティブラーニングの在り方を考える際の基礎資料として各方面で活用され、高等学校の学びの活性化や改善に寄与することを願う。

2018 年 10 月 24 日

研究プロジェクトメンバー全員を代表して

立教大学 経営学部

教授 中原淳（研究代表者）

調査結果の掲載・引用について

本報告書に掲載されている図版や調査結果の掲載や引用をご希望される場合、ご自由に引用・転載していただいて構いませんし、引用・転載にあたって事前にご連絡をいただく必要はありませんが、必ず以下の【出典記載例】に則って、出典をご明記ください。

【出典記載例】

木村 充，村松 灯，田中 智輝，町支 大祐，渡邊 優子，裴 麗瑩，吉村 春美，高崎 美佐，中原 淳
(2018)．立教大学経営学部寄附型研究プロジェクトー日本教育研究イノベーションセンター共
同調査研究 高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調
査 2017：報告書．<http://manabilab.jp/wp/wp-content/uploads/2018/10/report.pdf>

目 次

新生マナビラボ・プロジェクト宣言	1
はじめに	4
調査結果の掲載・引用について	5
1. 調査の概要	9
1.1. 調査の概要	9
1.2. 調査の目的	11
1.3. 調査の実施主体	11
1.4. 調査の対象（学校・教科）	12
1.5. 調査の方法	12
1.6. 調査票の構成と内容	12
1.7. 回収率	13
1.8. グラフと表について	15
2. 調査の結果	16
2.1. 回答校の基本属性	16
2.1.1. 設置者	16
2.1.2. 男女共学・別学	17
2.1.3. 接続	17
2.1.4. 研究・重点校指定	18
2.1.5. 教員数	19
2.1.6. 教員の年齢分布	21
2.1.7. 設置学科、学級数、生徒数	22
2.2. 学校代表者調査の集計結果	23
2.2.1. 回答者の属性	23
2.2.2. 校長の現任校勤務年数	24
2.2.3. 校長の教職経験年数	25
2.2.4. 校長の指導主事・人事主事の経験の有無	26
2.2.5. 校長の教員以外の職業経験の有無	28
2.2.6. 校長の最終学歴	29
2.2.7. 校長・教員の平均在任期間	30
2.2.8. 学校代表者の職務行動	31
2.2.9. 教員の様子	33
2.2.10. 生徒の様子	36
2.2.11. 学校の課題	38
2.2.12. 現在の参加型授業への取り組み状況	39

2.2.13.	参加型授業に関する校内研修の回数とテーマ	40
2.2.14.	参加型授業への取り組み状況と今後の見通し	42
2.2.15.	参加型授業導入の時期ときっかけ	43
2.2.16.	参加型授業の効果	45
2.2.17.	参加型授業の評価	49
2.2.18.	参加型授業の悩み	50
2.2.19.	参加型授業の悩みの相談相手	54
2.3.	カリキュラム・マネジメント担当者調査の集計結果	55
2.3.1.	カリキュラム・マネジメント担当者の校務分掌	55
2.3.2.	カリキュラム・マネジメント担当者の経験年数	56
2.3.3.	カリキュラム・マネジメント担当者の教職経験年数	57
2.3.4.	カリキュラム・マネジメント担当者の指導主事・人事主事経験	58
2.3.5.	カリキュラム・マネジメント担当者の教員以外の職業経験の有無	60
2.3.6.	カリキュラム・マネジメント担当者の経歴	61
2.3.7.	カリキュラム・マネジメント担当者の最終学歴	62
2.3.8.	カリキュラム・マネジメント担当者の職務行動	63
2.3.9.	教育課程の編成体制	66
2.3.10.	教育課程の評価・改善について話し合う機会	68
2.3.11.	カリキュラム・マネジメントへの取り組み状況	69
2.3.12.	カリキュラム・マネジメントに関する悩み	72
2.3.13.	カリキュラム・マネジメントの悩みの相談相手	75
2.3.14.	現在の教科・科目横断的、統合的な取り組みの状況	76
2.3.15.	教科・科目横断的、統合的な取り組みの状況と今後の見通し	78
2.3.16.	大学との連携・接続	79
2.3.17.	社会との連携・接続	80
2.3.18.	カリキュラム・マネジメント担当者の能力	81
2.3.19.	カリキュラム・マネジメント担当者のリーダーシップ	84
2.4.	教科主任調査の集計結果	85
2.4.1.	教科主任の経験年数	85
2.4.2.	教科主任の教職経験年数	86
2.4.3.	教科主任の指導主事・人事主事経験	87
2.4.4.	教科主任の教員以外の職業経験の有無	89
2.4.5.	教科主任の最終学歴	90
2.4.6.	同僚との会話の機会	91
2.4.7.	教科主任の職務行動	92
2.4.8.	教員の様子	96
2.4.9.	生徒の様子	99
2.4.10.	学校の課題	101
2.4.11.	教科でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況	102
2.4.12.	教科でのカリキュラム・マネジメントに関する悩み	105
2.4.13.	教科でのカリキュラム・マネジメントの悩みの相談相手	109
2.4.14.	教科での大学との連携・接続	110

2.4.15. 教科での社会との連携・接続	111
2.4.16. 教科での現在の参加型授業への取り組み状況	112
2.4.17. 教科での参加型授業への取り組み状況と今後の見通し	113
2.4.18. 参加型授業のねらい	114
2.4.19. 参加型授業の学習活動	117
2.4.20. 参加型授業の工夫	121
2.4.21. 参加型授業の効果	124
2.4.22. 参加型授業の評価	128
2.4.23. 参加型授業の改善	130
2.4.24. 参加型授業の悩み	132
2.4.25. 参加型授業の悩みの相談相手	136

3. 付録..... 137

3.1. 教科主任調査の教科別記述統計	138
3.2. 尺度構成	172
3.2.1. 教員の様子	172
3.2.2. 生徒の様子	173
3.2.3. 教員の職務行動	174
3.2.4. カリキュラム・マネジメントへの取り組み状況	177
3.2.5. カリキュラム・マネジメントの悩み	179
3.2.6. カリキュラム・マネジメント担当者の能力	181
3.2.7. カリキュラム・マネジメント担当者のリーダーシップ	182
3.2.8. 参加型授業のねらい	183
3.2.9. 参加型授業の学習活動	184
3.2.10. 参加型授業の工夫	185
3.2.11. 参加型授業の効果	186
3.2.12. 参加型授業の悩み	187
3.3. 調査票	188
3.3.1. 学校代表者調査票	188
3.3.2. カリキュラム・マネジメント担当者調査票	200
3.3.3. 教科主任調査票	209

1. 調査の概要

本章では、調査の目的や方法など、調査の概要について説明する。

1.1. 調査の概要

名称：

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査2017^(注1)

目的：

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業とカリキュラム・マネジメントの実態の把握

対象：

普通科またはそれに準ずる学科、及び総合学科を設置する全国の高等学校（計3,857校）に所属する以下の教員に対して調査を実施。

- ・学校代表者調査：校長や教頭等の学校代表者
- ・カリキュラム・マネジメント（教育課程の研究開発）担当者調査：学校教育目標に向けたカリキュラム・マネジメント（教育課程の研究開発・評価・改善）について、実質的に最もその任にあたっている教員
- ・教科主任調査：各教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）の教科主任

方法：郵送法による質問紙調査

実施期間：2017年7月～9月

調査項目：

- ・学校代表者調査

学校の属性、校長の属性、学校の様子、参加型授業への取り組み状況 など

- ・カリキュラム・マネジメント担当者調査

カリキュラム・マネジメント担当者の属性、カリキュラム・マネジメントへの取り組み状況 など

- ・教科主任調査

教科主任の属性、学校の様子、カリキュラム・マネジメントへの取り組み状況、参加型授業への取り組み状況 など

回収数：

回答校数 2,188 校 (対象校数 3,857 校、回収率 56.7%)

・学校代表者調査 2,135 票 (配布数 3,857 票^(注2)、回収率 55.4%)

・カリキュラム・マネジメント担当者調査

2,125 票 (配布数 3,857 票^(注2)、回収率 55.1%)

・教科主任調査

・国語 2,128 票 (配布数 3,857 票、回収率 55.2%)

・地歴・公民 2,086 票 (配布数 3,857 票、回収率 54.1%)

・数学 2,118 票 (配布数 3,857 票、回収率 54.9%)

・理科 2,121 票 (配布数 3,857 票、回収率 55.0%)

・外国語 2,118 票 (配布数 3,857 票、回収率 54.9%)

合計 10,571 票 (配布数 19,285 票^(注3)、回収率 54.8%)

(注1) 調査票では「高等学校における参加型学習に関する実態調査」と表記。

(注2) 各学校に1部配布。

(注3) 各学校に5部(国語、地歴・公民、数学、理科、外国語)配布。

1.2. 調査の目的

「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査」は、1) 現在、未曾有のスピードで進行する大学改革—とりわけ円滑な高大接続を実現するための基礎資料として、現在の高校の教育実態を「大学」が学ぶこと、2) 学習指導要領の改訂をにらんで、現在進んでいる高等学校におけるアクティブラーニングの現状を可視化し、高等学校の関係者の方々に利用していただくことを目的に、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室（現 立教大学経営学部）と日本教育研究イノベーションセンターが共同で実施した縦断調査である。

大学改革の議論において、ここ数年、高大接続の重要性が指摘されている。変化の激しい現代社会を「生き抜く」若手層を育成するために、それぞれ個別に存在していた「高校の教育」と「大学の教育」を円滑に接続し、かつ総合的な思考力を見抜く大学入学者選抜を実現することが、社会的に要請されている。本調査は、こうした社会的背景に鑑み、高校の教育のリアルな実態を明らかにし、そこから大学が多くのことを学ぶために企図された。

一方、2014 年 11 月に発表された中央教育審議会諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」をきっかけに、全国の高等学校においてアクティブラーニングの視点を取り入れた授業への取り組みが普及しはじめている。この諮問は、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の在り方について、育成すべき資質・能力をふまえた教育目標・内容の改善、アクティブラーニングの充実、学習評価の改善などを掲げたものである。新しい学習指導要領では、課題解決能力や主体的学習態度が重視されており、このような知識・技能、態度を身につけるためには、一方的に教師の講義を聴くだけの授業ではなく、生徒による議論や学び合い、発表などを組み込むなど、教育内容・方法の改善が不可欠である。一方、高校の教育の実態に関しては、それを正確に把握する手段がこれまで存在していなかった。

本調査は、こうした社会的背景を後景とし、高校の教育改革、大学の教育改革、ひいては大学の選抜手法の改革に資する基礎的資料として、社会の多くの関係者に利用されることを願い、実施されたものである。

1 年目となる 2015 年度の調査は、普通科またはそれに準ずる学科、及び総合学科を設置する全国の高等学校 3,893 校を対象に実施し、62.0%に当たる 2,414 校から回答をいただき、2015 年度における全国の高等学校におけるアクティブラーニングの実態把握を行った。2 年目となる 2016 年度の調査は、2015 年度調査への回答校を対象に実施し、1) 各教科におけるアクティブラーニングの実態をより詳細に把握し、2) 2015 年から 1 年間の参加型授業の実践状況の変化を把握し、3) 参加型授業を促進する組織的要因を把握した。3 年目となる 2017 年度の調査は、普通科またはそれに準ずる学科、及び総合学科を設置する全国の高等学校 3,857 校を対象に実施し、1) 2015 年から 2 年間の参加型授業の実践状況の変化を把握すること、2) 参加型授業を促進する組織的要因を把握すること、3) 学校改善に資するカリキュラム・マネジメントの実態を把握することを目的に、調査票の設計等を行った。

1.3. 調査の実施主体

本調査の実施主体は、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室（現 立教大学経営学部）と日本教育研究イノベーションセンターである。調査の方法、調査票の内容の検討などは、両者の協議によって行われた。

1.4. 調査の対象（学校・教科）

本調査の対象は、調査票配布時（2017 年 7 月）に、普通科またはそれに準ずる学科、及び総合学科を設置する全国の高等学校（計 3,857 校）である。

本調査では、一方的な知識伝達型の講義を聴くだけという受動的な学習を乗り越える意味でのアクティブラーニングに焦点を当てるため、実技や演習等の授業に力を入れてきたと考えられる実業学校は、対象から除外した。また、同様の理由で、6 教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）以外の保健体育・芸術・家庭等の教科は対象から除外した。

1.5. 調査の方法

以上の手続きによって選定された調査対象の高等学校に対して、調査票を郵送した。本調査では、学校代表者による学校全体としてのアクティブラーニングの視点に立った参加型授業への取り組みの実態、教科ごとの参加型授業への取り組みの実態、カリキュラム・マネジメントへの取り組みの実態という 3 つの視点から実態を把握するため、学校代表者調査、教科主任調査、カリキュラム・マネジメント担当者調査の 3 種類の調査票を用意した。調査票は、2017 年 7 月 3 日に各高等学校に発送した。各学校には、調査票 7 部（学校代表者調査票 1 部、カリキュラム・マネジメント担当者調査票 1 部、教員調査票 5 部）に加え、依頼状、返送用封筒を同封した。

回答期間は、2017 年 7 月 3 日から 2017 年 9 月 5 日までとし、2017 年 9 月 30 日到着分までを集計対象とした。

1.6. 調査票の構成と内容

調査票の基本的構成と内容は以下の通りである。

○学校代表者調査：

学校の概要、校長の属性や経歴、学校の種類や制度、研究・重点校指定の有無、学校規模、生徒の進路先、学校代表者の職務行動、教員の様子、生徒の様子、学校の課題、参加型授業への取り組み状況、校内研修の回数と内容、参加型授業導入の時期ときっかけ、参加型授業の効果、参加型授業の評価、参加型授業の悩み など

○カリキュラム・マネジメント担当者調査：

担当者の属性や経歴、担当者の職務行動、教育課程の編成体制、カリキュラム・マネジメントへの取り組み状況、カリキュラム・マネジメントの悩み、教科横断・統合的取り組み、大学・社会との接続、担当者の能力、担当者のリーダーシップスタイル など

○教科主任調査：

教科主任の属性や経歴、教科主任の職務行動、教員の様子、生徒の様子、学校の課題、カリキュラム・マネジメントへの取り組み状況、カリキュラム・マネジメントの悩み、大学・社会との接続、参加型授業への取り組み状況、参加型授業のねらい、参加型授業の学習活動、参加型授業の工夫、参加型授業の効果、参加型授業の評価、参加型授業の悩み など

高等学校において広まりつつある「アクティブラーニング」という語は、人によって様々なイメージで捉えられていたり、特定の「授業の型」のようなイメージを持たれていたりすることが想定される。本調査では、そのイメージによって回答が偏ることを避けるため、各学校に調査を依頼するにあたり、

調査票中ではアクティブラーニングという語の代わりに「参加型学習」という語を用いた。また、アクティブラーニングまたは参加型学習という語について、現在のところ統一された定義があるわけではなく、回答者によって思い浮かべるものが異なると考えられるため、本調査では参加型学習の定義として図1のような定義を示した。

本報告書では、このような参加型学習の視点を取り入れた授業のことを「アクティブラーニングの視点に立った参加型授業」または単に「参加型授業」という語を用いて表現することとした。したがって、本報告書で「アクティブラーニング」または「アクティブラーニングの視点に立った参加型授業」という言葉を用いた場合、調査票では「参加型学習」という言葉を用いていたことになる。

本調査では、教員による一方向的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を総称して「参加型学習」と呼ぶこととします。

具体的には、以下の表に挙げたような手法を取り入れた学習を「参加型学習」と定義します。そして、これらの手法を取り入れた「参加型学習」を、全授業のうち1回でも実施した授業を調査の対象とします。

<u>意見発表・交換型</u> ： 議論や発表を通して、意見を交換・整理する形態	例えば ディベート、話し合い（ディスカッション）、 プレゼンテーション、ブレインストーミング など
<u>理解深化型</u> ： 自分の思考を客観的に振り返り、理解を深める形態	例えば 協調学習、学び合い、ふりかえり（リフレクション）、 自己による学習評価、作文 など
<u>課題解決型</u> ： 課題に対して解決策を提案、または実行する形態	例えば 課題解決型学習、ケーススタディ、探究・調べ学習、 プロジェクト型学習 など

※講義を一方向的に聞くだけの授業は、「参加型学習」には含みません。

※教科書の音読や輪読、挙手、一問一答式の発問に対する回答、プリントや問題集の解答、実験・実習・実技、見学、教材の視聴など、生徒が何らかの活動を行うものでも、生徒の思考が活性化しない場合には、本調査での「参加型学習」には含みません。

ただし、「意見発表・交換型」「理解深化型」「課題解決型」等の思考の活性化を伴うプロセスを含むものであれば、本調査での「参加型学習」に含めるものとします。

図1 参加型学習の定義

1.7. 回収率

本調査の対象となる高等学校は、普通科またはそれに準ずる学科、及び総合学科を設置する全国の高等学校（計3,857校）である。すべて白紙であった調査票や重複して返送された調査票を除いた有効調査票数を整理した結果、有効な調査票を返送した高等学校の数は2,188校であった。各調査の配布数、回収数、回収率を表1に示した。また、都道府県別・設置者別の配布数、回収数、回収率を表2、表3に示した。

56.7%という回収率は、社会調査の回収率としては高い数字といえる。一方で、本調査に回答した学校は、アクティブラーニングへの関心が高いなど、何らかの偏りがあると考えられる。回収率が高いとはいえ、結果を解釈する際には一定のバイアスを伴う可能性があることに、注意を払う必要があるだろう。

表 1 教科別調査票配布・回収状況

項目		配布数	回収数	回収率
学校代表者		3,857	2,135	55.4%
カリマネ担当者		3,857	2,125	55.1%
教科主任	国語	3,857	2,128	55.2%
	地歴・公民	3,857	2,086	54.1%
	数学	3,857	2,118	54.9%
	理科	3,857	2,121	55.0%
	外国語	3,857	2,118	54.9%
	合計	19,285	10,571	54.8%

表 2 都道府県別調査票配布・回収状況

都道府県	配布数	回収数	回収率	学校代表者	カリマネ担当者	教科主任				
						国語	地歴・公民	数学	理科	外国語
北海道	224	124	55.4%	121	123	120	118	119	120	121
青森県	51	35	68.6%	35	35	35	35	35	35	35
岩手県	59	36	61.0%	33	35	36	34	36	36	35
宮城県	72	48	66.7%	48	46	46	46	46	48	47
秋田県	43	28	65.1%	28	27	28	27	28	26	28
山形県	44	29	65.9%	29	28	29	29	28	29	29
福島県	72	45	62.5%	42	44	39	39	41	41	40
茨城県	103	59	57.3%	59	59	58	58	59	57	58
栃木県	58	41	70.7%	41	40	40	41	41	40	39
群馬県	62	37	59.7%	37	36	36	36	35	37	37
埼玉県	161	105	65.2%	104	100	101	97	94	100	99
千葉県	166	96	57.8%	95	95	93	88	93	92	95
山梨県	34	22	64.7%	21	20	22	22	22	21	21
東京都	361	176	48.8%	166	164	165	167	169	168	168
神奈川県	212	101	47.6%	98	97	99	95	99	98	99
新潟県	81	45	55.6%	44	41	44	42	45	42	45
富山県	40	26	65.0%	26	26	26	26	26	26	26
石川県	39	27	69.2%	27	27	26	25	26	26	26
福井県	23	15	65.2%	15	15	14	15	15	14	15
長野県	77	46	59.7%	46	44	44	43	44	43	43
静岡県	112	76	67.9%	76	76	74	74	75	74	74
愛知県	176	94	53.4%	89	91	93	90	91	92	90
岐阜県	59	26	44.1%	24	25	26	25	25	26	26
三重県	49	33	67.3%	33	30	33	32	32	33	33
滋賀県	47	27	57.4%	27	26	27	26	27	27	27
京都府	82	40	48.8%	40	40	40	39	39	40	38
大阪府	224	96	42.9%	95	92	90	89	88	91	91
兵庫県	170	81	47.6%	79	79	81	80	81	80	79
奈良県	44	25	56.8%	25	25	25	24	25	25	25
和歌山県	28	16	57.1%	16	16	16	15	15	16	16
鳥取県	21	14	66.7%	14	13	14	14	14	14	14
島根県	35	21	60.0%	20	20	21	20	20	20	20
岡山県	59	37	62.7%	35	36	37	35	36	35	35
広島県	111	67	60.4%	62	66	66	63	63	66	63
山口県	55	29	52.7%	29	29	29	28	28	28	29
徳島県	26	18	69.2%	17	17	16	16	17	17	17
香川県	31	18	58.1%	18	18	18	17	17	18	17
愛媛県	54	39	72.2%	38	39	38	36	38	39	38
高知県	30	19	63.3%	19	19	19	17	18	18	19
福岡県	134	75	56.0%	72	74	73	71	74	73	72
佐賀県	28	17	60.7%	16	16	17	17	17	16	17
長崎県	61	32	52.5%	32	31	30	31	31	32	32
熊本県	57	37	64.9%	37	37	37	36	37	36	36
大分県	41	19	46.3%	19	19	19	19	19	18	19
宮崎県	34	23	67.6%	23	23	23	23	23	22	22
鹿児島県	63	43	68.3%	42	41	40	42	43	42	39
沖縄県	44	25	56.8%	23	25	25	24	24	24	24
合計	3,857	2,188	56.7%	2,135	2,125	2,128	2,086	2,118	2,121	2,118

表3 学校設置者別調査票配布・回収状況

設置者	配布数	回収数	回収率	学校 代表者	カリマネ 担当者	教科主任				
						国語	地歴・公民	数学	理科	外国語
国立	17	8	47.1%	7	8	8	8	8	8	7
都道府県立	2,466	1,517	61.5%	1,483	1,475	1,475	1,444	1,472	1,469	1,472
その他公立	117	71	60.7%	71	71	71	68	68	71	71
私立	1,257	592	47.1%	574	571	574	566	570	573	568
合計	3,857	2,188	56.7%	2,135	2,125	2,128	2,086	2,118	2,121	2,118

(注) 表2、表3中の「回収数」とは、学校代表者調査、カリキュラム・マネジメント担当者調査・教科主任調査のいずれかの調査票に1票でも回答した学校数を集計したものである。

1.8. グラフと表について

- 文中のグラフと表は、非該当、無効回答、及び無回答を除いた有効回答数を分母とする比率で作成した。
- 文中の個々の数値は、四捨五入したものを表記している。そのため、百分率の合計が100%に満たないものや超えるものがある。
- 複数回答の設問については、有効回答数（非該当、無効回答、及び無回答を除く）を分母とする百分率を算出している。そのため、百分率の合計は100%を超える場合がある。
- グラフや表に記されたカテゴリ名は、因子分析の結果に基づいて命名した因子名で表記している。因子分析の結果は付録に示した。
- 教科主任調査の集計結果は、教科全体の結果を表に、教科ごとの結果をグラフと付録の表に示した。

2. 調査の結果

2.1. 回答校の基本属性

「1. 調査の概要」で示したように、本調査の回答校数は2,188校であり、回答数は学校代表者調査で2,135票、カリキュラム・マネジメント担当者調査で2,125票、教科主任調査で10,571票であった。

本節では、学校代表者調査の結果から、回答した学校の基本属性を示す。

2.1.1. 設置者

調査回答校の設置者は、国立が8校、都道府県立が1,517校、その他公立が71校（市立が69校、町立が2校）、私立が592校であった。

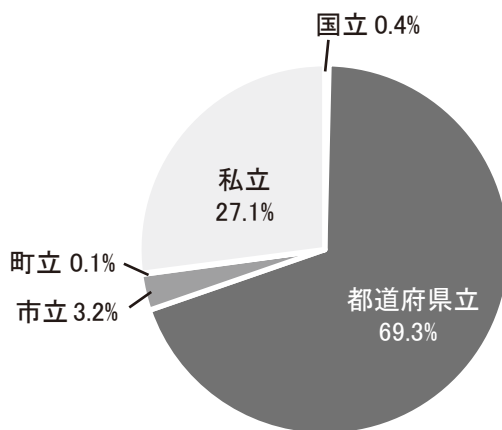


図2 学校の設置者

表4 学校の設置者

項目	度数	%
国立	8	0.4
都道府県立	1,517	69.3
市立	69	3.2
町立	2	0.1
私立	592	27.1
合計	2,188	100.0

2.1.2. 男女共学・別学

調査回答校は、「共学校」が90.9%で、「女子校」が6.6%、「男子校」が2.9%であった。

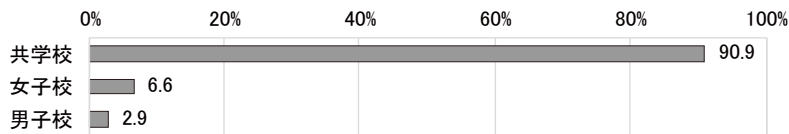


図3 男女共学・別学

表5 男女共学・別学（複数選択）

項目	度数	%
共学校	1,931	90.9
女子校	141	6.6
男子校	61	2.9
有効回答数	2,125	
無回答	10	
合計	2,135	

2.1.3. 接続

調査回答校は、単独設置校が74.5%、中高一貫校が18.9%であった。

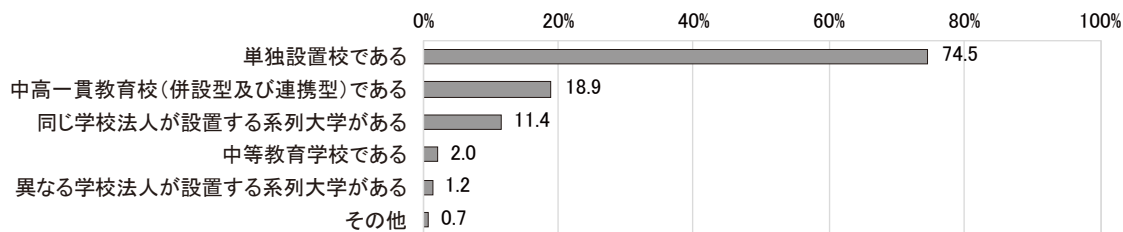


図4 学校の接続

表6 学校の接続（複数選択）

項目	度数	%
単独設置校である	1,572	74.5
中高一貫教育校（併設型及び連携型）である	400	18.9
同じ学校法人が設置する系列大学がある	240	11.4
中等教育学校である	43	2.0
異なる学校法人が設置する系列大学がある	26	1.2
その他	14	0.7
有効回答数	2,111	
無回答	24	
合計	2,135	

2.1.4. 研究・重点校指定

調査回答校のうち、文部科学省による研究指定を受けているのは18.9%であった。内訳は、「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」が5.9%、「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」が2.8%、「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」が2.2%であった。

また、文部科学省以外による研究指定・重点校指定を受けているのは26.4%であった。内訳は、「学力向上推進事業」が8.5%、「キャリア教育・進路指導・進学指導・就職指導等推進事業」が6.2%、「地域連携推進事業」が3.0%であった。

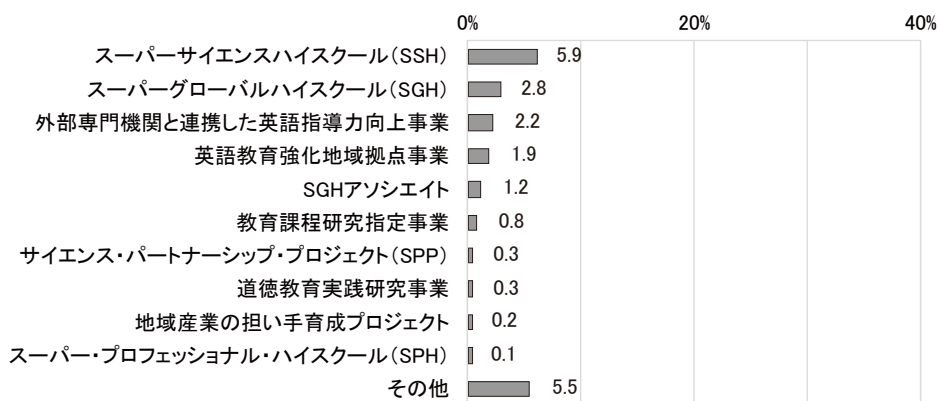


図5 文部科学省による研究指定

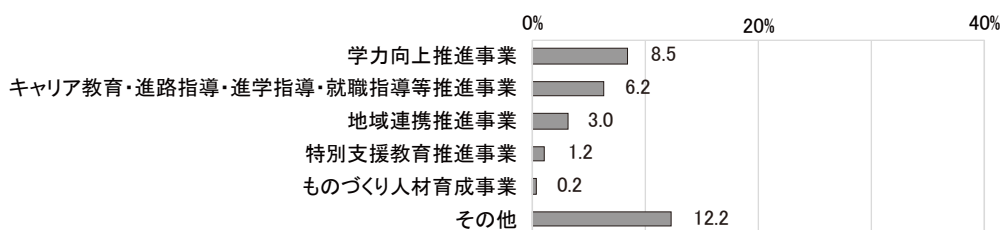


図6 文部科学省以外による研究・重点校指定

表7 文部科学省による研究指定（複数選択）

項目	度数	%
指定あり	404	18.9
スーパーサイエンスハイスクール (SSH)	125	5.9
スーパーグローバルハイスクール (SGH)	59	2.8
外部専門機関と連携した英語指導力向上事業	47	2.2
英語教育強化地域拠点事業	40	1.9
SGHアソシエイト	25	1.2
教育課程研究指定事業	17	0.8
サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP)	7	0.3
道徳教育実践研究事業	7	0.3
地域産業の担い手育成プロジェクト	4	0.2
スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール (SPH)	3	0.1
その他	117	5.5
指定なし	1,731	81.1
有効回答数	2,135	

表 8 文部科学省以外による研究・重点校指定（複数選択）

項目	度数	%
指定あり	564	26.4
学力向上推進事業	181	8.5
キャリア教育・進路指導・進学指導・就職指導等推進事業	133	6.2
地域連携推進事業	63	3.0
特別支援教育推進事業	25	1.2
ものづくり人材育成事業	5	0.2
その他	260	12.2
指定なし	1,571	73.6
有効回答数	2,135	

2.1.5. 教員数

調査回答校の常勤の教員数（校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、講師、養護教諭、実習助手など。臨時採用教員を含む）は、51～55 名が 12.5%で最も多く、平均は 51.7 名であった。また、非常勤の教員数は、1～5 名が 30.2%で最も多く、平均は 12.6 名であった。

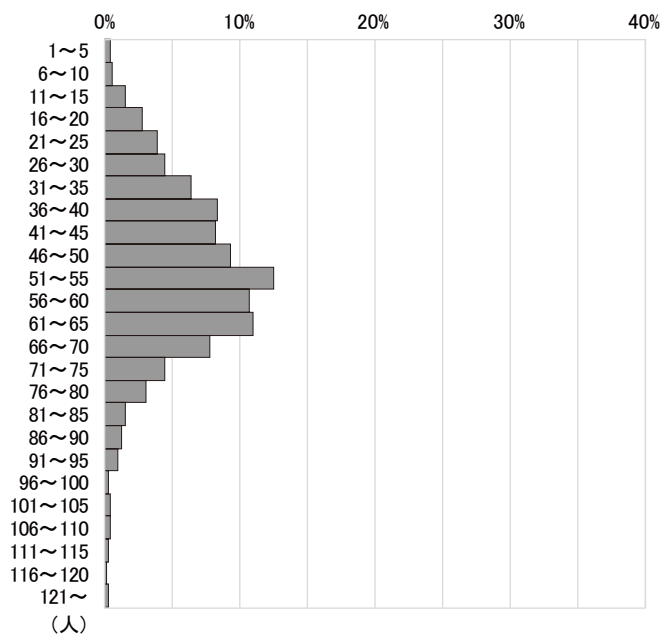


図 7 常勤教員数

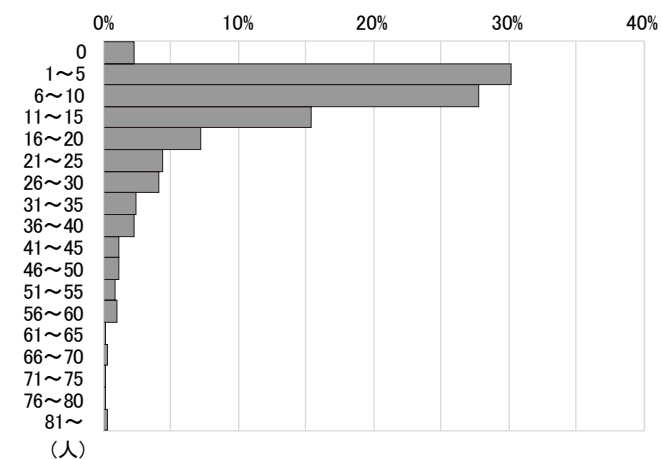


図 8 非常勤教員数

表 9 常勤教員数（直接回答）

項目（人）	度数	%
1～5	8	0.4
6～10	11	0.5
11～15	32	1.5
16～20	57	2.7
21～25	79	3.8
26～30	90	4.3
31～35	133	6.4
36～40	171	8.2
41～45	169	8.1
46～50	193	9.3
51～55	259	12.5
56～60	222	10.7
61～65	228	11.0
66～70	161	7.8
71～75	91	4.4
76～80	63	3.0
81～85	31	1.5
86～90	25	1.2
91～95	20	1.0
96～100	6	0.3
101～105	8	0.4
106～110	8	0.4
111～115	4	0.2
116～120	2	0.1
121～125	3	0.1
126～130	0	0.0
131～135	0	0.0
136～140	0	0.0
141～145	1	0.0
181～185	1	0.0
186～190	0	0.0
191～	1	0.0
有効回答数	2,077	100.0
無回答	58	
合計	2,135	
最小値	1	
最大値	214	
平均値	51.651	
標準偏差	19.320	

表 10 非常勤教員数（直接回答）

項目（人）	度数	%
0	45	2.2
1～5	619	30.2
6～10	569	27.7
11～15	313	15.3
16～20	145	7.1
21～25	89	4.3
26～30	83	4.0
31～35	47	2.3
36～40	45	2.2
41～45	23	1.1
46～50	23	1.1
51～55	16	0.8
56～60	18	0.9
61～65	1	0.0
66～70	4	0.2
71～75	3	0.1
76～80	3	0.1
81～	5	0.2
有効回答数	2,051	100.0
無回答	84	
合計	2,135	
最小値	0	
最大値	106	
平均値	12.628	
標準偏差	13.054	

2.1.6. 教員の年齢分布

教員の年齢分布として最もあてはまる形状を尋ねた。年配層が多い分布が42.4%で最も多く、次いで若年層と年配層が多い分布が31.1%、若年層が多い分布が14.0%であった。

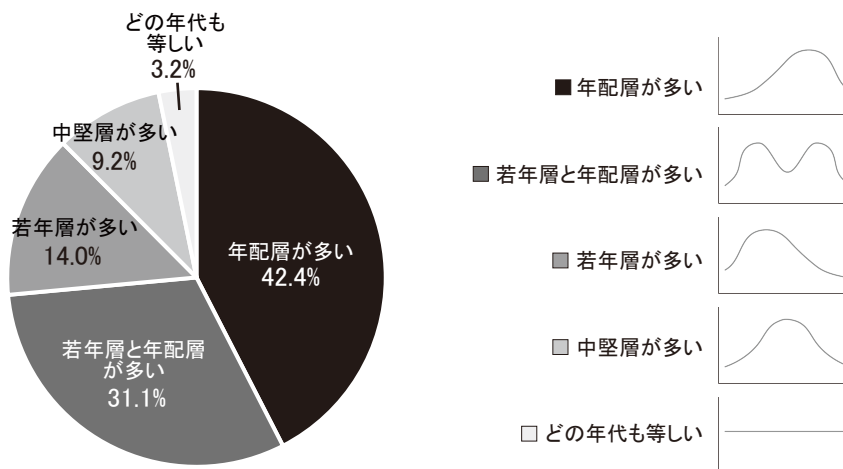


図9 教員の年齢分布

表11 教員の年齢分布（単一選択）

項目	度数	%
年配層が多い	882	42.4
若年層と年配層が多い	646	31.1
若年層が多い	291	14.0
中堅層が多い	192	9.2
どの年代も等しい	67	3.2
有効回答数	2,078	100.0
無効回答	2	
無回答	55	
合計	2,135	

2.1.7. 設置学科、学級数、生徒数

調査回答校のうち、普通科を設置している学校は1,904校、総合学科を設置している学校は185校であった。普通科を設置している学校の2017年度の第1学年の学年当たり平均学級数は6.0学級、平均生徒数は221.8名であった。また、総合学科を設置している学校の2017年度の第1学年の学年当たり平均学級数は4.7学級、平均生徒数は171.4名であった。

表 12 設置学科、学級数、生徒数（直接回答）

学科名	設置学科	学級数				生徒数			
	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	平均値	標準偏差
普通科	1,904	0	26	5.988	3.232	0	2,899	221.833	143.856
総合学科	185	1	18	4.658	2.007	25	327	171.405	74.774
商業科	54	0	4	1.574	0.903	0	160	50.500	35.029
理数科	69	0	12	2.574	2.167	0	274	84.043	62.369
家庭科	143	1	8	1.855	1.124	10	283	65.077	45.003
工業科	7	0	2	1.143	0.690	0	56	35.571	17.878
農業科	86	1	5	1.321	0.714	2	199	45.116	28.482
外国語科	34	1	6	1.485	1.034	16	223	54.235	41.250
国際科	13	1	4	1.846	0.987	1	140	63.385	37.964
芸術科	36	0	2	1.114	0.404	0	99	33.222	20.942
体育科	111	0	6	1.297	0.859	0	238	49.739	31.784
看護科	37	1	3	1.333	0.586	15	120	51.919	24.816
福祉科	42	1	6	1.634	1.260	11	228	60.268	52.117
情報科	37	1	3	1.286	0.572	7	99	42.595	23.161
水産科	36	1	3	1.485	0.619	1	120	60.333	28.430
有効回答数	2,097								
無回答	38								
合計	2,135								

2.2. 学校代表者調査の集計結果

本節では、学校代表者調査の結果について示す。

2.2.1. 回答者の属性

学校代表者調査の回答者は、「校長」が37.0%、「副校長」「教頭」が合わせて54.4%であった。

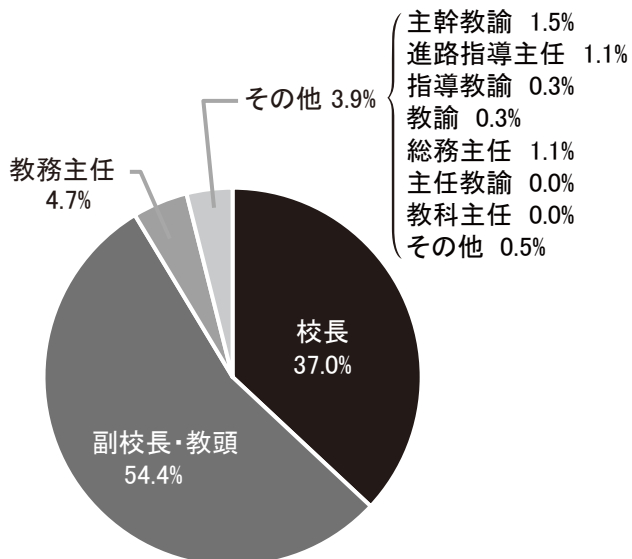


図 10 回答者の属性

表 13 回答者の属性（単一選択）

項目	度数	%
校長	782	37.0
副校長	197	9.3
教頭	954	45.1
主幹教諭	31	1.5
主任教諭	1	0.0
指導教諭	7	0.3
教諭	7	0.3
教務主任	100	4.7
進路指導主任	24	1.1
教科主任	1	0.0
総務主任	2	0.1
その他	10	0.5
有効回答数	2,116	100.0
無効回答	1	
無回答	18	
合計	2,135	

2.2.2. 校長の現任校勤務年数

校長の現任校勤務年数は、1～5 年が 87.1%で最も多く、平均値は 4.2 年であった。

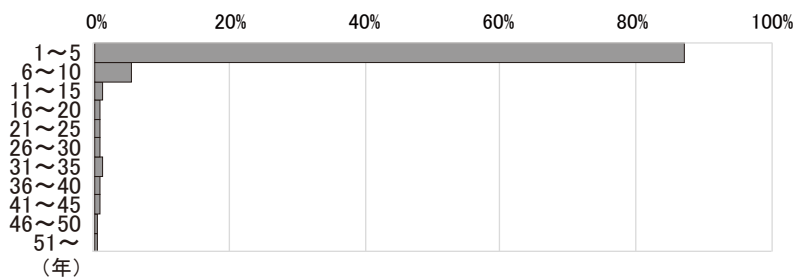


図 11 校長の現任校勤務年数

表 14 校長現任校勤務年数（直接回答）

項目（年）	度数	%
1～5	1,839	87.1
6～10	120	5.7
11～15	30	1.4
16～20	17	0.8
21～25	19	0.9
26～30	17	0.8
31～35	27	1.3
36～40	23	1.1
41～45	18	0.9
46～50	1	0.0
51～	1	0.0
有効回答数	2,112	100.0
無効回答	3	
無回答	20	
合計	2,135	
最小値	1	
最大値	62	
平均値	4.199	
標準偏差	7.426	

2.2.3. 校長の教職経験年数

校長の教職経験年数は、31～35 年が 41.9%で最も多く、次いで 36～40 年が 27.9%であった。平均値で 31.2 年であった。ただし、校長の教職経験年数としては短過ぎると考えられる回答がやや多く、校長経験年数と誤って回答したものが含まれている可能性がある。

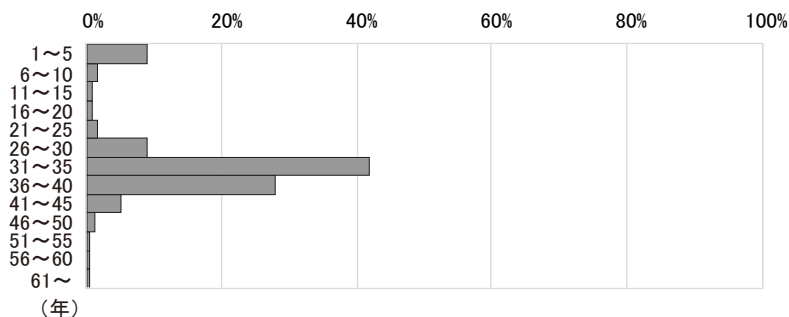


図 12 校長の教職経験年数

表 15 校長教職経験年数（直接回答）

項目（年）	度数	%
1～5	183	9.0
6～10	34	1.7
11～15	16	0.8
16～20	22	1.1
21～25	36	1.8
26～30	183	9.0
31～35	854	41.9
36～40	569	27.9
41～45	106	5.2
46～50	26	1.3
51～55	3	0.1
56～60	4	0.2
61～	2	0.1
有効回答数	2,038	100.0
無効回答	2	
無回答	95	
合計	2,135	
最小値	1	
最大値	65	
平均値	31.222	
標準偏差	10.805	

2.2.4. 校長の指導主事・人事主事の経験の有無

校長のうち、教育委員会や教育センターの指導主事・人事主事経験があるのは全体の44.6%であった。指導主事経験年数は1～5年が60.0%で最も多く、平均値は5.5年であった。また、人事主事経験年数は1～5年が73.2%で最も多く、平均値は4.0年であった。

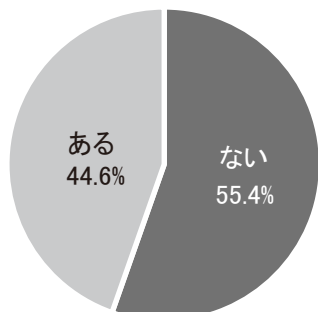


図 13 校長の指導主事・人事主事の経験の有無

表 16 校長の指導主事・人事主事の経験の有無（単一選択）

項目	度数	%
ない	1,151	55.4
ある	927	44.6
有効回答数	2,078	100.0
無回答	57	
合計	2,135	

学校代表者調査

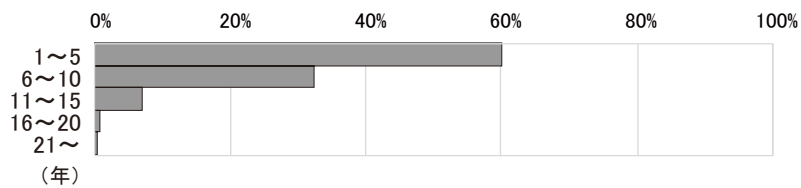


図 14 校長の指導主事経験年数

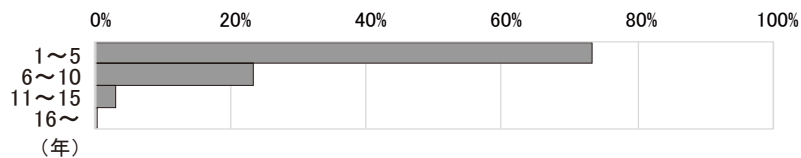


図 15 校長の人事主事経験年数

表 17 校長の指導主事経験年数（直接回答）

項目（年）	度数	%
1～5	456	60.0
6～10	245	32.2
11～15	52	6.8
16～20	6	0.8
21～	1	0.1
有効回答数	760	100.0
非該当	1,151	
無回答	224	
合計	2,135	
最小値	1	
最大値	24	
平均値	5.488	
標準偏差	3.274	

表 18 校長の人事主事経験年数（直接回答）

項目（年）	度数	%
1～5	197	73.2
6～10	63	23.4
11～15	8	3.0
16～	1	0.4
有効回答数	269	100.0
非該当	1,151	
無回答	715	
合計	2,135	
最小値	1	
最大値	16	
平均値	4.019	
標準偏差	3.023	

2.2.5. 校長の教員以外の職業経験の有無

校長のうち、教員以外の職業経験があるのは全体の17.4%であった。

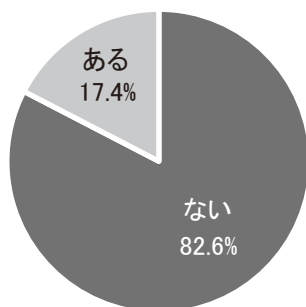


図 16 校長の教員以外の職業経験の有無

表 19 校長の教員以外の職業経験の有無（単一選択）

項目	度数	%
ない	1,686	82.6
ある	355	17.4
有効回答数	2,041	100.0
無回答	94	
合計	2,135	

2.2.6. 校長の最終学歴

校長の最終学歴は、「四年制大学（教員養成系以外）」が 65.4%で最も多く、次いで「四年制大学（教員養成系）」が 17.1%、「大学院修士課程（教員養成系以外）」が 10.2%であった。「短期大学」を除き、教員養成系が 22.3%、教員養成系以外が 77.3%であった。

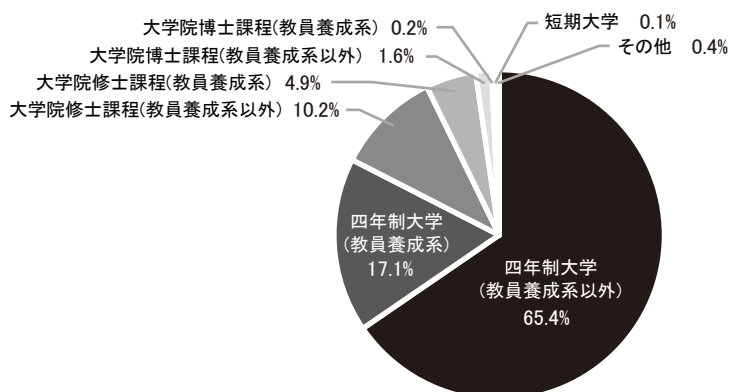


図 17 校長の最終学歴

表 20 校長の最終学歴（単一選択）

項目	度数	%
短期大学	2	0.1
四年制大学 (教員養成系)	350	17.1
四年制大学 (教員養成系以外)	1,341	65.4
大学院修士課程 (教員養成系)	101	4.9
大学院修士課程 (教員養成系以外)	210	10.2
大学院博士課程 (教員養成系)	5	0.2
大学院博士課程 (教員養成系以外)	32	1.6
その他	8	0.4
有効回答数	2,049	100.0
無効回答	3	
無回答	83	
合計	2,135	

2.2.7. 校長・教員の平均在任期間

校長の平均在任期間（校長に着任してから離任するまでの平均的な期間）は、3 年が 36.7%で最も多く、次いで2 年が 36.4%であった。また、教員の平均在任期間（1 つの学校に着任してから離任するまでの平均的な期間）は、10 年以上が 28.8%で最も多く、次いで6 年が 19.4%であった。

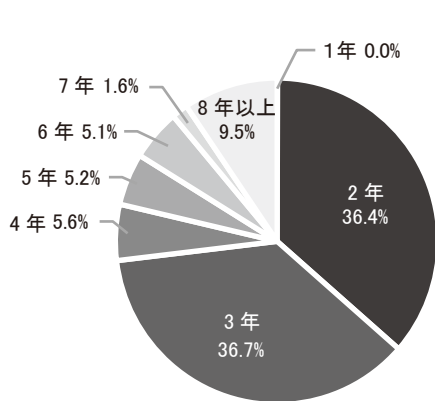


図 18 校長の平均在任期間

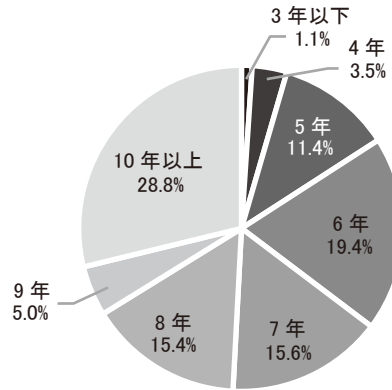


図 19 教員の平均在任期間

表 21 校長の平均在任期間（単一選択）

項目	度数	%
1年	1	0.0
2年	761	36.4
3年	766	36.7
4年	116	5.6
5年	108	5.2
6年	106	5.1
7年	34	1.6
8年以上	198	9.5
有効回答数	2,090	100.0
無効回答	1	
無回答	44	
合計	2,135	

表 22 教員の平均在任期間（単一選択）

項目	度数	%
3年以下	22	1.1
4年	72	3.5
5年	237	11.4
6年	404	19.4
7年	324	15.6
8年	320	15.4
9年	104	5.0
10年以上	600	28.8
有効回答数	2,083	100.0
無効回答	1	
無回答	51	
合計	2,135	

2.2.8. 学校代表者の職務行動

カリキュラム・マネジメントに向けて学校代表者としてどのような職務や行動をしているか、8項目の質問について、「1. 取り組んでいない」から「4. とても力を入れて取り組んでいる」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で尋ねた。4段階のリッカート尺度とみなして回答を1～4点で得点化し、集計を行った。探索的・確認的因子分析の結果、「組織づくり」「外部関係者との連携」の2因子が得られた。集計結果を図表に示した。

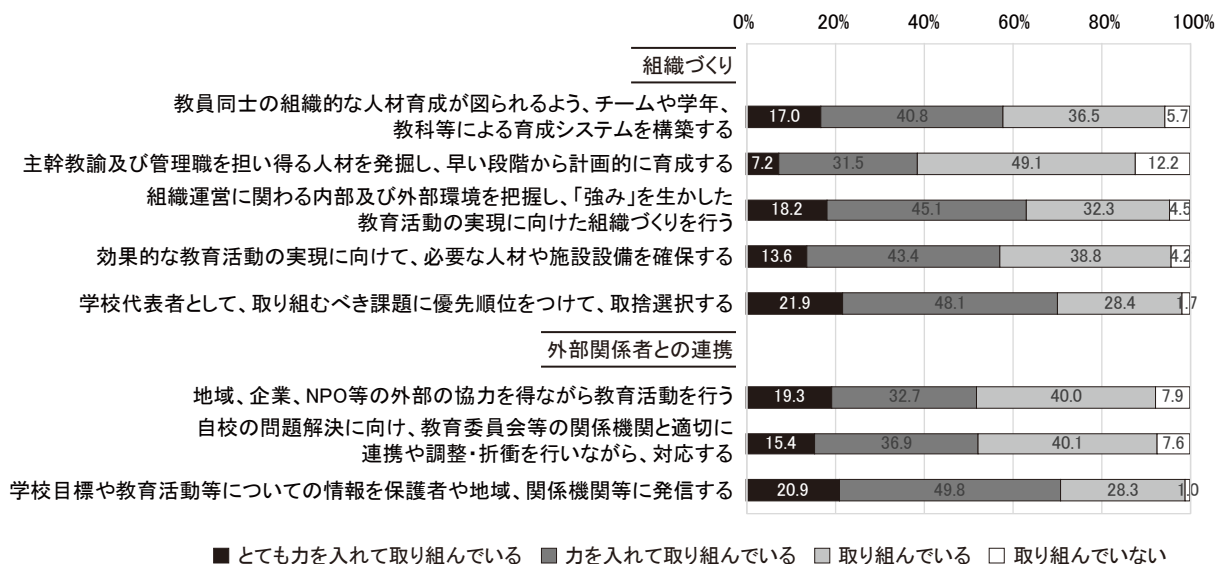


図 20 学校代表者の職務行動

表 23 学校代表者の職務行動の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
組織づくり							
教員同士の組織的な人材育成が図られるよう、チームや学年、教科等による育成システムを構築する	2,111	1	4	2.691	0.817	1	23
主幹教諭及び管理職を担い得る人材を発掘し、早い段階から計画的に育成する	2,114	1	4	2.337	0.782	0	21
組織運営に関わる内部及び外部環境を把握し、「強み」を生かした教育活動の実現に向けた組織づくりを行う	2,083	1	4	2.770	0.794	0	52
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材や施設設備を確保する	2,112	1	4	2.665	0.761	0	23
学校代表者として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	2,109	1	4	2.902	0.748	1	25
外部関係者との連携							
地域、企業、NPO等の外部の協力を得ながら教育活動を行う	2,114	1	4	2.634	0.882	1	20
自校の問題解決に向け、教育委員会等の関係機関と適切に連携や調整・折衝を行いながら、対応する	2,106	1	4	2.601	0.837	1	28
学校目標や教育活動等についての情報を保護者や地域、関係機関等に発信する	2,111	1	4	2.905	0.724	1	23

表 24 学校代表者の職務行動の度数分布（単一選択）

項目	とても力を入れて取り組んでいる		力を入れて取り組んでいる		取り組んでいる		取り組んでいない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
組織づくり								
教員同士の組織的な人材育成が図られるよう、チームや学年、教科等による育成システムを構築する	359	17.0	861	40.8	771	36.5	120	5.7
主幹教諭及び管理職を担い得る人材を発掘し、早い段階から計画的に育成する	152	7.2	666	31.5	1,038	49.1	258	12.2
組織運営に関わる内部及び外部環境を把握し、「強み」を生かした教育活動の実現に向けた組織づくりを行う	379	18.2	939	45.1	672	32.3	93	4.5
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材や施設設備を確保する	288	13.6	917	43.4	819	38.8	88	4.2
学校代表者として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	461	21.9	1,015	48.1	598	28.4	35	1.7
外部関係者との連携								
地域、企業、NPO等の外部の協力を得ながら教育活動を行う	408	19.3	692	32.7	846	40.0	168	7.9
自校の問題解決に向け、教育委員会等の関係機関と適切に連携や調整・折衝を行いながら、対応する	324	15.4	777	36.9	845	40.1	160	7.6
学校目標や教育活動等についての情報を保護者や地域、関係機関等に発信する	441	20.9	1,051	49.8	597	28.3	22	1.0

2.2.9. 教員の様子

各学校の教員らが相互作用しながら、保護者や地域と連携し、自律的に学校改善に取り組んでいるか、教員の様子とコミットメントに関する 19 項目の質問について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。探索的・確認的因子分析の結果、「教員間の支えあい」「教員間の開かれた関係性」「授業改善への意欲」「授業改善に向けた情報共有」「保護者や地域との連携」の 5 因子と、「コミットメント」の 1 因子が得られた。集計結果を図表に示した。

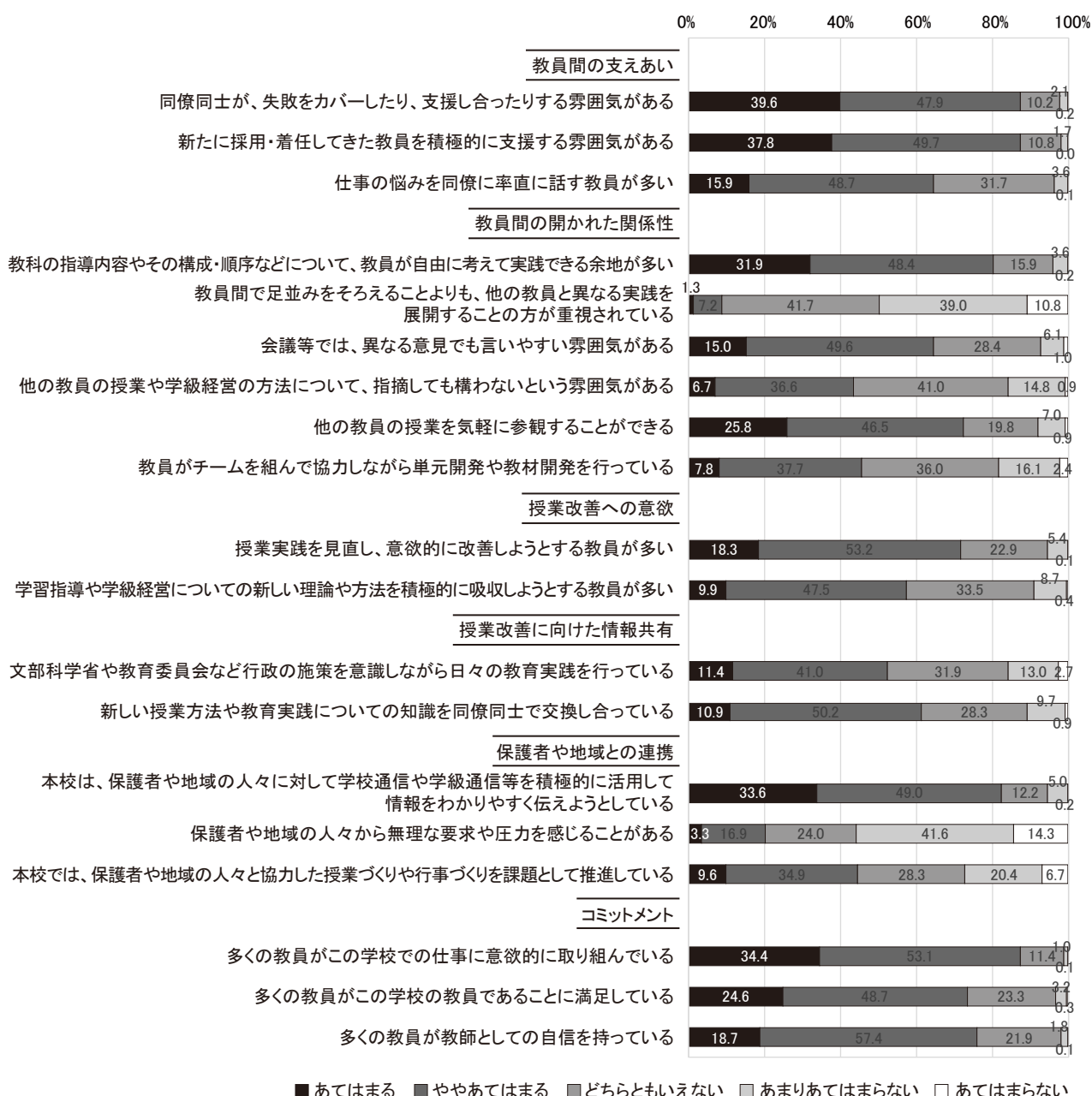


図 21 教員の様子

表 25 教員の様子の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
教員間の支えあい							
同僚同士が、失敗をカバーしたり、支援し合ったりする雰囲気がある	2, 123	1	5	4. 246	0. 735	1	11
新たに採用・着任してきた教員を積極的に支援する雰囲気がある	2, 124	1	5	4. 234	0. 710	0	11
仕事の悩みを同僚に率直に話す教員が多い	2, 110	1	5	3. 767	0. 759	0	25
教員間の開かれた関係性							
教科の指導内容やその構成・順序などについて、教員が自由に考えて実践できる余地が多い	2, 122	1	5	4. 080	0. 799	1	12
教員間で足並みをそろえることよりも、他の教員と異なる実践を展開することの方が重視されている	2, 125	1	5	2. 492	0. 829	0	10
会議等では、異なる意見でも言いやすい雰囲気がある	2, 120	1	5	3. 714	0. 827	1	14
他の教員の授業や学級経営の方法について、指摘しても構わないという雰囲気がある	2, 120	1	5	3. 334	0. 842	1	14
他の教員の授業を気軽に参観することができる	2, 124	1	5	3. 894	0. 897	0	11
教員がチームを組んで協力しながら単元開発や教材開発を行っている	2, 127	1	5	3. 325	0. 916	0	8
授業改善への意欲							
授業実践を見直し、意欲的に改善しようとする教員が多い	2, 123	1	5	3. 841	0. 786	1	11
学習指導や学級経営についての新しい理論や方法を積極的に吸収しようとする教員が多い	2, 120	1	5	3. 576	0. 801	1	14
授業改善に向けた情報共有							
文部科学省や教育委員会など行政の施策を意識しながら日々の教育実践を行っている	2, 123	1	5	3. 452	0. 948	0	12
新しい授業方法や教育実践についての知識を同僚同士で交換し合っている	2, 123	1	5	3. 604	0. 841	1	11
保護者や地域との連携							
本校は、保護者や地域の人々に対して学校通信や学級通信等を積極的に活用して情報をわかりやすく伝えようとしている	2, 122	1	5	4. 106	0. 818	0	13
保護者や地域の人々から無理な要求や圧力を感じることがある	2, 121	1	5	2. 532	1. 033	0	14
本校では、保護者や地域の人々と協力した授業づくりや行事づくりを課題として推進している	2, 118	1	5	3. 204	1. 080	1	16
コミットメント							
多くの教員がこの学校での仕事に意欲的に取り組んでいる	2, 122	1	5	4. 205	0. 685	1	12
多くの教員がこの学校の教員であることに満足している	2, 120	1	5	3. 942	0. 792	2	13
多くの教員が教師としての自信を持っている	2, 115	1	5	3. 927	0. 698	2	18

表 26 教員の様子の度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらとも いえない		あまり あてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
教員間の支えあい										
同僚同士が、失敗をカバーしたり、支援し合ったりする雰囲気がある	841	39.6	1,016	47.9	217	10.2	45	2.1	4	0.2
新たに採用・着任してきた教員を積極的に支援する雰囲気がある	802	37.8	1,055	49.7	230	10.8	36	1.7	1	0.0
仕事の悩みを同僚に率直に話す教員が多い	336	15.9	1,027	48.7	668	31.7	77	3.6	2	0.1
教員間の開かれた関係性										
教科の指導内容やその構成・順序などについて、教員が自由に考えて実践できる余地が多い	676	31.9	1,027	48.4	337	15.9	77	3.6	5	0.2
教員間で足並みをそろえることよりも、他の教員と異なる実践を展開することの方が重視されている	27	1.3	154	7.2	886	41.7	829	39.0	229	10.8
会議等では、異なる意見でも言いやすい雰囲気がある	317	15.0	1,051	49.6	602	28.4	129	6.1	21	1.0
他の教員の授業や学級経営の方法について、指摘しても構わないという雰囲気がある	143	6.7	775	36.6	869	41.0	313	14.8	20	0.9
他の教員の授業を気軽に参観することができる	548	25.8	988	46.5	421	19.8	148	7.0	19	0.9
教員がチームを組んで協力しながら単元開発や教材開発を行っている	166	7.8	802	37.7	766	36.0	343	16.1	50	2.4
授業改善への意欲										
授業実践を見直し、意欲的に改善しようとする教員が多い	389	18.3	1,129	53.2	487	22.9	115	5.4	3	0.1
学習指導や学級経営についての新しい理論や方法を積極的に吸収しようとする教員が多い	209	9.9	1,006	47.5	711	33.5	185	8.7	9	0.4
授業改善に向けた情報共有										
文部科学省や教育委員会など行政の施策を意識しながら日々の教育実践を行っている	241	11.4	870	41.0	678	31.9	276	13.0	58	2.7
新しい授業方法や教育実践についての知識を同僚同士で交換し合っている	231	10.9	1,066	50.2	600	28.3	206	9.7	20	0.9
保護者や地域との連携										
本校は、保護者や地域の人々に対して学校通信や学級通信等を積極的に活用して情報をわかりやすく伝えようとしている	712	33.6	1,040	49.0	258	12.2	107	5.0	5	0.2
保護者や地域の人々から無理な要求や圧力を感じることもある	69	3.3	358	16.9	508	24.0	883	41.6	303	14.3
本校では、保護者や地域の人々と協力した授業づくりや行事づくりを課題として推進している	204	9.6	740	34.9	600	28.3	432	20.4	142	6.7
コミットメント										
多くの教員がこの学校での仕事に意欲的に取り組んでいる	730	34.4	1,126	53.1	241	11.4	22	1.0	3	0.1
多くの教員がこの学校の教員であることに満足している	521	24.6	1,033	48.7	493	23.3	67	3.2	6	0.3
多くの教員が教師としての自信を持っている	395	18.7	1,215	57.4	463	21.9	39	1.8	3	0.1

2.2.10. 生徒の様子

各学校の生徒らがどのような資質・能力を身につけているか、生徒の様子に関する8項目の質問について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5段階のリッカート尺度とみなして回答を1～5点で得点化し、集計を行った。探索的・確認的因子分析の結果、「知識・理解・技能」「思考・表現・コミュニケーション力」「市民性・課題解決力」の3因子が得られた。集計結果を図表に示した。

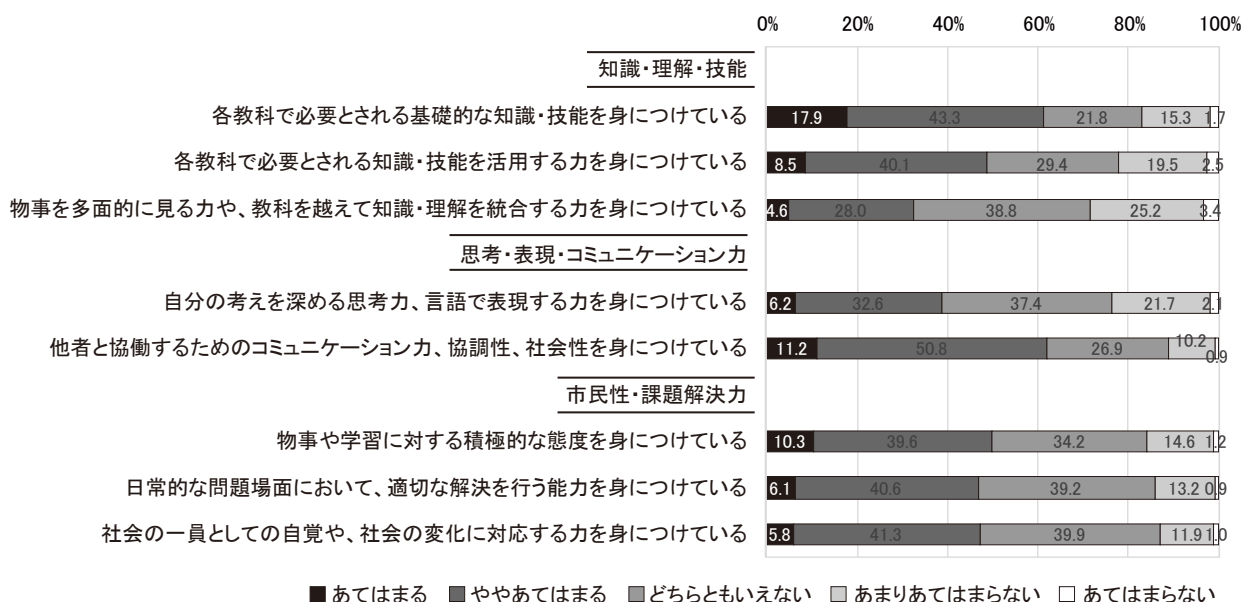


図 22 生徒の様子

表 27 生徒の样子の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
知識・理解・技能							
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能を身につけている	379	1	5	3.603	1.004	0	14
各教科で必要とされる知識・技能を活用する力を身につけている	179	1	5	3.324	0.965	0	17
物事を多面的に見る力や、教科を越えて知識・理解を統合する力を身につけている	98	1	5	3.052	0.923	0	17
思考・表現・コミュニケーション力							
自分の考えを深める思考力、言語で表現する力を身につけている	131	1	5	3.191	0.916	0	19
他者と協働するためのコミュニケーション力、協調性、社会性を身につけている	238	1	5	3.612	0.850	0	16
市民性・課題解決力							
物事や学習に対する積極的な態度を身につけている	218	1	5	3.431	0.904	0	15
日常的な問題場面において、適切な解決を行う能力を身につけている	130	1	5	3.377	0.824	0	15
社会の一員としての自覚や、社会の変化に対応する力を身につけている	123	1	5	3.390	0.809	0	16

表 28 生徒の様子の度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらとも いえない		あまり あてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
知識・理解・技能										
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能を身につけている	379	17.9	918	43.3	463	21.8	324	15.3	37	1.7
各教科で必要とされる知識・技能を活用する力を身につけている	179	8.5	849	40.1	623	29.4	413	19.5	54	2.5
物事を多面的に見る力や、教科を越えて知識・理解を統合する力を身につけている	98	4.6	593	28.0	821	38.8	533	25.2	73	3.4
思考・表現・コミュニケーション力										
自分の考えを深める思考力、言語で表現する力を身につけている	131	6.2	690	32.6	791	37.4	460	21.7	44	2.1
他者と協働するためのコミュニケーション力、協調性、社会性を身につけている	238	11.2	1,076	50.8	569	26.9	216	10.2	20	0.9
市民性・課題解決力										
物事や学習に対する積極的な態度を身につけている	218	10.3	840	39.6	726	34.2	310	14.6	26	1.2
日常的問題場面において、適切な解決を行う能力を身につけている	130	6.1	860	40.6	830	39.2	280	13.2	20	0.9
社会の一員としての自覚や、社会の変化に対応する力を身につけている	123	5.8	876	41.3	846	39.9	252	11.9	22	1.0

2.2.11. 学校の課題

学校が取り組むべき課題について、最もあてはまるものを1つ学校代表者に尋ねた。その結果、「難関大学への進学率を維持・向上させること」が19.8%で最も多く、次いで、「地域社会に参加し活躍する人材を育成すること」が16.8%、「グローバル社会で活躍する人材を育成すること」が16.6%であった。

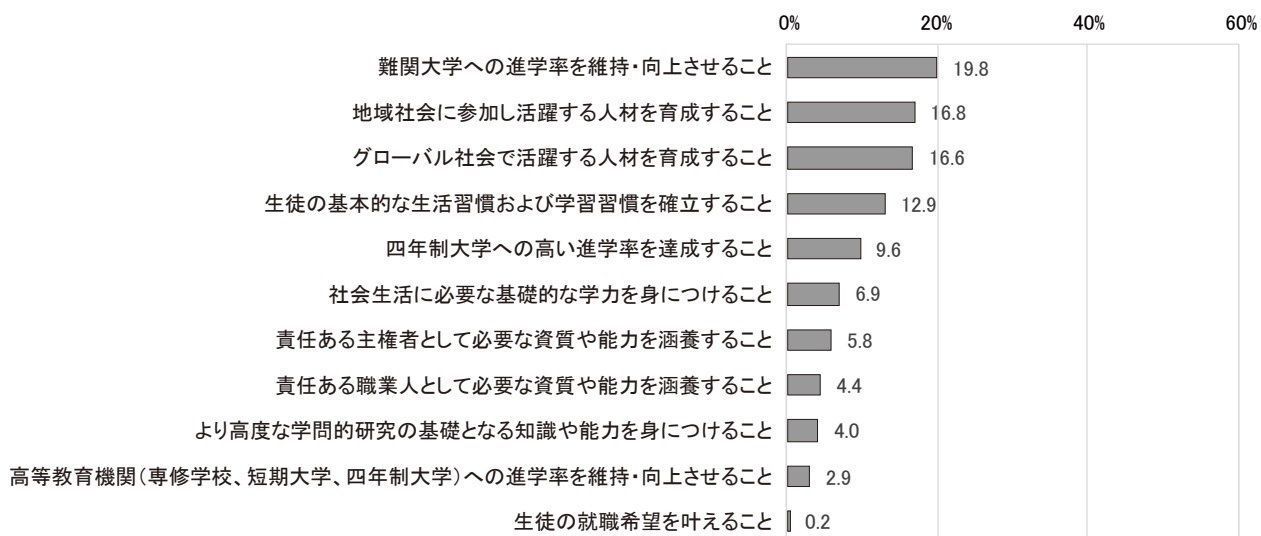


図 23 学校の課題

表 29 学校の課題（単一選択）

項目	度数	%
難関大学への進学率を維持・向上させること	398	19.8
地域社会に参加し活躍する人材を育成すること	338	16.8
グローバル社会で活躍する人材を育成すること	334	16.6
生徒の基本的な生活習慣および学習習慣を確立すること	259	12.9
四年制大学への高い進学率を達成すること	193	9.6
社会生活に必要な基礎的な学力を身につけること	138	6.9
責任ある主権者として必要な資質や能力を涵養すること	116	5.8
責任ある職業人として必要な資質や能力を涵養すること	88	4.4
より高度な学問的研究の基礎となる知識や能力を身につけること	81	4.0
高等教育機関（専修学校、短期大学、四年制大学）への進学率を維持・向上させること	59	2.9
生徒の就職希望を叶えること	4	0.2
有効回答数	2,008	100.0
無効回答	71	
無回答	56	
合計	2,135	

2.2.12. 現在の参加型授業への取り組み状況

現在の参加型授業への取り組み状況は、「教科として参加型学習に取り組んでいる教科がある」が70.2%で、「学年団として参加型学習に取り組んでいる学年がある」が15.8%であり、「本校ではまったく取り組まれていない」は1.0%であった。

参加型授業に関する目標や計画については、「学校全体として参加型学習に関する目標を掲げている」は41.2%で、「参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している」は20.4%であった。

参加型授業の推進については、「参加型学習の内容を含む校内研修を行っている」は49.6%で、「教員に対し、参加型学習に関する校外研修や勉強会への参加を推奨している」は67.5%、「参加型学習の実施について、校内の会議などで積極的な呼びかけを行っている」は42.5%であった。

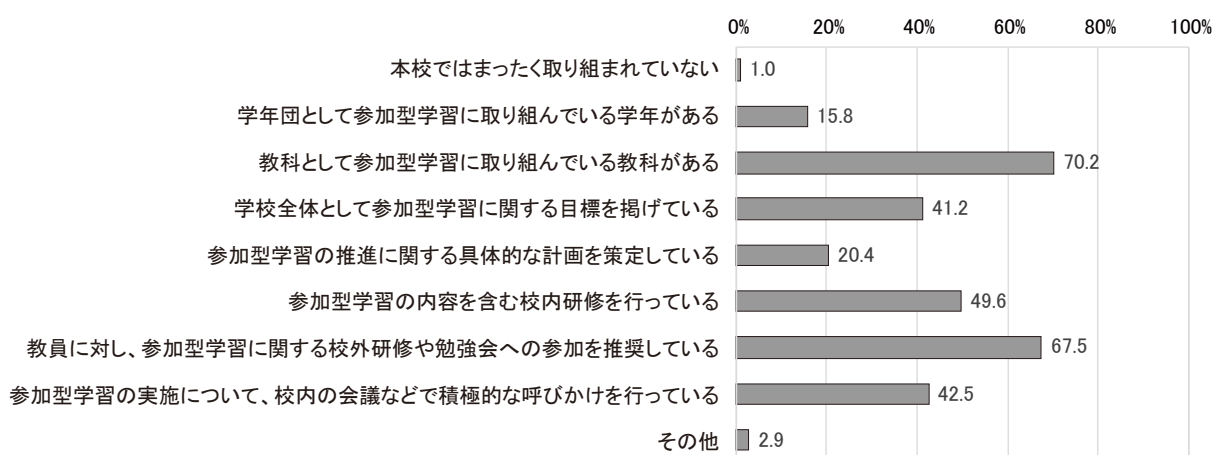


図 24 現在の参加型授業への取り組み状況

表 30 現在の参加型授業への取り組み状況（複数選択）

項目	度数	%
本校ではまったく取り組まれていない	21	1.0
学年団として参加型学習に取り組んでいる学年がある	334	15.8
教科として参加型学習に取り組んでいる教科がある	1,483	70.2
学校全体として参加型学習に関する目標を掲げている	871	41.2
参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している	432	20.4
参加型学習の内容を含む校内研修を行っている	1,049	49.6
教員に対し、参加型学習に関する校外研修や勉強会への参加を推奨している	1,426	67.5
参加型学習の実施について、校内の会議などで積極的な呼びかけを行っている	898	42.5
その他	62	2.9
有効回答数	2,113	
無回答	22	
合計	2,135	

2.2.13. 参加型授業に関する校内研修の回数とテーマ

2017 年度に開催予定の参加型授業に関する校内研修の回数とテーマについて尋ねた。回数は、1 回が 31.8%、2 回が 26.0%で、平均は 1.9 回であった。テーマは、「大学入試改革との関連性」が 42.7%で最も多く、次いで、「ICT の活用方法」が 41.6%、「アクティブ・ラーニングの事例紹介」が 40.5%であった。

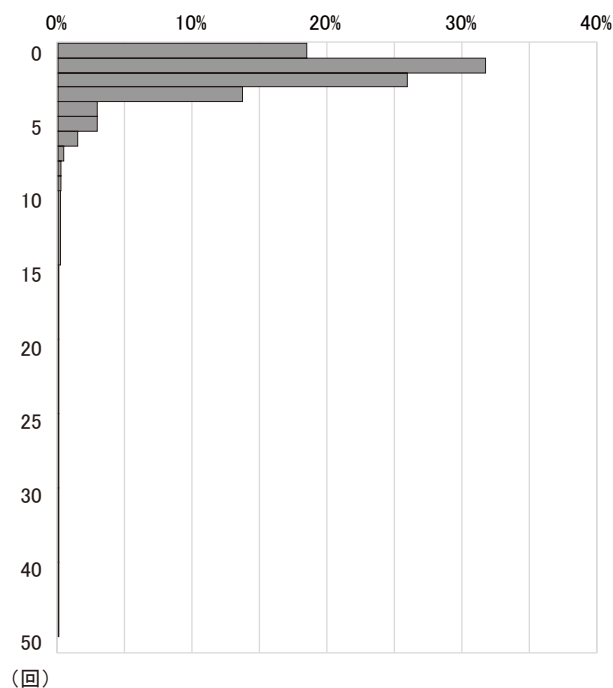


図 25 校内研修の回数

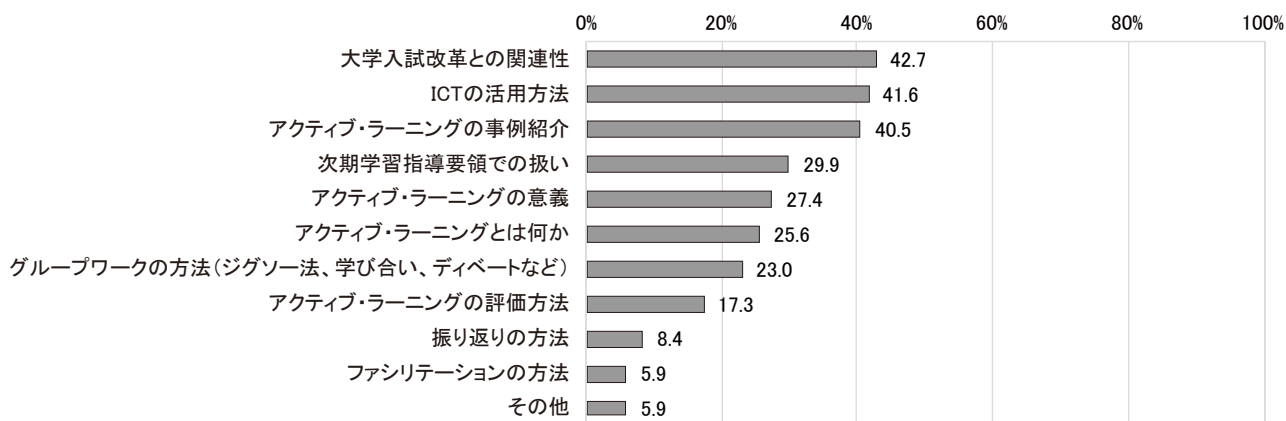


図 26 校内研修のテーマ

表 31 参加型授業に関する校内研修の回数

項目（回）	度数	%
0	348	18.5
1	597	31.8
2	488	26.0
3	257	13.7
4	55	2.9
5	57	3.0
6	30	1.6
7	10	0.5
8	7	0.4
9	1	0.1
10～14	17	0.9
15～19	2	0.1
20～24	7	0.4
25～29	1	0.1
30～34	1	0.1
40～	1	0.1
有効回答数	1,879	100.0
無効回答	3	
無回答	253	
合計	2,135	
最小値	0	
最大値	60	
平均値	1.929	
標準偏差	2.587	

表 32 参加型授業に関する校内研修のテーマ（複数選択）

項目	度数	%
大学入試改革との関連性	757	42.7
ICTの活用方法	737	41.6
アクティブ・ラーニングの事例紹介	718	40.5
次期学習指導要領での扱い	530	29.9
アクティブ・ラーニングの意義	486	27.4
アクティブ・ラーニングとは何か	453	25.6
グループワークの方法（ジグソー法、学び合い、ディベートなど）	407	23.0
アクティブ・ラーニングの評価方法	306	17.3
振り返りの方法	148	8.4
ファシリテーションの方法	105	5.9
その他	105	5.9
有効回答数	1,771	
無回答	364	
合計	2,135	

2.2.14. 参加型授業への取り組み状況と今後の見通し

参加型授業への取り組み状況と今後の見通しは、「すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である」（47.1%）、「すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である」（18.3%）、「すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である」（0.1%）と、「すでに取り組んでいる」と回答した学校は全体の 65.4%であった。

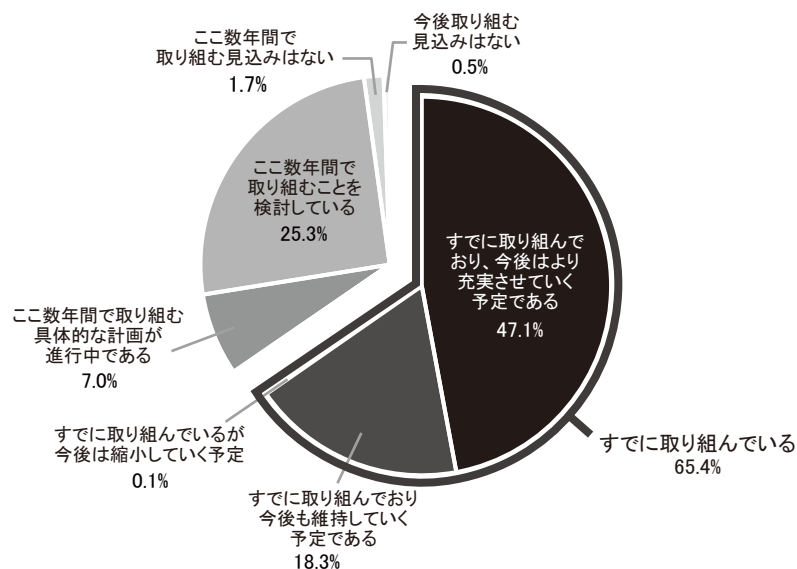


図 27 参加型授業への取り組み状況と今後の見通し

表 33 参加型授業への取り組み状況と今後の見通し（単一選択）

項目	度数	%
すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である	990	47.1
すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である	384	18.3
すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定	2	0.1
ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である	148	7.0
ここ数年間で取り組むことを検討している	533	25.3
ここ数年間で取り組む見込みはない	35	1.7
今後取り組む見込みはない	11	0.5
有効回答数	2,103	100.0
無効回答	7	
無回答	25	
合計	2,135	

2.2.15. 参加型授業導入の時期ときっかけ

参加型授業導入の時期は、調査を実施した 2017 年を基準として「2～3 年前から」が 43.6%で最も多く、次いで、「4～5 年前から」が 18.2%、「昨年から」が 15.9%であった。一方で、「10～19 年前から」が 7.7%、「20 年以上前から」が 3.2%と、アクティブラーニングが注目される以前から取り組んできたと回答した学校も 1 割強あった。

参加型授業導入のきっかけは、「次期学習指導要領で重視される方向性だから」が 52.6%で最も多く、次いで、「研修や勉強会で学んで効果がありそうだったから」が 45.0%、「大学入試が変わるから」が 39.5%であった。

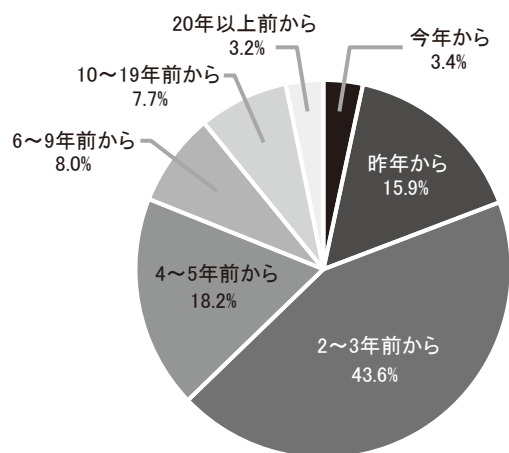


図 28 参加型授業導入の時期

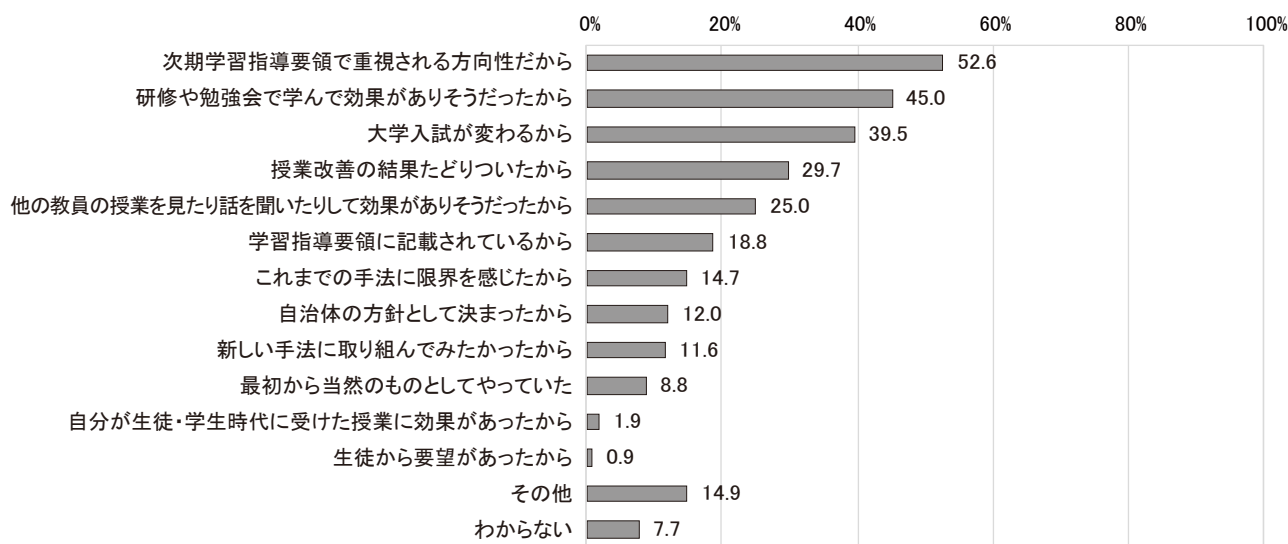


図 29 参加型授業導入のきっかけ

表 34 参加型授業導入の時期（単一選択）

項目	度数	%
今年から	46	3.4
昨年から	216	15.9
2～3年前から	593	43.6
4～5年前から	248	18.2
6～9年前から	109	8.0
10～19年前から	105	7.7
20年以上前から	44	3.2
有効回答数	1,361	100.0
非該当	727	
無効回答	1	
無回答	46	
合計	2,135	

（注）項目は調査実施時点（2017 年）を基準とした時期。

表 35 参加型授業導入のきっかけ（複数選択）

項目	度数	%
次期学習指導要領で重視される方向性だから	718	52.6
研修や勉強会で学んで効果がありそうだったから	614	45.0
大学入試が変わるから	539	39.5
授業改善の結果たどりついたから	405	29.7
他の教員の授業を見たり話を聞いた りして効果がありそうだったから	341	25.0
学習指導要領に記載されているから	256	18.8
これまでの手法に限界を感じたから	201	14.7
自治体の方針として決まったから	164	12.0
新しい手法に取り組んでみたかっ たから	158	11.6
最初から当然のものとしてやって いた	120	8.8
自分が生徒・学生時代に受けた授業 に効果があったから	26	1.9
生徒から要望があったから	12	0.9
その他	203	14.9
わからない	105	7.7
有効回答数	1,364	
非該当	727	
無回答	44	
合計	2,135	

2.2.16. 参加型授業の効果

参加型学習を取り入れた授業の実施により実感した効果に関する 30 項目の質問について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。教員とのコミュニケーションに関する 1 項目を除く 29 項目について確認的因子分析の結果、「思考・表現力」「課題解決力」「主体性」「市民性」「協働性」「教科基礎力」「教科応用力」「入試・就職力」の 8 因子が得られた。集計結果を図表に示した。

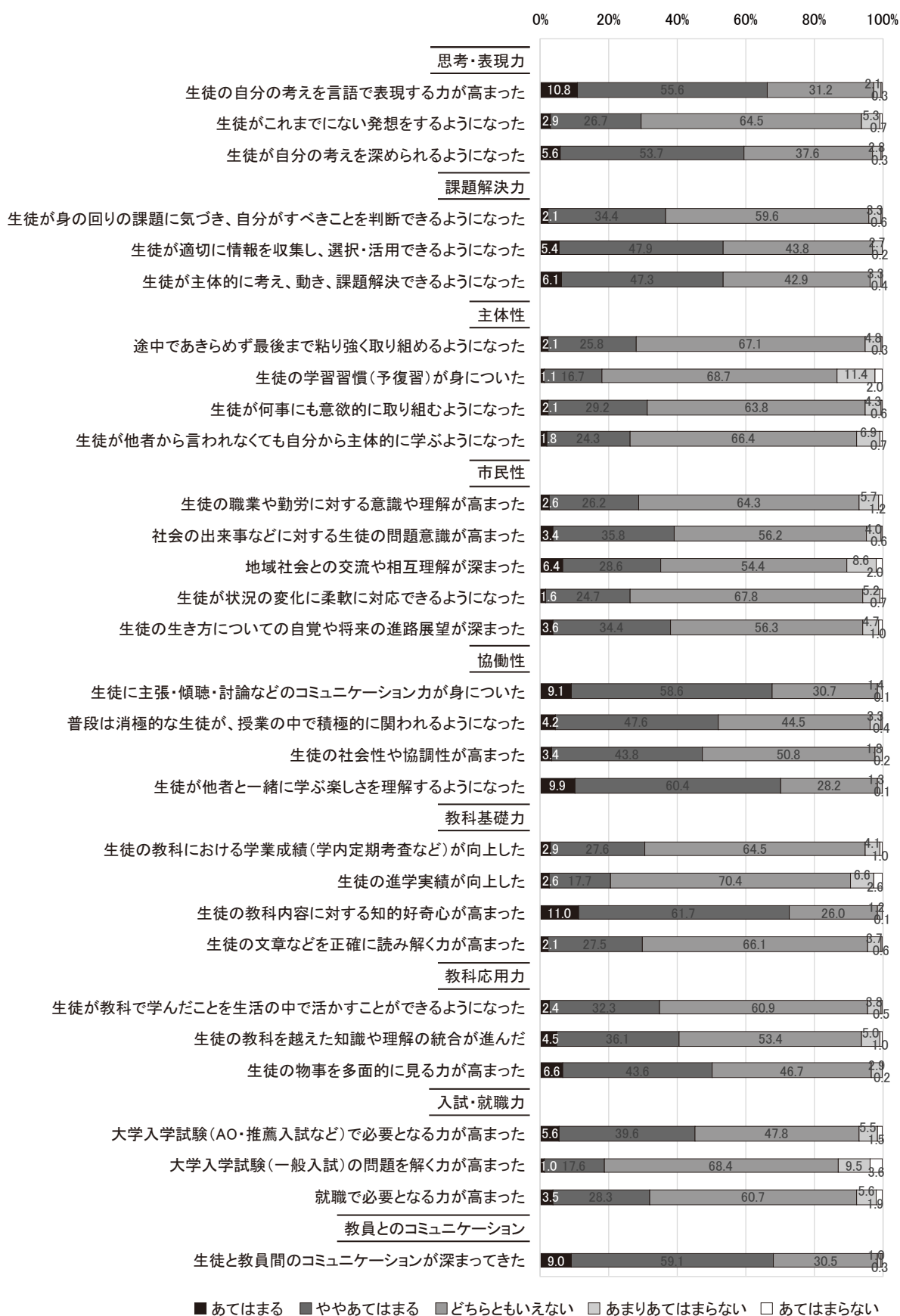


図 30 参加型授業の効果

表 36 参加型授業の効果の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	非該当	無効回答	無回答
思考・表現力								
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	1,369	1	5	3.745	0.683	727	0	39
生徒がこれまでにない発想をするようになった	1,368	1	5	3.257	0.630	727	1	39
生徒が自分の考えを深められるようになった	1,367	1	5	3.616	0.650	727	0	41
課題解決力								
生徒が身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	1,359	1	5	3.341	0.608	727	0	49
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	1,363	1	5	3.555	0.650	727	0	45
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	1,367	1	5	3.554	0.676	727	0	41
主体性								
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	1,366	1	5	3.247	0.584	727	0	42
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	1,366	1	5	3.034	0.637	727	1	41
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	1,365	1	5	3.279	0.605	727	0	43
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	1,368	1	5	3.197	0.608	727	0	40
市民性								
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	1,368	1	5	3.233	0.644	727	0	40
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	1,365	1	5	3.374	0.647	727	0	43
地域社会との交流や相互理解が深まった	1,365	1	5	3.287	0.790	727	0	43
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	1,368	1	5	3.213	0.590	727	0	40
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	1,364	1	5	3.348	0.674	727	1	43
協働性								
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	1,363	1	5	3.751	0.637	727	1	44
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	1,369	1	5	3.518	0.652	727	0	39
生徒の社会性や協調性が高まった	1,367	1	5	3.483	0.606	727	0	41
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	1,365	1	5	3.786	0.634	727	1	42
教科基礎力								
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	1,368	1	5	3.273	0.628	727	0	40
生徒の進学実績が向上した	1,371	1	5	3.111	0.665	727	0	37
生徒の教科内容に対する知的好奇心が高まった	1,369	1	5	3.820	0.633	727	0	39
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	1,367	1	5	3.269	0.590	727	1	40
教科応用力								
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	1,364	1	5	3.323	0.612	727	0	44
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	1,367	1	5	3.382	0.697	727	0	41
生徒の物事を多面的に見る力が高まった	1,367	1	5	3.534	0.673	727	0	41
入試・就職力								
大学入学試験（A0・推薦入試など）で必要となる力が高まった	1,365	1	5	3.421	0.747	727	0	43
大学入学試験（一般入試）の問題を解く力が高まった	1,366	1	5	3.028	0.672	727	1	41
就職で必要となる力が高まった	1,362	1	5	3.258	0.698	727	0	46
教員とのコミュニケーション								
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	1,365	1	5	3.755	0.635	727	0	43

表 37 参加型授業の効果の度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
思考・表現力										
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	148	10.8	761	55.6	427	31.2	29	2.1	4	0.3
生徒がこれまでにない発想をするようになった	39	2.9	365	26.7	882	64.5	72	5.3	10	0.7
生徒が自分の考えを深められるようになった	77	5.6	734	53.7	514	37.6	38	2.8	4	0.3
課題解決力										
生徒が身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	29	2.1	467	34.4	810	59.6	45	3.3	8	0.6
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	73	5.4	653	47.9	597	43.8	37	2.7	3	0.2
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	83	6.1	647	47.3	587	42.9	45	3.3	5	0.4
主体性										
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	29	2.1	352	25.8	916	67.1	65	4.8	4	0.3
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	15	1.1	228	16.7	939	68.7	156	11.4	28	2.0
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	29	2.1	398	29.2	871	63.8	59	4.3	8	0.6
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	24	1.8	333	24.3	908	66.4	94	6.9	9	0.7
市民性										
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	35	2.6	359	26.2	880	64.3	78	5.7	16	1.2
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	47	3.4	488	35.8	767	56.2	55	4.0	8	0.6
地域社会との交流や相互理解が深まった	87	6.4	390	28.6	743	54.4	118	8.6	27	2.0
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	22	1.6	338	24.7	927	67.8	71	5.2	10	0.7
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	49	3.6	469	34.4	768	56.3	64	4.7	14	1.0
協働性										
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	124	9.1	799	58.6	419	30.7	19	1.4	2	0.1
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関わられるようになった	57	4.2	652	47.6	609	44.5	45	3.3	6	0.4
生徒の社会性や協調性が高まった	46	3.4	599	43.8	694	50.8	25	1.8	3	0.2
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	135	9.9	825	60.4	385	28.2	18	1.3	2	0.1
教科基礎力										
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	39	2.9	378	27.6	882	64.5	56	4.1	13	1.0
生徒の進学実績が向上した	36	2.6	243	17.7	965	70.4	91	6.6	36	2.6
生徒の教科内容に対する知的好奇心が高まった	150	11.0	844	61.7	356	26.0	17	1.2	2	0.1
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	29	2.1	376	27.5	904	66.1	50	3.7	8	0.6
教科応用力										
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	33	2.4	441	32.3	831	60.9	52	3.8	7	0.5
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	62	4.5	493	36.1	730	53.4	69	5.0	13	1.0
生徒の物事を多面的に見る力が高まった	90	6.6	596	43.6	638	46.7	40	2.9	3	0.2
入試・就職力										
大学入学試験（A0・推薦入試など）で必要となる力が高まった	76	5.6	540	39.6	653	47.8	75	5.5	21	1.5
大学入学試験（一般入試）の問題を解く力が高まった	13	1.0	240	17.6	934	68.4	130	9.5	49	3.6
就職で必要となる力が高まった	47	3.5	386	28.3	827	60.7	76	5.6	26	1.9
教員とのコミュニケーション										
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	123	9.0	807	59.1	417	30.5	14	1.0	4	0.3

2.2.17. 参加型授業の評価

参加型授業の評価について、「成績評価の方法は、完全に各教員に任せている」が43.6%、「成績評価について、各教科で取り組んでいる方法がある」が42.0%、「成績評価について、学校全体で取り組んでいる方法がある」が14.4%であった。

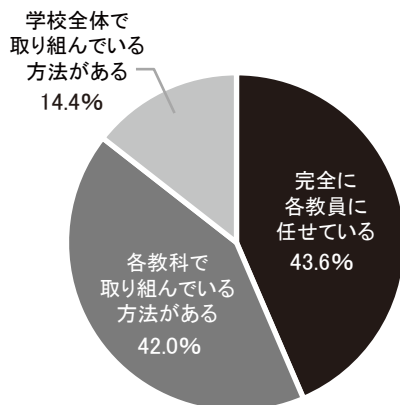


図 31 参加型授業の評価

表 38 参加型授業の評価（単一選択）

項目	度数	%
成績評価の方法は、完全に各教員に任せている	510	43.6
成績評価について、各教科で取り組んでいる方法がある	492	42.0
成績評価について、学校全体で取り組んでいる方法がある	169	14.4
有効回答数	1,171	100.0
非該当	727	
無回答	237	
合計	2,135	

2.2.18. 参加型授業の悩み

参加型授業の実施によって生じた悩み（困難や課題、不安）に関する 25 項目の質問について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。探索的・確認的因子分析の結果、「教育効果に関する悩み」「授業の進度に関する悩み」「授業方法や評価に関する悩み」「生徒の学習態度に関する悩み」「教員の負担増加に関する悩み」「リソースに関する悩み」「生徒や保護者の理解に関する悩み」「教員の理解に関する悩み」の 8 因子が得られた。集計結果を図表に示した。



図 32 参加型授業の悩み

表 39 参加型授業の悩みの記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	非該当	無効回答	無回答
教育効果に関する悩み								
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する	1,368	1	5	2.360	0.884	727	0	40
受験に必要な学力に結びつかない	1,368	1	5	2.522	0.926	727	0	40
社会の中で「生きる力」に結びつかない	1,368	1	5	2.051	0.770	727	0	40
授業の進度に関する悩み								
授業の進度が遅くなる	1,367	1	5	3.303	1.031	727	1	40
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	1,369	1	5	3.144	0.974	727	0	39
各教員の授業内容にばらつきが生じる	1,365	1	5	3.152	0.997	727	0	43
授業方法や評価に関する悩み								
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	1,367	1	5	3.360	0.975	727	0	41
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	1,368	1	5	2.933	1.019	727	0	40
教員の授業スキルが不足している	1,370	1	5	3.553	0.870	727	0	38
生徒の学習態度に関する悩み								
授業内容に関係のない生徒の私語が増える	1,369	1	5	2.568	1.002	727	0	39
生徒の集中力が低下する	1,367	1	5	2.208	0.849	727	0	41
参加型学習になじめない生徒や、ついてこれない生徒がいる	1,368	1	5	3.053	1.004	727	0	40
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	1,366	1	5	2.478	0.895	727	0	42
教員の負担増加に関する悩み								
授業中の教員の負担が増加する	1,368	1	5	3.206	0.957	727	0	40
授業前後の教員の負担が増加する	1,371	1	5	3.753	0.883	727	0	37
授業準備のための時間が足りない	1,366	1	5	3.848	0.862	727	0	42
リソースに関する悩み								
予算が足りない	1,369	1	5	3.294	1.091	727	0	39
必要な施設・設備が足りない	1,367	1	5	3.511	1.077	727	0	41
授業の時数が足りない	1,369	1	5	3.402	0.943	727	0	39
一学級当たり生徒数が適切でない	1,370	1	5	2.951	1.125	727	0	38
生徒や保護者の理解に関する悩み								
生徒の理解が得られない	1,370	1	5	2.093	0.784	727	0	38
保護者の理解が得られない	1,368	1	5	2.064	0.771	727	0	40
教員の理解に関する悩み								
組織的な取り組みにならない	1,367	1	5	2.779	1.021	727	0	41
教員が参加型学習の必要性を感じていない	1,368	1	5	2.504	0.949	727	0	40
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	1,367	1	5	2.533	0.991	727	0	41

表 40 参加型授業の悩みの度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらとも いえない		あまり あてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
教育効果に関する悩み										
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する	12	0.9	85	6.2	541	39.5	475	34.7	255	18.6
受験に必要な学力に結びつかない	19	1.4	161	11.8	532	38.9	459	33.6	197	14.4
社会の中で「生きる力」に結びつかない	2	0.1	19	1.4	373	27.3	627	45.8	347	25.4
授業の進度に関する悩み										
授業の進度が遅くなる	118	8.6	562	41.1	382	27.9	226	16.5	79	5.8
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	55	4.0	506	37.0	479	35.0	239	17.5	90	6.6
各教員の授業内容にばらつきが生じる	68	5.0	503	36.8	452	33.1	252	18.5	90	6.6
授業方法や評価に関する悩み										
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	116	8.5	582	42.6	401	29.3	214	15.7	54	4.0
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	52	3.8	394	28.8	449	32.8	356	26.0	117	8.6
教員の授業スキルが不足している	134	9.8	676	49.3	403	29.4	128	9.3	29	2.1
生徒の学習態度に関する悩み										
授業内容に関係のない生徒の私語が増える	24	1.8	250	18.3	403	29.4	495	36.2	197	14.4
生徒の集中力が低下する	9	0.7	78	5.7	376	27.5	629	46.0	275	20.1
参加型学習になじめない生徒や、ついてこれない生徒がいる	59	4.3	465	34.0	419	30.6	340	24.9	85	6.2
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	13	1.0	154	11.3	489	35.8	527	38.6	183	13.4
教員の負担増加に関する悩み										
授業中の教員の負担が増加する	77	5.6	500	36.5	484	35.4	242	17.7	65	4.8
授業前後の教員の負担が増加する	221	16.1	750	54.7	266	19.4	108	7.9	26	1.9
授業準備のための時間が足りない	290	21.2	689	50.4	294	21.5	75	5.5	18	1.3
リソースに関する悩み										
予算が足りない	201	14.7	383	28.0	490	35.8	207	15.1	88	6.4
必要な施設・設備が足りない	260	19.0	488	35.7	361	26.4	206	15.1	52	3.8
授業の時間が足りない	147	10.7	504	36.8	521	38.1	147	10.7	50	3.7
一学級当たり生徒数が適切でない	130	9.5	288	21.0	493	36.0	303	22.1	156	11.4
生徒や保護者の理解に関する悩み										
生徒の理解が得られない	3	0.2	31	2.3	379	27.7	634	46.3	323	23.6
保護者の理解が得られない	2	0.1	27	2.0	360	26.3	647	47.3	332	24.3
教員の理解に関する悩み										
組織的な取り組みにならない	38	2.8	332	24.3	435	31.8	414	30.3	148	10.8
教員が参加型学習の必要性を感じていない	16	1.2	192	14.0	462	33.8	493	36.0	205	15.0
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	22	1.6	228	16.7	412	30.1	499	36.5	206	15.1

2.2.19. 参加型授業の悩みの相談相手

参加型授業に関する悩みの相談相手は、「同校の管理職」が35.1%で最も多く、次いで、「同校の教員」が28.9%、「同校の参加型学習推進担当教員」が12.4%であった。

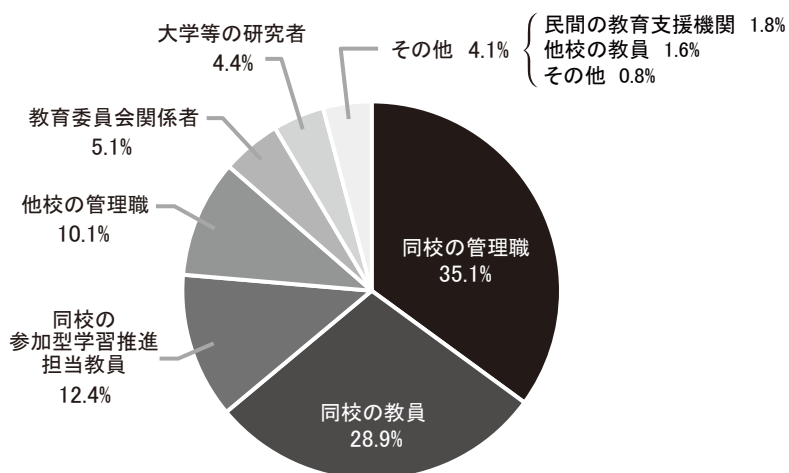


図 33 参加型授業の悩みの相談相手

表 41 参加型授業の悩みの相談相手（単一選択）

項目	度数	%
同校の管理職	415	35.1
同校の教員	342	28.9
同校の参加型学習推進担当教員	147	12.4
他校の管理職	119	10.1
教育委員会関係者	60	5.1
大学等の研究者	52	4.4
民間の教育支援機関	21	1.8
他校の教員	19	1.6
その他	9	0.8
有効回答数	1,184	100.0
非該当	727	
無効回答	96	
無回答	128	
合計	2,135	

2.3. カリキュラム・マネジメント担当者調査の集計結果

本節では、カリキュラム・マネジメント担当者調査の結果について示す。なお、カリキュラム・マネジメント担当者とは、「学校教育目標に向けたカリキュラム・マネジメント（教育課程の研究開発・評価・改善）について、実質的に最もその任にあたっている教員」のことを指す。

2.3.1. カリキュラム・マネジメント担当者の校務分掌

カリキュラム・マネジメント担当者の校務分掌は、「教務主任」が78.4%と最も多く、「副校長」「教頭」があわせて9.8%であった。「その他」として、学科長やカリキュラム開発担当の主任という回答が多く見られた。

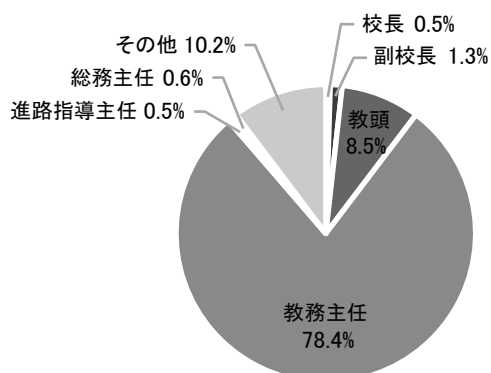


図 34 カリキュラム・マネジメント担当者の校務分掌

表 42 カリキュラム・マネジメント担当者の校務分掌（単一選択）

項目	度数	%
校長	10	0.5
副校長	27	1.3
教頭	180	8.5
教務主任	1,653	78.4
進路指導主任	10	0.5
総務主任	12	0.6
その他	216	10.2
有効回答数	2,108	100.0
無効回答	4	
無回答	13	
合計	2,125	

2.3.2. カリキュラム・マネジメント担当者の経験年数

カリキュラム・マネジメント担当者が、現任校の学校全体のカリキュラム・マネジメントに携わった年数の合計は、1～5 年が 85.4%で最も多く、平均値は 3.3 年であった。

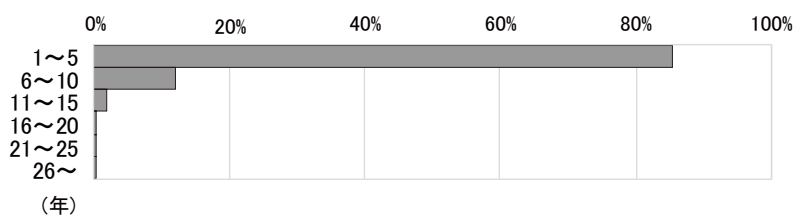


図 35 カリキュラム・マネジメント担当者の経験年数

表 43 カリキュラム・マネジメント担当者の経験年数（直接回答）

項目（年）	度数	%
1～5	1,796	85.4
6～10	250	11.9
11～15	38	1.8
16～20	11	0.5
21～25	6	0.3
26～	1	0.0
有効回答数	2,102	100.0
無回答	23	
合計	2,125	
最小値	1	
最大値	28	
平均値	3.303	
標準偏差	2.986	

2.3.3. カリキュラム・マネジメント担当者の教職経験年数

カリキュラム・マネジメント担当者の教職経験年数は、26～30 年が 32.4%で最も多く、次いで、31～35 年が 23.6%、21～25 年が 16.1%であった。平均値は 25.7 年であった。

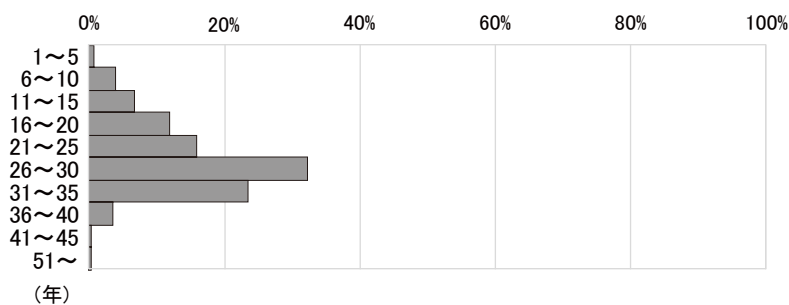


図 36 カリキュラム・マネジメント担当者の教職経験年数

表 44 カリキュラム・マネジメント担当者の教職経験年数（直接回答）

項目（年）	度数	%
1～5	20	0.9
6～10	85	4.0
11～15	146	6.9
16～20	253	12.0
21～25	340	16.1
26～30	684	32.4
31～35	499	23.6
36～40	74	3.5
41～45	8	0.4
51～	1	0.0
有効回答数	2,110	100.0
無回答	15	
合計	2,125	
最小値	1	
最大値	55	
平均値	25.659	
標準偏差	7.545	

2.3.4. カリキュラム・マネジメント担当者の指導主事・人事主事経験

カリキュラム・マネジメント担当者のうち、教育委員会や教育センターの指導主事・人事主事経験があるのは全体の 6.4%であった。指導主事経験年数は 1～5 年が 84.7%で最も多く、平均値は 3.6 年であった。また、人事主事経験年数は 1～5 年が 88.9%で最も多く、平均値は 3.6 年であった。

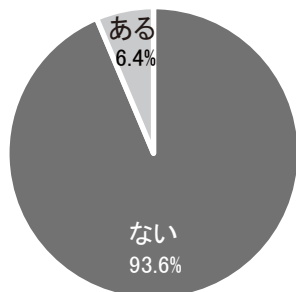


図 37 カリキュラム・マネジメント担当者の指導主事・人事主事の経験の有無

表 45 カリキュラム・マネジメント担当者の指導主事・人事主事の経験の有無（単一選択）

項目	度数	%
ない	1,990	93.6
ある	135	6.4
合計	2,125	100.0
無回答	0	
	2,125	

カリキュラム・マネジメント担当者調査

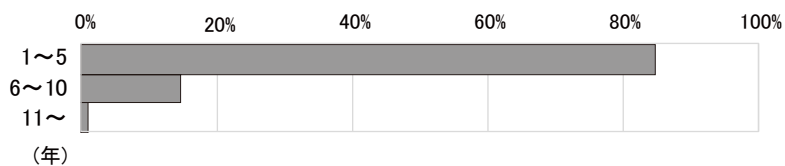


図 38 カリキュラム・マネジメント担当者の指導主事経験年数

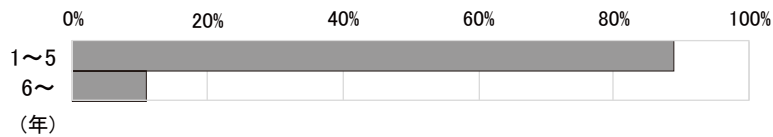


図 39 カリキュラム・マネジメント担当者の人事主事経験年数

表 46 カリキュラム・マネジメント担当者の指導主事経験年数（直接回答）

項目（年）	度数	%
1～5	100	84.7
6～10	17	14.4
11～	1	0.8
有効回答数	118	100.0
非該当	1,990	
無回答	17	
合計	2,125	
最小値	1	
最大値	12	
平均値	3.644	
標準偏差	1.972	

表 47 カリキュラム・マネジメント担当者の人事主事経験年数（直接回答）

項目（年）	度数	%
1～5	8	88.9
6～	1	11.1
有効回答数	9	100.0
非該当	1,990	
無回答	126	
合計	2,125	
最小値	2	
最大値	6	
平均値	3.556	
標準偏差	1.424	

2.3.5. カリキュラム・マネジメント担当者の教員以外の職業経験の有無

カリキュラム・マネジメント担当者のうち、教員職外の職業経験があるのは全体の 14.2%であった。

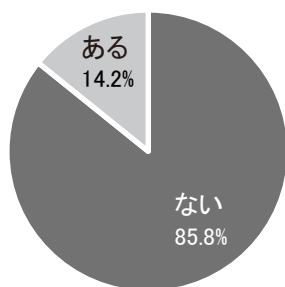


図 40 カリキュラム・マネジメント担当者の教員以外の職業経験の有無

表 48 カリキュラム・マネジメント担当者の教員以外の職業経験の有無（単一選択）

項目	度数	%
ない	1,805	85.8
ある	299	14.2
有効回答数	2,104	100.0
無回答	21	
合計	2,125	

2.3.6. カリキュラム・マネジメント担当者の経歴

カリキュラム・マネジメント担当者がこれまで経験した校務分掌として多かったのは、「教科主任」が82.9%、「教務主任」が77.4%、「学年主任」が53.3%であった。

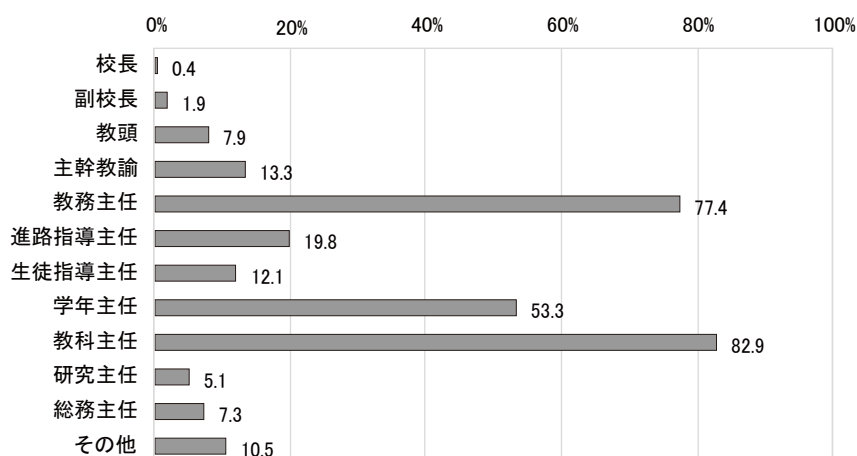


図 41 カリキュラム・マネジメント担当者の経歴

表 49 カリキュラム・マネジメント担当者の経歴（複数選択）

項目	度数	%
校長	9	0.4
副校長	40	1.9
教頭	165	7.9
主幹教諭	279	13.3
教務主任	1,619	77.4
進路指導主任	415	19.8
生徒指導主任	252	12.1
学年主任	1,115	53.3
教科主任	1,733	82.9
研究主任	106	5.1
総務主任	152	7.3
その他	220	10.5
有効回答数	2,091	
無回答	34	
合計	2,125	

2.3.7. カリキュラム・マネジメント担当者の最終学歴

カリキュラム・マネジメント担当者の最終学歴は、「四年制大学（教員養成系以外）」が61.3%で最も多く、次いで「四年制大学（教員養成系）」が16.5%、「大学院修士課程（教員養成系以外）」が12.7%であった。

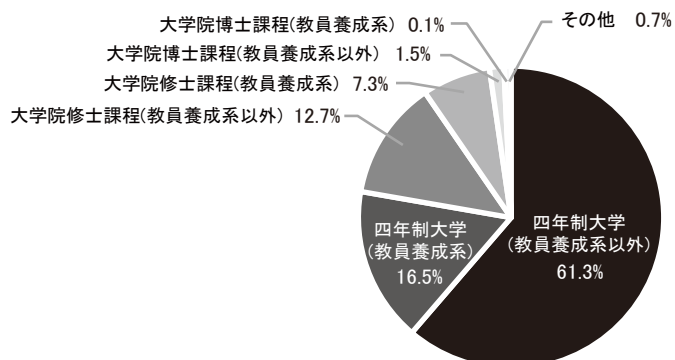


図 42 カリキュラム・マネジメント担当者の最終学歴

表 50 カリキュラム・マネジメント担当者の最終学歴（単一選択）

項目	度数	%
短期大学	0	0.0
四年制大学(教員養成系)	348	16.5
四年制大学(教員養成系以外)	1,292	61.3
大学院修士課程(教員養成系)	153	7.3
大学院修士課程(教員養成系以外)	268	12.7
大学院博士課程(教員養成系)	2	0.1
大学院博士課程(教員養成系以外)	32	1.5
その他	14	0.7
有効回答数	2,109	100.0
無効回答	3	
無回答	13	
合計	2,125	

2.3.8. カリキュラム・マネジメント担当者の職務行動

カリキュラム・マネジメントに向けてカリキュラム・マネジメント担当者としてどのような職務や行動をしているか、23 項目の質問について、「1. 取り組んでいない」から「4. とても力を入れて取り組んでいる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。4 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～4 点で得点化し、集計を行った。探索的・確認的因子分析の結果、「カリキュラムの編成・実施・評価・改善」「教務関連の連絡・調整」「方針の周知」「自律的な組織づくり」「教員に対する成長機会の提供」「リソース獲得への働きかけ」の 6 因子が得られた。集計結果を図表に示した。

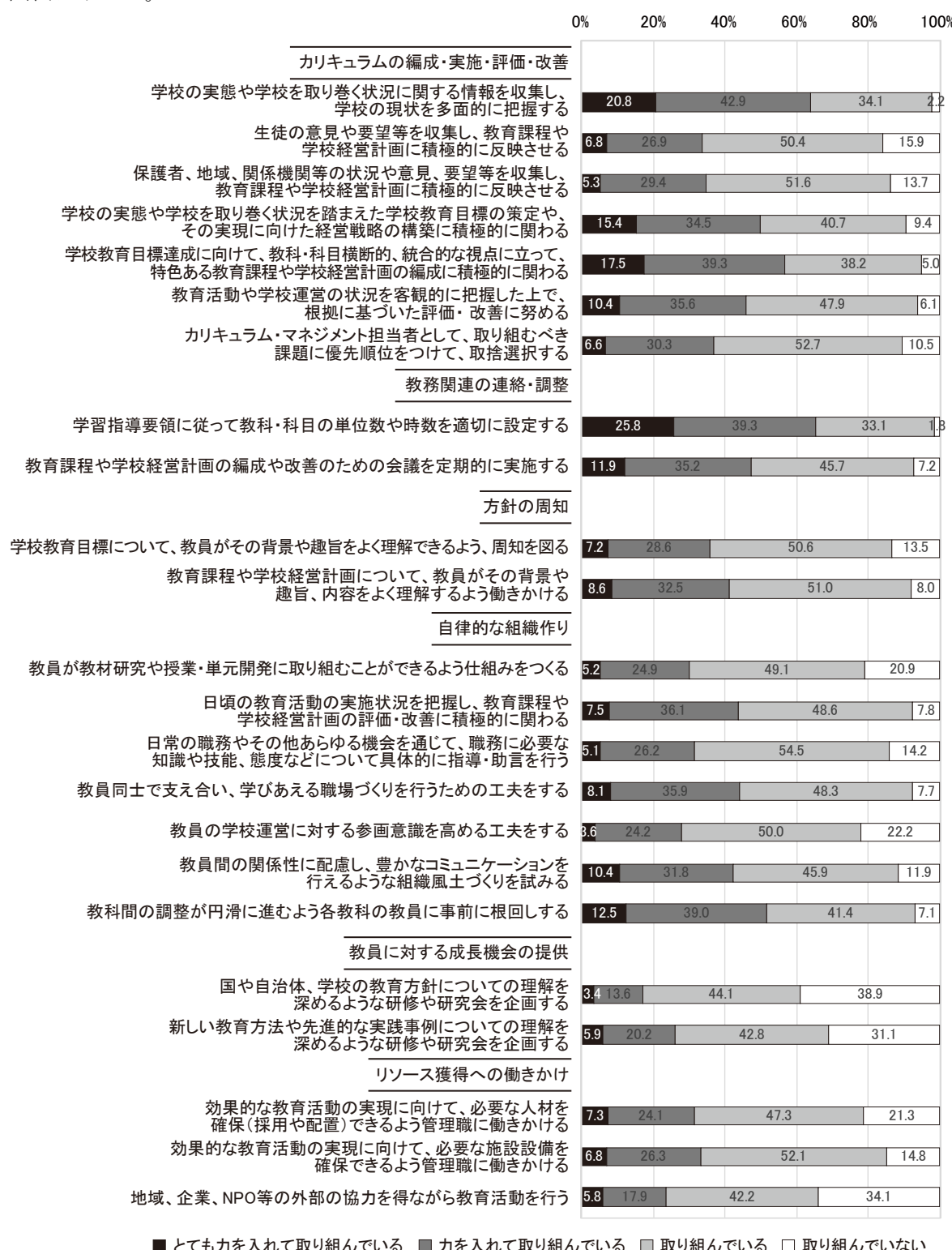


図 43 カリキュラム・マネジメント担当者の職務行動

表 51 カリキュラム・マネジメント担当者の職務行動の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
カリキュラムの編成・実施・評価・改善							
学校の実態や学校を取り巻く状況に関する情報を収集し、学校の現状を多面的に把握する	2, 123	1	4	2. 824	0. 778	0	2
生徒の意見や要望等を収集し、教育課程や学校経営計画に積極的に反映させる	2, 123	1	4	2. 247	0. 800	0	2
保護者、地域、関係機関等の状況や意見、要望等を収集し、教育課程や学校経営計画に積極的に反映させる	2, 122	1	4	2. 262	0. 757	0	3
学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえた学校教育目標の策定や、その実現に向けた経営戦略の構築に積極的に関わる	2, 107	1	4	2. 558	0. 862	0	18
学校教育目標達成に向けて、教科・科目横断的、統合的な視点に立って、特色ある教育課程（時数・教育内容の調整）や学校経営計画の編成に積極的に関わる	2, 108	1	4	2. 692	0. 814	0	17
教育活動や学校運営の状況を客観的に把握した上で、根拠に基づいた評価・改善に努める	2, 089	1	4	2. 503	0. 762	0	36
カリキュラム・マネジメント担当者として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	2, 106	1	4	2. 329	0. 750	0	19
教務関連の連絡・調整							
学習指導要領に従って教科・科目の単位数や時数を適切に設定する	2, 105	1	4	2. 892	0. 805	0	20
教育課程や学校経営計画の編成や改善のための会議を定期的に実施する	2, 101	1	4	2. 519	0. 795	0	24
方針の周知							
学校教育目標について、教員がその背景や趣旨をよく理解できるよう、周知を図る	2, 105	1	4	2. 295	0. 790	0	20
教育課程や学校経営計画について、教員がその背景や趣旨、内容をよく理解するよう働きかける	2, 105	1	4	2. 416	0. 758	0	20
自律的な組織づくり							
教員が教材研究や授業・単元開発に取り組むことができるよう仕組みをつくる	2, 103	1	4	2. 144	0. 803	0	22
日頃のエデュケーションの実施状況を把握し、教育課程や学校経営計画の評価・改善に積極的に関わる	2, 101	1	4	2. 434	0. 743	0	24
日常の職務やその他あらゆる機会を通じて、職務に必要な知識や技能、態度などについて具体的に指導・助言を行う	2, 102	1	4	2. 222	0. 748	1	22
教員同士で支え合い、学びあえる職場づくりを行うための工夫をする	2, 103	1	4	2. 444	0. 750	0	22
教員の学校運営に対する参画意識を高める工夫をする	2, 093	1	4	2. 093	0. 775	0	32
教員間の関係性に配慮し、豊かなコミュニケーションを行えるような組織風土づくりを試みる	2, 101	1	4	2. 408	0. 829	0	24
教科間の調整が円滑に進むよう各教科の教員に事前に根回しする	2, 101	1	4	2. 568	0. 799	0	24
教員に対する成長機会の提供							
国や自治体、学校の教育方針についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	2, 108	1	4	1. 814	0. 791	0	17
新しい教育方法や先進的な実践事例についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	2, 106	1	4	2. 009	0. 865	0	19
リソース獲得への働きかけ							
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材を確保（採用や配置）できるよう管理職に働きかける	2, 102	1	4	2. 174	0. 846	0	23
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な施設設備を確保できるよう管理職に働きかける	2, 101	1	4	2. 251	0. 788	1	23
地域、企業、NPO等の外部の協力を得ながら教育活動を行う	2, 106	1	4	1. 954	0. 866	0	19

表 52 カリキュラム・マネジメント担当者の職務行動の度数分布（単一選択）

項目	とても力を入れて取り組んでいる		力を入れて取り組んでいる		取り組んでいる		取り組んでいない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
カリキュラムの編成・実施・評価・改善								
学校の実態や学校を取り巻く状況に関する情報を収集し、学校の現状を多面的に把握する	442	20.8	911	42.9	724	34.1	46	2.2
生徒の意見や要望等を収集し、教育課程や学校経営計画に積極的に反映させる	145	6.8	571	26.9	1,070	50.4	337	15.9
保護者、地域、関係機関等の状況や意見、要望等を収集し、教育課程や学校経営計画に積極的に反映させる	112	5.3	624	29.4	1,095	51.6	291	13.7
学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえた学校教育目標の策定や、その実現に向けた経営戦略の構築に積極的に関わる	324	15.4	727	34.5	857	40.7	199	9.4
学校教育目標達成に向けて、教科・科目横断的、統合的な視点に立って、特色ある教育課程（時数・教育内容の調整）や学校経営計画の編成に積極的に関わる	368	17.5	829	39.3	805	38.2	106	5.0
教育活動や学校運営の状況を客観的に把握した上で、根拠に基づいた評価・改善に努める	217	10.4	744	35.6	1,000	47.9	128	6.1
カリキュラム・マネジメント担当者として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	138	6.6	638	30.3	1,109	52.7	221	10.5
教務関連の連絡・調整								
学習指導要領に従って教科・科目の単位数や時数を適切に設定する	544	25.8	827	39.3	697	33.1	37	1.8
教育課程や学校経営計画の編成や改善のための会議を定期的実施する	251	11.9	739	35.2	960	45.7	151	7.2
方針の周知								
学校教育目標について、教員がその背景や趣旨をよく理解できるよう、周知を図る	152	7.2	603	28.6	1,065	50.6	285	13.5
教育課程や学校経営計画について、教員がその背景や趣旨、内容をよく理解するよう働きかける	180	8.6	684	32.5	1,073	51.0	168	8.0
自律的な組織づくり								
教員が教材研究や授業・単元開発に取り組むことができるよう仕組みをつくる	109	5.2	523	24.9	1,032	49.1	439	20.9
日頃のエデュケーションの実施状況を把握し、教育課程や学校経営計画の評価・改善に積極的に関わる	158	7.5	758	36.1	1,022	48.6	163	7.8
日常の職務やその他あらゆる機会を通じて、職務に必要な知識や技能、態度などについて具体的に指導・助言を行う	107	5.1	551	26.2	1,145	54.5	299	14.2
教員同士で支え合い、学びあえる職場づくりを行うための工夫をする	170	8.1	756	35.9	1,015	48.3	162	7.7
教員の学校運営に対する参画意識を高める工夫をする	76	3.6	507	24.2	1,046	50.0	464	22.2
教員間の関係性に配慮し、豊かなコミュニケーションを行えるような組織風土づくりを試みる	219	10.4	668	31.8	965	45.9	249	11.9
教科間の調整が円滑に進むよう各教科の教員に事前に根回しする	262	12.5	820	39.0	869	41.4	150	7.1
教員に対する成長機会の提供								
国や自治体、学校の教育方針についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	71	3.4	286	13.6	930	44.1	821	38.9
新しい教育方法や先進的な実践事例についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	124	5.9	426	20.2	901	42.8	655	31.1
リソース獲得への働きかけ								
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材を確保（採用や配置）できるよう管理職に働きかける	153	7.3	507	24.1	995	47.3	447	21.3
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な施設設備を確保できるよう管理職に働きかける	143	6.8	552	26.3	1,095	52.1	311	14.8
地域、企業、NPO等の外部の協力を得ながら教育活動を行う	122	5.8	377	17.9	889	42.2	718	34.1

2.3.9. 教育課程の編成体制

教育課程の原案の作成に携わる職位・職階として多かったのは、「教務主任」が92.7%、「教頭」が69.3%、「教科主任」が67.3%であった。

教育課程の編成に携わる職位・職階として多かったのは、「教務主任」が92.0%、「教頭」が84.4%、「教科主任」が80.6%、「校長」が73.2%であった。

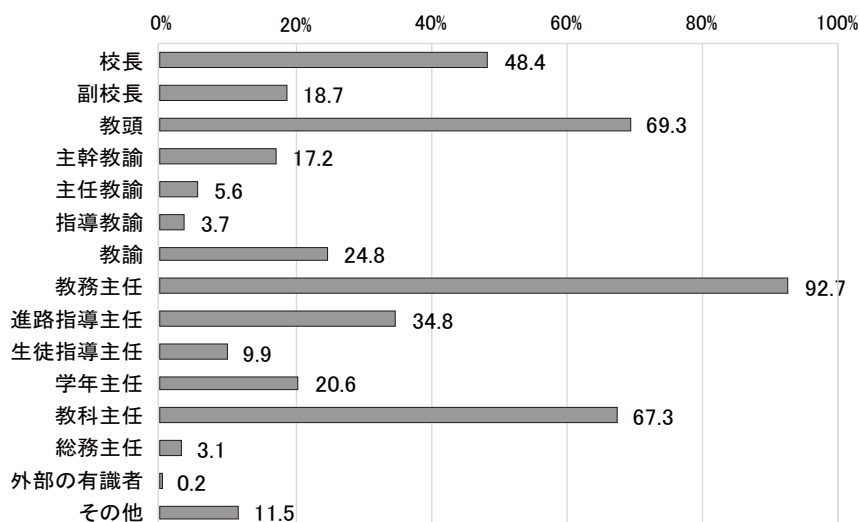


図 44 教育課程の原案の作成に携わる職位・職階

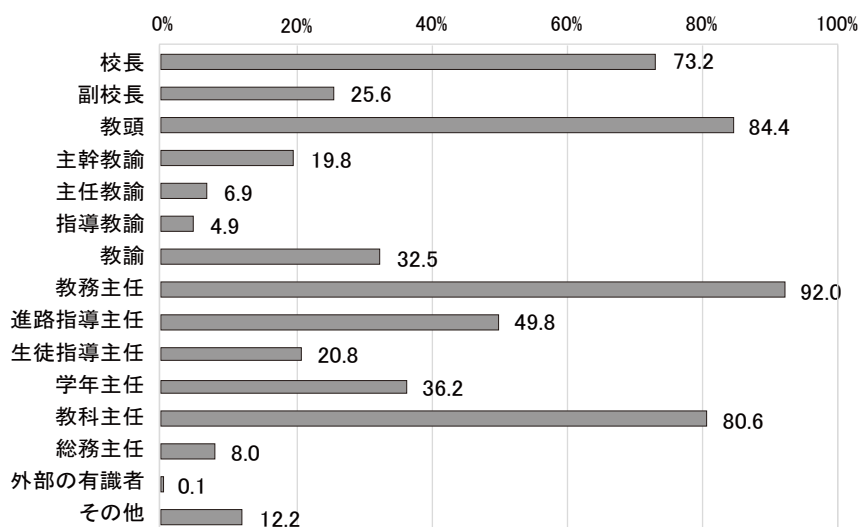


図 45 教育課程の編成に携わる職位・職階

表 53 教育課程の原案の作成に携わる職位・職階（複数選択）

項目	度数	%
校長	1,022	48.4
副校長	394	18.7
教頭	1,462	69.3
主幹教諭	362	17.2
主任教諭	119	5.6
指導教諭	78	3.7
教諭	523	24.8
教務主任	1,956	92.7
進路指導主任	735	34.8
生徒指導主任	208	9.9
学年主任	434	20.6
教科主任	1,420	67.3
総務主任	66	3.1
外部の有識者	4	0.2
その他	242	11.5
有効回答数	2,110	
無回答	15	
合計	2,125	

表 54 教育課程の編成に携わる職位・職階（複数選択）

項目	度数	%
校長	1,542	73.2
副校長	540	25.6
教頭	1,778	84.4
主幹教諭	416	19.8
主任教諭	146	6.9
指導教諭	104	4.9
教諭	684	32.5
教務主任	1,938	92.0
進路指導主任	1,049	49.8
生徒指導主任	437	20.8
学年主任	763	36.2
教科主任	1,697	80.6
総務主任	168	8.0
外部の有識者	3	0.1
その他	256	12.2
有効回答数	2,106	
無回答	19	
合計	2,125	

2.3.10. 教育課程の評価・改善について話し合う機会

教育課程の評価・改善について会議や委員会などで公式に話し合う機会は、「年に2回以上」が71.7%で最も多く、「年に1回」が17.0%、「数年に1回」が8.1%であった。

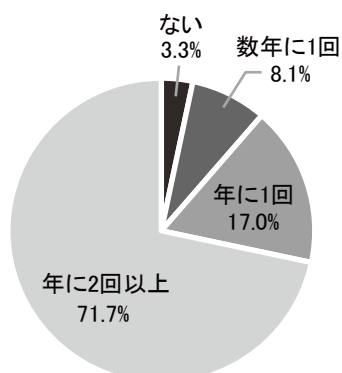


図 46 教育課程の評価・改善について話し合う機会

表 55 教育課程の評価・改善について話し合う機会（単一選択）

項目	度数	%
ない	69	3.3
数年に1回	168	8.1
年に1回	354	17.0
年に2回以上	1,495	71.7
有効回答数	2,086	100.0
無回答	39	
合計	2,125	

2.3.11. カリキュラム・マネジメントへの取り組み状況

学校全体でのカリキュラム・マネジメントへの取り組みに関する 8 項目の質問について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。探索的・確認的因子分析の結果、「特色あるカリキュラム編成」「目標達成に向けた PDCA の推進」「学校内外のリソース活用」の 3 因子が得られた。集計結果を図表に示した。

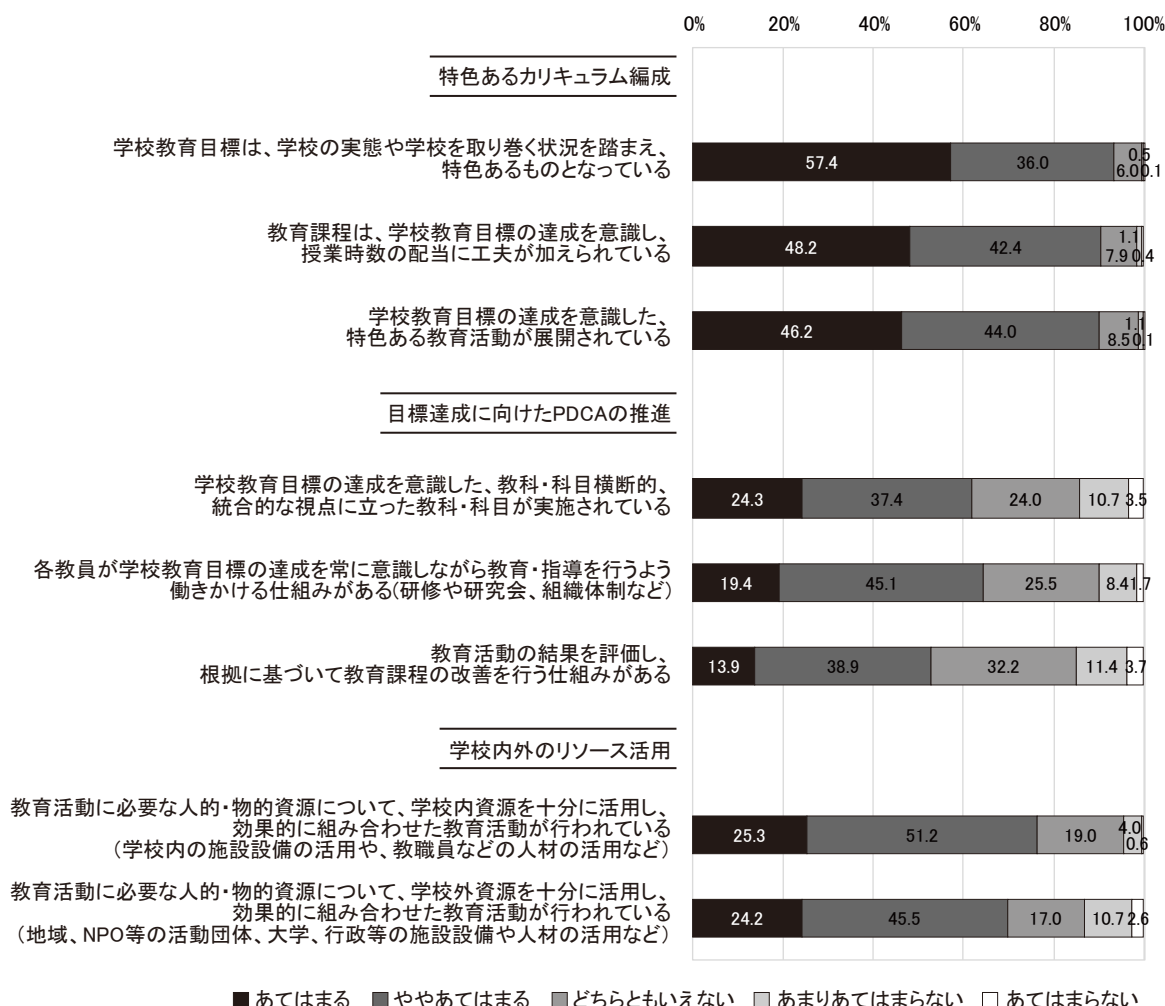


図 47 学校全体でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況

表 56 学校全体でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
特色あるカリキュラム編成							
学校教育目標は、学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえ、特色あるものとなっている	2,108	1	5	4.499	0.647	0	17
教育課程は、学校教育目標の達成を意識し、授業時数の配当に工夫が加えられている	2,107	1	5	4.369	0.709	0	18
学校教育目標の達成を意識した、特色ある教育活動が展開されている	2,106	1	5	4.350	0.695	0	19
目標達成に向けたPDCAの推進							
学校教育目標の達成を意識した、教科・科目横断的、統合的な視点に立った教科・科目が実施されている	2,104	1	5	3.683	1.063	0	20
各教員が学校教育目標の達成を常に意識しながら教育・指導を行うよう働きかける仕組みがある（研修や研究会、組織体制など）	2,107	1	5	3.721	0.925	0	18
教育活動の結果を評価し、根拠に基づいて教育課程の改善を行う仕組みがある	2,104	1	5	3.480	0.987	0	21
学校内外のリソース活用							
教育活動に必要な人的・物的資源について、学校内資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている（学校内の施設設備の活用や、教職員などの人材の活用など）	2,107	1	5	3.966	0.808	0	18
教育活動に必要な人的・物的資源について、学校外資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている（地域、NPO等の活動団体、大学、行政等の施設設備や人材の活用など）	2,107	1	5	3.780	1.013	0	18

表 57 学校全体でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況の度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらとも いえない		あまり あてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
特色あるカリキュラム編成										
学校教育目標は、学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえ、特色あるものとなっている	1,209	57.4	759	36.0	126	6.0	11	0.5	3	0.1
教育課程は、学校教育目標の達成を意識し、授業時数の配当に工夫が加えられている	1,015	48.2	894	42.4	167	7.9	23	1.1	8	0.4
学校教育目標の達成を意識した、特色ある教育活動が展開されている	973	46.2	927	44.0	179	8.5	24	1.1	3	0.1
目標達成に向けたPDCAの推進										
学校教育目標の達成を意識した、教科・科目横断的、統合的な視点に立った教科・科目が実施されている	512	24.3	787	37.4	505	24.0	226	10.7	74	3.5
各教員が学校教育目標の達成を常に意識しながら教育・指導を行うよう働きかける仕組みがある（研修や研究会、組織体制など）	408	19.4	950	45.1	538	25.5	176	8.4	35	1.7
教育活動の結果を評価し、根拠に基づいて教育課程の改善を行う仕組みがある	292	13.9	819	38.9	677	32.2	239	11.4	77	3.7
学校内外のリソース活用										
教育活動に必要な人的・物的資源について、学校内資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている（学校内の施設設備の活用や、教職員などの人材の活用など）	533	25.3	1,078	51.2	400	19.0	84	4.0	12	0.6
教育活動に必要な人的・物的資源について、学校外資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている（地域、NPO等の活動団体、大学、行政等の施設設備や人材の活用など）	510	24.2	958	45.5	359	17.0	225	10.7	55	2.6

2.3.12. カリキュラム・マネジメントに関する悩み

学校全体でのカリキュラム・マネジメントの悩みに関する 21 項目の質問について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。探索的・確認的因子分析の結果、「カリキュラムの編成・実施に関する悩み」「カリキュラムの評価・改善に関する悩み」「管理職や教科主任との連携に関する悩み」「自律的な組織づくりに関する悩み」「教科間の連携・調整に関する悩み」「リソースに関する悩み」の 6 因子が得られた。集計結果を図表に示した。

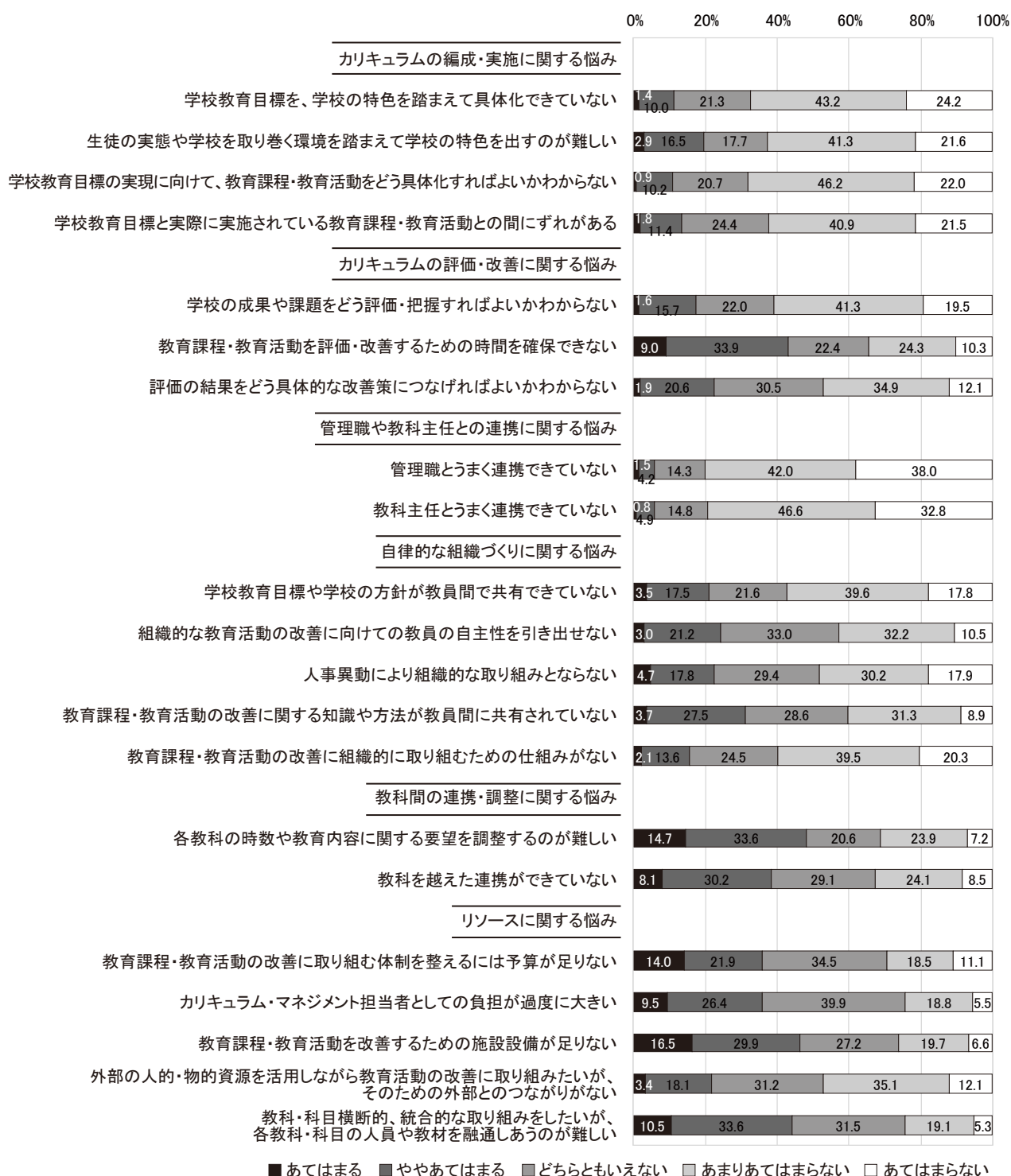


図 48 学校全体でのカリキュラム・マネジメントに関する悩み

表 58 学校全体でのカリキュラム・マネジメントに関する悩みの記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
カリキュラムの編成・実施に関する悩み							
学校教育目標を、学校の特色を踏まえて具体化できていない	2, 116	1	5	2. 211	0. 966	1	8
生徒の実態や学校を取り巻く環境を踏まえて学校の特色を出すのが難しい	2, 117	1	5	2. 378	1. 082	0	8
学校教育目標の実現に向けて、教育課程・教育活動をどう具体化すればよいかわからない	2, 116	1	5	2. 216	0. 930	0	9
学校教育目標と実際に実施されている教育課程・教育活動との間にずれがある	2, 116	1	5	2. 312	0. 990	0	9
カリキュラムの評価・改善に関する悩み							
学校の成果や課題をどう評価・把握すればよいかわからない	2, 111	1	5	2. 386	1. 017	2	12
教育課程・教育活動を評価・改善するための時間を確保できない	2, 116	1	5	3. 069	1. 162	0	9
評価の結果をどう具体的な改善策につなげればよいかわからない	2, 111	1	5	2. 653	0. 999	0	14
管理職や教科主任との連携に関する悩み							
管理職とうまく連携できていない	2, 117	1	5	1. 892	0. 903	0	8
教科主任とうまく連携できていない	2, 116	1	5	1. 941	0. 859	0	9
自律的な組織づくりに関する悩み							
学校教育目標や学校の方針が教員間で共有できていない	2, 116	1	5	2. 495	1. 081	0	9
組織的な教育活動の改善に向けての教員の自主性を引き出せない	2, 115	1	5	2. 740	1. 004	0	10
人事異動により組織的な取り組みとならない	2, 115	1	5	2. 611	1. 110	0	10
教育課程・教育活動の改善に関する知識や方法が教員間に共有されていない	2, 113	1	5	2. 858	1. 036	0	12
教育課程・教育活動の改善に組織的に取り組むための仕組みがない	2, 114	1	5	2. 377	1. 021	1	10
教科間の連携・調整に関する悩み							
各教科の時数や教育内容に関する要望を調整するのが難しい	2, 114	1	5	3. 246	1. 179	0	11
教科を越えた連携ができていない	2, 111	1	5	3. 054	1. 097	1	13
リソースに関する悩み							
教育課程・教育活動の改善に取り組む体制を整えるには予算が足りない	2, 118	1	5	3. 093	1. 184	0	7
カリキュラム・マネジメント担当者としての負担が過度に大きい	2, 116	1	5	3. 155	1. 012	0	9
教育課程・教育活動を改善するための施設設備が足りない	2, 111	1	5	3. 299	1. 154	0	14
外部の人的・物的資源を活用しながら教育活動の改善に取り組みたいが、そのための外部とのつながりがない	2, 117	1	5	2. 657	1. 019	0	8
教科・科目横断的、統合的な取り組みをしたいが、各教科・科目の人員や教材を融通しあうのが難しい	2, 117	1	5	3. 249	1. 049	0	8

表 59 学校全体でのカリキュラム・マネジメントに関する悩みの度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
カリキュラムの編成・実施に関する悩み										
学校教育目標を、学校の特色を踏まえて具体化できていない	29	1.4	211	10.0	450	21.3	914	43.2	512	24.2
生徒の実態や学校を取り巻く環境を踏まえて学校の特色を出すのが難しい	61	2.9	350	16.5	375	17.7	874	41.3	457	21.6
学校教育目標の実現に向けて、教育課程・教育活動をどう具体化すればよいかわからない	18	0.9	216	10.2	438	20.7	978	46.2	466	22.0
学校教育目標と実際に実施されている教育課程・教育活動との間にずれがある	38	1.8	242	11.4	517	24.4	865	40.9	454	21.5
カリキュラムの評価・改善に関する悩み										
学校の成果や課題をどう評価・把握すればよいかわからない	33	1.6	331	15.7	464	22.0	872	41.3	411	19.5
教育課程・教育活動を評価・改善するための時間を確保できない	190	9.0	718	33.9	475	22.4	514	24.3	219	10.3
評価の結果をどう具体的な改善策につなげればよいかわからない	41	1.9	434	20.6	643	30.5	737	34.9	256	12.1
管理職や教科主任との連携に関する悩み										
管理職とうまく連携できていない	32	1.5	89	4.2	302	14.3	889	42.0	805	38.0
教科主任とうまく連携できていない	16	0.8	104	4.9	314	14.8	987	46.6	695	32.8
自律的な組織づくりに関する悩み										
学校教育目標や学校の方針が教員間で共有できていない	75	3.5	370	17.5	458	21.6	837	39.6	376	17.8
組織的な教育活動の改善に向けての教員の自主性を引き出せない	64	3.0	448	21.2	699	33.0	682	32.2	222	10.5
人事異動により組織的な取り組みとならない	99	4.7	376	17.8	622	29.4	639	30.2	379	17.9
教育課程・教育活動の改善に関する知識や方法が教員間に共有されていない	78	3.7	582	27.5	604	28.6	661	31.3	188	8.9
教育課程・教育活動の改善に組織的に取り組むための仕組みがない	45	2.1	287	13.6	518	24.5	834	39.5	430	20.3
教科間の連携・調整に関する悩み										
各教科の時数や教育内容に関する要望を調整するのが難しい	310	14.7	711	33.6	435	20.6	506	23.9	152	7.2
教科を越えた連携ができていない	171	8.1	638	30.2	615	29.1	508	24.1	179	8.5
リソースに関する悩み										
教育課程・教育活動の改善に取り組む体制を整えるには予算が足りない	297	14.0	464	21.9	730	34.5	392	18.5	235	11.1
カリキュラム・マネジメント担当者としての負担が過度に大きい	200	9.5	558	26.4	845	39.9	397	18.8	116	5.5
教育課程・教育活動を改善するための施設設備が足りない	348	16.5	632	29.9	575	27.2	416	19.7	140	6.6
外部の人的・物的資源を活用しながら教育活動の改善に取り組みたいが、そのための外部とのつながりが少ない	73	3.4	384	18.1	660	31.2	744	35.1	256	12.1
教科・科目横断的、統合的な取り組みをしたいが、各教科・科目の人員や教材を融通しあうのが難しい	223	10.5	711	33.6	666	31.5	404	19.1	113	5.3

2.3.13. カリキュラム・マネジメントの悩みの相談相手

カリキュラム・マネジメントに関する悩みの相談相手は、「同校の管理職」が72.7%で最も多く、次いで、「同校の同僚教員」が16.9%、「同校の先輩教員」が7.2%であった。

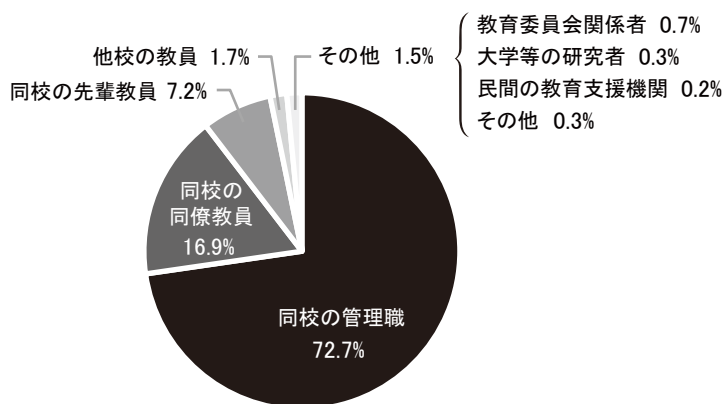


図 49 カリキュラム・マネジメントの悩みの相談相手

表 60 カリキュラム・マネジメントの悩みの相談相手（単一選択）

項目	度数	%
同校の管理職	1,234	72.7
同校の同僚教員	286	16.9
同校の先輩教員	122	7.2
他校の教員	29	1.7
教育委員会関係者	12	0.7
大学等の研究者	5	0.3
民間の教育支援機関	4	0.2
その他	5	0.3
有効回答数	1,697	100.0
無効回答	357	
無回答	71	
合計	2,125	

2.3.14. 現在の教科・科目横断的、統合的な取り組みの状況

複数の異なる教科の教員が連携して1つの授業を運営するような、教科・科目横断的、統合的な取り組みがあるかについて、「教科横断的・統合的な取り組みがある」学校は46.0%、「科目横断的・統合的な取り組みがある」学校は13.2%であった。

教科・科目横断的、統合的な取り組みのあり方については、「総合的な学習の時間として実施される授業がある」が70.5%、「学校設定科目として実施される授業がある」が44.4%、「総合的な学習の時間以外の各教科に属する科目として実施される授業がある」が20.1%であった。

どのような単位で取り組んでいるかについては、「学校として組織的に取り組んでいる」が73.9%、「学年団として取り組んでいる学年がある」が28.0%、「教科として取り組んでいる教科がある」が25.2%であった。

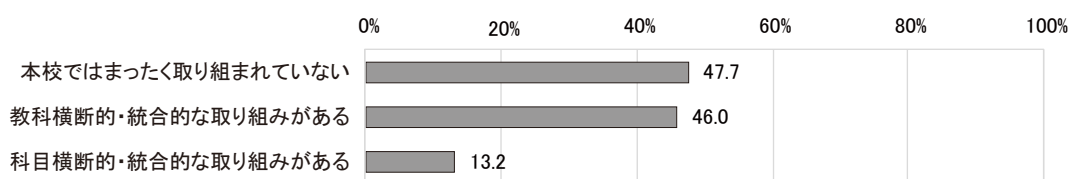


図50 教科・科目横断的、統合的な取り組みの状況

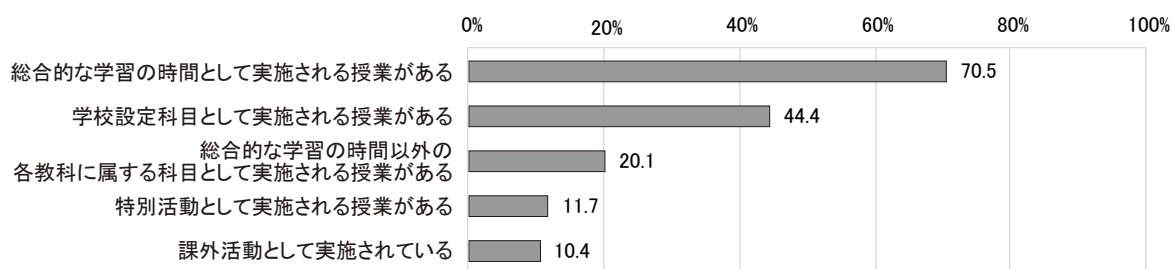


図51 教科・科目横断的、統合的な取り組みのあり方

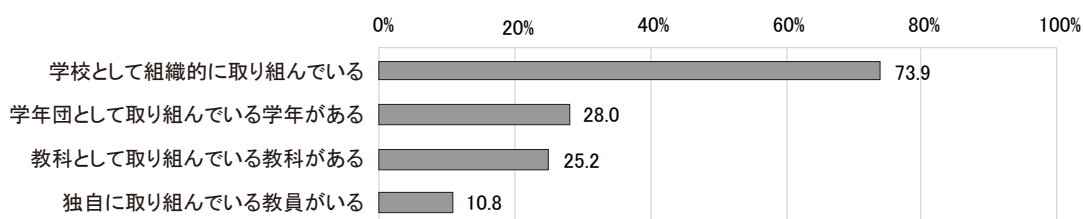


図52 教科・科目横断的、統合的な取り組みの単位

表 61 教科・科目横断的、統合的な取り組みの状況（複数選択）

項目	度数	%
本校ではまったく取り組まれていない	1,007	47.7
教科横断的・統合的な取り組みがある	972	46.0
科目横断的・統合的な取り組みがある	279	13.2
有効回答数	2,113	
無回答	12	
合計	2,125	

表 62 教科・科目横断的、統合的な取り組みのあり方（複数選択）

項目	度数	%
総合的な学習の時間として実施される授業がある	776	70.5
学校設定科目として実施される授業がある	489	44.4
総合的な学習の時間以外の各教科に属する科目として実施される授業がある	221	20.1
特別活動として実施される授業がある	129	11.7
課外活動として実施されている	115	10.4
有効回答数	1,101	
非該当	1,007	
無回答	17	
合計	2,125	

表 63 教科・科目横断的、統合的な取り組みの単位（複数選択）

項目	度数	%
学校として組織的に取り組んでいる	801	73.9
学年団として取り組んでいる学年がある	304	28.0
教科として取り組んでいる教科がある	273	25.2
独自に取り組んでいる教員がいる	117	10.8
有効回答数	1,084	
非該当	1,007	
無回答	34	
合計	2,125	

2.3.15. 教科・科目横断的、統合的な取り組みの状況と今後の見通し

教科・科目横断的、統合的な取り組みの状況と今後の見通しは、「すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である」(19.5%)、「すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である」(22.3%)、「すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である」(0.9%)と、「すでに取り組んでいる」と回答した教科は全体の42.8%であった。

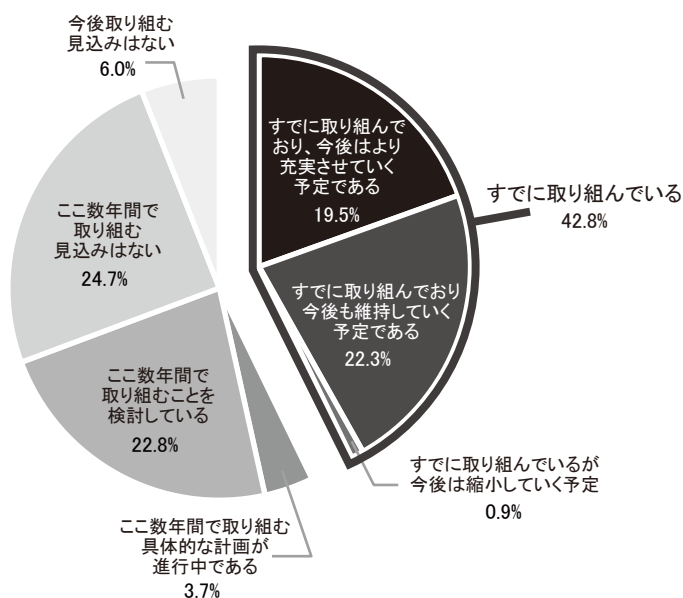


図 53 教科・科目横断的、統合的な取り組みの状況

表 64 教科・科目横断的、統合的な取り組みの状況（複数選択）

項目	度数	%
すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である	391	19.5
すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である	446	22.3
すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定	19	0.9
ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である	75	3.7
ここ数年間で取り組むことを検討している	456	22.8
ここ数年間で取り組む見込みはない	494	24.7
今後取り組む見込みはない	120	6.0
有効回答数	2,001	100.0
無効回答	2	
無回答	122	
合計	2,125	

2.3.16. 大学との連携・接続

学校における組織的な取り組みとして、大学との連携や接続を意識したものがあるかについて、「大学等の研究者を講師に招いて実施している授業等」を行っている学校は58.5%、「大学生を講師（講演会のゲストスピーカーなど）に招いて実施する授業等」を行っている学校は26.6%、「大学の施設を利用して実施した授業等」を行っている学校は26.1%、「大学で学ぶ力を育むことを意図した探究的な授業等」19.9%、「大学と連携した授業開発」14.4%、「大学生が支援する授業等」12.7%、「大学や学会、研究会の場で教員・生徒が情報発信・提案する実践」10.5%であった。

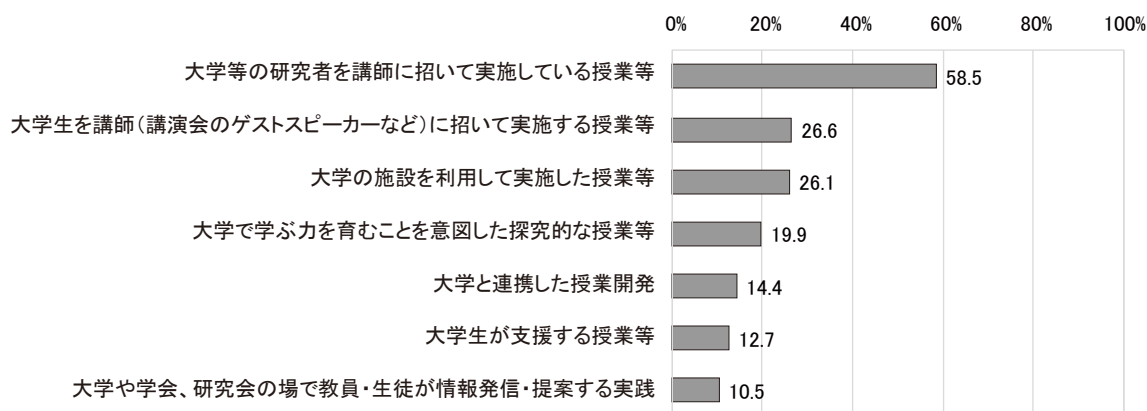


図 54 大学との連携・接続

表 65 大学との連携・接続（複数選択）

項目	度数	%
大学等の研究者を講師に招いて実施している授業等	1,243	58.5
大学生を講師（講演会のゲストスピーカーなど）に招いて実施する授業等	565	26.6
大学の施設を利用して実施した授業等	554	26.1
大学で学ぶ力を育むことを意図した探究的な授業等	422	19.9
大学と連携した授業開発	306	14.4
大学生が支援する授業等	269	12.7
大学や学会、研究会の場で教員・生徒が情報発信・提案する実践	223	10.5
有効回答数	2,125	

2.3.17. 社会との連携・接続

学校における組織的な取り組みとして、社会との連携や接続を意識したものがあるかについて、「職業観の育成や生徒のキャリアを意識した授業等（職業体験やインターンシップなど）」を行っている学校は 69.1%、「地域の特性を生かした授業等（地域住民や市民団体、地域の基幹産業、商店街との連携など）」を行っている学校は 40.9%、「グローバル社会とのつながりを意識した授業等（海外の学校、企業、大学、研究機関との連携など）」を行っている学校は 39.8%、「政治や行政とのつながりを意識した授業等（議員や議会、裁判所、市町村の役所、選挙管理委員会、市民団体との連携など）」を行っている学校は 37.3%であった。

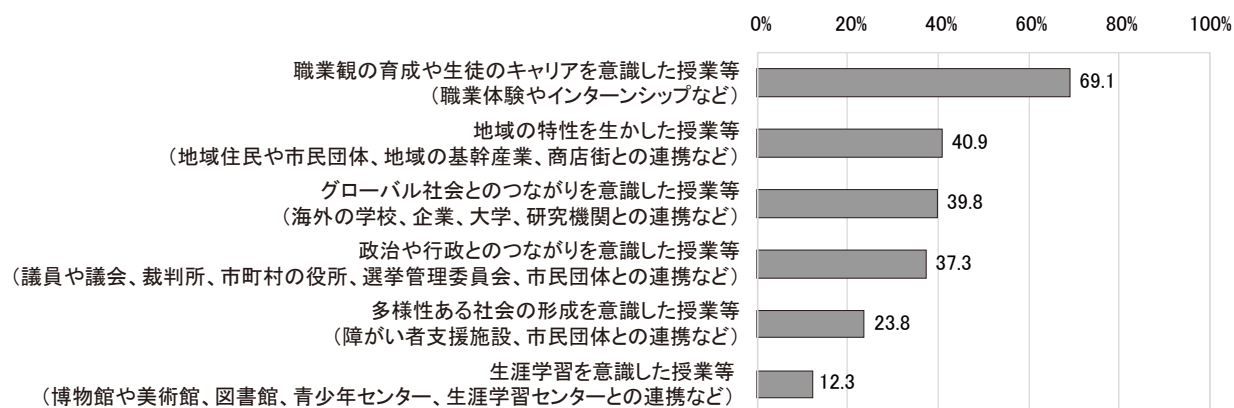


図 55 社会との連携・接続

表 66 社会との連携・接続（複数選択）

項目	度数	%
職業観の育成や生徒のキャリアを意識した授業等（職業体験やインターンシップなど）	1,468	69.1
地域の特性を生かした授業等（地域住民や市民団体、地域の基幹産業、商店街との連携など）	870	40.9
グローバル社会とのつながりを意識した授業等（海外の学校、企業、大学、研究機関との連携など）	846	39.8
政治や行政とのつながりを意識した授業等（議員や議会、裁判所、市町村の役所、選挙管理委員会、市民団体との連携など）	793	37.3
多様な社会の形成を意識した授業等（障がい者支援施設、市民団体との連携など）	505	23.8
生涯学習を意識した授業等（博物館や美術館、図書館、青少年センター、生涯学習センターとの連携など）	262	12.3
有効回答数	2,125	

2.3.18. カリキュラム・マネジメント担当者の能力

カリキュラム・マネジメント担当者の能力に関する 10 項目について、同年代の平均的な他の教員と比べてどのくらい達成しているか、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。探索的・確認的因子分析の結果、「指導・教授力」「組織化力」「情報解釈・活用力」の 3 因子が得られた。集計結果を図表に示した。

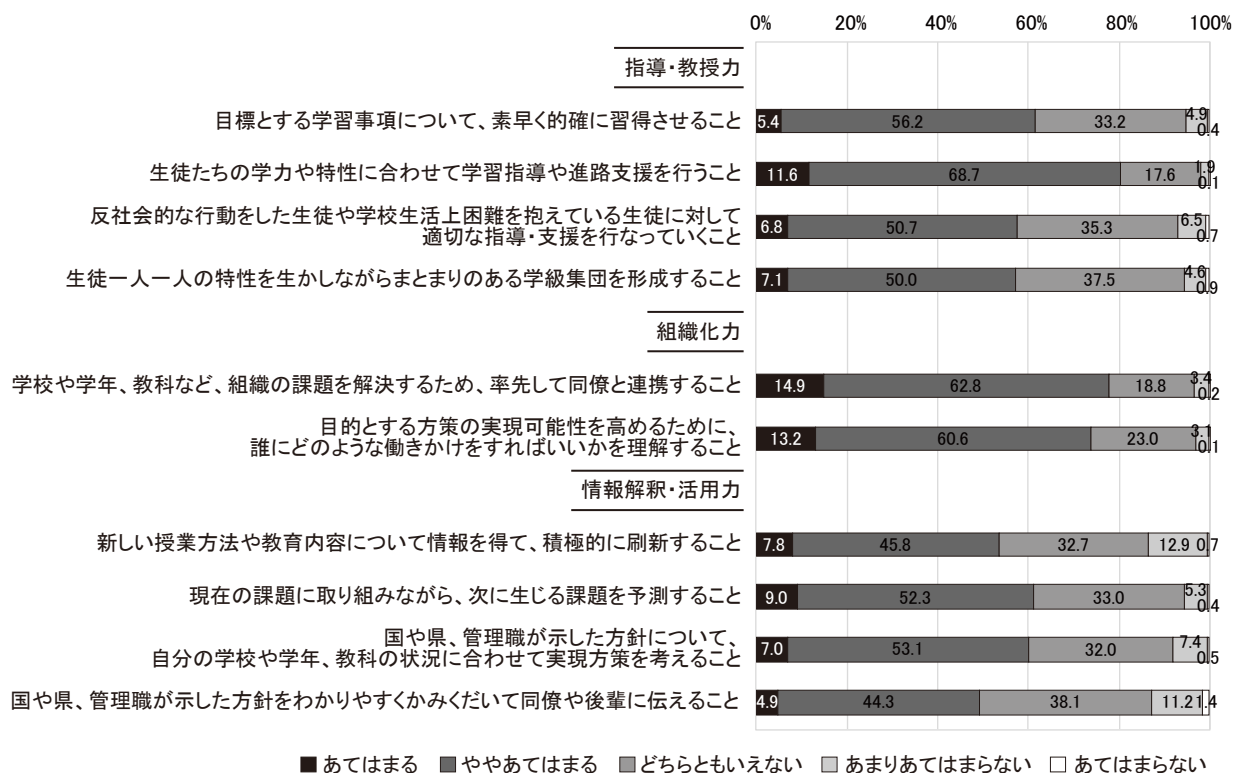


図 56 カリキュラム・マネジメント担当者の能力

表 67 カリキュラム・マネジメント担当者の能力の記述統計（単一選択）

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
指導・教授力							
目標とする学習事項について、素早く的確に習得させること	2,108	1	5	3.612	0.682	0	17
生徒たちの学力や特性に合わせて学習指導や進路支援を行うこと	2,104	1	5	3.898	0.607	0	21
反社会的な行動をした生徒や学校生活上困難を抱えている生徒に対して適切な指導・支援を行なっていくこと	2,108	1	5	3.565	0.745	0	17
生徒一人一人の特性を生かしながらかまどまりのある学級集団を形成すること	2,107	1	5	3.578	0.729	0	18
組織化力							
学校や学年、教科など、組織の課題を解決するため、率先して同僚と連携すること	2,113	1	5	3.888	0.690	0	12
目的とする方策の実現可能性を高めるために、誰にどのような働きかけをすればいいかを理解すること	2,114	1	5	3.836	0.686	0	11
情報解釈・活用力							
新しい授業方法や教育内容について情報を得て、積極的に刷新すること	2,110	1	5	3.472	0.839	0	15
現在の課題に取り組みながら、次に生じる課題を予測すること	2,111	1	5	3.642	0.734	1	13
国や県、管理職が示した方針について、自分の学校や学年、教科の状況に合わせて実現方策を考えること	2,114	1	5	3.585	0.750	0	11
国や県、管理職が示した方針をわかりやすくかみくだいて同僚や後輩に伝えること	2,113	1	5	3.401	0.805	0	12

表 68 カリキュラム・マネジメント担当者の能力の度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらとも いえない		あまり あてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
指導・教授力										
目標とする学習事項について、素早く的確に習得させること	113	5.4	1,184	56.2	700	33.2	103	4.9	8	0.4
生徒たちの学力や特性に合わせて学習指導や進路支援を行うこと	244	11.6	1,446	68.7	371	17.6	41	1.9	2	0.1
反社会的な行動をした生徒や学校生活上困難を抱えている生徒に対して適切な指導・支援を行なっていくこと	144	6.8	1,069	50.7	744	35.3	136	6.5	15	0.7
生徒一人一人の特性を生かしながらまとまりのある学級集団を形成すること	149	7.1	1,053	50.0	790	37.5	96	4.6	19	0.9
組織化力										
学校や学年、教科など、組織の課題を解決するため、率先して同僚と連携すること	314	14.9	1,327	62.8	397	18.8	71	3.4	4	0.2
目的とする方策の実現可能性を高めるために、誰にどのような働きかけをすればいいかを理解すること	278	13.2	1,282	60.6	486	23.0	65	3.1	3	0.1
情報解釈・活用力										
新しい授業方法や教育内容について情報を得て、積極的に刷新すること	165	7.8	967	45.8	691	32.7	273	12.9	14	0.7
現在の課題に取り組みながら、次に生じる課題を予測すること	189	9.0	1,105	52.3	697	33.0	112	5.3	8	0.4
国や県、管理職が示した方針について、自分の学校や学年、教科の状況に合わせて実現方策を考えること	147	7.0	1,122	53.1	677	32.0	157	7.4	11	0.5
国や県、管理職が示した方針をわかりやすくかみくだいて同僚や後輩に伝えること	104	4.9	937	44.3	805	38.1	237	11.2	30	1.4

2.3.19. カリキュラム・マネジメント担当者のリーダーシップ

カリキュラム・マネジメント担当者のリーダーシップに関する4項目について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5段階のリッカート尺度とみなして回答を1～5点で得点化し、集計を行った。探索的・確認的因子分析の結果、「適切な指示・助言」「良好な関係づくり」の2因子が得られた。集計結果を図表に示した。

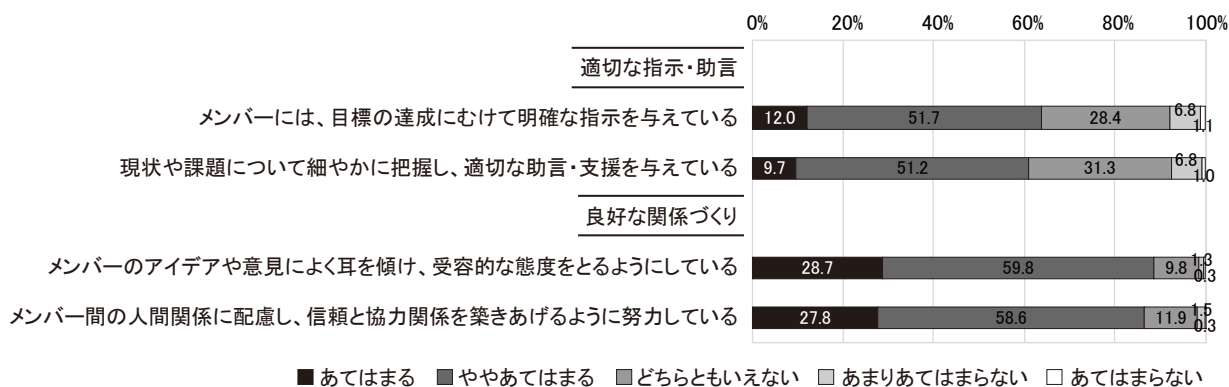


図 57 カリキュラム・マネジメント担当者のリーダーシップ

表 69 カリキュラム・マネジメント担当者のリーダーシップの記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
適切な指示・助言							
メンバーには、目標の達成にむけて明確な指示を与えている	2,118	1	5	3.667	0.817	0	7
現状や課題について細やかに把握し、適切な助言・支援を与えている	2,116	1	5	3.620	0.791	1	8
良好な関係づくり							
メンバーのアイデアや意見によく耳を傾け、受容的な態度をとるようにしている	2,117	1	5	4.154	0.665	0	8
メンバー間の人間関係に配慮し、信頼と協力関係を築き上げるように努力している	2,118	1	5	4.121	0.682	0	7

表 70 カリキュラム・マネジメント担当者のリーダーシップの度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
適切な指示・助言										
メンバーには、目標の達成にむけて明確な指示を与えている	255	12.0	1,094	51.7	601	28.4	144	6.8	24	1.1
現状や課題について細やかに把握し、適切な助言・支援を与えている	206	9.7	1,084	51.2	662	31.3	143	6.8	21	1.0
良好な関係づくり										
メンバーのアイデアや意見によく耳を傾け、受容的な態度をとるようにしている	608	28.7	1,267	59.8	208	9.8	27	1.3	7	0.3
メンバー間の人間関係に配慮し、信頼と協力関係を築き上げるように努力している	588	27.8	1,242	58.6	251	11.9	31	1.5	6	0.3

2. 4. 教科主任調査の集計結果

本節では、教科主任調査の結果について示す。なお、グラフは教科ごとの結果を、表は全体の結果を示している。

2. 4. 1. 教科主任の経験年数

教科主任が、教科主任に携わった年数の合計は、1～5 年が 70.2%で最も多く、平均値は 4.8 年であった。

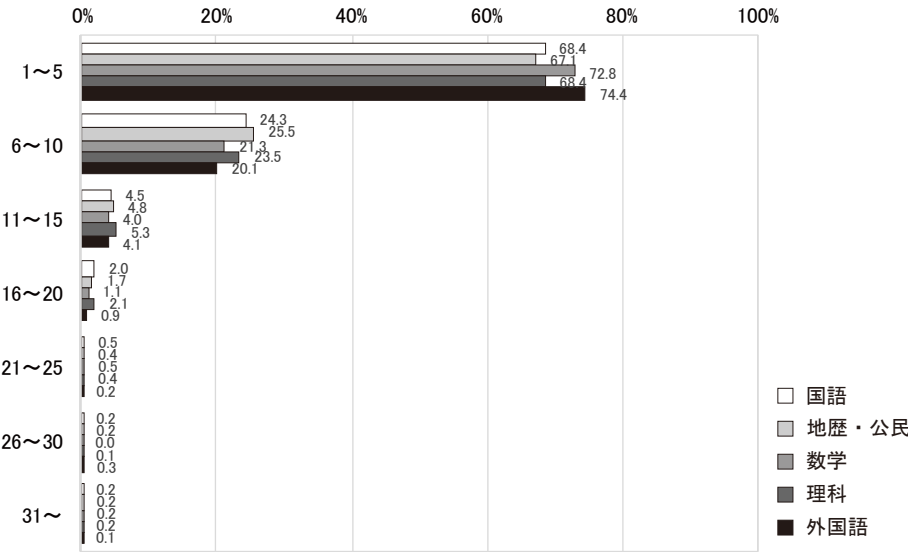


図 58 教科主任の経験年数

表 71 教科主任の経験年数（直接回答）

項目（年）	度数	%
1～5	7,346	70.2
6～10	2,397	22.9
11～15	474	4.5
16～20	165	1.6
21～25	42	0.4
26～30	18	0.2
31～	21	0.2
有効回答数	10,463	100.0
無効回答	5	
無回答	103	
合計	10,571	
最小値	1	
最大値	66	
平均値	4.758	
標準偏差	4.303	

2.4.2. 教科主任の教職経験年数

教科主任の教職経験年数は、26～30 年が 16.1%で最も多く、次いで、11～15 年が 14.6%、6～10 年が 14.5%、31～35 年が 14.4%であった。平均値は 19.7 年であった。

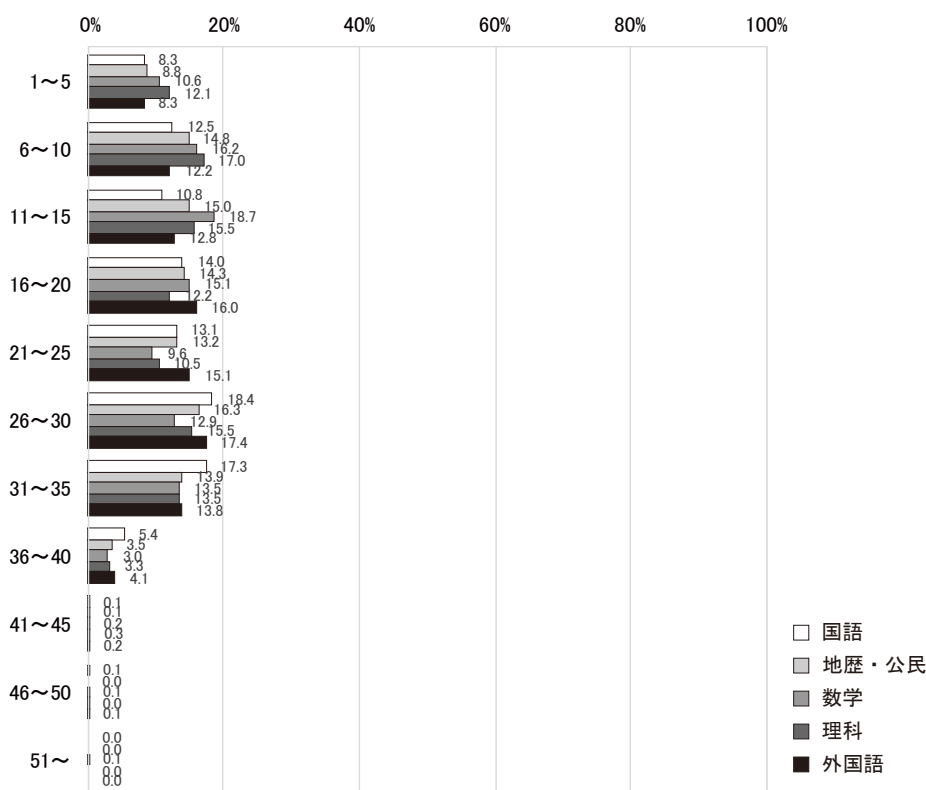


図 59 教科主任の教職経験年数

表 72 教科主任の教職経験年数（直接回答）

項目（年）	度数	%
1～5	1,009	9.6
6～10	1,523	14.5
11～15	1,525	14.6
16～20	1,500	14.3
21～25	1,289	12.3
26～30	1,685	16.1
31～35	1,509	14.4
36～40	404	3.9
41～45	20	0.2
46～50	7	0.1
51～	2	0.0
有効回答数	10,473	100.0
無効回答	6	
無回答	92	
合計	10,571	
最小値	1	
最大値	55	
平均値	19.717	
標準偏差	10.262	

2.4.3. 教科主任の指導主事・人事主事経験

教科主任のうち、教育委員会や教育センターの指導主事・人事主事経験があるのは全体の1.4%であった。指導主事経験年数は1～5年が86.9%で最も多く、平均値は3.4年であった。また、人事主事経験年数は1～5年が100.0%で、平均値は2.1年であった。

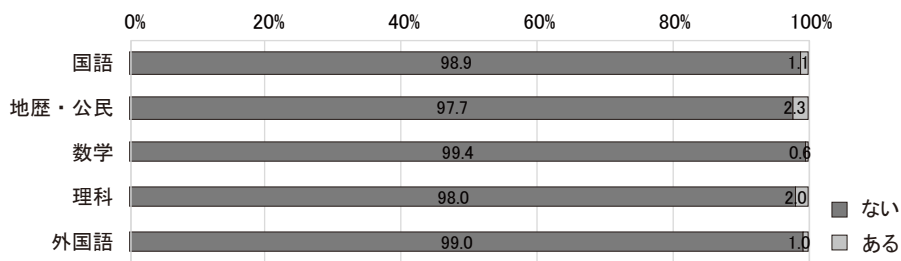


図 60 教科主任の指導主事・人事主事の経験の有無

表 73 教科主任の指導主事・人事主事の経験の有無（単一選択）

項目	度数	%
ない	10,300	98.6
ある	145	1.4
有効回答数	10,445	100.0
無回答	126	
合計	10,571	

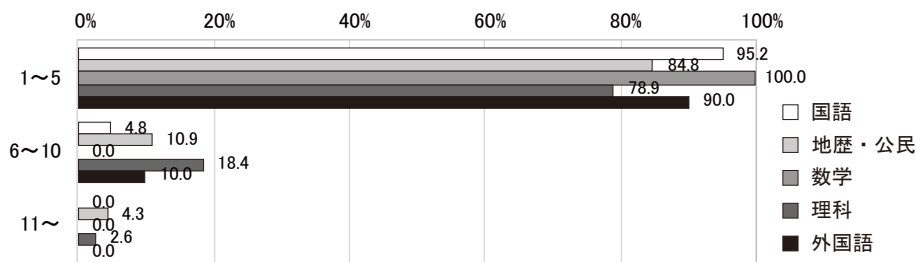


図 61 教科主任の指導主事経験年数

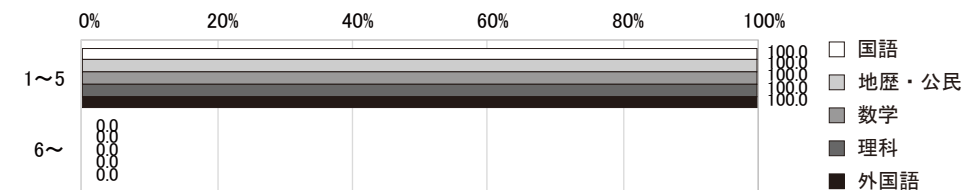


図 62 教科主任の人事主事経験年数

教科主任調査

表 74 教科主任の指導主事経験年数（直接回答）

項目（年）	度数	%
1～5	119	86.9
6～10	15	10.9
11～	3	2.2
有効回答数	137	100.0
非該当	10,308	
無回答	126	
合計	10,571	
最小値	1	
最大値	14	
平均値	3.401	
標準偏差	2.359	

表 75 教科主任の人事主事経験年数（直接回答）

項目（年）	度数	%
1～5	8	100.0
有効回答数	8	100.0
非該当	10,437	
無回答	126	
合計	10,571	
最小値	1	
最大値	5	
平均値	2.125	
標準偏差	1.356	

2.4.4. 教科主任の教員以外の職業経験の有無

教科主任のうち、教員以外の職業経験があるのは全体の 18.7%であった。



図 63 教科主任の教員以外の職業経験の有無

表 76 教科主任の教員以外の職業経験の有無（単一選択）

項目	度数	%
ない	8,472	81.3
ある	1,943	18.7
有効回答数	10,415	100.0
無回答	156	
合計	10,571	

2.4.5. 教科主任の最終学歴

教科主任の最終学歴は、「四年制大学（教員養成系以外）」が60.6%で最も多く、次いで「四年制大学（教員養成系）」が15.2%、「大学院修士課程（教員養成系以外）」が14.8%であった。

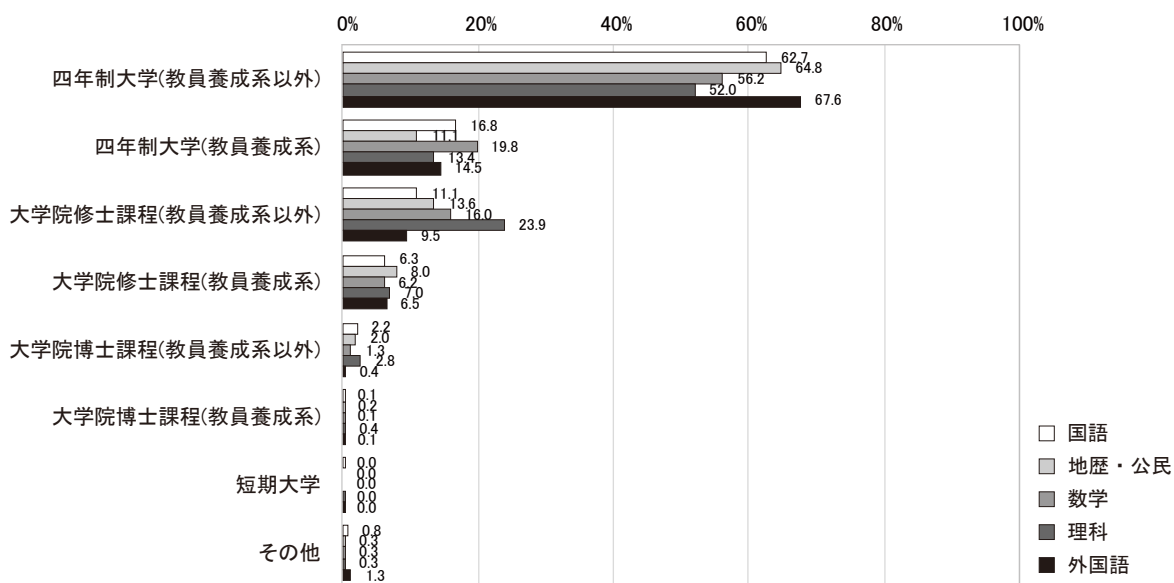


図 64 教科主任の最終学歴

表 77 教科主任の最終学歴（単一選択）

項目	度数	%
短期大学	3	0.0
四年制大学(教員養成系)	1,584	15.2
四年制大学(教員養成系以外)	6,340	60.6
大学院修士課程(教員養成系)	708	6.8
大学院修士課程(教員養成系以外)	1,550	14.8
大学院博士課程(教員養成系)	21	0.2
大学院博士課程(教員養成系以外)	183	1.8
その他	66	0.6
有効回答数	10,455	100.0
無効回答	10	
無回答	106	
合計	10,571	

2.4.6. 同僚との会話の機会

教員間のコミュニケーション頻度はカリキュラム・マネジメントや参加型授業推進を下支えしていると考えられる。そこで、同僚との会話の機会に関する3項目の質問について、「1. まったくない」から「5. かなりある」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5段階のリッカート尺度とみなして回答を1～5点で得点化し、集計結果を図表に示した。

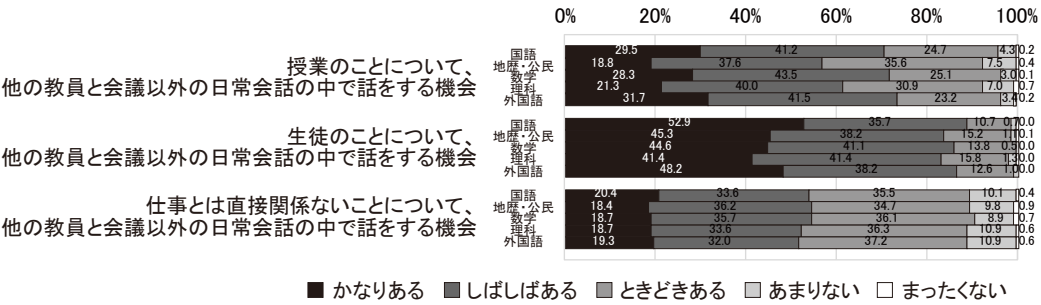


図 65 同僚との会話の機会

表 78 同僚との会話の機会の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
授業のことにについて、他の教員と会議以外の日常会話の中で話をする機会	10,547	1	5	3.870	0.868	1	23
生徒のことにについて、他の教員と会議以外の日常会話の中で話をする機会	10,537	1	5	4.309	0.739	0	34
仕事とは直接関係ないことについて、他の教員と会議以外の日常会話の中で話をする機会	10,506	1	5	3.610	0.927	0	65

表 79 同僚との会話の機会の度数分布（単一選択）

項目	かなりある		しばしばある		ときどきある		あまりない		まったくない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
授業のことにについて、他の教員と会議以外の日常会話の中で話をする機会	2,739	26.0	4,301	40.8	2,939	27.9	533	5.1	35	0.3
生徒のことにについて、他の教員と会議以外の日常会話の中で話をする機会	4,898	46.5	4,102	38.9	1,436	13.6	96	0.9	5	0.0
仕事とは直接関係ないことについて、他の教員と会議以外の日常会話の中で話をする機会	2,007	19.1	3,594	34.2	3,777	36.0	1,061	10.1	67	0.6

2.4.7. 教科主任の職務行動

カリキュラム・マネジメントに向けて教科主任としてどのような職務や行動をしているか、21 項目の質問について、「1. 取り組んでいない」から「4. とても力を入れて取り組んでいる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。4 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～4 点で得点化し、集計を行った。探索的・確認的因子分析の結果、「カリキュラムの編成・実施・評価・改善」「方針の周知」「自律的な組織づくり」「教員に対する成長機会の提供」「リソース獲得への働きかけ」の 5 因子が得られた。集計結果を図表に示した。

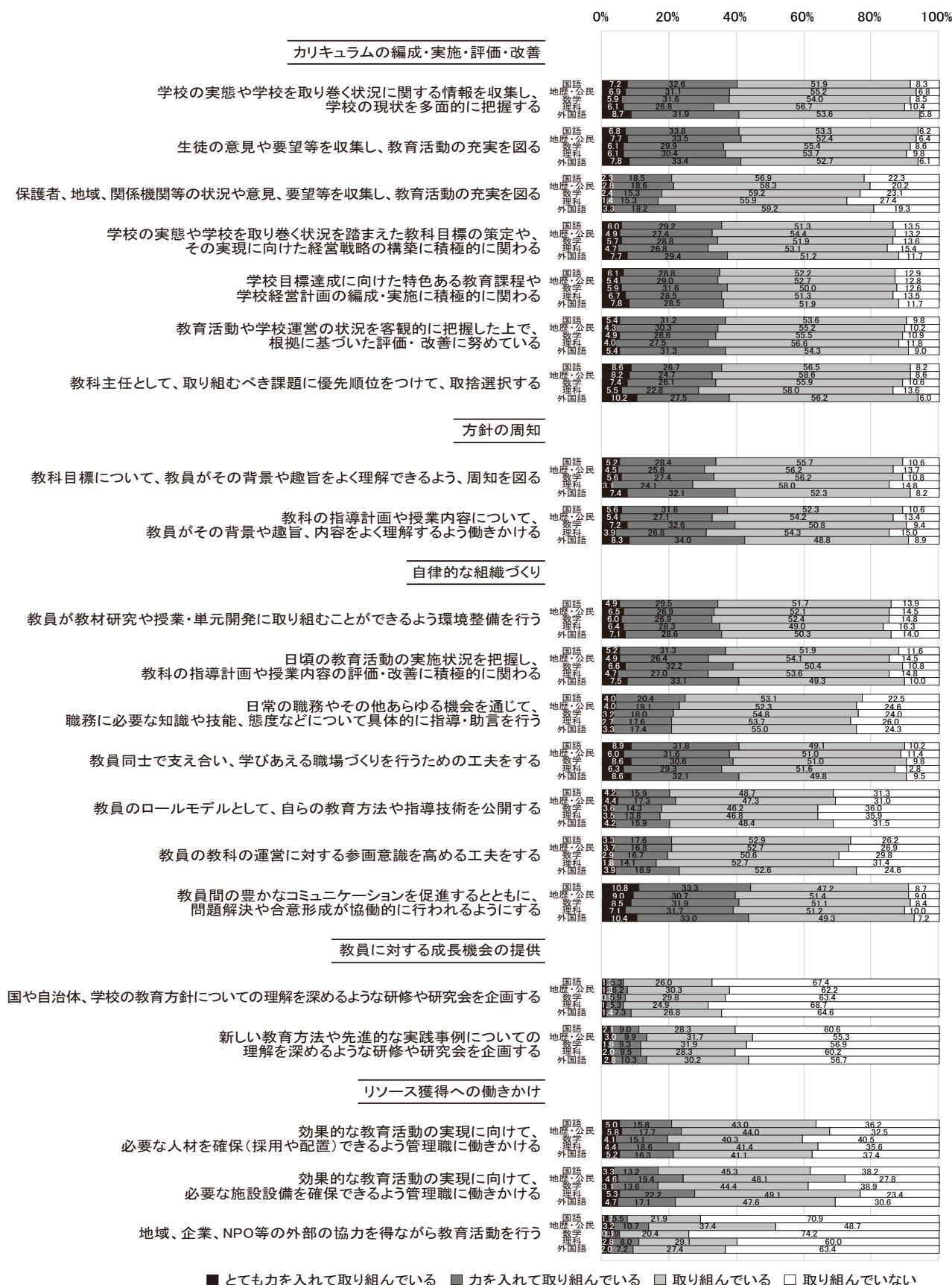


図 66 教科主任の職務行動

表 80 教科主任の職務行動の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
カリキュラムの編成・実施・評価・改善							
学校の実態や学校を取り巻く状況に関する情報を収集し、学校の現状を多面的に把握する	10,540	1	4	2.368	0.729	2	29
生徒の意見や要望等を収集し、教育活動の充実を図る	10,542	1	4	2.385	0.723	3	26
保護者、地域、関係機関等の状況や意見、要望等を収集し、教育活動の充実を図る	10,532	1	4	1.996	0.703	1	38
学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえた教科目標の策定や、その実現に向けた経営戦略の構築に積極的に関わる	10,527	1	4	2.264	0.762	0	44
学校目標達成に向けた特色ある教育課程や学校経営計画の編成・実施に積極的に関わる	10,505	1	4	2.294	0.768	4	62
教育活動や学校運営の状況を客観的に把握した上で、根拠に基づいた評価・改善に努めている	10,520	1	4	2.290	0.714	1	50
教科主任として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	10,520	1	4	2.321	0.752	4	47
方針の周知							
教科目標について、教員がその背景や趣旨をよく理解できるよう、周知を図る	10,512	1	4	2.263	0.728	3	56
教科の指導計画や授業内容について、教員がその背景や趣旨、内容をよく理解するよう働きかける	10,495	1	4	2.311	0.751	0	76
自律的な組織づくり							
教員が教材研究や授業・単元開発に取り組むことができるよう環境整備を行う	10,509	1	4	2.257	0.780	3	59
日頃の教育活動の実施状況を把握し、教科の指導計画や授業内容の評価・改善に積極的に関わる	10,480	1	4	2.292	0.755	2	89
日常の職務やその他あらゆる機会を通じて、職務に必要な知識や技能、態度などについて具体的に指導・助言を行う	10,507	1	4	2.011	0.752	1	63
教員同士で支え合い、学びあえる職場づくりを行うための工夫をする	10,505	1	4	2.357	0.774	1	65
教員のロールモデルとして、自らの教育方法や指導技術を公開する	10,513	1	4	1.902	0.796	2	56
教員の教科の運営に対する参画意識を高める工夫をする	10,469	1	4	1.953	0.754	1	101
教員間の豊かなコミュニケーションを促進するとともに、問題解決や合意形成が協働的に行われるようにする	10,505	1	4	2.418	0.775	3	63
教員に対する成長機会の提供							
国や自治体、学校の教育方針についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	10,519	1	4	1.431	0.660	4	48
新しい教育方法や先進的な実践事例についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	10,519	1	4	1.564	0.762	1	51
リソース獲得への働きかけ							
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材を確保（採用や配置）できるよう管理職に働きかける	10,526	1	4	1.900	0.847	2	43
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な施設設備を確保できるよう管理職に働きかける	10,523	1	4	1.937	0.808	3	45
地域、企業、NPO等の外部の協力を得ながら教育活動を行う	10,516	1	4	1.479	0.720	4	51

表 81 教科主任の職務行動の度数分布（単一選択）

項目	とても力を入れて取り組んでいる		力を入れて取り組んでいる		取り組んでいる		取り組んでいない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
カリキュラムの編成・実施・評価・改善								
学校の実態や学校を取り巻く状況に関する情報を収集し、学校の現状を多面的に把握する	735	7.0	3,249	30.8	5,719	54.3	837	7.9
生徒の意見や要望等を収集し、教育活動の充実を図る	726	6.9	3,394	32.2	5,638	53.5	784	7.4
保護者、地域、関係機関等の状況や意見、要望等を収集し、教育活動の充実を図る	258	2.4	1,809	17.2	6,097	57.9	2,368	22.5
学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえた教科目標の策定や、その実現に向けた経営戦略の構築に積極的に関わる	610	5.8	2,983	28.3	5,512	52.4	1,422	13.5
学校目標達成に向けた特色ある教育課程や学校経営計画の編成・実施に積極的に関わる	672	6.4	3,077	29.3	5,423	51.6	1,333	12.7
教育活動や学校運営の状況を客観的に把握した上で、根拠に基づいた評価・改善に努めている	506	4.8	3,132	29.8	5,792	55.1	1,090	10.4
教科主任として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	840	8.0	2,690	25.6	6,000	57.0	990	9.4
方針の周知								
教科目標について、教員がその背景や趣旨をよく理解できるよう、周知を図る	546	5.2	2,892	27.5	5,853	55.7	1,221	11.6
教科の指導計画や授業内容について、教員がその背景や趣旨、内容をよく理解するよう働きかける	636	6.1	3,193	30.4	5,465	52.1	1,201	11.4
自律的な組織づくり								
教員が教材研究や授業・単元開発に取り組むことができるよう環境整備を行う	648	6.2	2,946	28.0	5,371	51.1	1,544	14.7
日頃の教育活動の実施状況を把握し、教科の指導計画や授業内容の評価・改善に積極的に関わる	607	5.8	3,145	30.0	5,433	51.8	1,295	12.4
日常の職務やその他あらゆる機会を通じて、職務に必要な知識や技能、態度などについて具体的に指導・助言を行う	362	3.4	1,944	18.5	5,649	53.8	2,552	24.3
教員同士で支え合い、学びあえる職場づくりを行うための工夫をする	810	7.7	3,262	31.1	5,303	50.5	1,130	10.8
教員のロールモデルとして、自らの教育方法や指導技術を公開する	416	4.0	1,620	15.4	4,992	47.5	3,485	33.1
教員の教科の運営に対する参画意識を高める工夫をする	325	3.1	1,762	16.8	5,474	52.3	2,908	27.8
教員間の豊かなコミュニケーションを促進するとともに、問題解決や合意形成が協働的に行われるようにする	963	9.2	3,374	32.1	5,257	50.0	911	8.7
教員に対する成長機会の提供								
国や自治体、学校の教育方針についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	124	1.2	630	6.0	2,897	27.5	6,868	65.3
新しい教育方法や先進的な実践事例についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	249	2.4	1,010	9.6	3,165	30.1	6,095	57.9
リソース獲得への働きかけ								
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材を確保（採用や配置）できるよう管理職に働きかける	515	4.9	1,756	16.7	4,415	41.9	3,840	36.5
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な施設設備を確保できるよう管理職に働きかける	443	4.2	1,800	17.1	4,935	46.9	3,345	31.8
地域、企業、NPO等の外部の協力を得ながら教育活動を行う	217	2.1	761	7.2	2,862	27.2	6,676	63.5

2.4.8. 教員の様子

教員の様子とコミットメントに関する 19 項目の質問について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。学校代表者と同様の因子構造を想定した。集計結果を図表に示した。

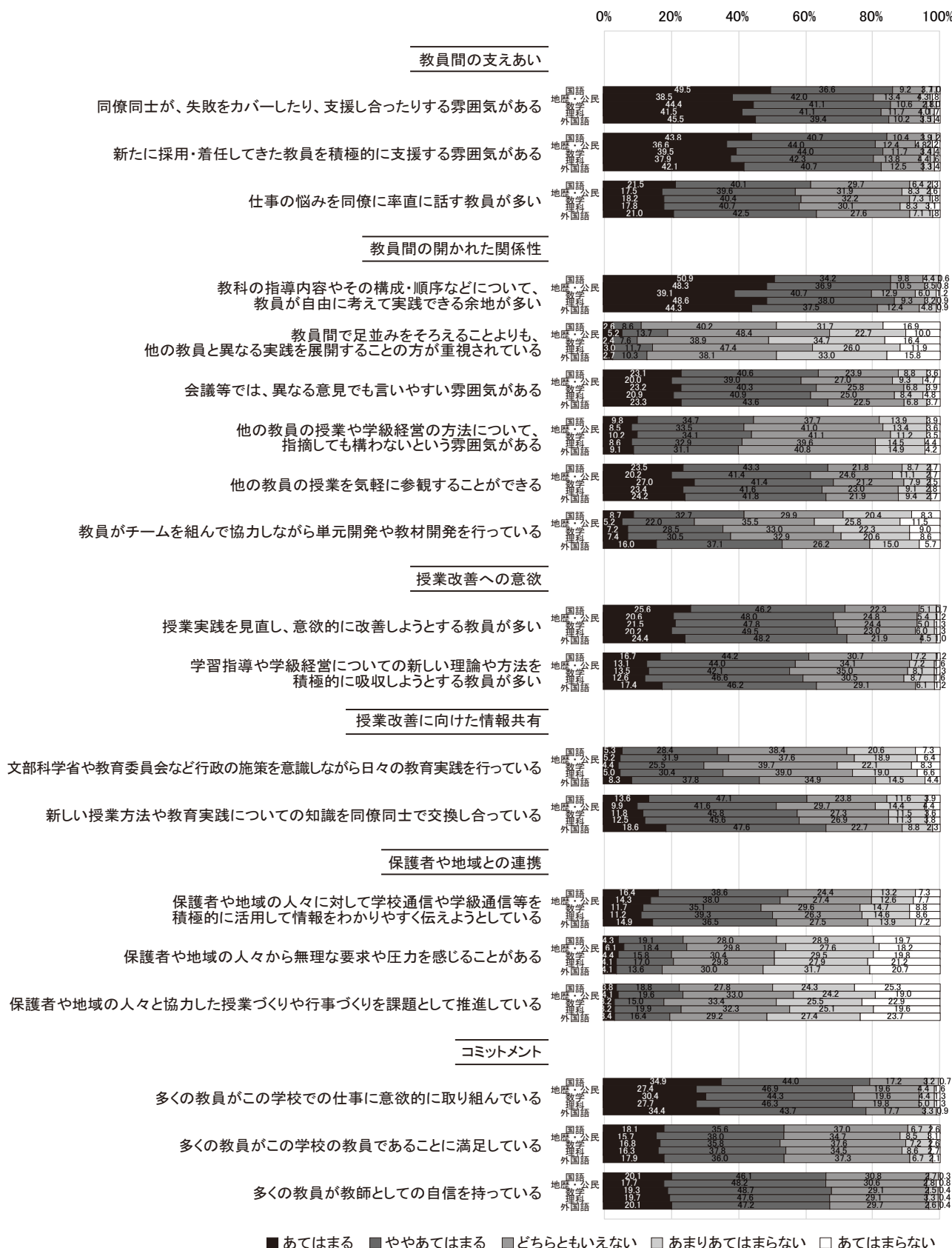


図 67 教員の様子

表 82 教員の様子の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
教員間の支えあい							
同僚同士が、失敗をカバーしたり、支援し合ったりする雰囲気がある	10,542	1	5	4.213	0.881	1	28
新たに採用・着任してきた教員を積極的に支援する雰囲気がある	10,540	1	5	4.152	0.893	0	31
仕事の悩みを同僚に率直に話す教員が多い	10,526	1	5	3.669	0.946	0	45
教員間の開かれた関係性							
教科の指導内容やその構成・順序などについて、教員が自由に考えて実践できる余地が多い	10,540	1	5	4.238	0.878	1	30
教員間で足並みをそろえることよりも、他の教員と異なる実践を展開することの方が重視されている	10,536	1	5	2.587	0.962	0	35
会議等では、異なる意見でも言いやすい雰囲気がある	10,536	1	5	3.688	1.033	0	35
他の教員の授業や学級経営の方法について、指摘しても構わないという雰囲気がある	10,531	1	5	3.303	0.950	0	40
他の教員の授業を気軽に参観することができる	10,538	1	5	3.746	1.005	0	33
教員がチームを組んで協力しながら単元開発や教材開発を行っている	10,532	1	5	3.099	1.096	0	39
授業改善への意欲							
授業実践を見直し、意欲的に改善しようとする教員が多い	10,543	1	5	3.854	0.863	0	28
学習指導や学級経営についての新しい理論や方法を積極的に吸収しようとする教員が多い	10,532	1	5	3.638	0.870	1	38
授業改善に向けた情報共有							
文部科学省や教育委員会など行政の施策を意識しながら日々の教育実践を行っている	10,532	1	5	3.099	0.989	2	37
新しい授業方法や教育実践についての知識を同僚同士で交換し合っている	10,509	1	5	3.534	0.980	0	62
保護者や地域との連携							
保護者や地域の人々に対して学校通信や学級通信等を積極的に活用して情報をわかりやすく伝えようとしている	10,536	1	5	3.352	1.120	1	34
保護者や地域の人々から無理な要求や圧力を感じることもある	10,540	1	5	2.570	1.120	0	31
保護者や地域の人々と協力した授業づくりや行事づくりを課題として推進している	10,539	1	5	2.555	1.122	1	31
コミットメント							
多くの教員がこの学校での仕事に意欲的に取り組んでいる	10,533	1	5	4.006	0.874	1	37
多くの教員がこの学校の教員であることに満足している	10,542	1	5	3.578	0.944	1	28
多くの教員が教師としての自信を持っている	10,520	1	5	3.826	0.784	1	50

表 83 教員の様子の度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらとも いえない		あまり あてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
教員間の支えあい										
同僚同士が、失敗をカバーしたり、支援し合ったりする雰囲気がある	4,626	43.9	4,221	40.0	1,160	11.0	388	3.7	147	1.4
新たに採用・着任してきた教員を積極的に支援する雰囲気がある	4,214	40.0	4,463	42.3	1,282	12.2	417	4.0	164	1.6
仕事の悩みを同僚に率直に話す教員が多い	2,022	19.2	4,281	40.7	3,189	30.3	789	7.5	245	2.3
教員間の開かれた関係性										
教科の指導内容やその構成・順序などについて、教員が自由に考えて実践できる余地が多い	4,876	46.3	3,949	37.5	1,158	11.0	465	4.4	92	0.9
教員間で足並みをそろえることよりも、他の教員と異なる実践を展開することの方が重視されている	336	3.2	1,091	10.4	4,489	42.6	3,123	29.6	1,497	14.2
会議等では、異なる意見でも言いやすい雰囲気がある	2,332	22.1	4,306	40.9	2,618	24.8	843	8.0	437	4.1
他の教員の授業や学級経営の方法について、指摘しても構わないという雰囲気がある	971	9.2	3,503	33.3	4,214	40.0	1,431	13.6	412	3.9
他の教員の授業を気軽に参観することができる	2,496	23.7	4,415	41.9	2,369	22.5	975	9.3	283	2.7
教員がチームを組んで協力しながら単元開発や教材開発を行っている	937	8.9	3,178	30.2	3,316	31.5	2,193	20.8	908	8.6
授業改善への意欲										
授業実践を見直し、意欲的に改善しようとする教員が多い	2,368	22.5	5,054	47.9	2,454	23.3	550	5.2	117	1.1
学習指導や学級経営についての新しい理論や方法を積極的に吸収しようとする教員が多い	1,546	14.7	4,699	44.6	3,357	31.9	784	7.4	146	1.4
授業改善に向けた情報共有										
文部科学省や教育委員会など行政の施策を意識しながら日々の教育実践を行っている	595	5.6	3,245	30.8	3,993	37.9	2,004	19.0	695	6.6
新しい授業方法や教育実践についての知識を同僚同士で交換し合っている	1,396	13.3	4,787	45.6	2,739	26.1	1,210	11.5	377	3.6
保護者や地域との連携										
保護者や地域の人々に対して学校通信や学級通信等を積極的に活用して情報をわかりやすく伝えようとしている	1,441	13.7	3,952	37.5	2,850	27.1	1,456	13.8	837	7.9
保護者や地域の人々から無理な要求や圧力を感じることもある	484	4.6	1,771	16.8	3,118	29.6	3,068	29.1	2,099	19.9
保護者や地域の人々と協力した授業づくりや行事づくりを課題として推進している	371	3.5	1,893	18.0	3,279	31.1	2,666	25.3	2,330	22.1
コミットメント										
多くの教員がこの学校での仕事に意欲的に取り組んでいる	3,261	31.0	4,745	45.0	1,978	18.8	426	4.0	123	1.2
多くの教員がこの学校の教員であることに満足している	1,788	17.0	3,862	36.6	3,821	36.2	794	7.5	277	2.6
多くの教員が教師としての自信を持っている	2,038	19.4	5,001	47.5	3,140	29.8	292	2.8	49	0.5

2.4.9. 生徒の様子

各学校の生徒らがどのような資質・能力を身につけているか、生徒の様子に関する8項目の質問について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5段階のリッカート尺度とみなして回答を1～5点で得点化し、集計を行った。学校代表者と同様の因子構造を想定した。集計結果を図表に示した。

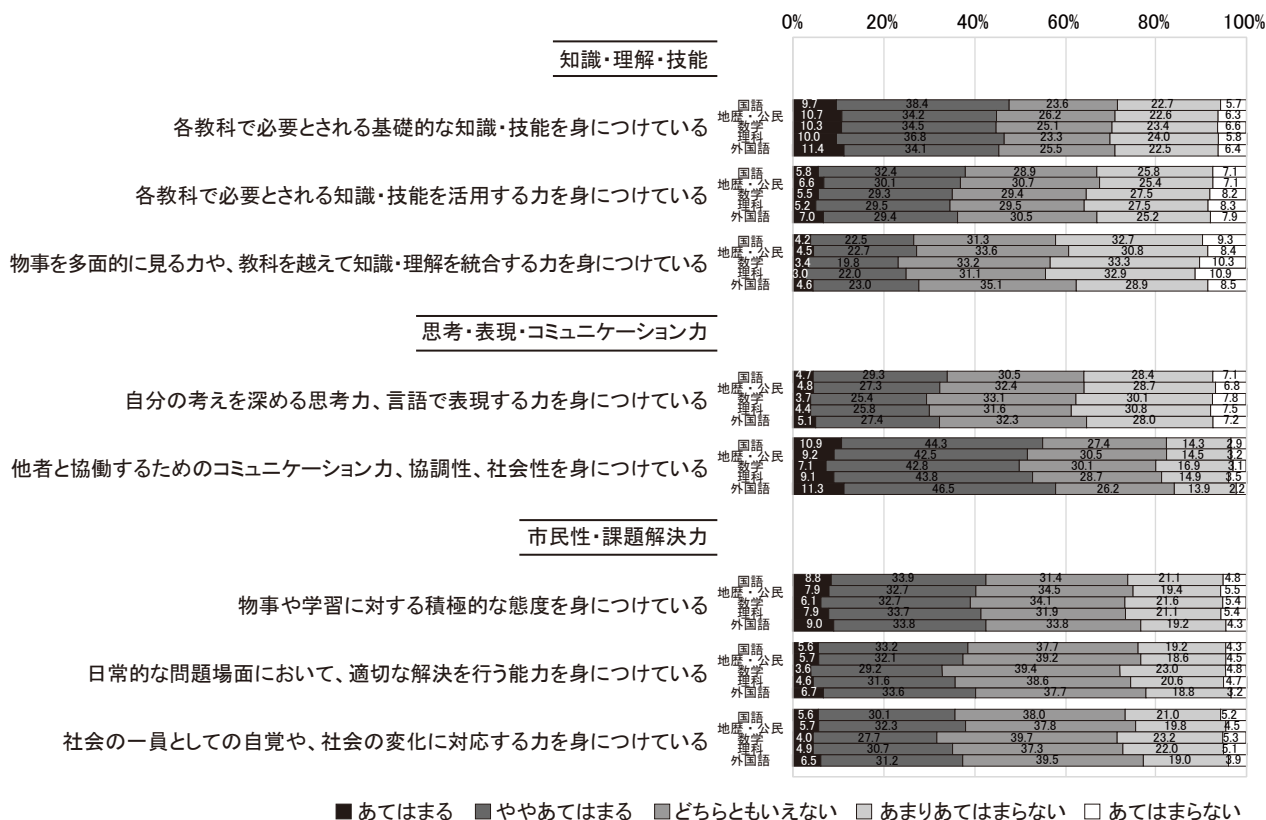


図 68 生徒の様子

表 84 生徒の様子の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
知識・理解・技能							
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能を身につけている	10,515	1	5	3.211	1.098	6	50
各教科で必要とされる知識・技能を活用する力を身につけている	10,515	1	5	3.004	1.056	2	54
物事を多面的に見る力や、教科を越えて知識・理解を統合する力を身につけている	10,489	1	5	2.792	1.015	2	80
思考・表現・コミュニケーション力							
自分の考えを深める思考力、言語で表現する力を身につけている	10,483	1	5	2.923	1.014	3	85
他者と協働するためのコミュニケーション力、協調性、社会性を身につけている	10,500	1	5	3.422	0.955	0	71
市民性・課題解決力							
物事や学習に対する積極的な態度を身につけている	10,499	1	5	3.186	1.013	1	71
日常的な問題場面において、適切な解決を行う能力を身につけている	10,504	1	5	3.137	0.939	0	67
社会の一員としての自覚や、社会の変化に対応する力を身につけている	10,508	1	5	3.104	0.953	2	61

表 85 生徒の様子の度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらとも いえない		あまり あてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
知識・理解・技能										
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能を身につけている	1,097	10.4	3,745	35.6	2,600	24.7	2,424	23.1	649	6.2
各教科で必要とされる知識・技能を活用する力を身につけている	632	6.0	3,170	30.1	3,134	29.8	2,766	26.3	813	7.7
物事を多面的に見る力や、教科を越えて知識・理解を統合する力を身につけている	413	3.9	2,306	22.0	3,447	32.9	3,329	31.7	994	9.5
思考・表現・コミュニケーション力										
自分の考えを深める思考力、言語で表現する力を身につけている	473	4.5	2,834	27.0	3,353	32.0	3,060	29.2	763	7.3
他者と協働するためのコミュニケーション力、協調性、社会性を身につけている	1,001	9.5	4,620	44.0	3,001	28.6	1,563	14.9	315	3.0
市民性・課題解決力										
物事や学習に対する積極的な態度を身につけている	835	8.0	3,501	33.3	3,478	33.1	2,151	20.5	534	5.1
日常的な問題場面において、適切な解決を行う能力を身につけている	548	5.2	3,353	31.9	4,047	38.5	2,103	20.0	453	4.3
社会の一員としての自覚や、社会の変化に対応する力を身につけている	559	5.3	3,196	30.4	4,040	38.4	2,208	21.0	505	4.8

2.4.10. 学校の課題

学校が取り組むべき課題について教科主任に尋ねた。その結果、「生徒の基本的な生活習慣及び学習習慣を確立すること」が23.6%で最も多く、次いで、「難関大学への進学率を維持・向上させること」が15.7%、「社会生活に必要な基礎的な学力を身につけること」が11.2%であった。

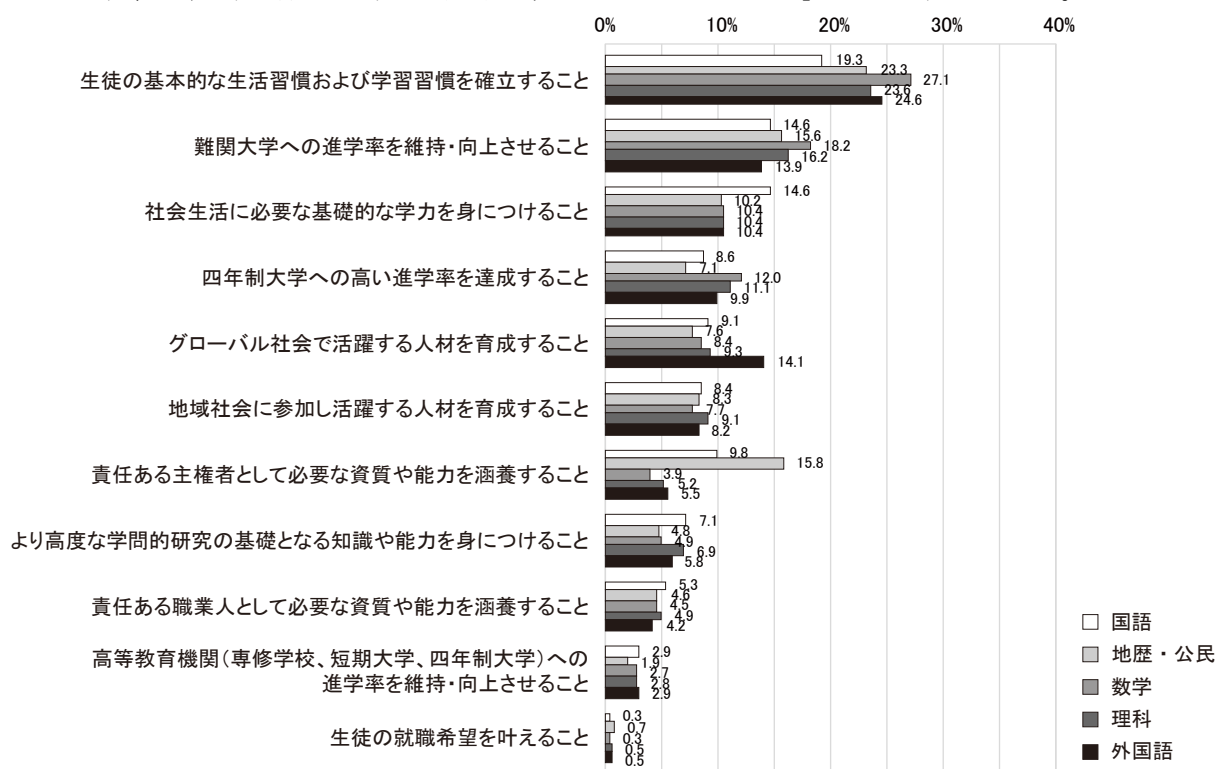


図 69 生徒の様子

表 86 学校の課題（単一選択）

項目	度数	%
生徒の基本的な生活習慣および学習習慣を確立すること	2,341	23.6
難関大学への進学率を維持・向上させること	1,560	15.7
社会生活に必要な基礎的な学力を身につけること	1,112	11.2
四年制大学への高い進学率を達成すること	969	9.8
グローバル社会で活躍する人材を育成すること	961	9.7
地域社会に参加し活躍する人材を育成すること	831	8.4
責任ある主権者として必要な資質や能力を涵養すること	800	8.1
より高度な学問的研究の基礎となる知識や能力を身につけること	586	5.9
責任ある職業人として必要な資質や能力を涵養すること	466	4.7
高等教育機関（専修学校、短期大学、四年制大学）への進学率を維持・向上させること	265	2.7
生徒の就職希望を叶えること	45	0.5
有効回答数	9,936	100.0
無効回答	159	
無回答	476	
合計	10,571	

2.4.11. 教科でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況

教科でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況に関する 8 項目の質問について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。カリキュラム・マネジメント担当者と同様の因子構造を想定した。集計結果を図表に示した。

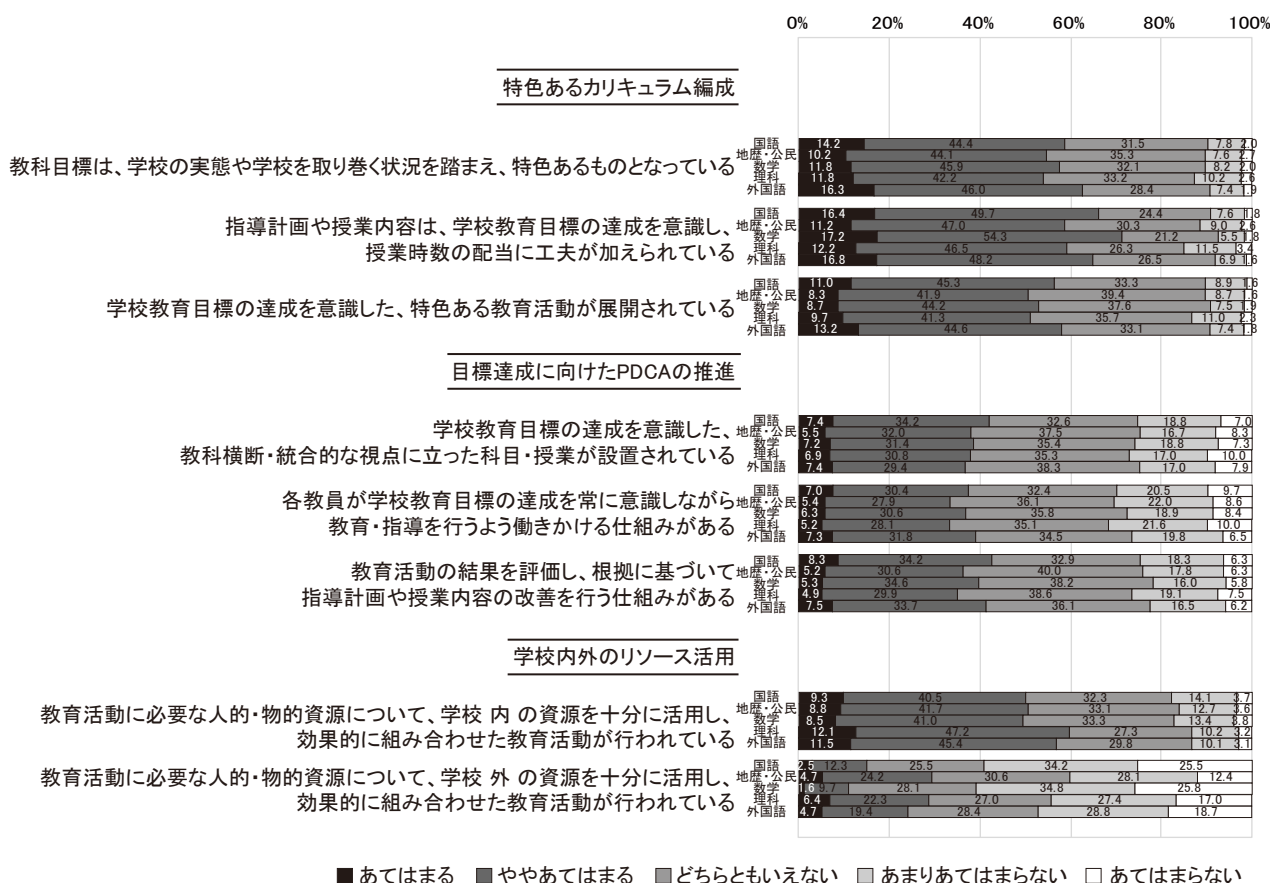


図 70 教科でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況

表 87 教科でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
特色あるカリキュラム編成							
〇〇科の教科目標は、学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえ、特色あるものとなっている	10,523	1	5	3.575	0.896	2	46
〇〇科の指導計画や授業内容は、学校教育目標の達成を意識し、授業時間の配当に工夫が加えられている	10,521	1	5	3.662	0.903	1	49
〇〇科では、学校教育目標の達成を意識した、特色ある教育活動が展開されている	10,498	1	5	3.515	0.858	3	70
目標達成に向けたPDCAの推進							
〇〇科では、学校教育目標の達成を意識した、教科横断・統合的な視点に立った科目・授業が設置されている	10,506	1	5	3.115	1.038	0	65
〇〇科には、各教員が学校教育目標の達成を常に意識しながら教育・指導を行うよう働きかける仕組みがある（研修や研究会、組織体制など）	10,514	1	5	3.044	1.047	1	56
〇〇科には、教育活動の結果を評価し、根拠に基づいて指導計画や授業内容の改善を行う仕組みがある	10,482	1	5	3.147	0.993	1	88
学校内外のリソース活用							
〇〇科では、教育活動に必要な人的・物的資源について、学校内の資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている（学校内の施設設備の活用や、教職員などの人材の活用など）	10,507	1	5	3.442	0.948	3	61
〇〇科では、教育活動に必要な人的・物的資源について、学校外の資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている（地域、NPO等の活動団体、大学、行政等の施設設備や人材の活用など）	10,503	1	5	2.551	1.112	2	66

表 88 教科でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況の度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらとも いえない		あまり あてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
特色あるカリキュラム編成										
〇〇科の教科目標は、学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえ、特色あるものとなっている	1,356	12.9	4,685	44.5	3,376	32.1	868	8.2	238	2.3
〇〇科の指導計画や授業内容は、学校教育目標の達成を意識し、授業時間の配当に工夫が加えられている	1,556	14.8	5,173	49.2	2,706	25.7	852	8.1	234	2.2
〇〇科では、学校教育目標の達成を意識した、特色ある教育活動が展開されている	1,070	10.2	4,563	43.5	3,761	35.8	913	8.7	191	1.8
目標達成に向けたPDCAの推進										
〇〇科では、学校教育目標の達成を意識した、教科横断・統合的な視点に立った科目・授業が設置されている	722	6.9	3,317	31.6	3,760	35.8	1,856	17.7	851	8.1
〇〇科には、各教員が学校教育目標の達成を常に意識しながら教育・指導を行うよう働きかける仕組みがある（研修や研究会、組織体制など）	654	6.2	3,132	29.8	3,658	34.8	2,160	20.5	910	8.7
〇〇科には、教育活動の結果を評価し、根拠に基づいて指導計画や授業内容の改善を行う仕組みがある	655	6.2	3,418	32.6	3,896	37.2	1,841	17.6	672	6.4
学校内外のリソース活用										
〇〇科では、教育活動に必要な人的・物的資源について、学校内の資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている（学校内の施設設備の活用や、教職員などの人材の活用など）	1,058	10.1	4,536	43.2	3,275	31.2	1,271	12.1	367	3.5
〇〇科では、教育活動に必要な人的・物的資源について、学校外の資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている（地域、NPO等の活動団体、大学、行政等の施設設備や人材の活用など）	418	4.0	1,845	17.6	2,931	27.9	3,219	30.6	2,090	19.9

2.4.12. 教科でのカリキュラム・マネジメントに関する悩み

教科でのカリキュラム・マネジメントの悩みに関する 17 項目の質問について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。探索的・確認的因子分析の結果、「カリキュラムの編成・実施に関する悩み」「カリキュラムの評価・改善に関する悩み」「管理職やカリマネ担当者との連携に関する悩み」「自律的な組織づくりに関する悩み」「教科間の連携・調整に関する悩み」「リソースに関する悩み」の 6 因子が得られた。集計結果を図表に示した。

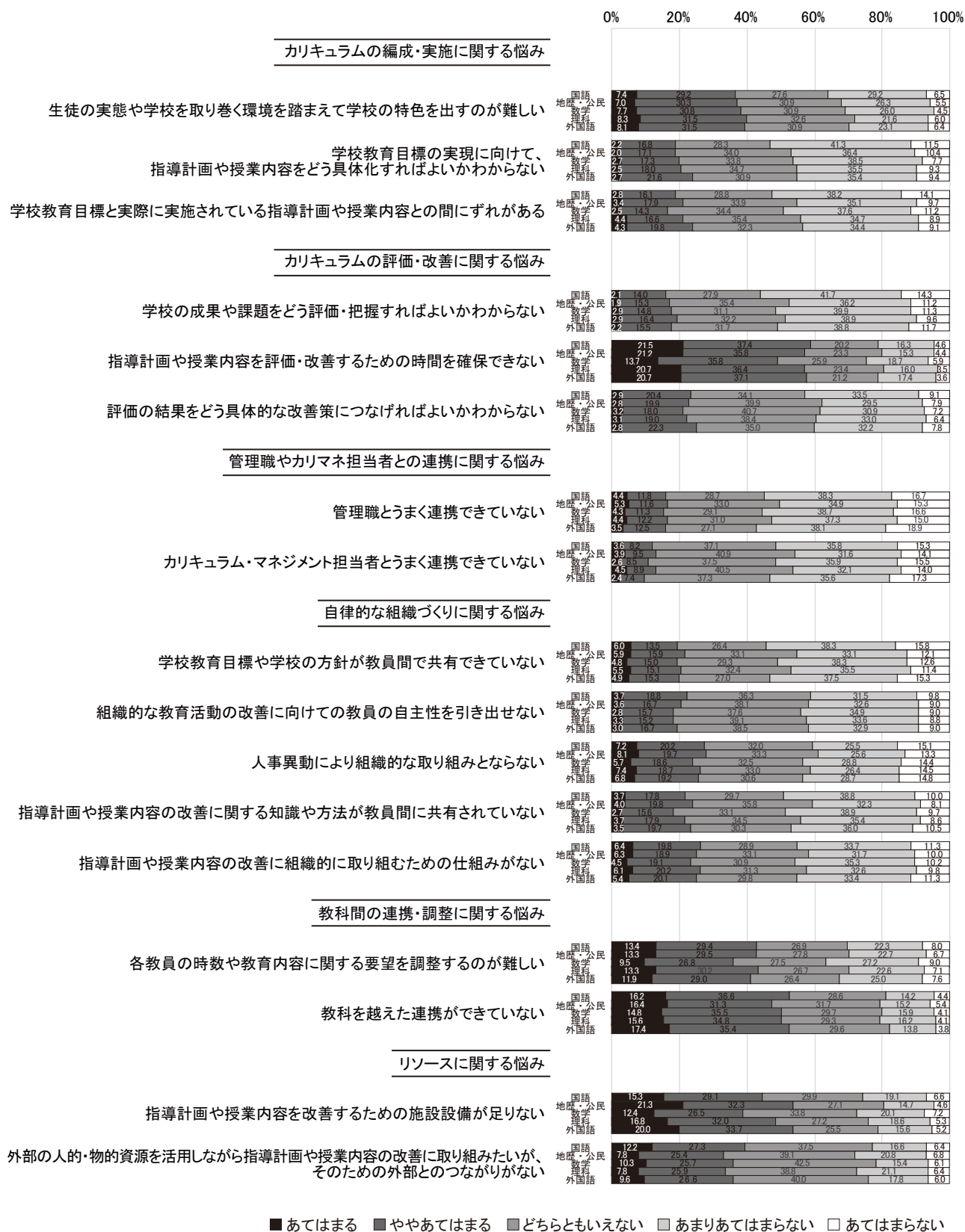


図 71 カリキュラム・マネジメントに関する悩み

表 89 教科でのカリキュラム・マネジメントに関する悩みの記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	無効回答	無回答
カリキュラムの編成・実施に関する悩み							
生徒の実態や学校を取り巻く環境を踏まえて学校の特色を出すのが難しい	10,507	1	5	3.093	1.044	1	63
学校教育目標の実現に向けて、指導計画や授業内容をどう具体化すればよいかわからない	10,495	1	5	2.663	0.962	1	75
学校教育目標と実際に実施されている指導計画や授業内容との間にずれがある	10,497	1	5	2.667	0.991	2	72
カリキュラムの評価・改善に関する悩み							
学校の成果や課題をどう評価・把握すればよいかわからない	10,475	1	5	2.577	0.963	2	94
指導計画や授業内容を評価・改善するための時間を確保できない	10,498	1	5	3.501	1.113	1	72
評価の結果をどう具体的な改善策につなげればよいかわからない	10,469	1	5	2.787	0.947	1	101
管理職やカリマネ担当者との連携に関する悩み							
管理職とうまく連携できていない	10,517	1	5	2.501	1.039	3	51
カリキュラム・マネジメント担当者とうまく連携できていない	10,507	1	5	2.506	0.963	1	63
自律的な組織づくりに関する悩み							
学校教育目標や学校の方針が教員間で共有できていない	10,495	1	5	2.623	1.062	0	76
組織的な教育活動の改善に向けての教員の自主性を引き出せない	10,489	1	5	2.719	0.955	2	80
人事異動により組織的な取り組みとならない	10,483	1	5	2.776	1.127	2	86
指導計画や授業内容の改善に関する知識や方法が教員間に共有されていない	10,498	1	5	2.701	0.986	1	72
指導計画や授業内容の改善に組織的に取り組むための仕組みがない	10,501	1	5	2.767	1.061	2	68
教科間の連携・調整に関する悩み							
各教員の時数や教育内容に関する要望を調整するのが難しい	10,507	1	5	3.142	1.144	0	64
教科を越えた連携ができていない	10,504	1	5	3.431	1.063	1	66
リソースに関する悩み							
指導計画や授業内容を改善するための施設設備が足りない	10,459	1	5	3.358	1.128	1	111
外部の人的・物的資源を活用しながら指導計画や授業内容の改善に取り組みたいが、そのための外部とのつながりがない	10,449	1	5	3.143	1.030	2	120

表 90 教科でのカリキュラム・マネジメントに関する悩みの度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
カリキュラムの編成・実施に関する悩み										
生徒の実態や学校を取り巻く環境を踏まえて学校の特色を出すのが難しい	810	7.7	3,223	30.7	3,214	30.6	2,652	25.2	608	5.8
学校教育目標の実現に向けて、指導計画や授業内容をどう具体化すればよいかわからない	253	2.4	1,907	18.2	3,394	32.3	3,928	37.4	1,013	9.7
学校教育目標と実際に実施されている指導計画や授業内容との間にずれがある	366	3.5	1,780	17.0	3,457	32.9	3,779	36.0	1,115	10.6
カリキュラムの評価・改善に関する悩み										
学校の成果や課題をどう評価・把握すればよいかわからない	255	2.4	1,592	15.2	3,313	31.6	4,098	39.1	1,217	11.6
指導計画や授業内容を評価・改善するための時間を確保できない	2,051	19.5	3,833	36.5	2,395	22.8	1,760	16.8	459	4.4
評価の結果をどう具体的な改善策につなげればよいかわからない	310	3.0	2,086	19.9	3,937	37.6	3,333	31.8	803	7.7
管理職やカリマネ担当者との連携に関する悩み										
管理職とうまく連携できていない	459	4.4	1,249	11.9	3,133	29.8	3,941	37.5	1,735	16.5
カリキュラム・マネジメント担当者とうまく連携できていない	355	3.4	893	8.5	4,062	38.7	3,596	34.2	1,601	15.2
自律的な組織づくりに関する悩み										
学校教育目標や学校の方針が教員間で共有できていない	569	5.4	1,568	14.9	3,108	29.6	3,837	36.6	1,413	13.5
組織的な教育活動の改善に向けての教員の自主性を引き出せない	342	3.3	1,744	16.6	3,977	37.9	3,472	33.1	954	9.1
人事異動により組織的な取り組みとならない	738	7.0	2,021	19.3	3,384	32.3	2,831	27.0	1,509	14.4
指導計画や授業内容の改善に関する知識や方法が教員間に共有されていない	370	3.5	1,905	18.1	3,428	32.7	3,810	36.3	985	9.4
指導計画や授業内容の改善に組織的に取り組むための仕組みがない	602	5.7	2,060	19.6	3,234	30.8	3,502	33.3	1,103	10.5
教科間の連携・調整に関する悩み										
各教員の時数や教育内容に関する要望を調整するのが難しい	1,291	12.3	3,044	29.0	2,844	27.1	2,518	24.0	810	7.7
教科を越えた連携ができていない	1,689	16.1	3,646	34.7	3,129	29.8	1,583	15.1	457	4.4
リソースに関する悩み										
指導計画や授業内容を改善するための施設設備が足りない	1,794	17.2	3,214	30.7	3,002	28.7	1,845	17.6	604	5.8
外部の人的・物的資源を活用しながら指導計画や授業内容の改善に取り組みたいが、そのための外部とのつながりがない	999	9.6	2,736	26.2	4,138	39.6	1,913	18.3	663	6.3

2.4.13. 教科でのカリキュラム・マネジメントの悩みの相談相手

教科でのカリキュラム・マネジメントに関する悩みの相談相手は、「同校の同僚教員」が45.7%で最も多く、次いで、「同校の先輩教員」が30.0%、「同校の管理職」が12.5%であった。

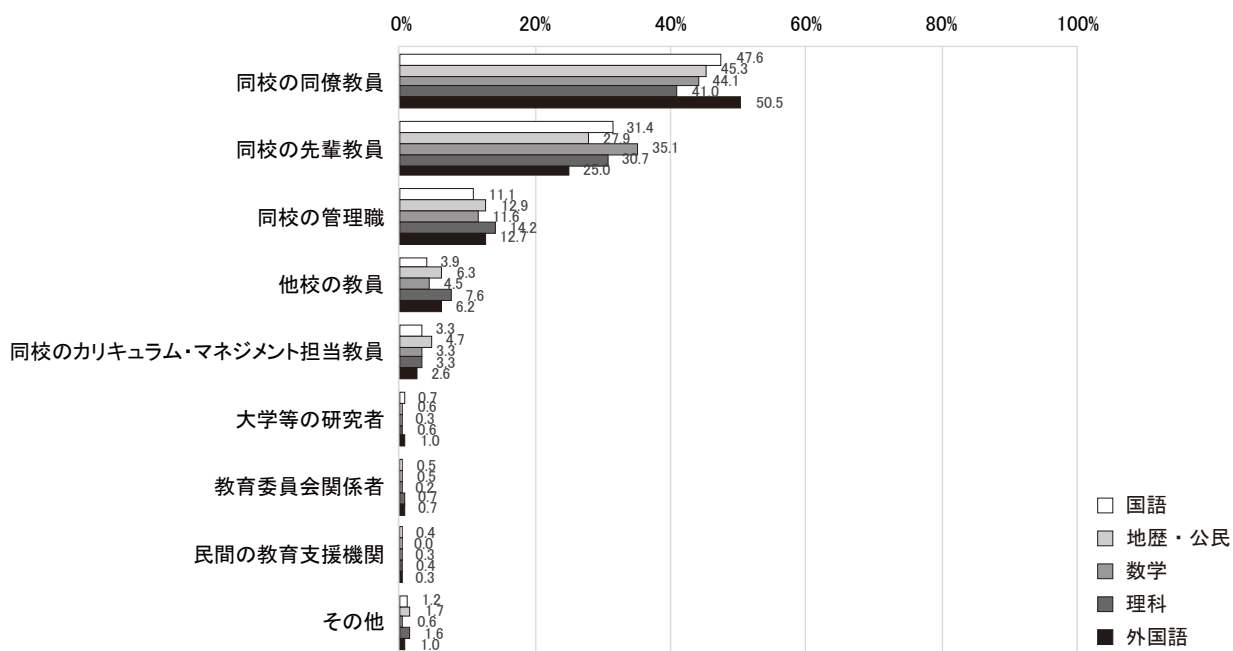


図 72 カリキュラム・マネジメントの悩みの相談相手

表 91 カリキュラム・マネジメントの悩みの相談相手（単一選択）

項目	度数	%
同校の同僚教員	4,732	45.7
同校の先輩教員	3,112	30.0
同校の管理職	1,293	12.5
他校の教員	592	5.7
同校のカリキュラム・マネジメント担当教員	356	3.4
大学等の研究者	65	0.6
教育委員会関係者	53	0.5
民間の教育支援機関	29	0.3
その他	125	1.2
有効回答数	10,357	100.0
無効回答	118	
無回答	96	
合計	10,571	

2.4.14. 教科での大学との連携・接続

教科における組織的な取り組みとして、大学との連携や接続を意識したものがあるかについて、「大学で学ぶ力を育むことを意図した探究的な授業等」を行っている学校は18.1%、「大学等の研究者を講師に招いて実施している授業等」を行っている学校は15.5%であった。

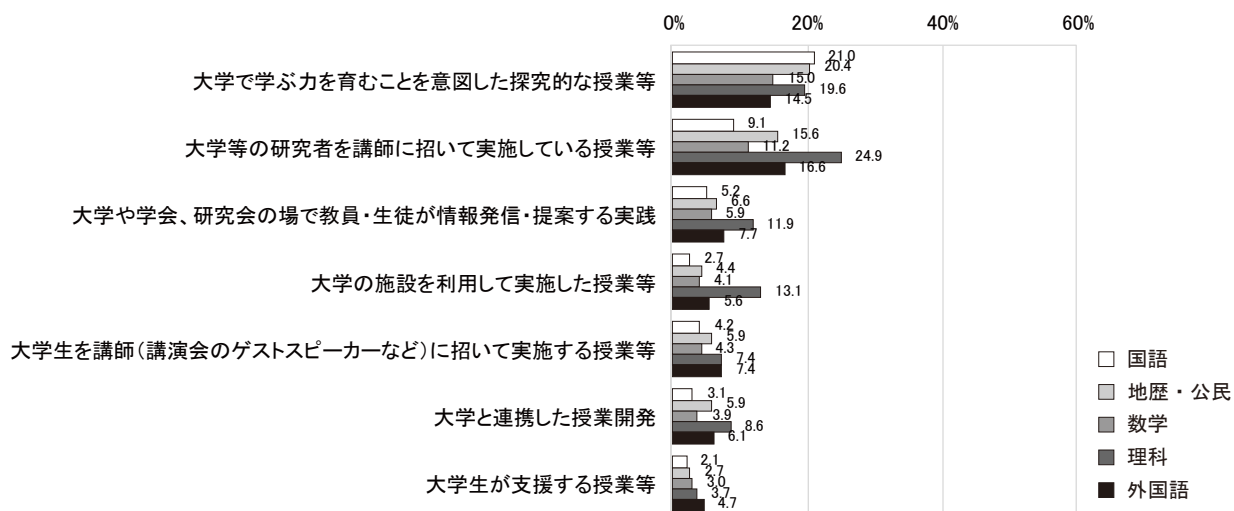


図 73 大学との連携・接続

表 92 大学との連携・接続（複数選択）

項目	度数	%
大学で学ぶ力を育むことを意図した探究的な授業等	1,913	18.1
大学等の研究者を講師に招いて実施している授業等	1,638	15.5
大学や学会、研究会の場で教員・生徒が情報発信・提案する実践	787	7.4
大学の施設を利用して実施した授業等	632	6.0
大学生を講師（講演会のゲストスピーカーなど）に招いて実施する授業等	617	5.8
大学と連携した授業開発	586	5.5
大学生が支援する授業等	343	3.2
有効回答数	10,571	

2.4.15. 教科での社会との連携・接続

教科における組織的な取り組みとして、社会との連携や接続を意識したものがあるかについて、「グローバル社会とのつながりを意識した授業等（海外の学校、企業、大学、研究機関との連携など）」を行っている学校は13.0%、「職業観の育成や生徒のキャリアを意識した授業等（職業体験やインターンシップなど）」を行っている学校は11.5%であった。

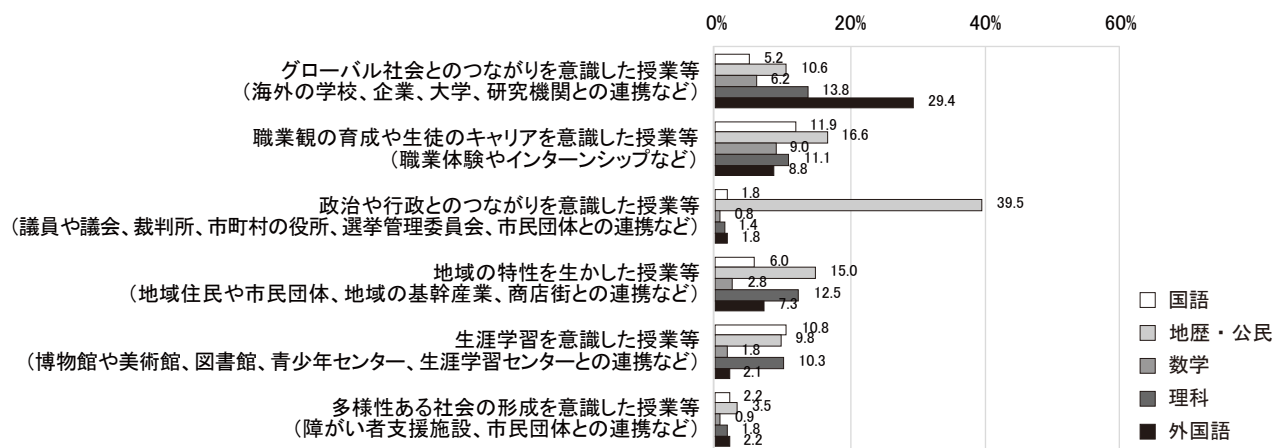


図 74 社会との連携・接続

表 93 社会との連携・接続（複数選択）

項目	度数	%
グローバル社会とのつながりを意識した授業等（海外の学校、企業、大学、研究機関との連携など）	1,379	13.0
職業観の育成や生徒のキャリアを意識した授業等（職業体験やインターンシップなど）	1,214	11.5
政治や行政とのつながりを意識した授業等（議員や議会、裁判所、市町村の役所、選挙管理委員会、市民団体との連携など）	950	9.0
地域の特性を生かした授業等（地域住民や市民団体、地域の基幹産業、商店街との連携など）	920	8.7
生涯学習を意識した授業等（博物館や美術館、図書館、青少年センター、生涯学習センターとの連携など）	736	7.0
多様性ある社会の形成を意識した授業等（障がい者支援施設、市民団体との連携など）	223	2.1
有効回答数	10,571	

2.4.16. 教科での現在の参加型授業への取り組み状況

教科での現在の参加型授業への取り組み状況は、「独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる」が73.0%で、「〇〇科ではまったく取り組まれていない」は6.0%であった。

参加型授業に関する目標や計画については、「教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている」は22.3%で、「教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している」は9.2%であった。

参加型授業の推進については、「参加型学習の実施について、教科の会議などで積極的な呼びかけを行っている」は17.9%であった。

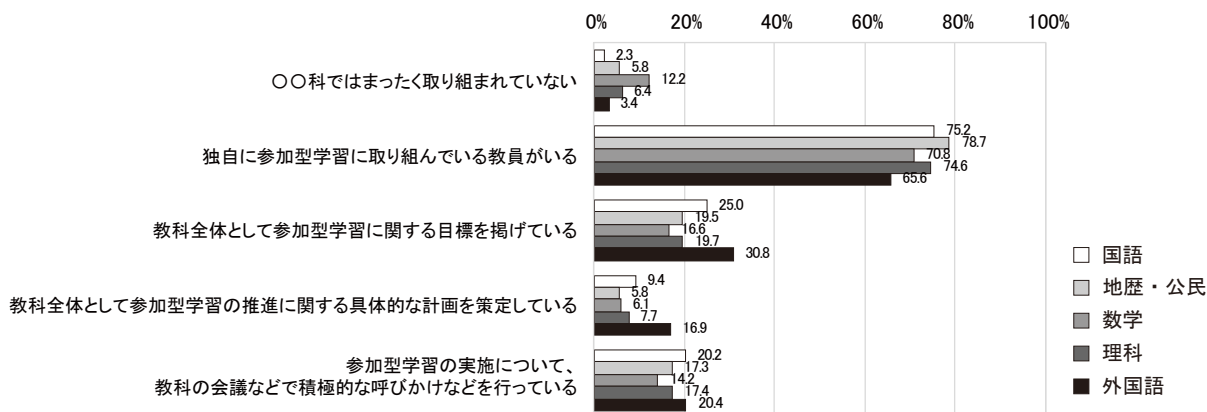


図 75 教科での現在の参加型授業への取り組み状況

表 94 教科での現在の参加型授業への取り組み状況（複数選択）

項目	度数	%
〇〇科ではまったく取り組まれていない	636	6.0
独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる	7,713	73.0
教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている	2,358	22.3
教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している	970	9.2
参加型学習の実施について、教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている	1,890	17.9
有効回答数	10,571	

2.4.17. 教科での参加型授業への取り組み状況と今後の見通し

教科での参加型授業への取り組み状況と今後の見通しは、「すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である」が24.8%、「すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である」が23.3%、「すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である」が0.4%と、「すでに取り組んでいる」と回答した教科は全体の48.5%であった。

教科別では、国語科で55.3%、地歴・公民科で48.6%、数学科で34.6%、理科で49.0%、外国語科で54.8%であった。

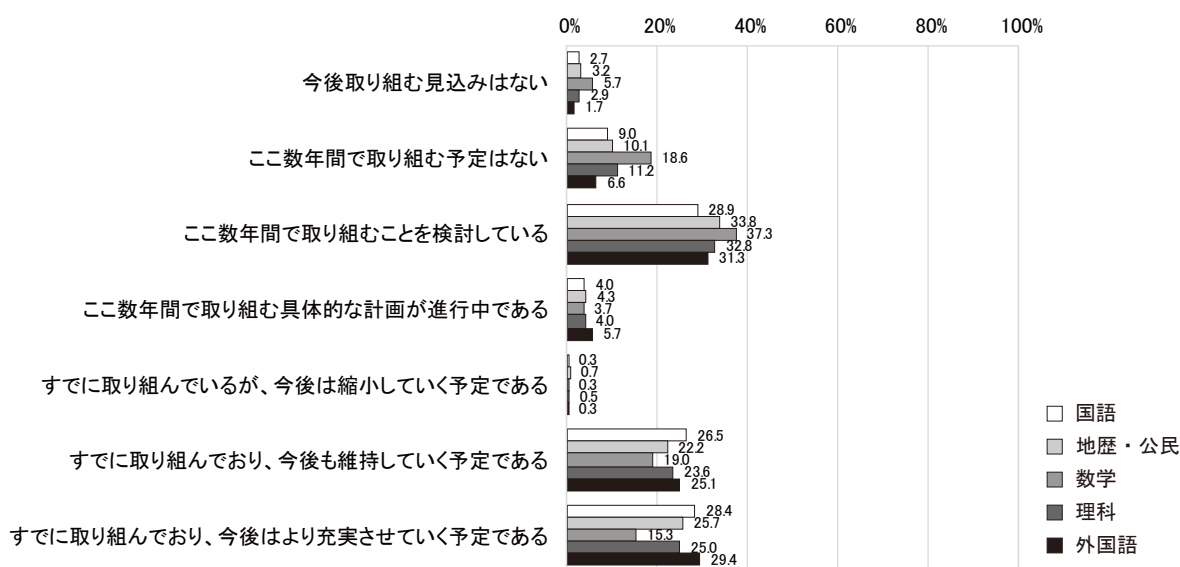


図 76 教科での参加型授業への取り組み状況と今後の見通し

表 95 教科での参加型授業への取り組み状況と今後の見通し（単一選択）

項目	度数	%
今後取り組む見込みはない	340	3.2
ここ数年間で取り組む予定はない	1,162	11.1
ここ数年間で取り組むことを検討している	3,436	32.8
ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である	454	4.3
すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である	42	0.4
すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である	2,437	23.3
すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である	2,593	24.8
有効回答数	10,464	100.0
無効回答	43	
無回答	64	
合計	10,571	

2.4.18. 参加型授業のねらい

参加型授業のねらいに関する 24 項目の質問について、「1. あまり重視していない」から「5. とても重視している」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。探索的・確認的因子分析の結果、「思考・表現力」「課題解決力」「主体性」「市民性」「協働性」「教科基礎力」「教科応用力」「入試・就職力」の 8 因子が得られた。集計結果を図表に示した。

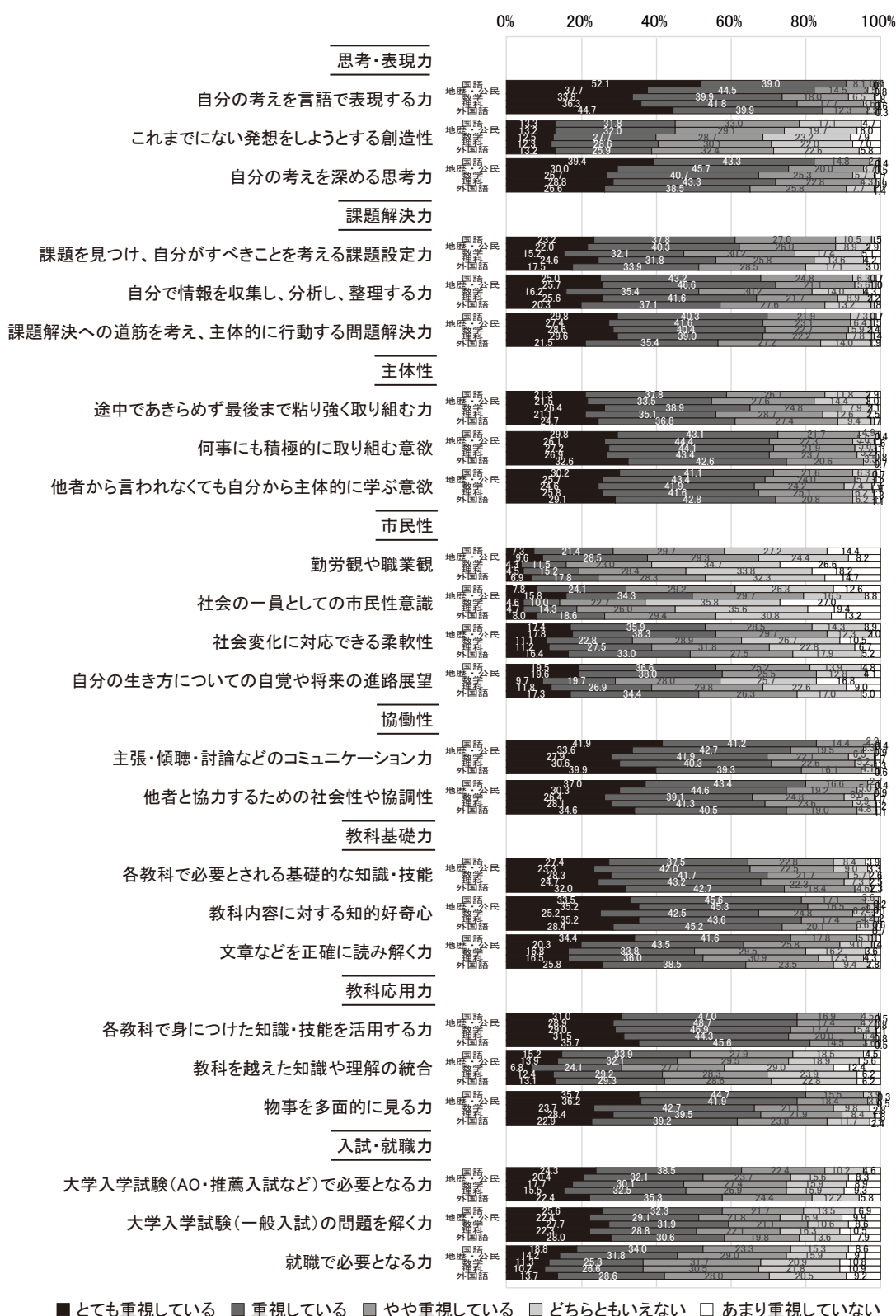


図 77 参加型授業のねらい

表 96 参加型授業のねらいの記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	非該当	無効回答	無回答
思考・表現力								
自分の考えを言語で表現する力	4,950	1	5	4.20	0.830	5,392	2	227
これまでにない発想をしようとする創造性	4,936	1	5	3.22	1.102	5,392	0	243
自分の考えを深める思考力	4,947	1	5	3.97	0.889	5,392	1	231
課題解決力								
課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	4,940	1	5	3.57	1.057	5,392	1	238
自分で情報を収集し、分析し、整理する力	4,943	1	5	3.74	0.974	5,392	1	235
課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	4,945	1	5	3.82	0.977	5,392	1	233
主体性								
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	4,943	1	5	3.66	1.028	5,392	1	235
何事にも積極的に取り組む意欲	5,098	1	5	3.94	0.883	5,392	0	81
他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	5,096	1	5	3.88	0.921	5,392	0	83
市民性								
勤労観や職業観	4,948	1	5	2.71	1.144	5,392	0	231
社会の一員としての市民性意識	4,945	1	5	2.80	1.169	5,392	1	233
社会変化に対応できる柔軟性	5,086	1	5	3.33	1.100	5,392	1	92
自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	5,085	1	5	3.32	1.154	5,392	1	93
協働性								
主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	4,956	1	5	4.06	0.884	5,392	0	223
他者と協力するための社会性や協調性	4,947	1	5	3.98	0.901	5,392	0	232
教科基礎力								
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	4,946	1	5	3.83	1.002	5,392	0	233
教科内容に対する知的好奇心	4,944	1	5	4.03	0.850	5,392	1	234
文章などを正確に読み解く力	4,935	1	5	3.71	1.014	5,392	1	243
教科応用力								
各教科で身につけた知識・技能を活用する力	4,951	1	5	4.04	0.846	5,392	0	228
教科を越えた知識や理解の統合	4,940	1	5	3.20	1.120	5,392	0	239
物事を多面的に見る力	4,934	1	5	3.91	0.955	5,392	2	243
入試・就職力								
大学入学試験（A0・推薦入試など）で必要となる力	5,086	1	5	3.47	1.166	5,392	1	92
大学入学試験（一般入試）の問題を解く力	5,092	1	5	3.49	1.250	5,392	0	87
就職で必要となる力	5,090	1	5	3.20	1.178	5,392	0	89

表 97 参加型授業のねらいの度数分布（単一選択）

項目	とても重視 している		重視している		やや重視 している		どちらとも いえない		あまり重視 していない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
思考・表現力										
自分の考えを言語で表現する力	2,064	41.7	2,029	41.0	678	13.7	148	3.0	31	0.6
これまでにない発想をしようとする 創造性	639	12.9	1,444	29.3	1,525	30.9	1,025	20.8	303	6.1
自分の考えを深める思考力	1,516	30.6	2,093	42.3	1,062	21.5	230	4.6	46	0.9
課題解決力										
課題を見つけ、自分がすべきことを 考える課題設定力	1,027	20.8	1,747	35.4	1,352	27.4	657	13.3	157	3.2
自分で情報を収集し、分析し、整理 する力	1,133	22.9	2,028	41.0	1,229	24.9	462	9.3	91	1.8
課題解決への道筋を考え、主体的に 行動する問題解決力	1,347	27.2	1,938	39.2	1,162	23.5	423	8.6	75	1.5
主体性										
途中であきらめず最後まで粘り強く 取り組む力	1,129	22.8	1,796	36.3	1,336	27.0	561	11.3	121	2.4
何事にも積極的に取り組む意欲	1,467	28.8	2,215	43.4	1,123	22.0	248	4.9	45	0.9
他者から言われなくても自分から主 体的に学ぶ意欲	1,395	27.4	2,149	42.2	1,171	23.0	321	6.3	60	1.2
市民性										
勤労観や職業観	329	6.6	954	19.3	1,387	28.0	1,496	30.2	782	15.8
社会の一員としての市民性意識	410	8.3	1,029	20.8	1,371	27.7	1,418	28.7	717	14.5
社会変化に対応できる柔軟性	768	15.1	1,634	32.1	1,486	29.2	926	18.2	272	5.3
自分の生き方についての自覚や将来 の進路展望	816	16.0	1,626	32.0	1,366	26.9	907	17.8	370	7.3
協働性										
主張・傾聴・討論などのコミュニ ケーション力	1,758	35.5	2,030	41.0	921	18.6	202	4.1	45	0.9
他者と協力するための社会性や協調 性	1,572	31.8	2,074	41.9	1,003	20.3	249	5.0	49	1.0
教科基礎力										
各教科で必要とされる基礎的な知 識・技能	1,345	27.2	2,044	41.3	1,064	21.5	347	7.0	146	3.0
教科内容に対する知的好奇心	1,573	31.8	2,205	44.6	931	18.8	209	4.2	26	0.5
文章などを正確に読み解く力	1,159	23.5	1,925	39.0	1,235	25.0	490	9.9	126	2.6
教科応用力										
各教科で身につけた知識・技能を活 用する力	1,558	31.5	2,300	46.5	852	17.2	205	4.1	36	0.7
教科を越えた知識や理解の統合	625	12.7	1,488	30.1	1,403	28.4	1,098	22.2	326	6.6
物事を多面的に見る力	1,464	29.7	2,050	41.5	988	20.0	359	7.3	73	1.5
入試・就職力										
大学入学試験（A0・推薦入試など） で必要となる力	1,036	20.4	1,733	34.1	1,258	24.7	695	13.7	364	7.2
大学入学試験（一般入試）の問題を 解く力	1,281	25.2	1,555	30.5	1,083	21.3	730	14.3	443	8.7
就職で必要となる力	709	13.9	1,507	29.6	1,432	28.1	953	18.7	489	9.6

2.4.19. 参加型授業の学習活動

参加型授業を効果的に進める上で取り組んだ学習活動に関する 25 項目の質問について、「1. 取り組んでいない」から「4. とても力を入れて取り組んでいる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。4 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～4 点で得点化し、集計を行った。確認的因子分析の結果、「探究活動型」「社会活動型」「意見発表・交換型」「理解深化型」「芸術・創作活動型」の 5 因子が得られた。集計結果を図表に示した。

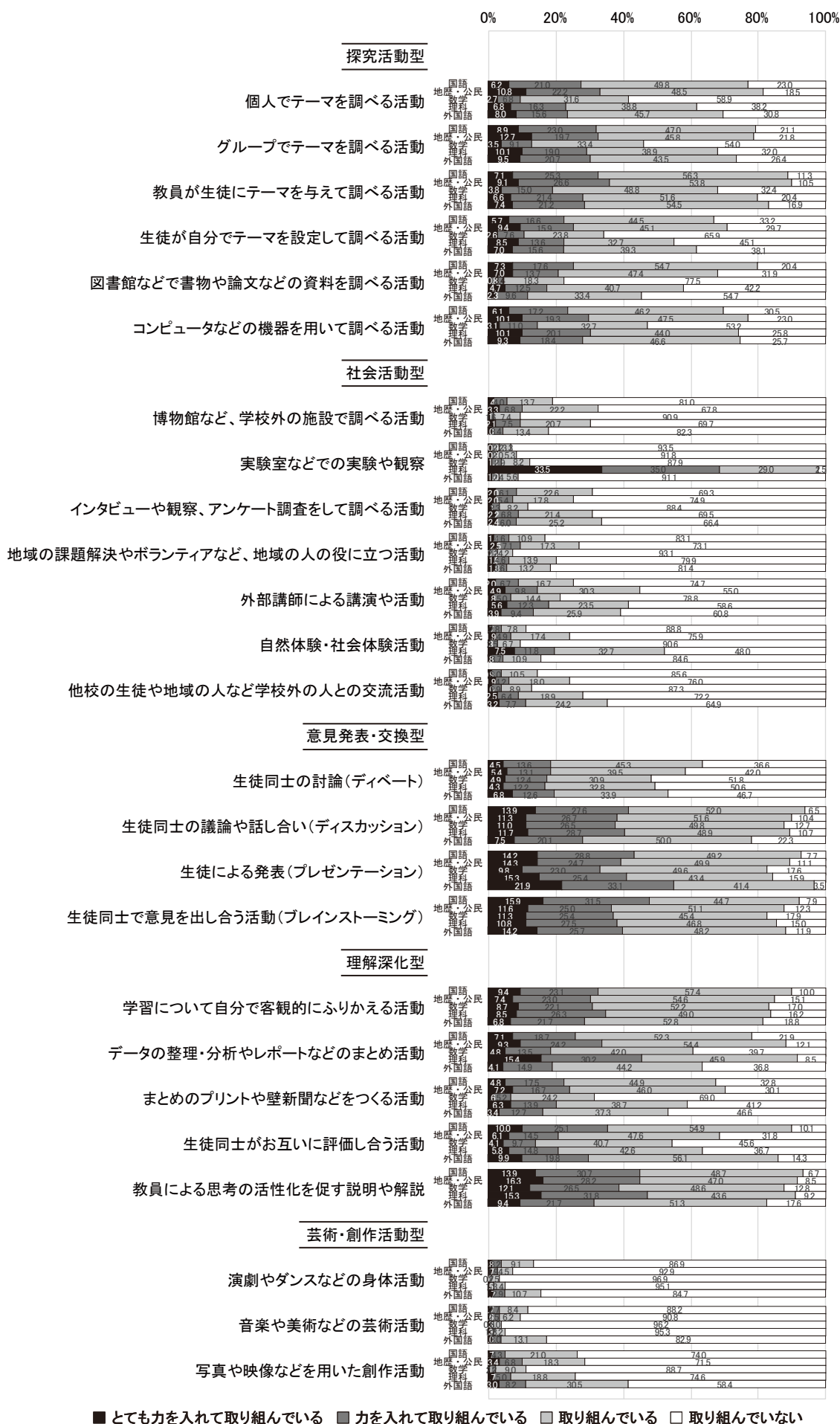


図 78 参加型授業の学習活動

表 98 参加型授業の学習活動の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	非該当	無効回答	無回答
探究活動型								
個人でテーマを調べる活動	5, 105	1	4	1. 992	0. 881	5, 392	0	74
グループでテーマを調べる活動	5, 110	1	4	2. 082	0. 921	5, 392	1	68
教員が生徒にテーマを与えて調べる活動	5, 102	1	4	2. 190	0. 800	5, 392	0	77
生徒が自分でテーマを設定して調べる活動	5, 089	1	4	1. 872	0. 899	5, 392	0	90
図書館などで書物や論文などの資料を調べる活動	5, 102	1	4	1. 782	0. 829	5, 392	0	77
コンピュータなどの機器を用いて調べる活動	5, 095	1	4	2. 033	0. 893	5, 392	1	83
社会活動型								
博物館など、学校外の施設で調べる活動	5, 099	1	4	1. 302	0. 636	5, 392	1	79
実験室などでの実験や観察	5, 096	1	4	1. 507	0. 939	5, 392	0	83
インタビューや観察、アンケート調査をして調べる活動	5, 094	1	4	1. 370	0. 681	5, 392	0	85
地域の課題解決やボランティアなど、地域の人の役に立つ活動	5, 090	1	4	1. 262	0. 617	5, 392	0	89
外部講師による講演や活動	5, 109	1	4	1. 512	0. 805	5, 392	0	70
自然体験・社会体験活動	5, 103	1	4	1. 324	0. 677	5, 392	1	75
他校の生徒や地域の人など学校外の人との交流活動	5, 102	1	4	1. 323	0. 660	5, 392	0	77
意見発表・交換型								
生徒同士の討論（ディベート）	5, 093	1	4	1. 783	0. 860	5, 392	0	86
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	5, 104	1	4	2. 354	0. 838	5, 392	0	75
生徒による発表（プレゼンテーション）	5, 102	1	4	2. 480	0. 878	5, 392	3	74
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	5, 097	1	4	2. 406	0. 867	5, 392	2	80
理解深化型								
学習について自分で客観的にふりかえる活動	5, 100	1	4	2. 242	0. 807	5, 392	2	77
データの整理・分析やレポートなどのまとめ活動	5, 101	1	4	2. 138	0. 864	5, 392	0	78
まとめのプリントや壁新聞などをつくる活動	5, 089	1	4	1. 810	0. 846	5, 392	1	89
生徒同士がお互いに評価し合う活動	5, 098	1	4	2. 067	0. 854	5, 392	1	80
教員による思考の活性化を促す説明や解説	5, 113	1	4	2. 436	0. 856	5, 392	1	65
芸術・創作活動型								
演劇やダンスなどの身体活動	5, 100	1	4	1. 130	0. 451	5, 392	0	79
音楽や美術などの芸術活動	5, 097	1	4	1. 132	0. 438	5, 392	0	82
写真や映像などを用いた創作活動	5, 088	1	4	1. 369	0. 673	5, 392	0	91

表 99 参加型授業の学習活動の度数分布（単一選択）

項目	とても力を入れて取り組んでいる		力を入れて取り組んでいる		取り組んでいる		取り組んでいない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
探究活動型								
個人でテーマを調べる活動	364	7.1	868	17.0	2,234	43.8	1,639	32.1
グループでテーマを調べる活動	473	9.3	972	19.0	2,165	42.4	1,500	29.4
教員が生徒にテーマを与えて調べる活動	356	7.0	1,140	22.3	2,723	53.4	883	17.3
生徒が自分でテーマを設定して調べる活動	348	6.8	729	14.3	1,938	38.1	2,074	40.8
図書館などで書物や論文などの資料を調べる活動	236	4.6	610	12.0	2,060	40.4	2,196	43.0
コンピュータなどの機器を用いて調べる活動	408	8.0	896	17.6	2,249	44.1	1,542	30.3
社会活動型								
博物館など、学校外の施設で調べる活動	83	1.6	243	4.8	805	15.8	3,968	77.8
実験室などでの実験や観察	385	7.6	456	8.9	515	10.1	3,740	73.4
インタビューや観察、アンケート調査をして調べる活動	102	2.0	282	5.5	1,014	19.9	3,696	72.6
地域の課題解決やボランティアなど、地域の人の役に立つ活動	82	1.6	230	4.5	628	12.3	4,150	81.5
外部講師による講演や活動	188	3.7	451	8.8	1,150	22.5	3,320	65.0
自然体験・社会体験活動	115	2.3	265	5.2	778	15.2	3,945	77.3
他校の生徒や地域の人など学校外の人との交流活動	100	2.0	253	5.0	843	16.5	3,906	76.6
意見発表・交換型								
生徒同士の討論（ディベート）	266	5.2	653	12.8	1,884	37.0	2,290	45.0
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	566	11.1	1,316	25.8	2,580	50.5	642	12.6
生徒による発表（プレゼンテーション）	793	15.5	1,401	27.5	2,371	46.5	537	10.5
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	662	13.0	1,386	27.2	2,410	47.3	639	12.5
理解深化型								
学習について自分で客観的にふりかえる活動	414	8.0	1,186	22.9	2,721	52.6	779	15.0
データの整理・分析やレポートなどのまとめ活動	419	8.1	1,046	20.2	2,454	47.4	1,182	22.8
まとめのプリントや壁新聞などをつくる活動	244	4.8	699	13.7	1,993	39.2	2,153	42.3
生徒同士がお互いに評価し合う活動	382	7.5	893	17.5	2,508	49.2	1,315	25.8
教員による思考の活性化を促す説明や解説	684	13.4	1,420	27.8	2,451	47.9	558	10.9
芸術・創作活動型								
演劇やダンスなどの身体活動	41	0.8	106	2.1	329	6.5	4,624	90.7
音楽や美術などの芸術活動	30	0.6	108	2.1	366	7.2	4,593	90.1
写真や映像などを用いた創作活動	94	1.8	279	5.5	1,040	20.4	3,675	72.2

2.4.20. 参加型授業の工夫

参加型授業を効果的に進める上での工夫に関する16項目の質問について、「1. 取り入れていない」から「4. とても力を入れて取り入れている」までの選択肢のうち、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で尋ねた。4段階のリッカート尺度とみなして回答を1～4点で得点化し、集計を行った。確認的因子分析の結果、「授業方法の工夫」「他教員との協力」「リソースの整備」「校内リソースの活用」「校外リソースの活用」の5因子が得られた。集計結果を図表に示した。

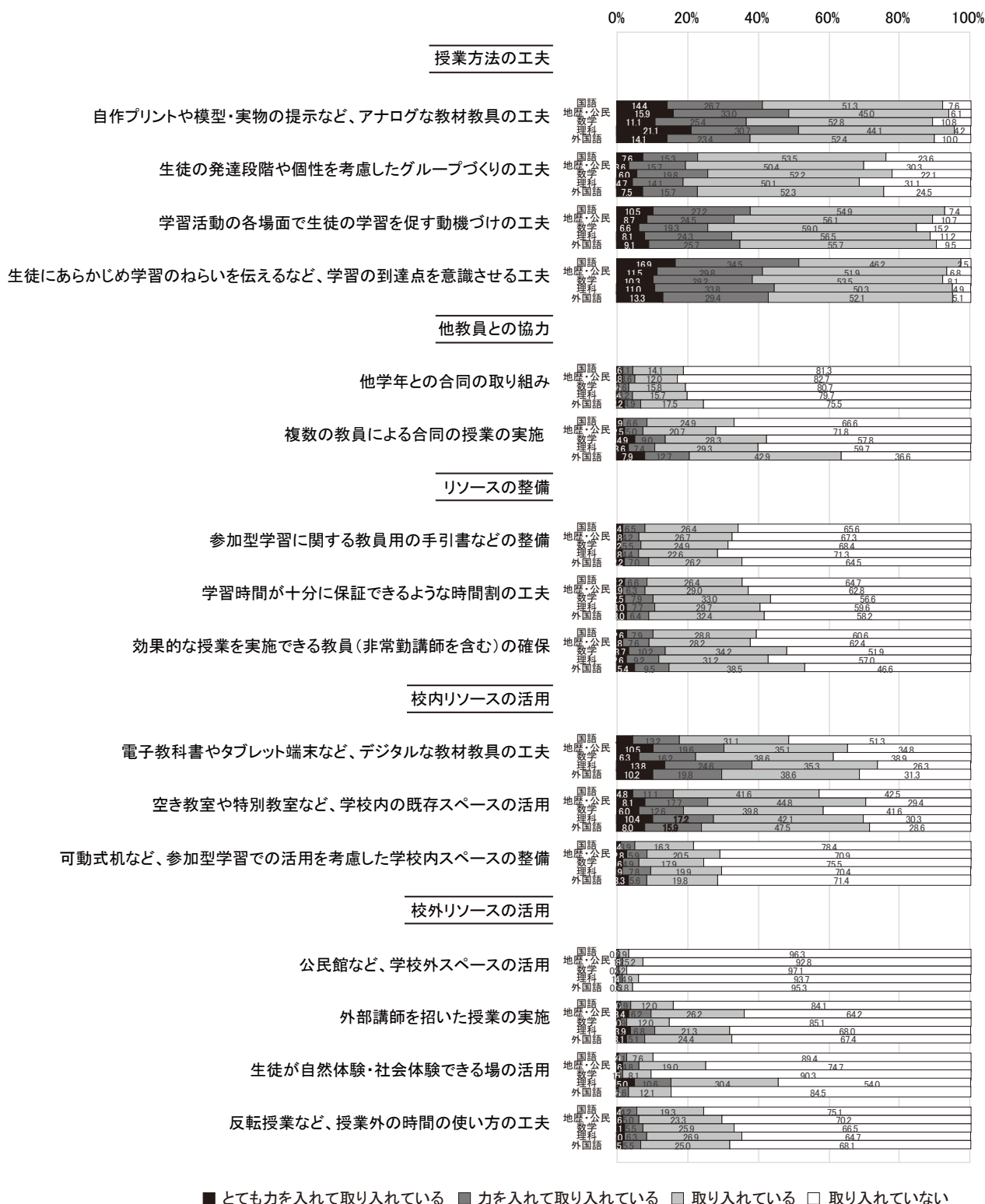


図 79 参加型授業の工夫

表 100 参加型授業の工夫の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	非該当	無効回答	無回答
授業方法の工夫								
自作プリントや模型・実物の提示など、アナログな教材教具の工夫	5,106	1	4	2.512	0.844	5,392	1	72
生徒の発達段階や個性を考慮したグループづくりの工夫	5,095	1	4	2.013	0.813	5,392	0	84
学習活動の各場面で生徒の学習を促す動機づけの工夫	5,088	1	4	2.318	0.775	5,392	4	87
生徒にあらかじめ学習のねらいを伝えるなど、学習の到達点を意識させる工夫	5,093	1	4	2.519	0.782	5,392	2	84
他教員との協力								
他学年との合同の取り組み	5,097	1	4	1.269	0.603	5,392	0	82
複数の教員による合同の授業の実施	5,103	1	4	1.583	0.809	5,392	0	76
リソースの整備								
参加型学習に関する教員用の手引書などの整備	5,099	1	4	1.418	0.677	5,392	0	80
学習時間が十分に保証できるような時間割の工夫	5,099	1	4	1.513	0.735	5,392	1	79
効果的な授業を実施できる教員（非常勤講師を含む）の確保	5,093	1	4	1.595	0.782	5,392	0	86
校内リソースの活用								
電子教科書やタブレット端末など、デジタルな教材教具の工夫	5,099	1	4	2.002	0.958	5,392	2	78
空き教室や特別教室など、学校内の既存スペースの活用	5,084	1	4	1.958	0.888	5,392	1	94
可動式机など、参加型学習での活用を考慮した学校内スペースの整備	5,088	1	4	1.368	0.692	5,392	0	91
校外リソースの活用								
公民館など、学校外スペースの活用	5,101	1	4	1.065	0.315	5,392	0	78
外部講師を招いた授業の実施	5,097	1	4	1.365	0.691	5,392	3	79
生徒が自然体験・社会体験できる場の活用	5,088	1	4	1.295	0.633	5,392	0	91
反転授業など、授業外の時間の使い方の工夫	5,082	1	4	1.394	0.667	5,392	1	96

表 101 参加型授業の工夫の度数分布（単一選択）

項目	とても力を入れて取り入れている		力を入れて取り入れている		取り入れている		取り入れていない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
授業方法の工夫								
自作プリントや模型・実物の提示など、アナログな教材教具の工夫	791	15.5	1,420	27.8	2,505	49.1	390	7.6
生徒の発達段階や個性を考慮したグループづくりの工夫	303	5.9	808	15.9	2,637	51.8	1,347	26.4
学習活動の各場面で生徒の学習を促す動機づけの工夫	447	8.8	1,252	24.6	2,860	56.2	529	10.4
生徒にあらかじめ学習のねらいを伝えるなど、学習の到達点を意識させる工夫	655	12.9	1,598	31.4	2,574	50.5	266	5.2
他教員との協力								
他学年との合同の取り組み	82	1.6	180	3.5	765	15.0	4,070	79.9
複数の教員による合同の授業の実施	211	4.1	417	8.2	1,506	29.5	2,969	58.2
リソースの整備								
参加型学習に関する教員用の手引書などの整備	88	1.7	285	5.6	1,297	25.4	3,429	67.2
学習時間が十分に保証できるような時間割の工夫	129	2.5	353	6.9	1,524	29.9	3,093	60.7
効果的な授業を実施できる教員（非常勤講師を含む）の確保	165	3.2	450	8.8	1,636	32.1	2,842	55.8
校内リソースの活用								
電子教科書やタブレット端末など、デジタルな教材教具の工夫	464	9.1	953	18.7	1,812	35.5	1,870	36.7
空き教室や特別教室など、学校内の既存スペースの活用	381	7.5	759	14.9	2,207	43.4	1,737	34.2
可動式机など、参加型学習での活用を考慮した学校内スペースの整備	114	2.2	285	5.6	960	18.9	3,729	73.3
校外リソースの活用								
公民館など、学校外スペースの活用	19	0.4	40	0.8	197	3.9	4,845	95.0
外部講師を招いた授業の実施	129	2.5	240	4.7	994	19.5	3,734	73.3
生徒が自然体験・社会体験できる場の活用	90	1.8	220	4.3	791	15.5	3,987	78.4
反転授業など、授業外の時間の使い方の工夫	85	1.7	267	5.3	1,213	23.9	3,517	69.2

2.4.21. 参加型授業の効果

参加型学習を取り入れた授業の実施により実感した効果に関する 30 項目の質問について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。学校代表者と同様の因子構造を想定した。集計結果を図表に示した。

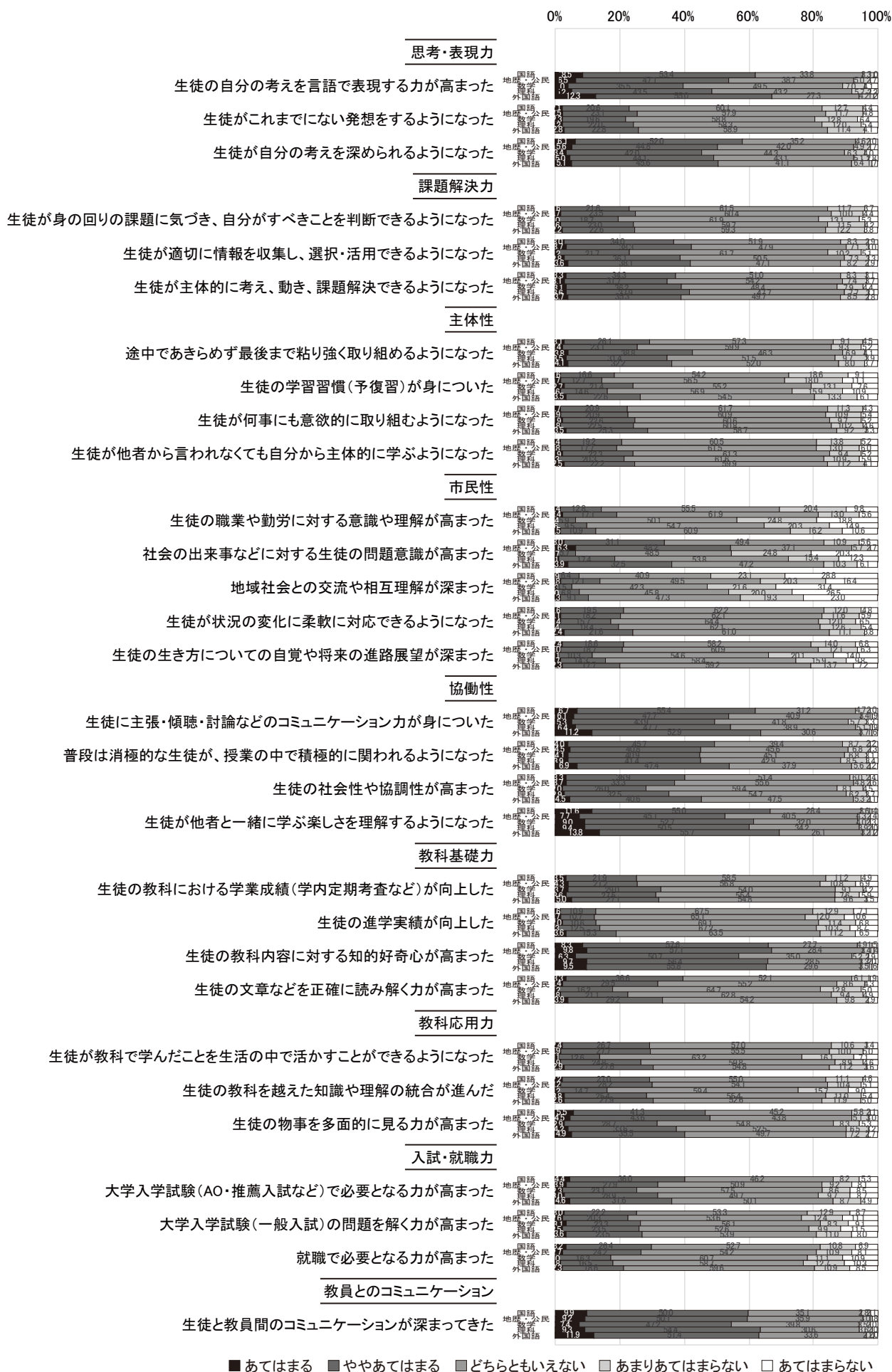


図 80 参加型授業の効果

表 102 参加型授業の効果の記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	非該当	無効回答	無回答
思考・表現力								
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	5,112	1	5	3.542	0.789	5,392	3	64
生徒がこれまでにない発想をするようになった	5,108	1	5	3.046	0.793	5,392	0	71
生徒が自分の考えを深められるようになった	5,112	1	5	3.460	0.782	5,392	1	66
課題解決力								
生徒が身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	5,111	1	5	3.054	0.754	5,392	0	68
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	5,107	1	5	3.256	0.782	5,392	0	72
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	5,111	1	5	3.272	0.790	5,392	0	68
主体性								
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	5,109	1	5	3.192	0.808	5,392	0	70
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	5,109	1	5	2.881	0.875	5,392	0	70
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	5,115	1	5	3.076	0.768	5,392	0	64
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	5,114	1	5	3.014	0.775	5,392	0	65
市民性								
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	5,106	1	5	2.726	0.859	5,392	0	73
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	5,103	1	5	3.048	0.937	5,392	1	75
地域社会との交流や相互理解が深まった	5,104	1	5	2.394	0.980	5,392	1	74
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	5,101	1	5	3.004	0.766	5,392	1	77
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	5,098	1	5	2.886	0.845	5,392	1	80
協働性								
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	5,108	1	5	3.563	0.777	5,392	0	71
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	5,108	1	5	3.406	0.798	5,392	0	71
生徒の社会性や協調性が高まった	5,102	1	5	3.295	0.755	5,392	2	75
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	5,108	1	5	3.655	0.788	5,392	0	71
教科基礎力								
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	5,106	1	5	3.132	0.834	5,392	0	73
生徒の進学実績が向上した	5,106	1	5	2.887	0.791	5,392	1	72
生徒の教科内容に対する知的好奇心が高まった	5,111	1	5	3.659	0.769	5,392	2	66
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	5,100	1	5	3.164	0.768	5,392	0	79
教科応用力								
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	5,096	1	5	3.088	0.784	5,392	0	83
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	5,101	1	5	3.070	0.825	5,392	0	78
生徒の物事を多面的に見る力が高まった	5,099	1	5	3.335	0.793	5,392	0	80
入試・就職力								
大学入学試験（A0・推薦入試など）で必要となる力が高まった	5,094	1	5	3.149	0.891	5,392	0	85
大学入学試験（一般入試）の問題を解く力が高まった	5,095	1	5	2.981	0.917	5,392	0	84
就職で必要となる力が高まった	5,090	1	5	2.965	0.873	5,392	1	88
教員とのコミュニケーション								
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	5,104	1	5	3.638	0.769	5,392	0	75

表 103 参加型授業の効果の度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
思考・表現力										
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	391	7.6	2,452	48.0	1,914	37.4	249	4.9	106	2.1
生徒がこれまでにない発想をするようになった	122	2.4	1,112	21.8	3,005	58.8	618	12.1	251	4.9
生徒が自分の考えを深められるようになった	264	5.2	2,358	46.1	2,085	40.8	276	5.4	129	2.5
課題解決力										
生徒が身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	85	1.7	1,127	22.1	3,090	60.5	595	11.6	214	4.2
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	152	3.0	1,758	34.4	2,613	51.2	415	8.1	169	3.3
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	173	3.4	1,790	35.0	2,571	50.3	408	8.0	169	3.3
主体性										
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	171	3.3	1,522	29.8	2,752	53.9	445	8.7	219	4.3
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	113	2.2	893	17.5	2,831	55.4	815	16.0	457	8.9
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	113	2.2	1,150	22.5	3,097	60.5	525	10.3	230	4.5
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	90	1.8	1,035	20.2	3,115	60.9	606	11.8	268	5.2
市民性										
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	67	1.3	590	11.6	2,913	57.1	950	18.6	586	11.5
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	160	3.1	1,448	28.4	2,410	47.2	646	12.7	439	8.6
地域社会との交流や相互理解が深まった	55	1.1	405	7.9	2,309	45.2	1,063	20.8	1,272	24.9
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	92	1.8	967	19.0	3,174	62.2	604	11.8	264	5.2
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	99	1.9	834	16.4	2,981	58.5	754	14.8	430	8.4
協働性										
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	375	7.3	2,560	50.1	1,842	36.1	227	4.4	104	2.0
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関わられるようになった	242	4.7	2,225	43.6	2,136	41.8	373	7.3	132	2.6
生徒の社会性や協調性が高まった	173	3.4	1,763	34.6	2,713	53.2	304	6.0	149	2.9
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	536	10.5	2,654	52.0	1,633	32.0	192	3.8	93	1.8
教科基礎力										
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	206	4.0	1,281	25.1	2,862	56.1	497	9.7	260	5.1
生徒の進学実績が向上した	105	2.1	619	12.1	3,384	66.3	592	11.6	406	8.0
生徒の教科内容に対する知的好奇心が高まった	453	8.9	2,855	55.9	1,506	29.5	203	4.0	94	1.8
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	135	2.6	1,401	27.5	2,916	57.2	463	9.1	185	3.6
教科応用力										
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	108	2.1	1,257	24.7	2,938	57.7	563	11.0	230	4.5
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	116	2.3	1,294	25.4	2,806	55.0	601	11.8	284	5.6
生徒の物事を多面的に見る力が高まった	231	4.5	1,891	37.1	2,488	48.8	331	6.5	158	3.1
入試・就職力										
大学入学試験（A0・推薦入試など）で必要となる力が高まった	191	3.7	1,534	30.1	2,564	50.3	453	8.9	352	6.9
大学入学試験（一般入試）の問題を解く力が高まった	151	3.0	1,149	22.6	2,738	53.7	566	11.1	491	9.6
就職で必要となる力が高まった	116	2.3	1,056	20.7	2,897	56.9	574	11.3	447	8.8
教員とのコミュニケーション										
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	497	9.7	2,595	50.8	1,771	34.7	151	3.0	90	1.8

2.4.22. 参加型授業の評価

参加型学習での生徒の活動や成果物について、何らかの方法で評価し、成績に含めているかについて、「参加型学習での生徒の活動や成果物を評価し、成績に含めている」が59.5%、「参加型学習での生徒の活動や成果物を評価しているが、成績には含めていない」が22.7%、「参加型学習での生徒の活動や成果物を評価していない」が17.8%であった。

誰が評価しているかについては、「担当教員（単独）による評価」が56.4%、「生徒同士による相互評価」が23.0%、「生徒自身による自己評価」が21.7%であった。

何を評価しているかについては、「作文やレポートなどの提出物」が49.8%、「生徒の授業への参加度・積極性」が46.5%、「生徒による発表（プレゼンテーション）の内容」が40.5%、「生徒の関心・意欲」が39.0%であった。

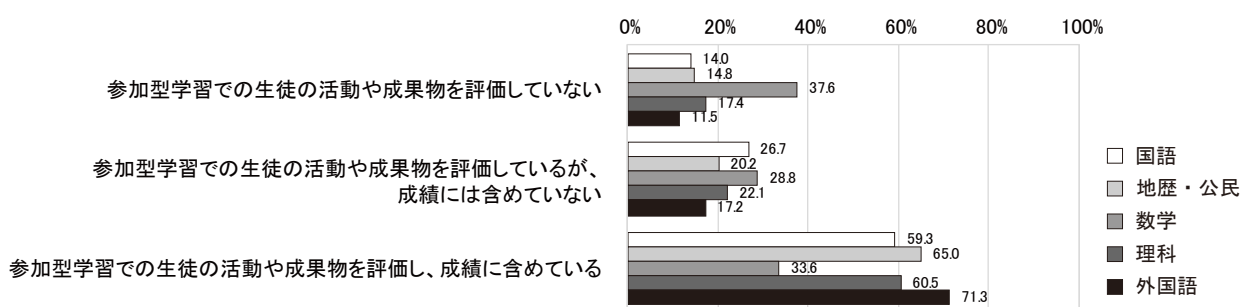


図 81 参加型授業の評価

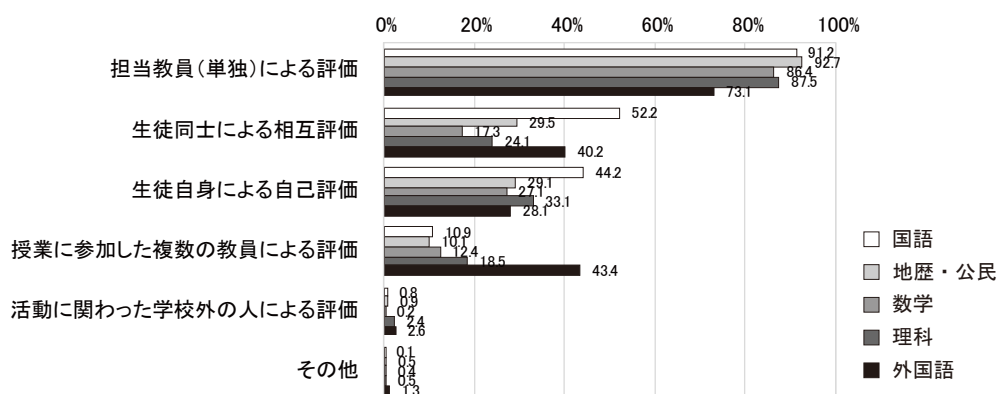


図 82 参加型授業の評価者

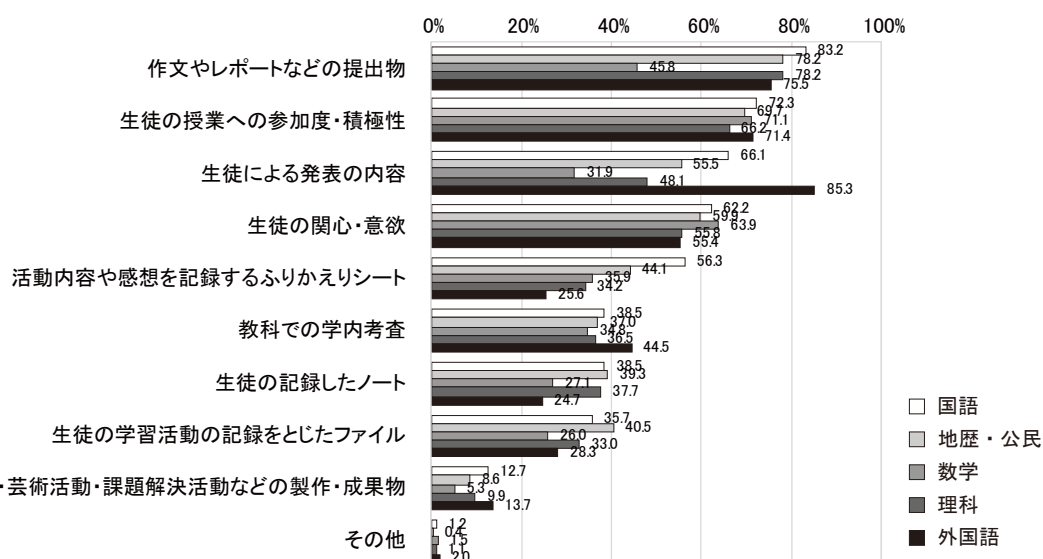


図 83 参加型授業の評価物

表 104 参加型授業の評価（単一選択）

項目	度数	%
参加型学習での生徒の活動や成果物を評価していない	872	17.8
参加型学習での生徒の活動や成果物を評価しているが、成績には含めていない	1,113	22.7
参加型学習での生徒の活動や成果物を評価し、成績に含めている	2,919	59.5
有効回答数	4,904	100.0
非該当	5,392	
無効回答	1	
無回答	274	
合計	10,571	

表 105 参加型授業の評価者（複数選択）

項目	度数	%
担当教員（単独）による評価	3,530	56.4
生徒同士による相互評価	1,443	23.0
生徒自身による自己評価	1,361	21.7
授業に参加した複数の教員による評価	833	13.3
活動に関わった学校外の人による評価	63	1.0
その他	24	0.4
有効回答数	4,111	
非該当	6,264	
無回答	196	
合計	10,571	

表 106 参加型授業の評価物（複数選択）

項目	度数	%
作文やレポートなどの提出物	3,117	49.8
生徒の授業への参加度・積極性	2,910	46.5
生徒による発表（プレゼンテーション）の内容	2,540	40.5
生徒の関心・意欲	2,445	39.0
活動内容や感想を記録するふりかえりシート	1,644	26.2
教科での学内考査	1,610	25.7
生徒の記録したノート	1,404	22.4
生徒の学習活動の記録（プリント・ワークシート・発表資料など）をとじたファイル	1,378	22.0
身体活動・芸術活動・課題解決活動などの製作・成果物	445	7.1
その他	51	0.8
有効回答数	4,145	
非該当	6,264	
無回答	162	
合計	10,571	

2.4.23. 参加型授業の改善

参加型学習を取り入れた授業について、何らかの方法で評価し、その結果を指導計画や授業内容の改善につなげているかについて、「評価に基づいた指導計画や授業内容の改善を行っている」が 52.0%、「評価に基づいた指導計画や授業内容の改善を行っていない」が 48.0%であった。

どのような評価に基づいて改善しているかについては、「教員の感覚や経験による評価に基づいて、指導計画や授業内容の改善を行っている」が 60.0%、「客観的な評価に基づいて、指導計画や授業内容の改善を行っている」が 40.0%であった。

何を根拠に改善しているかについては、「生徒の学習活動の様子」が 77.4%、「生徒の学習活動の成果物（レポートや作品など）」が 71.1%、「生徒の学内考査の成績」が 49.4%、「自身による授業評価・自己分析」が 48.1%、「生徒による授業評価」が 47.8%であった。

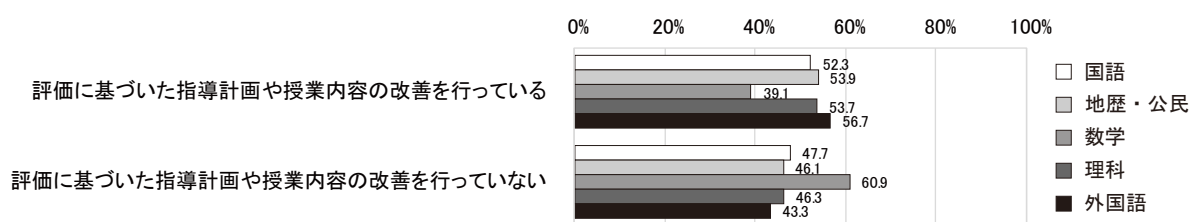


図 84 参加型授業の改善

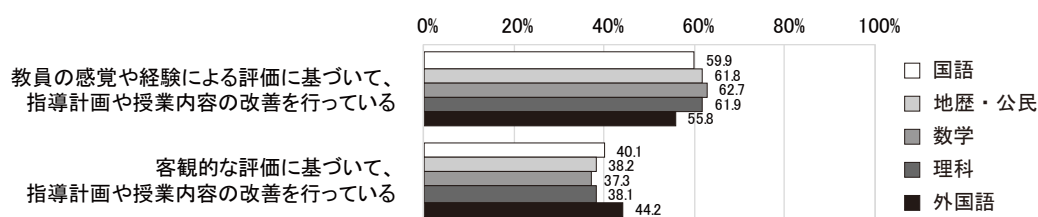


図 85 参加型授業の改善のための評価方法

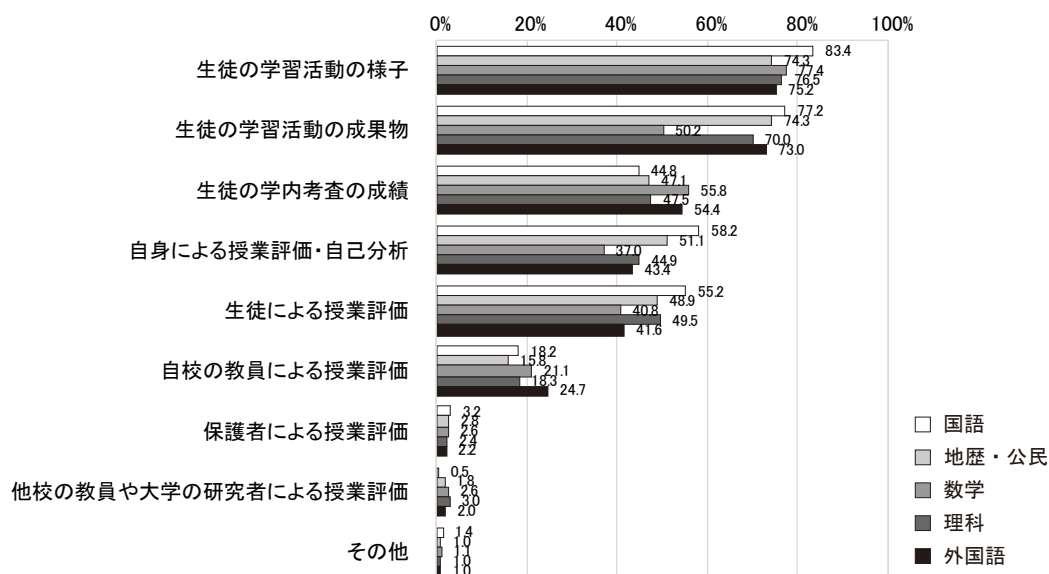


図 86 参加型授業の改善のための根拠

表 107 参加型授業の改善（単一選択）

項目	度数	%
評価に基づいた指導計画や授業内容の改善を行っている	2,618	52.0
評価に基づいた指導計画や授業内容の改善を行っていない	2,419	48.0
有効回答数	5,037	100.0
非該当	5,392	
無効回答	1	
無回答	141	
合計	10,571	

表 108 参加型授業の改善のための評価方法（単一選択）

項目	度数	%
教員の感覚や経験による評価に基づいて、指導計画や授業内容の改善を行っている	1,566	60.0
客観的な評価に基づいて、指導計画や授業内容の改善を行っている	1,044	40.0
有効回答数	2,610	100.0
非該当	7,811	
無効回答	3	
無回答	147	
合計	10,571	

表 109 参加型授業の改善のための根拠（複数選択）

項目	度数	%
生徒の学習活動の様子	1,883	77.4
生徒の学習活動の成果物（レポートや作品など）	1,730	71.1
生徒の学内考査の成績	1,201	49.4
自身による授業評価・自己分析	1,169	48.1
生徒による授業評価	1,163	47.8
自校の教員による授業評価	477	19.6
保護者による授業評価	64	2.6
他校の教員や大学の研究者による授業評価	46	1.9
その他	27	1.1
有効回答数	2,432	
非該当	7,811	
無回答	328	
合計	10,571	

2.4.24. 参加型授業の悩み

参加型学習の実施によって生じた悩み（困難や課題、不安）に関する 25 項目の質問について、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。学校代表者と同様の因子構造を想定した。集計結果を図表に示した。

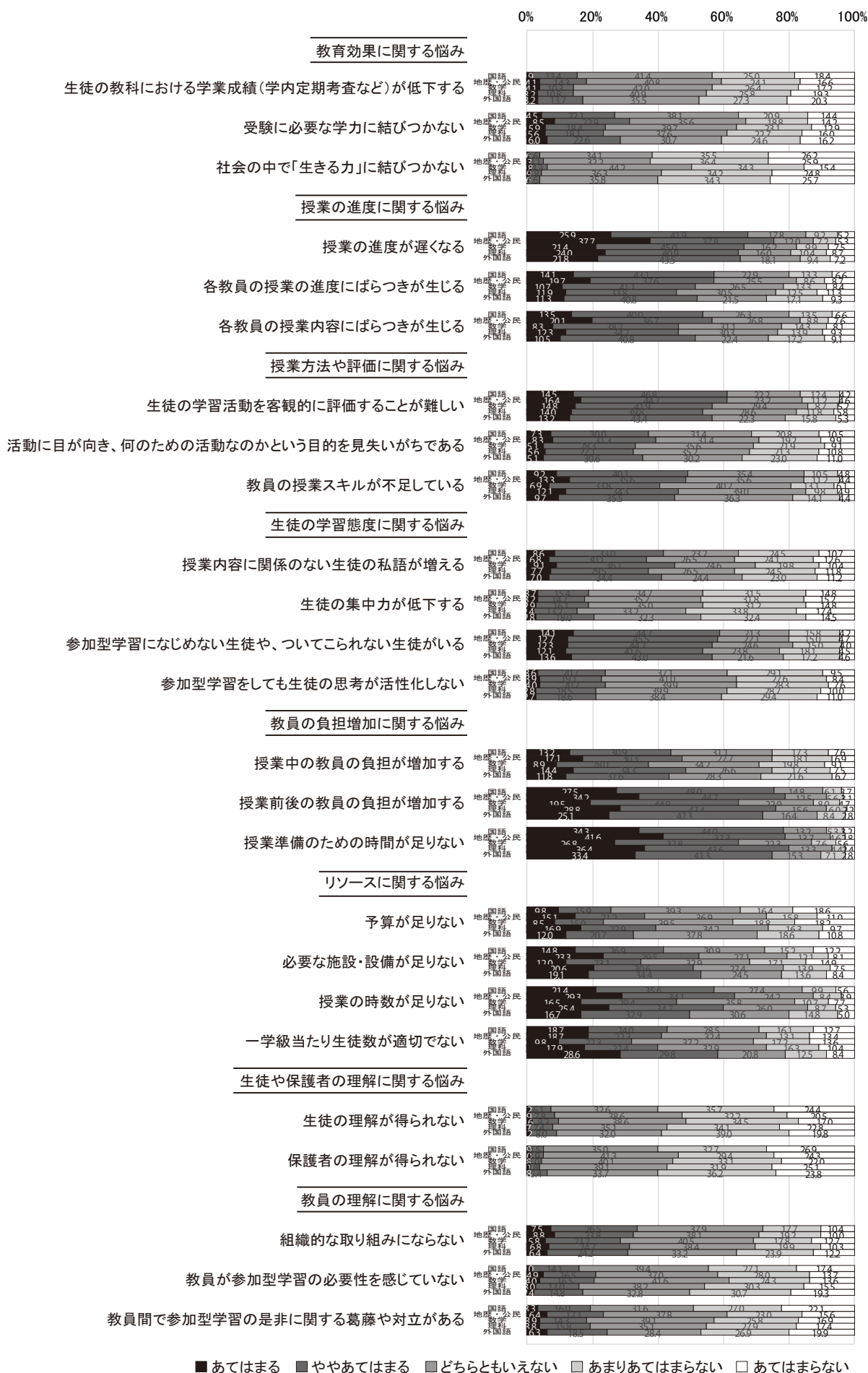


図 87 参加型授業の悩み

表 110 参加型授業の悩みの記述統計（単一選択）

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	非該当	無効回答	無回答
教育効果に関する悩み								
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する	5,067	1	5	2.565	1.031	5,392	0	112
受験に必要な学力に結びつかない	5,067	1	5	2.814	1.110	5,392	0	112
社会の中で「生きる力」に結びつかない	5,061	1	5	2.224	0.890	5,392	1	117
進度に関する悩み								
授業の進度が遅くなる	5,077	1	5	3.716	1.147	5,392	1	101
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	5,070	1	5	3.358	1.138	5,392	0	109
各教員の授業内容にばらつきが生じる	5,069	1	5	3.346	1.117	5,392	0	110
授業方法や評価に関する悩み								
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	5,070	1	5	3.502	1.042	5,392	0	109
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	5,067	1	5	3.003	1.084	5,392	0	112
教員の授業スキルが不足している	5,074	1	5	3.355	0.980	5,392	0	105
生徒の学習態度に関する悩み								
授業内容に関係のない生徒の私語が増える	5,073	1	5	3.019	1.151	5,392	0	106
生徒の集中力が低下する	5,071	1	5	2.587	1.020	5,392	2	106
参加型学習になじめない生徒や、ついてこれない生徒がいる	5,081	1	5	3.447	1.048	5,392	1	97
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	5,070	1	5	2.785	0.973	5,392	0	109
教員の負担増加に関する悩み								
授業中の教員の負担が増加する	5,066	1	5	3.241	1.127	5,392	2	111
授業前後の教員の負担が増加する	5,079	1	5	3.882	0.990	5,392	0	100
授業準備のための時間が足りない	5,070	1	5	3.987	1.009	5,392	0	109
リソースに関する悩み								
予算が足りない	5,065	1	5	3.004	1.186	5,392	0	114
必要な施設・設備が足りない	5,067	1	5	3.316	1.210	5,392	1	111
授業の時数が足りない	5,072	1	5	3.563	1.104	5,392	0	107
一学級当たり生徒数が適切でない	5,066	1	5	3.255	1.253	5,392	0	113
生徒や保護者の理解に関する悩み								
生徒の理解が得られない	5,060	1	5	2.320	0.926	5,392	1	118
保護者の理解が得られない	5,056	1	5	2.240	0.902	5,392	2	121
教員の理解に関する悩み								
組織的な取り組みにならない	5,060	1	5	2.969	1.082	5,392	1	118
教員が参加型学習の必要性を感じていない	5,060	1	5	2.605	1.024	5,392	1	118
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	5,056	1	5	2.626	1.106	5,392	1	122

表 111 参加型授業の悩みの度数分布（単一選択）

項目	あてはまる		ややあてはまる		どちらとも いえない		あまり あてはまらない		あてはまらない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
教育効果に関する悩み										
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する	163	3.2	643	12.7	2,023	39.9	1,302	25.7	936	18.5
受験に必要な学力に結びつかない	307	6.1	1,066	21.0	1,827	36.1	1,114	22.0	753	14.9
社会の中で「生きる力」に結びつかない	49	1.0	194	3.8	1,823	36.0	1,771	35.0	1,224	24.2
進度に関する悩み										
授業の進度が遅くなる	1,334	26.3	2,117	41.7	818	16.1	467	9.2	341	6.7
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	691	13.6	1,993	39.3	1,275	25.1	663	13.1	448	8.8
各教員の授業内容にばらつきが生じる	665	13.1	1,933	38.1	1,371	27.0	689	13.6	411	8.1
授業方法や評価に関する悩み										
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	736	14.5	2,204	43.5	1,254	24.7	622	12.3	254	5.0
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	321	6.3	1,498	29.6	1,647	32.5	1,076	21.2	525	10.4
教員の授業スキルが不足している	526	10.4	1,831	36.1	1,879	37.0	593	11.7	245	4.8
生徒の学習態度に関する悩み										
授業内容に関係のない生徒の私語が増える	394	7.8	1,648	32.5	1,267	25.0	1,188	23.4	576	11.4
生徒の集中力が低下する	153	3.0	787	15.5	1,723	34.0	1,631	32.2	777	15.3
参加型学習になじめない生徒や、ついてこれない生徒がいる	663	13.0	2,223	43.8	1,142	22.5	829	16.3	224	4.4
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	170	3.4	983	19.4	1,984	39.1	1,454	28.7	479	9.4
教員の負担増加に関する悩み										
授業中の教員の負担が増加する	672	13.3	1,581	31.2	1,485	29.3	951	18.8	377	7.4
授業前後の教員の負担が増加する	1,391	27.4	2,368	46.6	813	16.0	344	6.8	163	3.2
授業準備のための時間が足りない	1,769	34.9	2,083	41.1	765	15.1	290	5.7	163	3.2
リソースに関する悩み										
予算が足りない	637	12.6	979	19.3	1,899	37.5	867	17.1	683	13.5
必要な施設・設備が足りない	923	18.2	1,485	29.3	1,433	28.3	721	14.2	505	10.0
授業の時間が足りない	1,116	22.0	1,705	33.6	1,442	28.4	537	10.6	272	5.4
一学級当たり生徒数が適切でない	988	19.5	1,236	24.4	1,504	29.7	754	14.9	584	11.5
生徒や保護者の理解に関する悩み										
生徒の理解が得られない	56	1.1	376	7.4	1,771	35.0	1,784	35.3	1,073	21.2
保護者の理解が得られない	46	0.9	212	4.2	1,897	37.5	1,655	32.7	1,246	24.6
教員の理解に関する悩み										
組織的な取り組みにならない	361	7.1	1,246	24.6	1,889	37.3	1,005	19.9	559	11.0
教員が参加型学習の必要性を感じていない	159	3.1	752	14.9	1,898	37.5	1,434	28.3	817	16.1
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	242	4.8	834	16.5	1,713	33.9	1,326	26.2	941	18.6

2.4.25. 参加型授業の悩みの相談相手

参加型学習に関する悩みの相談相手は、「同校の同教科の教員」が69.8%で最も多く、次いで、「同校の他教科の教員」が9.2%、「同校の管理職」が7.6%であった。

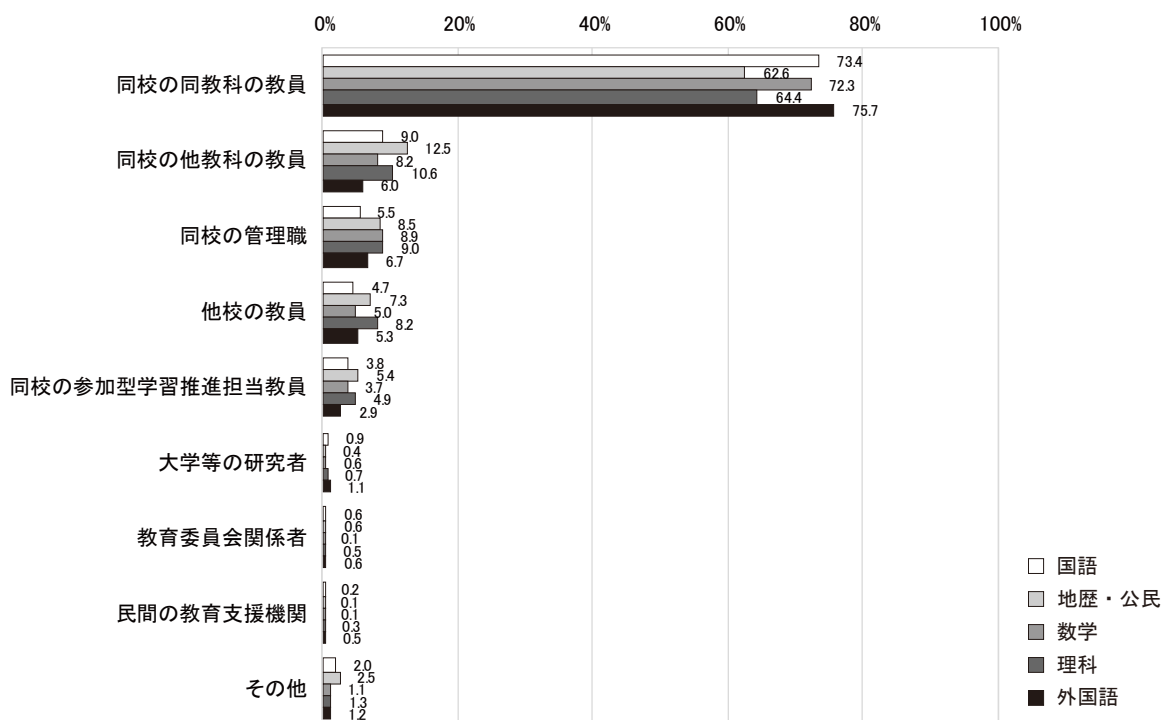


図 88 参加型授業の悩みの相談相手

表 112 参加型授業の悩みの相談相手（単一選択）

項目	度数	%
同校の同教科の教員	3,374	69.8
同校の他教科の教員	445	9.2
同校の管理職	366	7.6
他校の教員	293	6.1
同校の参加型学習推進担当教員	199	4.1
大学等の研究者	37	0.8
教育委員会関係者	26	0.5
民間の教育支援機関	12	0.2
その他	80	1.7
有効回答数	4,832	100.0
非該当	5,392	
無効回答	259	
無回答	88	
合計	10,571	

3. 付録

3.1. 教科主任調査の教科別記述統計

3.2. 尺度構成

3.3. 調査票

3.3.1. 学校代表者調査票

3.3.2. カリキュラム・マネジメント担当者調査票

3.3.3. 教科主任調査票

3.1. 教科主任調査の教科別記述統計

本節では、教科主任調査の教科別度数分布を示す。

表 113 教科主任の経験年数（直接回答）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1～5	1,438	68.4	1,380	67.1	1,530	72.8	1,438	68.4	1,560	74.4
6～10	510	24.3	525	25.5	447	21.3	493	23.5	422	20.1
11～15	94	4.5	99	4.8	85	4.0	111	5.3	85	4.1
16～20	43	2.0	36	1.7	24	1.1	44	2.1	18	0.9
21～25	10	0.5	9	0.4	10	0.5	9	0.4	4	0.2
26～30	4	0.2	4	0.2	1	0.0	3	0.1	6	0.3
31～	4	0.2	5	0.2	5	0.2	4	0.2	3	0.1
有効回答数	2,103	100.0	2,058	100.0	2,102	100.0	2,102	100.0	2,098	100.0
無効回答	1		1		1		2		0	
無回答	24		27		15		17		20	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	
最小値	1		1		1		1		1	
最大値	66		55		66		33		44	
平均値	4.929		5.049		4.453		4.992		4.371	
標準偏差	4.540		4.402		4.248		4.363		3.895	

表 114 教科主任の教職経験年数（直接回答）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1～5	174	8.3	182	8.8	224	10.6	256	12.1	173	8.3
6～10	263	12.5	305	14.8	340	16.2	359	17.0	256	12.2
11～15	227	10.8	309	15.0	393	18.7	327	15.5	269	12.8
16～20	295	14.0	294	14.3	318	15.1	257	12.2	336	16.0
21～25	275	13.1	273	13.2	203	9.6	221	10.5	317	15.1
26～30	387	18.4	337	16.3	271	12.9	326	15.5	364	17.4
31～35	365	17.3	286	13.9	284	13.5	285	13.5	289	13.8
36～40	113	5.4	73	3.5	64	3.0	69	3.3	85	4.1
41～45	3	0.1	3	0.1	4	0.2	6	0.3	4	0.2
46～50	2	0.1	0	0.0	2	0.1	1	0.0	2	0.1
51～	0	0.0	0	0.0	2	0.1	0	0.0	0	0.0
有効回答数	2,104	100.0	2,062	100.0	2,105	100.0	2,107	100.0	2,095	100.0
無効回答	1		4		1		0		0	
無回答	23		20		12		14		23	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	
最小値	1		1		1		1		1	
最大値	66		55		66		33		44	
平均値	4.929		5.049		4.453		4.992		4.371	
標準偏差	4.540		4.402		4.248		4.363		3.895	

表 115 教科主任の指導主事・人事主事経験（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
ない	2,083	98.9	2,006	97.7	2,084	99.4	2,056	98.0	2,071	99.0
ある	23	1.1	47	2.3	13	0.6	42	2.0	20	1.0
有効回答数	2,106	100.0	2,053	100.0	2,097	100.0	2,098	100.0	2,091	100.0
無回答	22		33		21		23		27	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 116 教科主任の指導主事経験年数（直接回答）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1～5	20	95.2	39	84.8	12	100.0	30	78.9	18	90.0
6～10	1	4.8	5	10.9	0	0.0	7	18.4	2	10.0
11～	0	0.0	2	4.3	0	0.0	1	2.6	0	0.0
有効回答数	21	100.0	46	100.0	12	100.0	38	100.0	20	100.0
非該当	2,085		2,007		2,085		2,060		2,071	
無回答	22		33		21		23		27	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	
最小値	1		1		1		1		1	
最大値	6		14		5		12		7	
平均値	3.290		3.390		2.920		3.920		2.850	
標準偏差	1.586		2.824		1.443		2.624		1.631	

表 117 教科主任の人事主事経験年数（直接回答）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1～5	3	100.0	1	100.0	1	100.0	2	100.0	1	100.0
有効回答数	3	100.0	1	100.0	1	100.0	2	100.0	1	100.0
非該当	2,103		2,052		2,096		2,096		2,090	
無回答	22		33		21		23		27	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	
最小値	1		1		3		1		2	
最大値	5		1		3		2		2	
平均値	2.670		1.000		3.000		1.500		2.000	
標準偏差	2.082		—		—		0.707		—	

表 118 教科主任の教員以外の職業経験の有無（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
ない	1,744	83.0	1,555	75.9	1,827	87.6	1,684	80.5	1,662	79.6
ある	358	17.0	493	24.1	258	12.4	407	19.5	427	20.4
有効回答数	2,102	100.0	2,048	100.0	2,085	100.0	2,091	100.0	2,089	100.0
無回答	26		38		33		30		29	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 119 教科主任の最終学歴（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
短期大学	1	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	1	0.0
四年制大学(教員養成系)	354	16.8	229	11.1	416	19.8	282	13.4	303	14.5
四年制大学(教員養成系以外)	1,322	62.7	1,332	64.8	1,179	56.2	1,092	52.0	1,415	67.6
大学院修士課程(教員養成系)	133	6.3	164	8.0	129	6.2	147	7.0	135	6.5
大学院修士課程(教員養成系以外)	234	11.1	280	13.6	335	16.0	502	23.9	199	9.5
大学院博士課程(教員養成系)	3	0.1	4	0.2	3	0.1	8	0.4	3	0.1
大学院博士課程(教員養成系以外)	46	2.2	41	2.0	28	1.3	59	2.8	9	0.4
その他	17	0.8	7	0.3	7	0.3	7	0.3	28	1.3
有効回答数	2,110	100.0	2,057	100.0	2,097	100.0	2,098	100.0	2,093	100.0
無効回答	3		1		2		1		3	
無回答	15		28		19		22		22	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 120 同僚との会話の機会（単一選択）

項目	教科	かなりある		しばしばある		ときどきある		あまりない		まったくない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
授業のことについて、他の教員と会議以外の日常会話の中で話をする機会	国語	627	29.5	874	41.2	525	24.7	92	4.3	5	0.2
	地歴・公民	392	18.8	782	37.6	741	35.6	156	7.5	9	0.4
	数学	598	28.3	920	43.5	530	25.1	63	3.0	2	0.1
	理科	451	21.3	847	40.0	653	30.9	149	7.0	15	0.7
	外国語	671	31.7	878	41.5	490	23.2	73	3.4	4	0.2
生徒のことについて、他の教員と会議以外の日常会話の中で話をする機会	国語	1,122	52.9	757	35.7	227	10.7	14	0.7	1	0.0
	地歴・公民	941	45.3	794	38.2	316	15.2	23	1.1	3	0.1
	数学	942	44.6	869	41.1	292	13.8	10	0.5	0	0.0
	理科	876	41.4	875	41.4	335	15.8	27	1.3	1	0.0
	外国語	1,017	48.2	807	38.2	266	12.6	22	1.0	0	0.0
仕事とは直接関係ないことについて、他の教員と会議以外の日常会話の中で話をする機会	国語	431	20.4	711	33.6	751	35.5	214	10.1	8	0.4
	地歴・公民	381	18.4	747	36.2	717	34.7	202	9.8	19	0.9
	数学	394	18.7	752	35.7	760	36.1	187	8.9	15	0.7
	理科	394	18.7	710	33.6	765	36.3	229	10.9	12	0.6
	外国語	407	19.3	674	32.0	784	37.2	229	10.9	13	0.6

表 121 教科主任の職務行動（単一選択）

項目	教科	とても力を入れて取り組んでいる		力を入れて取り組んでいる		取り組んでいる		取り組んでいない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
カリキュラムの編成・実施・評価・改善									
学校の実態や学校を取り巻く状況に関する情報を収集し、学校の現状を多面的に把握する	国語	152	7.2	691	32.6	1,099	51.9	175	8.3
	地歴・公民	144	6.9	647	31.1	1,148	55.2	142	6.8
	数学	125	5.9	669	31.6	1,141	54.0	179	8.5
	理科	130	6.1	567	26.8	1,198	56.7	219	10.4
	外国語	184	8.7	675	31.9	1,133	53.6	122	5.8
生徒の意見や要望等を収集し、教育活動の充実を図る	国語	143	6.8	715	33.8	1,128	53.3	132	6.2
	地歴・公民	160	7.7	697	33.5	1,090	52.4	134	6.4
	数学	129	6.1	633	29.9	1,171	55.4	181	8.6
	理科	129	6.1	643	30.4	1,134	53.7	207	9.8
	外国語	165	7.8	706	33.4	1,115	52.7	130	6.1
保護者、地域、関係機関等の状況や意見、要望等を収集し、教育活動の充実を図る	国語	49	2.3	391	18.5	1,204	56.9	473	22.3
	地歴・公民	59	2.8	386	18.6	1,210	58.3	420	20.2
	数学	51	2.4	323	15.3	1,250	59.2	489	23.1
	理科	30	1.4	324	15.3	1,182	55.9	579	27.4
	外国語	69	3.3	385	18.2	1,251	59.2	407	19.3
学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえた教科目標の策定や、その実現に向けた経営戦略の構築に積極的に関わる	国語	127	6.0	617	29.2	1,082	51.3	285	13.5
	地歴・公民	102	4.9	570	27.4	1,130	54.4	275	13.2
	数学	120	5.7	608	28.8	1,096	51.9	288	13.6
	理科	99	4.7	568	26.8	1,123	53.1	326	15.4
	外国語	162	7.7	620	29.4	1,081	51.2	248	11.7
学校目標達成に向けた特色ある教育課程や学校経営計画の編成・実施に積極的に関わる	国語	129	6.1	607	28.8	1,100	52.2	271	12.9
	地歴・公民	112	5.4	602	29.0	1,093	52.7	266	12.8
	数学	124	5.9	665	31.6	1,052	50.0	265	12.6
	理科	142	6.7	602	28.5	1,083	51.3	284	13.5
	外国語	165	7.8	601	28.5	1,095	51.9	247	11.7
教育活動や学校運営の状況を客観的に把握した上で、根拠に基づいた評価・改善に努めている	国語	114	5.4	658	31.2	1,133	53.6	207	9.8
	地歴・公民	89	4.3	629	30.3	1,146	55.2	212	10.2
	数学	104	4.9	604	28.6	1,173	55.5	231	10.9
	理科	85	4.0	581	27.5	1,195	56.6	250	11.8
	外国語	114	5.4	660	31.3	1,145	54.3	190	9.0
教科主任として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	国語	181	8.6	564	26.7	1,196	56.5	174	8.2
	地歴・公民	169	8.2	511	24.7	1,213	58.6	178	8.6
	数学	157	7.4	552	26.1	1,181	55.9	224	10.6
	理科	117	5.5	482	22.8	1,224	58.0	288	13.6
	外国語	216	10.2	581	27.5	1,186	56.2	126	6.0
方針の周知									
教科目標について、教員がその背景や趣旨をよく理解できるよう、周知を図る	国語	110	5.2	600	28.4	1,175	55.7	224	10.6
	地歴・公民	94	4.5	530	25.6	1,166	56.2	284	13.7
	数学	119	5.6	577	27.4	1,185	56.2	228	10.8
	理科	66	3.1	508	24.1	1,224	58.0	313	14.8
	外国語	157	7.4	677	32.1	1,103	52.3	172	8.2
教科の指導計画や授業内容について、教員がその背景や趣旨、内容をよく理解するよう働きかける	国語	117	5.6	666	31.6	1,102	52.3	223	10.6
	地歴・公民	111	5.4	560	27.1	1,121	54.2	277	13.4
	数学	151	7.2	686	32.6	1,070	50.8	198	9.4
	理科	83	3.9	567	26.8	1,146	54.3	316	15.0
	外国語	174	8.3	714	34.0	1,026	48.8	187	8.9

続き

項目	教科	とても力を入れて取り組んでいる		力を入れて取り組んでいる		取り組んでいる		取り組んでいない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
自律的な組織づくり	国語								
教員が教材研究や授業・単元開発に取り組むことができるよう環境整備を行う	国語	103	4.9	622	29.5	1,092	51.7	294	13.9
	地歴・公民	134	6.5	558	26.9	1,080	52.1	300	14.5
	数学	126	6.0	566	26.9	1,105	52.4	311	14.8
	理科	135	6.4	598	28.3	1,034	49.0	344	16.3
	外国語	150	7.1	602	28.6	1,060	50.3	295	14.0
日頃の教育活動の実施状況を把握し、教科の指導計画や授業内容の評価・改善に積極的に関わる	国語	109	5.2	660	31.3	1,093	51.9	245	11.6
	地歴・公民	102	4.9	545	26.4	1,116	54.1	300	14.5
	数学	139	6.6	678	32.2	1,060	50.4	228	10.8
	理科	99	4.7	569	27.0	1,131	53.6	312	14.8
	外国語	158	7.5	693	33.1	1,033	49.3	210	10.0
日常の職務やその他あらゆる機会を通じて、職務に必要な知識や技能、態度などについて具体的に指導・助言を行う	国語	84	4.0	431	20.4	1,120	53.1	476	22.5
	地歴・公民	82	4.0	396	19.1	1,081	52.3	509	24.6
	数学	68	3.2	379	18.0	1,156	54.8	506	24.0
	理科	58	2.7	372	17.6	1,133	53.7	548	26.0
	外国語	70	3.3	366	17.4	1,159	55.0	513	24.3
教員同士で支え合い、学びあえる職場づくりを行うための工夫をする	国語	187	8.9	670	31.8	1,035	49.1	216	10.2
	地歴・公民	125	6.0	654	31.6	1,055	51.0	236	11.4
	数学	182	8.6	645	30.6	1,076	51.0	206	9.8
	理科	134	6.3	618	29.3	1,089	51.6	271	12.8
	外国語	182	8.6	675	32.1	1,048	49.8	201	9.5
教員のロールモデルとして、自らの教育方法や指導技術を公開する	国語	88	4.2	335	15.9	1,028	48.7	660	31.3
	地歴・公民	91	4.4	358	17.3	979	47.3	641	31.0
	数学	75	3.6	301	14.3	975	46.2	761	36.0
	理科	73	3.5	292	13.8	990	46.8	759	35.9
	外国語	89	4.2	334	15.9	1,020	48.4	664	31.5
教員の教科の運営に対する参画意識を高める工夫をする	国語	69	3.3	371	17.6	1,115	52.9	551	26.2
	地歴・公民	76	3.7	347	16.8	1,088	52.7	555	26.9
	数学	61	2.9	352	16.7	1,065	50.6	628	29.8
	理科	38	1.8	296	14.1	1,105	52.7	659	31.4
	外国語	81	3.9	396	18.9	1,101	52.6	515	24.6
教員間の豊かなコミュニケーションを促進するとともに、問題解決や合意形成が協働的に行われるようにする	国語	227	10.8	702	33.3	996	47.2	184	8.7
	地歴・公民	186	9.0	635	30.7	1,063	51.4	186	9.0
	数学	180	8.5	673	31.9	1,078	51.1	178	8.4
	理科	150	7.1	668	31.7	1,081	51.2	211	10.0
	外国語	220	10.4	696	33.0	1,039	49.3	152	7.2
教員に対する成長機会の提供									
国や自治体、学校の教育方針についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	国語	28	1.3	111	5.3	549	26.0	1,425	67.4
	地歴・公民	26	1.3	129	6.2	628	30.3	1,291	62.2
	数学	18	0.9	125	5.9	629	29.8	1,339	63.4
	理科	23	1.1	111	5.3	527	24.9	1,452	68.7
	外国語	29	1.4	154	7.3	564	26.8	1,361	64.6
新しい教育方法や先進的な実践事例についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	国語	44	2.1	190	9.0	599	28.3	1,280	60.6
	地歴・公民	63	3.0	206	9.9	658	31.7	1,146	55.3
	数学	40	1.9	197	9.3	674	31.9	1,201	56.9
	理科	43	2.0	200	9.5	597	28.3	1,271	60.2
	外国語	59	2.8	217	10.3	637	30.2	1,197	56.7

続き

項目	教科	とても力を入れて取り組んでいる		力を入れて取り組んでいる		取り組んでいる		取り組んでいない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
リソース獲得への働きかけ									
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材を確保（採用や配置）できるよう管理職に働きかける	国語	105	5.0	334	15.8	909	43.0	766	36.2
	地歴・公民	120	5.8	367	17.7	914	44.0	676	32.5
	数学	87	4.1	319	15.1	851	40.3	855	40.5
	理科	94	4.4	392	18.6	874	41.4	753	35.6
	外国語	109	5.2	344	16.3	867	41.1	790	37.4
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な施設設備を確保できるよう管理職に働きかける	国語	70	3.3	279	13.2	957	45.3	806	38.2
	地歴・公民	96	4.6	403	19.4	999	48.1	577	27.8
	数学	66	3.1	288	13.6	938	44.4	821	38.9
	理科	112	5.3	469	22.2	1,037	49.1	495	23.4
	外国語	99	4.7	361	17.1	1,004	47.6	646	30.6
地域、企業、NPO等の外部の協力を得ながら教育活動を行う	国語	35	1.7	117	5.5	464	21.9	1,498	70.9
	地歴・公民	67	3.2	221	10.7	777	37.4	1,010	48.7
	数学	12	0.6	103	4.9	430	20.4	1,567	74.2
	理科	60	2.8	168	8.0	615	29.1	1,267	60.0
	外国語	43	2.0	152	7.2	576	27.4	1,334	63.4

表 122 教員の様子（単一選択）

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
教員間の支えあい											
同僚同士が、失敗をカバーしたり、支援し合ったりする雰囲気がある	国語	1,047	49.5	775	36.6	195	9.2	78	3.7	22	1.0
	地歴・公民	800	38.5	873	42.0	278	13.4	90	4.3	38	1.8
	数学	939	44.4	870	41.1	224	10.6	60	2.8	22	1.0
	理科	878	41.5	871	41.1	248	11.7	85	4.0	36	1.7
	外国語	962	45.5	832	39.4	215	10.2	75	3.5	29	1.4
新たに採用・着任してきた教員を積極的に支援する雰囲気がある	国語	928	43.8	863	40.7	220	10.4	83	3.9	25	1.2
	地歴・公民	761	36.6	915	44.0	257	12.4	99	4.8	46	2.2
	数学	834	39.5	929	44.0	248	11.7	72	3.4	30	1.4
	理科	802	37.9	896	42.3	292	13.8	93	4.4	34	1.6
	外国語	889	42.1	860	40.7	265	12.5	70	3.3	29	1.4
仕事の悩みを同僚に率直に話す教員が多い	国語	454	21.5	848	40.1	628	29.7	136	6.4	49	2.3
	地歴・公民	363	17.5	821	39.6	661	31.9	172	8.3	54	2.6
	数学	385	18.2	853	40.4	681	32.2	154	7.3	39	1.8
	理科	377	17.8	860	40.7	636	30.1	176	8.3	66	3.1
	外国語	443	21.0	899	42.5	583	27.6	151	7.1	37	1.8
教員間の開かれた関係性											
教科の指導内容やその構成・順序などについて、教員が自由に考えて実践できる余地が多い	国語	1,078	50.9	725	34.2	208	9.8	94	4.4	12	0.6
	地歴・公民	1,005	48.3	767	36.9	218	10.5	73	3.5	16	0.8
	数学	828	39.1	861	40.7	274	12.9	128	6.0	25	1.2
	理科	1,028	48.6	804	38.0	196	9.3	68	3.2	19	0.9
	外国語	937	44.3	792	37.5	262	12.4	102	4.8	20	0.9
教員間で足並みをそろえることよりも、他の教員と異なる実践を展開することの方が重視されている	国語	54	2.6	182	8.6	851	40.2	671	31.7	358	16.9
	地歴・公民	109	5.2	284	13.7	1,005	48.4	471	22.7	208	10.0
	数学	51	2.4	160	7.6	823	38.9	733	34.7	347	16.4
	理科	64	3.0	247	11.7	1,004	47.4	550	26.0	251	11.9
	外国語	58	2.7	218	10.3	806	38.1	698	33.0	333	15.8
会議等では、異なる意見でも言いやすい雰囲気がある	国語	489	23.1	859	40.6	506	23.9	186	8.8	77	3.6
	地歴・公民	416	20.0	809	39.0	561	27.0	193	9.3	98	4.7
	数学	491	23.2	852	40.3	546	25.8	143	6.8	82	3.9
	理科	443	20.9	865	40.9	529	25.0	177	8.4	102	4.8
	外国語	493	23.3	921	43.6	476	22.5	144	6.8	78	3.7
他の教員の授業や学級経営の方法について、指摘しても構わないという雰囲気がある	国語	208	9.8	733	34.7	796	37.7	294	13.9	83	3.9
	地歴・公民	176	8.5	696	33.5	852	41.0	279	13.4	74	3.6
	数学	215	10.2	720	34.1	868	41.1	237	11.2	74	3.5
	理科	181	8.6	697	32.9	838	39.6	307	14.5	93	4.4
	外国語	191	9.1	657	31.1	860	40.8	314	14.9	88	4.2
他の教員の授業を気軽に参観することができる	国語	498	23.5	917	43.3	461	21.8	185	8.7	57	2.7
	地歴・公民	419	20.2	860	41.4	510	24.6	231	11.1	56	2.7
	数学	571	27.0	875	41.4	448	21.2	167	7.9	53	2.5
	理科	496	23.4	880	41.6	487	23.0	193	9.1	60	2.8
	外国語	512	24.2	883	41.8	463	21.9	199	9.4	57	2.7
教員がチームを組んで協力しながら単元開発や教材開発を行っている	国語	185	8.7	693	32.7	632	29.9	432	20.4	175	8.3
	地歴・公民	108	5.2	457	22.0	737	35.5	537	25.8	239	11.5
	数学	151	7.2	601	28.5	697	33.0	471	22.3	191	9.0
	理科	156	7.4	645	30.5	697	32.9	436	20.6	182	8.6
	外国語	337	16.0	782	37.1	553	26.2	317	15.0	121	5.7

続き

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
授業改善への意欲											
授業実践を見直し、意欲的に改善しようとする教員が多い	国語	543	25.6	979	46.2	472	22.3	109	5.1	15	0.7
	地歴・公民	428	20.6	999	48.0	516	24.8	112	5.4	25	1.2
	数学	454	21.5	1,010	47.8	516	24.4	106	5.0	28	1.3
	理科	428	20.2	1,048	49.5	486	23.0	127	6.0	28	1.3
	外国語	515	24.4	1,018	48.2	464	21.9	96	4.5	21	1.0
学習指導や学級経営についての新しい理論や方法を積極的に吸収しようとする教員が多い	国語	354	16.7	934	44.2	648	30.7	153	7.2	25	1.2
	地歴・公民	272	13.1	914	44.0	709	34.1	149	7.2	34	1.6
	数学	286	13.5	890	42.1	741	35.0	171	8.1	27	1.3
	理科	266	12.6	985	46.6	644	30.5	183	8.7	34	1.6
	外国語	368	17.4	976	46.2	615	29.1	128	6.1	26	1.2
授業改善に向けた情報共有											
文部科学省や教育委員会など行政の施策を意識しながら日々の教育実践を行っている	国語	112	5.3	600	28.4	812	38.4	436	20.6	154	7.3
	地歴・公民	107	5.2	663	31.9	780	37.6	393	18.9	133	6.4
	数学	94	4.4	540	25.5	839	39.7	467	22.1	175	8.3
	理科	106	5.0	644	30.4	825	39.0	402	19.0	140	6.6
	外国語	176	8.3	798	37.8	737	34.9	306	14.5	93	4.4
新しい授業方法や教育実践についての知識を同僚同士で交換し合っている	国語	287	13.6	996	47.1	504	23.8	246	11.6	82	3.9
	地歴・公民	204	9.9	860	41.6	614	29.7	298	14.4	91	4.4
	数学	249	11.8	966	45.8	576	27.3	242	11.5	76	3.6
	理科	264	12.5	964	45.6	568	26.9	238	11.3	80	3.8
	外国語	392	18.6	1,001	47.6	477	22.7	186	8.8	48	2.3
保護者や地域との連携											
保護者や地域の人々に対して学校通信や学級通信等を積極的に活用して情報をわかりやすく伝えようとしている	国語	347	16.4	816	38.6	516	24.4	279	13.2	155	7.3
	地歴・公民	296	14.3	790	38.0	570	27.4	262	12.6	159	7.7
	数学	247	11.7	742	35.1	626	29.6	311	14.7	187	8.8
	理科	237	11.2	833	39.3	557	26.3	310	14.6	183	8.6
	外国語	314	14.9	771	36.5	581	27.5	294	13.9	153	7.2
保護者や地域の人々から無理な要求や圧力を感じることもある	国語	91	4.3	405	19.1	592	28.0	611	28.9	418	19.7
	地歴・公民	127	6.1	382	18.4	618	29.8	573	27.6	377	18.2
	数学	94	4.4	335	15.8	644	30.4	624	29.5	418	19.8
	理科	86	4.1	361	17.0	631	29.8	591	27.9	449	21.2
	外国語	86	4.1	288	13.6	633	30.0	669	31.7	437	20.7
保護者や地域の人々と協力した授業づくりや行事づくりを課題として推進している	国語	80	3.8	399	18.8	588	27.8	514	24.3	536	25.3
	地歴・公民	86	4.1	408	19.6	685	33.0	503	24.2	395	19.0
	数学	67	3.2	318	15.0	706	33.4	540	25.5	484	22.9
	理科	67	3.2	421	19.9	684	32.3	531	25.1	414	19.6
	外国語	71	3.4	347	16.4	616	29.2	578	27.4	501	23.7
コミットメント											
多くの教員がこの学校での仕事に意欲的に取り組んでいる	国語	739	34.9	932	44.0	364	17.2	67	3.2	14	0.7
	地歴・公民	570	27.4	974	46.9	408	19.6	91	4.4	34	1.6
	数学	642	30.4	936	44.3	415	19.6	94	4.4	28	1.3
	理科	585	27.7	980	46.3	418	19.8	105	5.0	27	1.3
	外国語	725	34.4	923	43.7	373	17.7	69	3.3	20	0.9
多くの教員がこの学校の教員であることに満足している	国語	384	18.1	753	35.6	784	37.0	141	6.7	55	2.6
	地歴・公民	326	15.7	789	38.0	722	34.7	176	8.5	65	3.1
	数学	355	16.8	757	35.8	796	37.6	153	7.2	54	2.6
	理科	345	16.3	802	37.8	732	34.5	183	8.6	58	2.7
	外国語	378	17.9	761	36.0	787	37.3	141	6.7	45	2.1
多くの教員が教師としての自信を持っている	国語	424	20.1	974	46.1	651	30.8	58	2.7	7	0.3
	地歴・公民	367	17.7	998	48.2	633	30.6	57	2.8	17	0.8
	数学	407	19.3	1,028	48.7	614	29.1	53	2.5	9	0.4
	理科	416	19.7	1,006	47.6	615	29.1	69	3.3	8	0.4
	外国語	424	20.1	995	47.2	627	29.7	55	2.6	8	0.4

表 123 生徒の様子（単一選択）

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
知識・理解・技能											
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能を身につけている	国語	205	9.7	812	38.4	499	23.6	480	22.7	120	5.7
	地歴・公民	222	10.7	708	34.2	542	26.2	469	22.6	130	6.3
	数学	218	10.3	729	34.5	530	25.1	493	23.4	140	6.6
	理科	211	10.0	777	36.8	491	23.3	507	24.0	123	5.8
	外国語	241	11.4	719	34.1	538	25.5	475	22.5	136	6.4
各教科で必要とされる知識・技能を活用する力を身につけている	国語	123	5.8	684	32.4	611	28.9	546	25.8	150	7.1
	地歴・公民	136	6.6	624	30.1	636	30.7	527	25.4	148	7.1
	数学	116	5.5	619	29.3	621	29.4	581	27.5	173	8.2
	理科	110	5.2	622	29.5	622	29.5	581	27.5	176	8.3
	外国語	147	7.0	621	29.4	644	30.5	531	25.2	166	7.9
物事を多面的に見る力や、教科を越えて知識・理解を統合する力を身につけている	国語	88	4.2	475	22.5	661	31.3	690	32.7	196	9.3
	地歴・公民	92	4.5	468	22.7	695	33.6	637	30.8	174	8.4
	数学	72	3.4	416	19.8	699	33.2	702	33.3	216	10.3
	理科	64	3.0	463	22.0	654	31.1	692	32.9	230	10.9
	外国語	97	4.6	484	23.0	738	35.1	608	28.9	178	8.5
思考・表現・コミュニケーション力											
自分の考えを深める思考力、言語で表現する力を身につけている	国語	99	4.7	617	29.3	643	30.5	598	28.4	149	7.1
	地歴・公民	98	4.8	563	27.3	667	32.4	590	28.7	141	6.8
	数学	77	3.7	535	25.4	697	33.1	635	30.1	164	7.8
	理科	92	4.4	543	25.8	666	31.6	648	30.8	157	7.5
	外国語	107	5.1	576	27.4	680	32.3	589	28.0	152	7.2
他者と協働するためのコミュニケーション力、協調性、社会性を身につけている	国語	231	10.9	937	44.3	580	27.4	303	14.3	62	2.9
	地歴・公民	191	9.2	880	42.5	631	30.5	300	14.5	67	3.2
	数学	150	7.1	901	42.8	634	30.1	355	16.9	65	3.1
	理科	191	9.1	923	43.8	605	28.7	313	14.9	74	3.5
	外国語	238	11.3	979	46.5	551	26.2	292	13.9	47	2.2
市民性・課題解決力											
物事や学習に対する積極的な態度を身につけている	国語	186	8.8	716	33.9	662	31.4	445	21.1	102	4.8
	地歴・公民	164	7.9	676	32.7	713	34.5	402	19.4	114	5.5
	数学	129	6.1	688	32.7	718	34.1	455	21.6	114	5.4
	理科	167	7.9	710	33.7	673	31.9	445	21.1	114	5.4
	外国語	189	9.0	711	33.8	712	33.8	404	19.2	90	4.3
日常的な問題場面において、適切な解決を行う能力を身につけている	国語	118	5.6	701	33.2	798	37.7	406	19.2	91	4.3
	地歴・公民	117	5.7	663	32.1	810	39.2	384	18.6	94	4.5
	数学	75	3.6	616	29.2	831	39.4	485	23.0	102	4.8
	理科	97	4.6	665	31.6	814	38.6	433	20.6	98	4.7
	外国語	141	6.7	708	33.6	794	37.7	395	18.8	68	3.2
社会の一員としての自覚や、社会の変化に対応する力を身につけている	国語	118	5.6	637	30.1	804	38.0	445	21.0	111	5.2
	地歴・公民	117	5.7	668	32.3	780	37.8	409	19.8	92	4.5
	数学	85	4.0	585	27.7	837	39.7	490	23.2	112	5.3
	理科	103	4.9	648	30.7	787	37.3	464	22.0	108	5.1
	外国語	136	6.5	658	31.2	832	39.5	400	19.0	82	3.9

表 124 学校の課題（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
生徒の基本的な生活習慣および学習習慣を確立すること	388	19.3	457	23.3	541	27.1	477	23.6	478	24.6
難関大学への進学率を維持・向上させること	293	14.6	307	15.6	364	18.2	327	16.2	269	13.9
社会生活に必要な基礎的な学力を身につけること	293	14.6	200	10.2	207	10.4	211	10.4	201	10.4
四年制大学への高い進学率を達成すること	173	8.6	139	7.1	240	12.0	224	11.1	193	9.9
グローバル社会で活躍する人材を育成すること	182	9.1	150	7.6	167	8.4	189	9.3	273	14.1
地域社会に参加し活躍する人材を育成すること	169	8.4	164	8.3	154	7.7	184	9.1	160	8.2
責任ある主権者として必要な資質や能力を涵養すること	198	9.8	311	15.8	78	3.9	106	5.2	107	5.5
より高度な学問的研究の基礎となる知識や能力を身につけること	143	7.1	95	4.8	97	4.9	139	6.9	112	5.8
責任ある職業人として必要な資質や能力を涵養すること	106	5.3	90	4.6	89	4.5	99	4.9	82	4.2
高等教育機関（専修学校、短期大学、四年制大学）への進学率を維持・向上させること	59	2.9	38	1.9	54	2.7	57	2.8	57	2.9
生徒の就職希望を叶えること	7	0.3	14	0.7	5	0.3	10	0.5	9	0.5
有効回答数	2,011	100.0	1,965	100.0	1,996	100.0	2,023	100.0	1,941	100.0
無効回答	32		29		35		20		43	
無回答	85		92		87		78		134	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 125 教科でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況（単一選択）

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
特色あるカリキュラム編成											
〇〇科の教科目標は、学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえ、特色あるものとなっている	国語	300	14.2	940	44.4	666	31.5	166	7.8	43	2.0
	地歴・公民	212	10.2	916	44.1	733	35.3	158	7.6	57	2.7
	数学	250	11.8	968	45.9	677	32.1	172	8.2	43	2.0
	理科	250	11.8	890	42.2	700	33.2	215	10.2	55	2.6
	外国語	344	16.3	971	46.0	600	28.4	157	7.4	40	1.9
〇〇科の指導計画や授業内容は、学校教育目標の達成を意識し、授業時間の配当に工夫が加えられている	国語	347	16.4	1,052	49.7	517	24.4	161	7.6	39	1.8
	地歴・公民	233	11.2	976	47.0	628	30.3	186	9.0	53	2.6
	数学	364	17.2	1,146	54.3	447	21.2	117	5.5	37	1.8
	理科	258	12.2	981	46.5	554	26.3	243	11.5	72	3.4
	外国語	354	16.8	1,018	48.2	560	26.5	145	6.9	33	1.6
〇〇科では、学校教育目標の達成を意識した、特色ある教育活動が展開されている	国語	232	11.0	956	45.3	702	33.3	187	8.9	33	1.6
	地歴・公民	173	8.3	869	41.9	818	39.4	180	8.7	34	1.6
	数学	184	8.7	932	44.2	793	37.6	159	7.5	39	1.9
	理科	204	9.7	869	41.3	752	35.7	231	11.0	48	2.3
	外国語	277	13.2	937	44.6	696	33.1	156	7.4	37	1.8
目標達成に向けたPDCAの推進											
〇〇科では、学校教育目標の達成を意識した、教科横断・統合的な視点に立った科目・授業が設置されている	国語	157	7.4	723	34.2	688	32.6	396	18.8	147	7.0
	地歴・公民	113	5.5	663	32.0	777	37.5	347	16.7	172	8.3
	数学	151	7.2	663	31.4	746	35.4	396	18.8	154	7.3
	理科	146	6.9	649	30.8	743	35.3	358	17.0	211	10.0
	外国語	155	7.4	619	29.4	806	38.3	359	17.0	167	7.9
〇〇科には、各教員が学校教育目標の達成を常に意識しながら教育・指導を行うよう働きかける仕組みがある（研修や研究会、組織体制など）	国語	147	7.0	642	30.4	684	32.4	432	20.5	205	9.7
	地歴・公民	111	5.4	579	27.9	749	36.1	456	22.0	179	8.6
	数学	132	6.3	646	30.6	755	35.8	398	18.9	177	8.4
	理科	109	5.2	594	28.1	742	35.1	456	21.6	211	10.0
	外国語	155	7.3	671	31.8	728	34.5	418	19.8	138	6.5
〇〇科には、教育活動の結果を評価し、根拠に基づいて指導計画や授業内容の改善を行う仕組みがある	国語	174	8.3	719	34.2	693	32.9	386	18.3	133	6.3
	地歴・公民	108	5.2	632	30.6	826	40.0	368	17.8	129	6.3
	数学	112	5.3	730	34.6	806	38.2	338	16.0	122	5.8
	理科	104	4.9	628	29.9	812	38.6	401	19.1	158	7.5
	外国語	157	7.5	709	33.7	759	36.1	348	16.5	130	6.2
学校内外のリソース活用											
〇〇科では、教育活動に必要な人的・物的資源について、学校内の資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている（学校内の施設設備の活用や、教職員などの人材の活用など）	国語	197	9.3	858	40.5	684	32.3	299	14.1	78	3.7
	地歴・公民	183	8.8	863	41.7	685	33.1	262	12.7	75	3.6
	数学	179	8.5	864	41.0	702	33.3	282	13.4	81	3.8
	理科	256	12.1	994	47.2	576	27.3	215	10.2	67	3.2
	外国語	243	11.5	957	45.4	628	29.8	213	10.1	66	3.1
〇〇科では、教育活動に必要な人的・物的資源について、学校外の資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている（地域、NPO等の活動団体、大学、行政等の施設設備や人材の活用など）	国語	53	2.5	261	12.3	539	25.5	722	34.2	539	25.5
	地歴・公民	97	4.7	501	24.2	633	30.6	580	28.1	256	12.4
	数学	34	1.6	205	9.7	592	28.1	734	34.8	543	25.8
	理科	135	6.4	470	22.3	568	27.0	576	27.4	357	17.0
	外国語	99	4.7	408	19.4	599	28.4	607	28.8	395	18.7

表 126 教科でのカリキュラム・マネジメントに関する悩み（単一選択）

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
カリキュラムの編成・実施に関する悩み											
生徒の実態や学校を取り巻く環境を踏まえて学校の特色を出すのが難しい	国語	157	7.4	618	29.2	584	27.6	616	29.2	138	6.5
	地歴・公民	144	7.0	627	30.3	639	30.9	545	26.3	114	5.5
	数学	163	7.7	650	30.8	652	30.9	549	26.0	95	4.5
	理科	176	8.3	663	31.5	687	32.6	455	21.6	127	6.0
	外国語	170	8.1	665	31.5	652	30.9	487	23.1	134	6.4
学校教育目標の実現に向けて、指導計画や授業内容をどう具体化すればよいかわからない	国語	46	2.2	355	16.8	597	28.3	872	41.3	243	11.5
	地歴・公民	42	2.0	354	17.1	703	34.0	752	36.4	214	10.4
	数学	56	2.7	364	17.3	712	33.8	811	38.5	162	7.7
	理科	53	2.5	379	18.0	731	34.7	747	35.5	195	9.3
	外国語	56	2.7	455	21.6	651	30.9	746	35.4	199	9.4
学校教育目標と実際に実施されている指導計画や授業内容との間にずれがある	国語	59	2.8	340	16.1	607	28.8	807	38.2	298	14.1
	地歴・公民	71	3.4	370	17.9	700	33.9	725	35.1	200	9.7
	数学	52	2.5	302	14.3	724	34.4	792	37.6	237	11.2
	理科	93	4.4	350	16.6	745	35.4	731	34.7	188	8.9
	外国語	91	4.3	418	19.8	681	32.3	724	34.4	192	9.1
カリキュラムの評価・改善に関する悩み											
学校の成果や課題をどう評価・把握すればよいかわからない	国語	45	2.1	295	14.0	587	27.9	878	41.7	301	14.3
	地歴・公民	40	1.9	314	15.3	728	35.4	746	36.2	231	11.2
	数学	61	2.9	312	14.8	654	31.1	840	39.9	237	11.3
	理科	62	2.9	344	16.4	678	32.2	818	38.9	201	9.6
	外国語	47	2.2	327	15.5	666	31.7	816	38.8	247	11.7
指導計画や授業内容を評価・改善するための時間を確保できない	国語	453	21.5	789	37.4	427	20.2	345	16.3	97	4.6
	地歴・公民	438	21.2	740	35.8	482	23.3	315	15.3	90	4.4
	数学	288	13.7	754	35.8	546	25.9	395	18.7	124	5.9
	理科	436	20.7	767	36.4	493	23.4	338	16.0	73	3.5
	外国語	436	20.7	783	37.1	447	21.2	367	17.4	75	3.6
評価の結果をどう具体的な改善策につなげればよいかわからない	国語	61	2.9	430	20.4	717	34.1	704	33.5	191	9.1
	地歴・公民	57	2.8	410	19.9	822	39.9	609	29.5	163	7.9
	数学	68	3.2	377	18.0	855	40.7	649	30.9	151	7.2
	理科	66	3.1	399	19.0	808	38.4	694	33.0	135	6.4
	外国語	58	2.8	470	22.3	735	35.0	677	32.2	163	7.8
管理職やカリマネ担当者との連携に関する悩み											
管理職とうまく連携できていない	国語	93	4.4	250	11.8	608	28.7	810	38.3	354	16.7
	地歴・公民	109	5.3	239	11.6	683	33.0	722	34.9	316	15.3
	数学	90	4.3	239	11.3	616	29.1	818	38.7	351	16.6
	理科	94	4.4	258	12.2	656	31.0	788	37.3	317	15.0
	外国語	73	3.5	263	12.5	570	27.1	803	38.1	397	18.9
カリキュラム・マネジメント担当者とうまく連携できていない	国語	75	3.6	173	8.2	782	37.1	755	35.8	323	15.3
	地歴・公民	81	3.9	197	9.5	846	40.9	655	31.6	291	14.1
	数学	54	2.6	179	8.5	793	37.5	759	35.9	328	15.5
	理科	95	4.5	188	8.9	855	40.5	677	32.1	295	14.0
	外国語	50	2.4	156	7.4	786	37.3	750	35.6	364	17.3

続き

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
自律的な組織づくりに関する悩み											
学校教育目標や学校の方針が教員間で共有できていない	国語	127	6.0	285	13.5	556	26.4	808	38.3	334	15.8
	地歴・公民	121	5.9	328	15.9	683	33.1	683	33.1	251	12.1
	数学	101	4.8	315	15.0	618	29.3	808	38.3	265	12.6
	理科	116	5.5	318	15.1	683	32.4	749	35.5	241	11.4
	外国語	104	4.9	322	15.3	568	27.0	789	37.5	322	15.3
組織的な教育活動の改善に向けての教員の自主性を引き出せない	国語	77	3.7	396	18.8	765	36.3	664	31.5	206	9.8
	地歴・公民	75	3.6	346	16.7	788	38.1	673	32.6	185	9.0
	数学	59	2.8	332	15.7	792	37.6	736	34.9	189	9.0
	理科	69	3.3	320	15.2	824	39.1	709	33.6	185	8.8
	外国語	62	3.0	350	16.7	808	38.5	690	32.9	189	9.0
人事異動により組織的な取り組みとまらない	国語	152	7.2	425	20.2	672	32.0	536	25.5	317	15.1
	地歴・公民	168	8.1	408	19.7	687	33.3	529	25.6	274	13.3
	数学	120	5.7	392	18.6	686	32.5	608	28.8	303	14.4
	理科	156	7.4	395	18.7	698	33.0	558	26.4	306	14.5
	外国語	142	6.8	401	19.2	641	30.6	600	28.7	309	14.8
指導計画や授業内容の改善に関する知識や方法が教員間に共有されていない	国語	79	3.7	375	17.8	626	29.7	818	38.8	211	10.0
	地歴・公民	82	4.0	409	19.8	739	35.8	667	32.3	168	8.1
	数学	57	2.7	328	15.6	699	33.1	820	38.9	205	9.7
	理科	78	3.7	378	17.9	728	34.5	748	35.4	181	8.6
	外国語	74	3.5	415	19.7	636	30.3	757	36.0	220	10.5
指導計画や授業内容の改善に組織的に取り組むための仕組みがない	国語	135	6.4	417	19.8	609	28.9	711	33.7	238	11.3
	地歴・公民	130	6.3	391	18.9	685	33.1	655	31.7	206	10.0
	数学	95	4.5	403	19.1	653	30.9	746	35.3	215	10.2
	理科	129	6.1	427	20.2	661	31.3	687	32.6	206	9.8
	外国語	113	5.4	422	20.1	626	29.8	703	33.4	238	11.3
教科間の連携・調整に関する悩み											
各教員の時数や教育内容に関する要望を調整するのが難しい	国語	282	13.4	621	29.4	568	26.9	471	22.3	168	8.0
	地歴・公民	275	13.3	609	29.5	575	27.8	469	22.7	139	6.7
	数学	201	9.5	565	26.8	581	27.5	574	27.2	191	9.0
	理科	282	13.3	638	30.2	564	26.7	478	22.6	151	7.1
	外国語	251	11.9	611	29.0	556	26.4	526	25.0	161	7.6
教科を越えた連携ができていない	国語	341	16.2	772	36.6	604	28.6	300	14.2	92	4.4
	地歴・公民	340	16.4	647	31.3	656	31.7	315	15.2	111	5.4
	数学	312	14.8	747	35.5	626	29.7	334	15.9	87	4.1
	理科	330	15.6	735	34.8	619	29.3	343	16.2	86	4.1
	外国語	366	17.4	745	35.4	624	29.6	291	13.8	81	3.8
リソースに関する悩み											
指導計画や授業内容を改善するための施設設備が足りない	国語	321	15.3	612	29.1	628	29.9	402	19.1	138	6.6
	地歴・公民	439	21.3	665	32.3	557	27.1	302	14.7	95	4.6
	数学	261	12.4	557	26.5	709	33.8	421	20.1	151	7.2
	理科	353	16.8	674	32.0	573	27.2	392	18.6	112	5.3
	外国語	420	20.0	706	33.7	535	25.5	328	15.6	108	5.2
外部の人的・物的資源を活用しながら指導計画や授業内容の改善に取り組みたいが、そのための外部とのつながりが少ない	国語	257	12.2	575	27.3	790	37.5	349	16.6	135	6.4
	地歴・公民	161	7.8	522	25.4	804	39.1	427	20.8	140	6.8
	数学	215	10.3	539	25.7	890	42.5	322	15.4	128	6.1
	理科	164	7.8	543	25.9	815	38.8	442	21.1	134	6.4
	外国語	202	9.6	557	26.6	839	40.0	373	17.8	126	6.0

表 127 教科でのカリキュラム・マネジメントの悩みの相談相手（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
同校の同僚教員	990	47.6	921	45.3	918	44.1	856	41.0	1,047	50.5
同校の先輩教員	653	31.4	568	27.9	732	35.1	641	30.7	518	25.0
同校の管理職	230	11.1	262	12.9	242	11.6	296	14.2	263	12.7
他校の教員	82	3.9	129	6.3	93	4.5	159	7.6	129	6.2
同校のカリキュラム・マネジメント 担当教員	68	3.3	96	4.7	69	3.3	69	3.3	54	2.6
大学等の研究者	14	0.7	12	0.6	6	0.3	12	0.6	21	1.0
教育委員会関係者	10	0.5	10	0.5	5	0.2	14	0.7	14	0.7
民間の教育支援機関	8	0.4	1	0.0	6	0.3	8	0.4	6	0.3
その他	25	1.2	34	1.7	12	0.6	33	1.6	21	1.0
有効回答数	2,080	100.0	2,033	100.0	2,083	100.0	2,088	100.0	2,073	100.0
無効回答	28		25		20		20		25	
無回答	20		28		15		13		20	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 128 教科での大学との連携・接続（複数選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
大学で学ぶ力を育むことを意図した探究的な授業等	446	21.0	425	20.4	318	15.0	416	19.6	308	14.5
大学等の研究者を講師に招いて実施している授業等	193	9.1	326	15.6	238	11.2	529	24.9	352	16.6
大学や学会、研究会の場で教員・生徒が情報発信・提案する実践	110	5.2	138	6.6	124	5.9	252	11.9	163	7.7
大学の施設を利用して実施した授業等	57	2.7	92	4.4	87	4.1	278	13.1	118	5.6
大学生を講師（講演会のゲストスピーカーなど）に招いて実施する授業等	90	4.2	124	5.9	91	4.3	156	7.4	156	7.4
大学と連携した授業開発	67	3.1	124	5.9	82	3.9	183	8.6	130	6.1
大学生が支援する授業等	45	2.1	57	2.7	64	3.0	78	3.7	99	4.7
有効回答数	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 129 教科での社会との連携・接続（複数選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
グローバル社会とのつながりを意識した授業等（海外の学校、企業、大学、研究機関との連携など）	111	5.2	222	10.6	131	6.2	292	13.8	623	29.4
職業観の育成や生徒のキャリアを意識した授業等（職業体験やインターンシップなど）	254	11.9	347	16.6	191	9.0	235	11.1	187	8.8
政治や行政とのつながりを意識した授業等（議員や議会、裁判所、市町村の役所、選挙管理委員会、市民団体との連携など）	38	1.8	825	39.5	18	0.8	30	1.4	39	1.8
地域の特性を生かした授業等（地域住民や市民団体、地域の基幹産業、商店街との連携など）	128	6.0	312	15.0	59	2.8	266	12.5	155	7.3
生涯学習を意識した授業等（博物館や美術館、図書館、青少年センター、生涯学習センターとの連携など）	229	10.8	205	9.8	39	1.8	218	10.3	45	2.1
多様性ある社会の形成を意識した授業等（障がい者支援施設、市民団体との連携など）	46	2.2	72	3.5	20	0.9	39	1.8	46	2.2
有効回答数	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 130 教科での現在の参加型授業への取り組み状況（複数選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
〇〇科ではまったく取り組まれていない	50	2.3	121	5.8	258	12.2	136	6.4	71	3.4
独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる	1,601	75.2	1,642	78.7	1,499	70.8	1,582	74.6	1,389	65.6
教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている	531	25.0	407	19.5	351	16.6	417	19.7	652	30.8
教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している	199	9.4	120	5.8	129	6.1	164	7.7	358	16.9
参加型学習の実施について、教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている	429	20.2	360	17.3	300	14.2	368	17.4	433	20.4
有効回答数	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 131 教科での参加型授業への取り組み状況と今後の見通し（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
今後取り組む見込みはない	57	2.7	66	3.2	121	5.7	61	2.9	35	1.7
ここ数年間で取り組む予定はない	190	9.0	207	10.1	392	18.6	235	11.2	138	6.6
ここ数年間で取り組むことを検討している	610	28.9	694	33.8	786	37.3	691	32.8	655	31.3
ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である	84	4.0	89	4.3	77	3.7	85	4.0	119	5.7
すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である	6	0.3	14	0.7	6	0.3	10	0.5	6	0.3
すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である	559	26.5	456	22.2	400	19.0	496	23.6	526	25.1
すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である	600	28.4	527	25.7	323	15.3	526	25.0	617	29.4
有効回答数	2,106	100.0	2,053	100.0	2,105	100.0	2,104	100.0	2,096	100.0
無効回答	7		14		5		8		9	
無回答	15		19		8		9		13	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 132 参加型授業のねらい（単一選択）

項目	教科	とても重視 している		重視している		やや重視 している		どちらとも いえない		あまり重視 していない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
思考・表現力											
自分の考えを言語で表現する力	国語	587	52.1	439	39.0	91	8.1	9	0.8	1	0.1
	地歴・公民	368	37.7	435	44.5	142	14.5	24	2.5	8	0.8
	数学	245	33.8	289	39.9	130	18.0	47	6.5	13	1.8
	理科	363	36.3	418	41.8	177	17.7	36	3.6	6	0.6
	外国語	501	44.7	448	39.9	138	12.3	32	2.9	3	0.3
これまでにない発想をしようとする 創造性	国語	150	13.3	358	31.8	372	33.0	193	17.1	53	4.7
	地歴・公民	128	13.2	310	32.0	282	29.1	191	19.7	58	6.0
	数学	90	12.5	200	27.7	207	28.7	167	23.2	57	7.9
	理科	123	12.3	287	28.6	302	30.1	221	22.0	70	7.0
	外国語	148	13.2	289	25.9	362	32.4	253	22.6	65	5.8
自分の考えを深める思考力	国語	445	39.4	489	43.3	167	14.8	24	2.1	4	0.4
	地歴・公民	292	30.0	445	45.7	195	20.0	36	3.7	5	0.5
	数学	193	26.7	294	40.7	183	25.3	41	5.7	12	1.7
	理科	289	28.8	435	43.3	229	22.8	43	4.3	9	0.9
	外国語	297	26.6	430	38.5	288	25.8	86	7.7	16	1.4
課題解決力											
課題を見つけ、自分がすべきことを 考える課題設定力	国語	262	23.2	426	37.8	305	27.0	118	10.5	17	1.5
	地歴・公民	213	22.0	391	40.3	252	26.0	86	8.9	28	2.9
	数学	110	15.2	232	32.1	218	30.2	126	17.4	37	5.1
	理科	246	24.6	319	31.8	259	25.8	136	13.6	42	4.2
	外国語	196	17.5	379	33.9	318	28.5	191	17.1	33	3.0
自分で情報を収集し、分析し、整理 する力	国語	283	25.0	488	43.2	280	24.8	71	6.3	8	0.7
	地歴・公民	250	25.7	453	46.6	205	21.1	54	5.6	10	1.0
	数学	117	16.2	256	35.4	218	30.2	101	14.0	31	4.3
	理科	257	25.6	417	41.6	218	21.7	89	8.9	22	2.2
	外国語	226	20.3	414	37.1	308	27.6	147	13.2	20	1.8
課題解決への道筋を考え、主体的に 行動する問題解決力	国語	337	29.8	455	40.3	247	21.9	83	7.3	8	0.7
	地歴・公民	266	27.4	404	41.6	225	23.1	62	6.4	15	1.5
	数学	207	28.6	292	40.4	164	22.7	43	5.9	17	2.4
	理科	297	29.6	391	39.0	222	22.2	78	7.8	14	1.4
	外国語	240	21.5	396	35.4	304	27.2	157	14.0	21	1.9
主体性											
途中であきらめず最後まで粘り強く 取り組む力	国語	241	21.3	427	37.8	295	26.1	133	11.8	33	2.9
	地歴・公民	209	21.5	325	33.5	268	27.6	140	14.4	29	3.0
	数学	191	26.4	281	38.9	179	24.8	57	7.9	15	2.1
	理科	212	21.1	352	35.1	288	28.7	126	12.6	25	2.5
	外国語	276	24.7	411	36.8	306	27.4	105	9.4	19	1.7
何事にも積極的に取り組む意欲	国語	350	29.8	505	43.1	255	21.7	58	4.9	5	0.4
	地歴・公民	262	26.1	446	44.4	224	22.3	56	5.6	16	1.6
	数学	200	27.2	324	44.1	161	21.9	41	5.6	8	1.1
	理科	277	26.9	446	43.4	244	23.7	53	5.2	8	0.8
	外国語	378	32.6	494	42.6	239	20.6	40	3.5	8	0.7
他者から言われなくても自分から主 体的に学ぶ意欲	国語	355	30.2	483	41.1	254	21.6	74	6.3	8	0.7
	地歴・公民	258	25.7	435	43.4	241	24.0	57	5.7	12	1.2
	数学	180	24.6	307	41.9	177	24.2	54	7.4	14	1.9
	理科	265	25.8	428	41.6	258	25.1	64	6.2	13	1.3
	外国語	337	29.1	496	42.8	241	20.8	72	6.2	13	1.1

続き

項目	教科	とても重視している		重視している		やや重視している		どちらともいえない		あまり重視していない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
市民性											
勤労観や職業観	国語	83	7.3	243	21.4	336	29.7	308	27.2	163	14.4
	地歴・公民	93	9.6	276	28.5	284	29.3	237	24.4	80	8.2
	数学	31	4.3	83	11.5	166	23.0	251	34.7	192	26.6
	理科	45	4.5	152	15.2	284	28.4	338	33.8	182	18.2
	外国語	77	6.9	200	17.8	317	28.3	362	32.3	165	14.7
社会の一員としての市民性意識	国語	88	7.8	273	24.1	330	29.2	298	26.3	143	12.6
	地歴・公民	153	15.8	333	34.3	288	29.7	160	16.5	37	3.8
	数学	33	4.6	72	10.0	164	22.7	259	35.8	195	27.0
	理科	47	4.7	143	14.3	260	26.0	356	35.6	194	19.4
	外国語	89	8.0	208	18.6	329	29.4	345	30.8	148	13.2
社会変化に対応できる柔軟性	国語	204	17.4	420	35.9	333	28.5	167	14.3	46	3.9
	地歴・公民	178	17.8	383	38.3	297	29.7	123	12.3	20	2.0
	数学	81	11.1	167	22.8	211	28.9	195	26.7	77	10.5
	理科	115	11.2	282	27.5	326	31.8	234	22.8	69	6.7
	外国語	190	16.4	382	33.0	319	27.5	207	17.9	60	5.2
自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	国語	228	19.5	428	36.6	295	25.2	163	13.9	56	4.8
	地歴・公民	196	19.6	381	38.0	256	25.5	128	12.8	41	4.1
	数学	71	9.7	144	19.7	205	28.0	188	25.7	123	16.8
	理科	121	11.8	275	26.9	305	29.8	231	22.6	92	9.0
	外国語	200	17.3	398	34.4	305	26.3	197	17.0	58	5.0
協働性											
主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	国語	474	41.9	466	41.2	163	14.4	25	2.2	4	0.4
	地歴・公民	327	33.6	416	42.7	190	19.5	32	3.3	9	0.9
	数学	202	27.9	303	41.9	160	22.1	47	6.5	12	1.7
	理科	307	30.6	404	40.3	227	22.6	52	5.2	13	1.3
	外国語	448	39.9	441	39.3	181	16.1	46	4.1	7	0.6
他者と協力するための社会性や協調性	国語	418	37.0	491	43.4	188	16.6	30	2.7	4	0.4
	地歴・公民	294	30.3	432	44.6	186	19.2	48	5.0	9	0.9
	数学	191	26.4	283	39.1	179	24.8	58	8.0	12	1.7
	理科	282	28.1	415	41.3	237	23.6	59	5.9	12	1.2
	外国語	387	34.6	453	40.5	213	19.0	54	4.8	12	1.1
教科基礎力											
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	国語	310	27.4	425	37.5	258	22.8	95	8.4	44	3.9
	地歴・公民	226	23.3	408	42.0	219	22.5	87	9.0	32	3.3
	数学	204	28.3	301	41.7	157	21.7	41	5.7	19	2.6
	理科	248	24.7	433	43.2	224	22.3	73	7.3	25	2.5
	外国語	357	32.0	477	42.7	206	18.4	51	4.6	26	2.3
教科内容に対する知的好奇心	国語	378	33.5	515	45.6	193	17.1	41	3.6	2	0.2
	地歴・公民	342	35.2	440	45.3	160	16.5	28	2.9	1	0.1
	数学	182	25.2	307	42.5	179	24.8	45	6.2	9	1.2
	理科	354	35.2	438	43.6	175	17.4	32	3.2	6	0.6
	外国語	317	28.4	505	45.2	224	20.1	63	5.6	8	0.7
文章などを正確に読み解く力	国語	388	34.4	470	41.6	201	17.8	58	5.1	12	1.1
	地歴・公民	197	20.3	422	43.5	250	25.8	87	9.0	14	1.4
	数学	121	16.8	244	33.8	213	29.5	117	16.2	26	3.6
	理科	165	16.5	360	36.0	309	30.9	123	12.3	43	4.3
	外国語	288	25.8	429	38.5	262	23.5	105	9.4	31	2.8

続き

項目	教科	とても重視 している		重視している		やや重視 している		どちらとも いえない		あまり重視 していない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
教科応用力											
各教科で身につけた知識・技能を活用する力	国語	350	31.0	530	47.0	191	16.9	51	4.5	6	0.5
	地歴・公民	281	28.9	474	48.7	169	17.4	41	4.2	8	0.8
	数学	210	29.0	340	46.9	128	17.7	39	5.4	8	1.1
	理科	316	31.5	444	44.3	201	20.0	34	3.4	8	0.8
	外国語	401	35.7	512	45.6	163	14.5	40	3.6	6	0.5
教科を越えた知識や理解の統合	国語	171	15.2	382	33.9	314	27.9	209	18.5	51	4.5
	地歴・公民	135	13.9	312	32.1	286	29.5	184	18.9	54	5.6
	数学	49	6.8	174	24.1	200	27.7	210	29.0	90	12.4
	理科	124	12.4	293	29.2	284	28.3	240	23.9	62	6.2
	外国語	146	13.1	327	29.3	319	28.6	255	22.8	69	6.2
物事を多面的に見る力	国語	402	35.7	503	44.7	174	15.5	44	3.9	3	0.3
	地歴・公民	351	36.2	406	41.9	178	18.4	29	3.0	5	0.5
	数学	171	23.7	308	42.7	152	21.1	71	9.8	20	2.8
	理科	285	28.4	396	39.5	219	21.9	84	8.4	18	1.8
	外国語	255	22.9	437	39.2	265	23.8	131	11.7	27	2.4
入試・就職力											
大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力	国語	285	24.3	451	38.5	263	22.4	119	10.2	54	4.6
	地歴・公民	204	20.4	321	32.1	237	23.7	156	15.6	83	8.3
	数学	129	17.7	220	30.1	200	27.4	116	15.9	65	8.9
	理科	159	15.5	333	32.5	276	26.9	163	15.9	95	9.3
	外国語	259	22.4	408	35.3	282	24.4	141	12.2	67	5.8
大学入学試験（一般入試）の問題を解く力	国語	300	25.6	379	32.3	254	21.7	158	13.5	81	6.9
	地歴・公民	224	22.4	292	29.1	218	21.8	169	16.9	99	9.9
	数学	203	27.7	234	31.9	155	21.1	78	10.6	63	8.6
	理科	229	22.3	295	28.8	227	22.1	167	16.3	108	10.5
	外国語	325	28.0	355	30.6	229	19.8	158	13.6	92	7.9
就職で必要となる力	国語	220	18.8	398	34.0	272	23.3	179	15.3	100	8.6
	地歴・公民	143	14.2	320	31.8	291	29.0	160	15.9	91	9.1
	数学	83	11.3	185	25.3	232	31.7	153	20.9	79	10.8
	理科	105	10.2	273	26.6	313	30.5	224	21.8	112	10.9
	外国語	158	13.7	331	28.6	324	28.0	237	20.5	107	9.2

表 133 参加型授業の学習活動（単一選択）

項目	教科	とても力を入れて 取り組んでいる		力を入れて 取り組んでいる		取り組んでいる		取り組んでいない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
探究活動型									
個人でテーマを調べる活動	国語	73	6.2	247	21.0	586	49.8	271	23.0
	地歴・公民	109	10.8	223	22.2	488	48.5	186	18.5
	数学	20	2.7	50	6.8	232	31.6	432	58.9
	理科	70	6.8	168	16.3	400	38.8	394	38.2
	外国語	92	8.0	180	15.6	528	45.7	356	30.8
グループでテーマを調べる活動	国語	105	8.9	271	23.0	553	47.0	248	21.1
	地歴・公民	128	12.7	199	19.7	462	45.8	220	21.8
	数学	26	3.5	67	9.1	245	33.4	396	54.0
	理科	104	10.1	196	19.0	402	38.9	331	32.0
	外国語	110	9.5	239	20.7	503	43.5	305	26.4
教員が生徒にテーマを与えて調べる活動	国語	84	7.1	297	25.3	662	56.3	133	11.3
	地歴・公民	91	9.1	267	26.6	541	53.8	106	10.5
	数学	28	3.8	110	15.0	359	48.8	238	32.4
	理科	68	6.6	221	21.4	532	51.6	211	20.4
	外国語	85	7.4	245	21.2	629	54.5	195	16.9
生徒が自分でテーマを設定して調べる活動	国語	67	5.7	194	16.6	521	44.5	389	33.2
	地歴・公民	94	9.4	160	15.9	453	45.1	298	29.7
	数学	19	2.6	56	7.6	175	23.8	484	65.9
	理科	88	8.5	140	13.6	337	32.7	465	45.1
	外国語	80	7.0	179	15.6	452	39.3	438	38.1
図書館などで書物や論文などの資料を調べる活動	国語	86	7.3	207	17.6	644	54.7	240	20.4
	地歴・公民	70	7.0	138	13.7	476	47.4	321	31.9
	数学	6	0.8	25	3.4	134	18.3	569	77.5
	理科	48	4.7	129	12.5	420	40.7	435	42.2
	外国語	26	2.3	111	9.6	386	33.4	631	54.7
コンピュータなどの機器を用いて調べる活動	国語	72	6.1	201	17.2	541	46.2	358	30.5
	地歴・公民	102	10.1	195	19.3	479	47.5	232	23.0
	数学	23	3.1	81	11.0	240	32.7	391	53.2
	理科	104	10.1	207	20.1	453	44.0	265	25.8
	外国語	107	9.3	212	18.4	536	46.6	296	25.7
社会活動型									
博物館など、学校外の施設で調べる活動	国語	16	1.4	47	4.0	161	13.7	953	81.0
	地歴・公民	33	3.3	68	6.8	223	22.2	681	67.8
	数学	1	0.1	12	1.6	54	7.4	667	90.9
	理科	22	2.1	77	7.5	213	20.7	718	69.7
	外国語	11	1.0	39	3.4	154	13.4	949	82.3
実験室などでの実験や観察	国語	11	0.9	26	2.2	39	3.3	1,096	93.5
	地歴・公民	9	0.9	20	2.0	53	5.3	923	91.8
	数学	8	1.1	21	2.9	60	8.2	646	87.9
	理科	346	33.5	361	35.0	299	29.0	26	2.5
	外国語	11	1.0	28	2.4	64	5.6	1,049	91.1
インタビューや観察、アンケート調査をして調べる活動	国語	23	2.0	72	6.1	265	22.6	814	69.3
	地歴・公民	20	2.0	54	5.4	179	17.8	753	74.9
	数学	8	1.1	17	2.3	60	8.2	649	88.4
	理科	23	2.2	70	6.8	221	21.4	717	69.5
	外国語	28	2.4	69	6.0	289	25.2	763	66.4

続き

項目	教科	とても力を入れて取り組んでいる		力を入れて取り組んでいる		取り組んでいる		取り組んでいない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
地域の課題解決やボランティアなど、地域の人の役に立つ活動	国語	16	1.4	54	4.6	128	10.9	973	83.1
	地歴・公民	25	2.5	71	7.1	174	17.3	733	73.1
	数学	4	0.5	16	2.2	31	4.2	684	93.1
	理科	16	1.6	47	4.6	143	13.9	820	79.9
	外国語	21	1.8	42	3.6	152	13.2	940	81.4
外部講師による講演や活動	国語	23	2.0	79	6.7	196	16.7	879	74.7
	地歴・公民	49	4.9	99	9.8	306	30.3	555	55.0
	数学	13	1.8	37	5.0	106	14.4	579	78.8
	理科	58	5.6	127	12.3	242	23.5	604	58.6
	外国語	45	3.9	109	9.4	300	25.9	703	60.8
自然体験・社会体験活動	国語	8	0.7	33	2.8	91	7.8	1,042	88.8
	地歴・公民	19	1.9	49	4.9	175	17.4	765	75.9
	数学	2	0.3	18	2.5	49	6.7	665	90.6
	理科	77	7.5	122	11.8	337	32.7	495	48.0
	外国語	9	0.8	43	3.7	126	10.9	978	84.6
他校の生徒や地域の人など学校外の人との交流活動	国語	11	0.9	35	3.0	123	10.5	1,005	85.6
	地歴・公民	19	1.9	42	4.2	181	18.0	766	76.0
	数学	7	1.0	21	2.9	65	8.9	641	87.3
	理科	26	2.5	66	6.4	195	18.9	744	72.2
	外国語	37	3.2	89	7.7	279	24.2	750	64.9
意見発表・交換型									
生徒同士の討論（ディベート）	国語	53	4.5	159	13.6	531	45.3	429	36.6
	地歴・公民	54	5.4	132	13.1	397	39.5	422	42.0
	数学	36	4.9	91	12.4	226	30.9	379	51.8
	理科	44	4.3	126	12.2	338	32.8	521	50.6
	外国語	79	6.8	145	12.6	392	33.9	539	46.7
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	国語	163	13.9	324	27.6	612	52.0	77	6.5
	地歴・公民	114	11.3	269	26.7	520	51.6	105	10.4
	数学	81	11.0	195	26.5	366	49.8	93	12.7
	理科	121	11.7	296	28.7	505	48.9	110	10.7
	外国語	87	7.5	232	20.1	577	50.0	257	22.3
生徒による発表（プレゼンテーション）	国語	167	14.2	339	28.8	579	49.2	91	7.7
	地歴・公民	144	14.3	249	24.7	502	49.9	112	11.1
	数学	72	9.8	169	23.0	364	49.6	129	17.6
	理科	157	15.3	261	25.4	447	43.4	164	15.9
	外国語	253	21.9	383	33.1	479	41.4	41	3.5
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	国語	187	15.9	370	31.5	525	44.7	93	7.9
	地歴・公民	117	11.6	251	25.0	514	51.1	124	12.3
	数学	83	11.3	186	25.4	333	45.4	131	17.9
	理科	111	10.8	283	27.5	482	46.8	154	15.0
	外国語	164	14.2	296	25.7	556	48.2	137	11.9
理解深化型									
学習について自分で客観的にふりかえる活動	国語	111	9.4	271	23.1	675	57.4	118	10.0
	地歴・公民	74	7.4	231	23.0	549	54.6	152	15.1
	数学	64	8.7	163	22.1	384	52.2	125	17.0
	理科	87	8.5	271	26.3	504	49.0	167	16.2
	外国語	78	6.8	250	21.7	609	52.8	217	18.8

続き

項目	教科	とても力を入れて取り組んでいる		力を入れて取り組んでいる		取り組んでいる		取り組んでいない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
データの整理・分析やレポートなどのまとめ活動	国語	84	7.1	220	18.7	614	52.3	257	21.9
	地歴・公民	94	9.3	244	24.2	548	54.4	122	12.1
	数学	35	4.8	99	13.5	308	42.0	291	39.7
	理科	159	15.4	312	30.2	475	45.9	88	8.5
	外国語	47	4.1	171	14.9	509	44.2	424	36.8
まとめのプリントや壁新聞などをつくる活動	国語	56	4.8	204	17.5	525	44.9	384	32.8
	地歴・公民	72	7.2	168	16.7	463	46.0	303	30.1
	数学	12	1.6	38	5.2	177	24.2	505	69.0
	理科	65	6.3	143	13.9	399	38.7	425	41.2
	外国語	39	3.4	146	12.7	429	37.3	536	46.6
生徒同士がお互いに評価し合う活動	国語	117	10.0	295	25.1	644	54.9	118	10.1
	地歴・公民	61	6.1	146	14.5	480	47.6	321	31.8
	数学	30	4.1	71	9.7	298	40.7	334	45.6
	理科	60	5.8	152	14.8	438	42.6	377	36.7
	外国語	114	9.9	229	19.8	648	56.1	165	14.3
教員による思考の活性化を促す説明や解説	国語	163	13.9	361	30.7	573	48.7	79	6.7
	地歴・公民	165	16.3	285	28.2	475	47.0	86	8.5
	数学	89	12.1	195	26.5	358	48.6	94	12.8
	理科	158	15.3	328	31.8	450	43.6	95	9.2
	外国語	109	9.4	251	21.7	595	51.3	204	17.6
芸術・創作活動型									
演劇やダンスなどの身体活動	国語	9	0.8	38	3.2	107	9.1	1,022	86.9
	地歴・公民	7	0.7	19	1.9	45	4.5	934	92.9
	数学	0	0.0	5	0.7	18	2.5	710	96.9
	理科	5	0.5	11	1.1	35	3.4	981	95.1
	外国語	20	1.7	33	2.9	124	10.7	977	84.7
音楽や美術などの芸術活動	国語	8	0.7	32	2.7	98	8.4	1,035	88.2
	地歴・公民	6	0.6	25	2.5	62	6.2	913	90.8
	数学	2	0.3	4	0.5	22	3.0	705	96.2
	理科	3	0.3	12	1.2	33	3.2	983	95.3
	外国語	11	1.0	35	3.0	151	13.1	957	82.9
写真や映像などを用いた創作活動	国語	8	0.7	50	4.3	246	21.0	867	74.0
	地歴・公民	34	3.4	68	6.8	184	18.3	719	71.5
	数学	1	0.1	16	2.2	66	9.0	650	88.7
	理科	17	1.7	51	5.0	193	18.8	767	74.6
	外国語	34	3.0	94	8.2	351	30.5	672	58.4

表 134 参加型授業の工夫（単一選択）

項目	教科	とても力を入れて取り入れている		力を入れて取り入れている		取り入れている		取り入れていない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
授業方法の工夫									
自作プリントや模型・実物の提示など、アナログな教材教具の工夫	国語	169	14.4	314	26.7	604	51.3	90	7.6
	地歴・公民	161	15.9	333	33.0	454	45.0	62	6.1
	数学	81	11.1	186	25.4	387	52.8	79	10.8
	理科	217	21.1	316	30.7	454	44.1	43	4.2
	外国語	163	14.1	271	23.4	606	52.4	116	10.0
生徒の発達段階や個性を考慮したグループづくりの工夫	国語	89	7.6	179	15.3	628	53.5	277	23.6
	地歴・公民	36	3.6	158	15.7	509	50.4	306	30.3
	数学	44	6.0	145	19.8	383	52.2	162	22.1
	理科	48	4.7	145	14.1	514	50.1	319	31.1
	外国語	86	7.5	181	15.7	603	52.3	283	24.5
学習活動の各場面で生徒の学習を促す動機づけの工夫	国語	123	10.5	320	27.2	645	54.9	87	7.4
	地歴・公民	88	8.7	247	24.5	565	56.1	108	10.7
	数学	48	6.6	141	19.3	432	59.0	111	15.2
	理科	83	8.1	248	24.3	577	56.5	114	11.2
	外国語	105	9.1	296	25.7	641	55.7	109	9.5
生徒にあらかじめ学習のねらいを伝えるなど、学習の到達点を意識させる工夫	国語	198	16.9	405	34.5	542	46.2	29	2.5
	地歴・公民	116	11.5	302	29.8	525	51.9	69	6.8
	数学	75	10.3	206	28.2	391	53.5	59	8.1
	理科	113	11.0	347	33.8	517	50.3	50	4.9
	外国語	153	13.3	338	29.4	599	52.1	59	5.1
他教員との協力									
他学年との合同の取り組み	国語	19	1.6	36	3.1	165	14.1	954	81.3
	地歴・公民	18	1.8	36	3.6	121	12.0	835	82.7
	数学	6	0.8	19	2.6	116	15.8	591	80.7
	理科	14	1.4	33	3.2	162	15.7	821	79.7
	外国語	25	2.2	56	4.9	201	17.5	869	75.5
複数の教員による合同の授業の実施	国語	22	1.9	78	6.6	293	24.9	783	66.6
	地歴・公民	25	2.5	51	5.0	209	20.7	727	71.8
	数学	36	4.9	66	9.0	207	28.3	423	57.8
	理科	37	3.6	76	7.4	302	29.3	614	59.7
	外国語	91	7.9	146	12.7	495	42.9	422	36.6
リソースの整備									
参加型学習に関する教員用の手引書などの整備	国語	17	1.4	76	6.5	310	26.4	770	65.6
	地歴・公民	18	1.8	43	4.2	270	26.7	681	67.3
	数学	9	1.2	40	5.5	182	24.9	499	68.4
	理科	18	1.8	45	4.4	232	22.6	733	71.3
	外国語	26	2.2	81	7.0	303	26.2	746	64.5
学習時間が十分に保証できるような時間割の工夫	国語	26	2.2	78	6.6	311	26.4	761	64.7
	地歴・公民	19	1.9	64	6.3	293	29.0	634	62.8
	数学	18	2.5	58	7.9	241	33.0	413	56.6
	理科	31	3.0	79	7.7	306	29.7	614	59.6
	外国語	35	3.0	74	6.4	373	32.4	671	58.2
効果的な授業を実施できる教員（非常勤講師を含む）の確保	国語	31	2.6	93	7.9	337	28.8	709	60.6
	地歴・公民	18	1.8	77	7.6	284	28.2	628	62.4
	数学	27	3.7	75	10.2	250	34.2	380	51.9
	理科	27	2.6	95	9.2	321	31.2	587	57.0
	外国語	62	5.4	110	9.5	444	38.5	538	46.6

続き

項目	教科	とても力を入れて取り入れている		力を入れて取り入れている		取り入れている		取り入れていない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
校内リソースの活用									
電子教科書やタブレット端末など、デジタルな教材教具の工夫	国語	51	4.4	155	13.2	365	31.1	601	51.3
	地歴・公民	107	10.5	199	19.6	356	35.1	353	34.8
	数学	46	6.3	118	16.2	282	38.6	284	38.9
	理科	142	13.8	253	24.6	364	35.3	271	26.3
	外国語	118	10.2	228	19.8	445	38.6	361	31.3
空き教室や特別教室など、学校内の既存スペースの活用	国語	56	4.8	130	11.1	487	41.6	498	42.5
	地歴・公民	82	8.1	179	17.7	453	44.8	297	29.4
	数学	44	6.0	92	12.6	290	39.8	303	41.6
	理科	107	10.4	176	17.2	432	42.1	311	30.3
	外国語	92	8.0	182	15.9	545	47.5	328	28.6
可動式机など、参加型学習での活用を考慮した学校内スペースの整備	国語	16	1.4	46	3.9	191	16.3	919	78.4
	地歴・公民	28	2.8	59	5.9	206	20.5	713	70.9
	数学	12	1.6	36	4.9	131	17.9	553	75.5
	理科	20	1.9	80	7.8	204	19.9	722	70.4
	外国語	38	3.3	64	5.6	228	19.8	822	71.4
校外リソースの活用									
公民館など、学校外スペースの活用	国語	2	0.2	7	0.6	34	2.9	1,134	96.3
	地歴・公民	8	0.8	12	1.2	53	5.2	938	92.8
	数学	1	0.1	4	0.5	16	2.2	712	97.1
	理科	4	0.4	11	1.1	50	4.9	960	93.7
	外国語	4	0.3	6	0.5	44	3.8	1,101	95.3
外部講師を招いた授業の実施	国語	12	1.0	34	2.9	141	12.0	988	84.1
	地歴・公民	34	3.4	63	6.2	265	26.2	649	64.2
	数学	7	1.0	14	1.9	88	12.0	622	85.1
	理科	40	3.9	70	6.8	219	21.3	699	68.0
	外国語	36	3.1	59	5.1	281	24.4	776	67.4
生徒が自然体験・社会体験できる場の活用	国語	10	0.9	25	2.1	89	7.6	1,048	89.4
	地歴・公民	16	1.6	48	4.8	192	19.0	754	74.7
	数学	4	0.5	8	1.1	59	8.1	660	90.3
	理科	51	5.0	109	10.6	312	30.4	554	54.0
	外国語	9	0.8	30	2.6	139	12.1	971	84.5
反転授業など、授業外の時間の使い方の工夫	国語	16	1.4	49	4.2	226	19.3	878	75.1
	地歴・公民	16	1.6	50	5.0	235	23.3	708	70.2
	数学	15	2.1	40	5.5	189	25.9	485	66.5
	理科	21	2.0	65	6.3	276	26.9	664	64.7
	外国語	17	1.5	63	5.5	287	25.0	782	68.1

表 135 参加型授業の効果（単一選択）

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
思考・表現力											
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	国語	100	8.5	628	53.4	397	33.8	39	3.3	12	1.0
	地歴・公民	66	6.5	479	47.1	393	38.7	51	5.0	27	2.7
	数学	29	4.0	260	35.5	363	49.5	51	7.0	30	4.1
	理科	54	5.2	448	43.5	445	43.2	59	5.7	23	2.2
	外国語	142	12.3	637	55.0	316	27.3	49	4.2	14	1.2
生徒がこれまでにない発想をするようになった	国語	25	2.1	243	20.6	707	60.1	150	12.7	52	4.4
	地歴・公民	25	2.5	234	23.1	585	57.9	118	11.7	49	4.8
	数学	17	2.3	144	19.6	431	58.8	94	12.8	47	6.4
	理科	23	2.2	227	22.0	601	58.3	124	12.0	56	5.4
	外国語	32	2.8	264	22.8	681	58.9	132	11.4	47	4.1
生徒が自分の考えを深められるようになった	国語	72	6.1	612	52.0	414	35.2	54	4.6	24	2.0
	地歴・公民	57	5.6	456	44.8	427	42.0	50	4.9	27	2.7
	数学	25	3.4	308	42.0	325	44.3	46	6.3	29	4.0
	理科	51	5.0	454	44.1	443	43.1	52	5.1	29	2.8
	外国語	59	5.1	528	45.6	476	41.1	74	6.4	20	1.7
課題解決力											
生徒が身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	国語	19	1.6	254	21.6	724	61.5	138	11.7	43	3.7
	地歴・公民	17	1.7	238	23.5	611	60.4	101	10.0	45	4.4
	数学	7	1.0	137	18.7	454	61.9	96	13.1	39	5.3
	理科	17	1.6	237	23.0	616	59.7	119	11.5	43	4.2
	外国語	25	2.2	261	22.6	685	59.3	141	12.2	44	3.8
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	国語	35	3.0	400	34.0	611	51.9	98	8.3	34	2.9
	地歴・公民	37	3.7	387	38.3	484	47.9	72	7.1	30	3.0
	数学	9	1.2	159	21.7	452	61.7	75	10.2	37	5.1
	理科	29	2.8	372	36.1	521	50.5	75	7.3	34	3.3
	外国語	42	3.6	440	38.1	545	47.1	95	8.2	34	2.9
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	国語	39	3.3	404	34.3	600	51.0	98	8.3	36	3.1
	地歴・公民	31	3.1	321	31.7	548	54.2	75	7.4	37	3.7
	数学	23	3.1	266	36.2	356	48.4	58	7.9	32	4.4
	理科	37	3.6	391	37.9	492	47.7	79	7.7	32	3.1
	外国語	43	3.7	408	35.3	575	49.7	98	8.5	32	2.8
主体性											
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	国語	36	3.1	307	26.1	674	57.3	107	9.1	53	4.5
	地歴・公民	24	2.4	234	23.1	606	59.9	94	9.3	53	5.2
	数学	28	3.8	285	38.8	340	46.3	51	6.9	30	4.1
	理科	36	3.5	324	31.4	531	51.5	100	9.7	40	3.9
	外国語	47	4.1	372	32.2	601	52.0	93	8.0	43	3.7
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	国語	19	1.6	195	16.6	638	54.2	219	18.6	107	9.1
	地歴・公民	17	1.7	129	12.7	572	56.5	182	18.0	112	11.1
	数学	20	2.7	157	21.4	405	55.2	96	13.1	56	7.6
	理科	17	1.6	151	14.6	587	56.9	164	15.9	112	10.9
	外国語	40	3.5	261	22.6	629	54.5	154	13.3	70	6.1
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	国語	20	1.7	247	20.9	728	61.7	133	11.3	51	4.3
	地歴・公民	19	1.9	212	20.9	617	60.9	110	10.9	55	5.4
	数学	14	1.9	166	22.6	445	60.6	71	9.7	38	5.2
	理科	19	1.8	233	22.5	629	60.8	105	10.2	48	4.6
	外国語	41	3.5	292	25.3	678	58.7	106	9.2	38	3.3

続き

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	国語	16	1.4	226	19.2	713	60.5	162	13.8	61	5.2
	地歴・公民	18	1.8	179	17.7	622	61.5	132	13.0	61	6.0
	数学	14	1.9	164	22.3	451	61.3	69	9.4	38	5.2
	理科	13	1.3	209	20.3	636	61.6	113	10.9	61	5.9
	外国語	29	2.5	257	22.2	693	59.9	130	11.2	47	4.1
市民性											
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	国語	17	1.4	151	12.8	653	55.5	240	20.4	115	9.8
	地歴・公民	24	2.4	173	17.1	627	61.9	132	13.0	57	5.6
	数学	3	0.4	43	5.9	368	50.1	182	24.8	138	18.8
	理科	6	0.6	98	9.5	564	54.7	209	20.3	154	14.9
	外国語	17	1.5	125	10.9	701	60.9	187	16.2	122	10.6
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	国語	35	3.0	365	31.1	580	49.4	128	10.9	66	5.6
	地歴・公民	64	6.3	487	48.2	375	37.1	58	5.7	27	2.7
	数学	5	0.7	42	5.7	356	48.5	182	24.8	149	20.3
	理科	11	1.1	179	17.4	555	53.8	159	15.4	127	12.3
	外国語	45	3.9	375	32.5	544	47.2	119	10.3	70	6.1
地域社会との交流や相互理解が深まった	国語	10	0.9	75	6.4	481	40.9	271	23.1	338	28.8
	地歴・公民	18	1.8	122	12.1	499	49.5	205	20.3	165	16.4
	数学	2	0.3	33	4.5	310	42.3	158	21.6	230	31.4
	理科	10	1.0	70	6.8	473	45.8	206	20.0	273	26.5
	外国語	15	1.3	105	9.1	546	47.3	223	19.3	266	23.0
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	国語	19	1.6	229	19.5	732	62.2	141	12.0	56	4.8
	地歴・公民	21	2.1	184	18.2	627	62.1	117	11.6	60	5.9
	数学	10	1.4	115	15.7	473	64.4	88	12.0	48	6.5
	理科	14	1.4	190	18.4	640	62.1	130	12.6	56	5.4
	外国語	28	2.4	249	21.6	702	61.0	128	11.1	44	3.8
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	国語	28	2.4	219	18.6	684	58.2	164	14.0	80	6.8
	地歴・公民	20	2.0	189	18.7	615	60.9	122	12.1	64	6.3
	数学	8	1.1	75	10.3	399	54.6	147	20.1	102	14.0
	理科	17	1.7	147	14.3	600	58.4	163	15.9	101	9.8
	外国語	26	2.3	204	17.7	683	59.2	158	13.7	83	7.2
協働性											
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	国語	79	6.7	652	55.4	367	31.2	55	4.7	23	2.0
	地歴・公民	62	6.1	482	47.7	413	40.9	34	3.4	19	1.9
	数学	39	5.3	323	43.9	307	41.8	42	5.7	24	3.3
	理科	66	6.4	492	47.7	401	38.9	53	5.1	20	1.9
	外国語	129	11.2	611	52.9	354	30.6	43	3.7	18	1.6
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	国語	47	4.0	538	45.7	464	39.4	102	8.7	26	2.2
	地歴・公民	46	4.5	414	40.8	463	45.6	69	6.8	23	2.3
	数学	30	4.1	300	40.9	331	45.1	50	6.8	23	3.1
	理科	40	3.9	426	41.4	441	42.9	87	8.5	35	3.4
	外国語	79	6.9	547	47.4	437	37.9	65	5.6	25	2.2
生徒の社会性や協調性が高まった	国語	39	3.3	433	36.9	604	51.4	71	6.0	28	2.4
	地歴・公民	37	3.7	337	33.3	562	55.6	49	4.8	26	2.6
	数学	15	2.0	190	26.0	435	59.4	59	8.1	33	4.5
	理科	30	2.9	335	32.5	564	54.7	64	6.2	38	3.7
	外国語	52	4.5	468	40.6	548	47.5	61	5.3	24	2.1

続き

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	国語	136	11.6	647	55.0	334	28.4	42	3.6	17	1.4
	地歴・公民	78	7.7	457	45.1	410	40.5	44	4.3	24	2.4
	数学	66	9.0	387	52.7	235	32.0	29	4.0	17	2.3
	理科	97	9.4	520	50.5	352	34.2	40	3.9	21	2.0
	外国語	159	13.8	643	55.7	302	26.1	37	3.2	14	1.2
教科基礎力											
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	国語	41	3.5	258	21.9	689	58.5	132	11.2	58	4.9
	地歴・公民	43	4.3	214	21.2	574	56.8	109	10.8	70	6.9
	数学	27	3.7	213	29.0	396	54.0	67	9.1	31	4.2
	理科	37	3.6	283	27.5	571	55.4	78	7.6	61	5.9
	外国語	58	5.0	313	27.1	632	54.8	111	9.6	40	3.5
生徒の進学実績が向上した	国語	19	1.6	128	10.9	795	67.5	152	12.9	84	7.1
	地歴・公民	17	1.7	108	10.7	658	65.1	121	12.0	107	10.6
	数学	15	2.0	78	10.6	507	69.1	84	11.4	50	6.8
	理科	13	1.3	129	12.5	691	67.2	106	10.3	90	8.7
	外国語	41	3.6	176	15.3	733	63.5	129	11.2	75	6.5
生徒の教科内容に対する知的好奇心が高まった	国語	98	8.3	677	57.6	325	27.7	57	4.9	18	1.5
	地歴・公民	99	9.8	579	57.1	288	28.4	34	3.4	14	1.4
	数学	46	6.3	373	50.7	257	35.0	38	5.2	21	2.9
	理科	100	9.7	581	56.4	294	28.5	34	3.3	22	2.1
	外国語	110	9.5	645	55.8	342	29.6	40	3.5	19	1.6
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	国語	39	3.3	430	36.6	612	52.1	72	6.1	22	1.9
	地歴・公民	24	2.4	298	29.5	558	55.2	87	8.6	43	4.3
	数学	9	1.2	119	16.2	474	64.7	94	12.8	37	5.0
	理科	18	1.8	217	21.1	646	62.8	97	9.4	50	4.9
	外国語	45	3.9	337	29.2	626	54.2	113	9.8	33	2.9
教科応用力											
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	国語	28	2.4	313	26.7	669	57.0	124	10.6	40	3.4
	地歴・公民	19	1.9	279	27.7	559	55.5	101	10.0	50	5.0
	数学	8	1.1	92	12.6	463	63.2	118	16.1	52	7.1
	理科	20	1.9	255	24.8	615	59.8	91	8.9	47	4.6
	外国語	33	2.9	318	27.6	632	54.8	129	11.2	41	3.6
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	国語	26	2.2	318	27.0	647	55.0	131	11.1	54	4.6
	地歴・公民	22	2.2	285	28.2	546	54.1	105	10.4	51	5.1
	数学	9	1.2	108	14.7	436	59.4	115	15.7	66	9.0
	理科	29	2.8	261	25.4	570	55.4	113	11.0	55	5.4
	外国語	30	2.6	322	27.9	607	52.6	137	11.9	58	5.0
生徒の物事を多面的に見る力が高まった	国語	65	5.5	485	41.3	531	45.2	68	5.8	25	2.1
	地歴・公民	46	4.5	441	43.6	443	43.8	52	5.1	30	3.0
	数学	21	2.9	211	28.7	402	54.8	61	8.3	39	5.3
	理科	43	4.2	344	33.6	538	52.5	67	6.5	33	3.2
	外国語	56	4.9	410	35.5	574	49.7	83	7.2	31	2.7
入試・就職力											
大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力が高まった	国語	51	4.4	422	36.0	541	46.2	96	8.2	62	5.3
	地歴・公民	39	3.9	281	27.9	513	50.9	93	9.2	82	8.1
	数学	17	2.3	169	23.1	420	57.5	63	8.6	62	8.5
	理科	31	3.0	297	28.9	511	49.7	100	9.7	89	8.7
	外国語	53	4.6	365	31.6	579	50.1	101	8.7	57	4.9

続き

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
大学入学試験（一般入試）の問題を解く力が高まった	国語	35	3.0	260	22.2	625	53.3	151	12.9	102	8.7
	地歴・公民	26	2.6	205	20.3	541	53.6	125	12.4	112	11.1
	数学	23	3.1	171	23.3	411	56.1	61	8.3	67	9.1
	理科	26	2.5	242	23.5	541	52.6	102	9.9	118	11.5
	外国語	41	3.6	271	23.5	620	53.9	127	11.0	92	8.0
就職で必要となる力が高まった	国語	37	3.2	309	26.4	616	52.7	126	10.8	81	6.9
	地歴・公民	27	2.7	244	24.2	547	54.2	110	10.9	82	8.1
	数学	7	1.0	119	16.3	444	60.7	81	11.1	80	10.9
	理科	18	1.8	170	16.5	603	58.7	131	12.7	106	10.3
	外国語	27	2.3	214	18.6	687	59.6	126	10.9	98	8.5
教員とのコミュニケーション											
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	国語	116	9.9	588	50.0	413	35.1	33	2.8	25	2.1
	地歴・公民	93	9.2	506	50.1	362	35.9	30	3.0	18	1.8
	数学	54	7.4	346	47.2	292	39.8	26	3.5	15	2.0
	理科	96	9.3	561	54.4	316	30.6	37	3.6	21	2.0
	外国語	138	11.9	594	51.4	388	33.6	25	2.2	11	1.0

表 136 参加型授業の評価方法（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
参加型学習での生徒の活動や成果物を評価していない	157	14.0	144	14.8	271	37.6	175	17.4	125	11.5
参加型学習での生徒の活動や成果物を評価しているが、成績には含めていない	300	26.7	196	20.2	208	28.8	223	22.1	186	17.2
参加型学習での生徒の活動や成果物を評価し、成績に含めている	665	59.3	631	65.0	242	33.6	609	60.5	772	71.3
有効回答数	1,122	100.0	971	100.0	721	100.0	1,007	100.0	1,083	100.0
非該当	941		1,056		1,376		1,072		947	
無効回答	1		0		0		0		0	
無回答	64		59		21		42		88	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 137 参加型授業の評価者（複数選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
担当教員（単独）による評価	904	91.2	782	92.7	389	86.4	733	87.5	722	73.1
生徒同士による相互評価	517	52.2	249	29.5	78	17.3	202	24.1	397	40.2
生徒自身による自己評価	438	44.2	246	29.1	122	27.1	277	33.1	278	28.1
授業に参加した複数の教員による評価	108	10.9	85	10.1	56	12.4	155	18.5	429	43.4
活動に関わった学校外の人による評価	8	0.8	8	0.9	1	0.2	20	2.4	26	2.6
その他	1	0.1	4	0.5	2	0.4	4	0.5	13	1.3
有効回答数	991		844		450		838		988	
非該当	1,098		1,200		1,647		1,247		1,072	
無回答	39		42		21		36		58	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 138 参加型授業の評価物（複数選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
作文やレポートなどの提出物	834	83.2	661	78.2	208	45.8	650	78.2	764	75.5
生徒の授業への参加度・積極性	725	72.3	589	69.7	323	71.1	550	66.2	723	71.4
生徒による発表（プレゼンテーション）の内容	663	66.1	469	55.5	145	31.9	400	48.1	863	85.3
生徒の関心・意欲	624	62.2	506	59.9	290	63.9	464	55.8	561	55.4
活動内容や感想を記録するふりかえりシート	565	56.3	373	44.1	163	35.9	284	34.2	259	25.6
教科での学内考査	386	38.5	313	37.0	158	34.8	303	36.5	450	44.5
生徒の記録したノート	386	38.5	332	39.3	123	27.1	313	37.7	250	24.7
生徒の学習活動の記録（プリント・ワークシート・発表資料など）をとじたファイル	358	35.7	342	40.5	118	26.0	274	33.0	286	28.3
身体活動・芸術活動・課題解決活動などの製作・成果物	127	12.7	73	8.6	24	5.3	82	9.9	139	13.7
その他	12	1.2	3	0.4	7	1.5	9	1.1	20	2.0
有効回答数	1,003		845		454		831		1,012	
非該当	1,098		1,200		1,647		1,247		1,072	
無回答	27		41		17		43		34	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 139 参加型授業の改善（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
評価に基づいた指導計画や授業内容の改善を行っている	607	52.3	538	53.9	283	39.1	547	53.7	643	56.7
評価に基づいた指導計画や授業内容の改善を行っていない	554	47.7	461	46.1	440	60.9	472	46.3	492	43.3
有効回答数	1,161	100.0	999	100.0	723	100.0	1,019	100.0	1,135	100.0
非該当	941		1,056		1,376		1,072		947	
無効回答	0		1		0		0		0	
無回答	26		30		19		30		36	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 140 参加型授業の改善のための評価方法（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
教員の感覚や経験による評価に基づいて、指導計画や授業内容の改善を行っている	362	59.9	333	61.8	175	62.7	336	61.9	360	55.8
客観的な評価に基づいて、指導計画や授業内容の改善を行っている	242	40.1	206	38.2	104	37.3	207	38.1	285	44.2
有効回答数	604	100.0	539	100.0	279	100.0	543	100.0	645	100.0
非該当	1,495		1,517		1,816		1,544		1,439	
無効回答	1		0		1		0		1	
無回答	28		30		22		34		33	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 141 参加型授業の改善のための根拠（複数選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
生徒の学習活動の様子	473	83.4	375	74.3	205	77.4	385	76.5	445	75.2
生徒の学習活動の成果物（レポートや作品など）	438	77.2	375	74.3	133	50.2	352	70.0	432	73.0
生徒の学内考査の成績	254	44.8	238	47.1	148	55.8	239	47.5	322	54.4
自身による授業評価・自己分析	330	58.2	258	51.1	98	37.0	226	44.9	257	43.4
生徒による授業評価	313	55.2	247	48.9	108	40.8	249	49.5	246	41.6
自校の教員による授業評価	103	18.2	80	15.8	56	21.1	92	18.3	146	24.7
保護者による授業評価	18	3.2	14	2.8	7	2.6	12	2.4	13	2.2
他校の教員や大学の研究者による授業評価	3	0.5	9	1.8	7	2.6	15	3.0	12	2.0
その他	8	1.4	5	1.0	3	1.1	5	1.0	6	1.0
有効回答数	567		505		265		503		592	
非該当	1,495		1,517		1,816		1,544		1,439	
無回答	66		64		37		74		87	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

表 142 参加型授業の悩み（単一選択）

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
教育効果に関する悩み											
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する	国語	22	1.9	157	13.4	484	41.4	292	25.0	215	18.4
	地歴・公民	41	4.1	143	14.3	408	40.8	241	24.1	166	16.6
	数学	30	4.1	75	10.3	306	42.0	192	26.4	125	17.2
	理科	33	3.2	111	10.8	419	40.9	264	25.8	198	19.3
	外国語	37	3.2	157	13.7	406	35.5	313	27.3	232	20.3
受験に必要な学力に結びつかない	国語	53	4.5	259	22.1	446	38.1	244	20.9	168	14.4
	地歴・公民	85	8.5	229	22.9	356	35.6	188	18.8	142	14.2
	数学	43	5.9	134	18.4	289	39.7	168	23.1	94	12.9
	理科	57	5.6	186	18.1	385	37.6	233	22.7	164	16.0
	外国語	69	6.0	258	22.6	351	30.7	281	24.6	185	16.2
社会の中で「生きる力」に結びつかない	国語	7	0.6	42	3.6	398	34.1	415	35.5	306	26.2
	地歴・公民	13	1.3	41	4.1	322	32.2	364	36.4	259	25.9
	数学	13	1.8	31	4.3	322	44.2	250	34.3	112	15.4
	理科	9	0.9	39	3.8	372	36.3	351	34.2	254	24.8
	外国語	7	0.6	41	3.6	409	35.8	391	34.3	293	25.7
授業の進度に関する悩み											
授業の進度が遅くなる	国語	303	25.9	490	41.9	208	17.8	108	9.2	61	5.2
	地歴・公民	379	37.7	380	37.8	120	12.0	72	7.2	53	5.3
	数学	156	21.4	328	45.0	118	16.2	72	9.9	55	7.5
	理科	246	24.0	419	40.9	164	16.0	107	10.4	89	8.7
	外国語	250	21.8	500	43.5	208	18.1	108	9.4	83	7.2
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	国語	165	14.1	504	43.1	268	22.9	156	13.3	77	6.6
	地歴・公民	197	19.7	376	37.6	255	25.5	86	8.6	87	8.7
	数学	78	10.7	299	41.1	193	26.5	97	13.3	61	8.4
	理科	122	11.9	346	33.8	313	30.5	128	12.5	116	11.3
	外国語	129	11.3	468	40.8	246	21.5	196	17.1	107	9.3
各教員の授業内容にばらつきが生じる	国語	158	13.5	468	40.0	308	26.3	158	13.5	77	6.6
	地歴・公民	201	20.1	368	36.7	269	26.8	88	8.8	76	7.6
	数学	60	8.3	278	38.2	226	31.1	104	14.3	59	8.1
	理科	126	12.3	351	34.2	311	30.3	142	13.9	95	9.3
	外国語	120	10.5	468	40.8	257	22.4	197	17.2	104	9.1
授業方法や評価に関する悩み											
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	国語	169	14.5	547	46.8	259	22.2	145	12.4	49	4.2
	地歴・公民	164	16.4	447	44.7	232	23.2	112	11.2	46	4.6
	数学	108	14.8	305	41.9	214	29.4	63	8.7	38	5.2
	理科	144	14.0	408	39.8	293	28.6	121	11.8	60	5.8
	外国語	151	13.2	497	43.4	256	22.3	181	15.8	61	5.3
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	国語	85	7.3	350	30.0	366	31.4	242	20.8	123	10.5
	地歴・公民	83	8.3	313	31.3	314	31.4	192	19.2	99	9.9
	数学	37	5.1	206	28.3	259	35.6	159	21.9	66	9.1
	理科	57	5.6	278	27.1	362	35.2	219	21.3	111	10.8
	外国語	59	5.1	351	30.6	346	30.2	264	23.0	126	11.0
教員の授業スキルが不足している	国語	108	9.2	468	40.1	413	35.4	123	10.5	56	4.8
	地歴・公民	133	13.3	357	35.6	357	35.6	112	11.2	44	4.4
	数学	50	6.9	246	33.8	292	40.2	95	13.1	44	6.1
	理科	124	12.1	353	34.3	401	39.0	101	9.8	50	4.9
	外国語	111	9.7	407	35.5	416	36.3	162	14.1	51	4.4

続き

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
生徒の学習態度に関する悩み											
授業内容に関係のない生徒の私語が増える	国語	101	8.6	386	33.0	271	23.2	287	24.5	125	10.7
	地歴・公民	68	6.8	301	30.1	265	26.5	241	24.1	126	12.6
	数学	66	9.1	263	36.1	179	24.6	144	19.8	76	10.4
	理科	79	7.7	303	29.5	272	26.5	252	24.5	121	11.8
	外国語	80	7.0	395	34.4	280	24.4	264	23.0	128	11.2
生徒の集中力が低下する	国語	43	3.7	180	15.4	406	34.7	368	31.5	173	14.8
	地歴・公民	32	3.2	147	14.7	352	35.2	318	31.8	152	15.2
	数学	21	2.9	117	16.1	254	35.0	226	31.2	107	14.8
	理科	25	2.4	136	13.2	341	33.2	347	33.8	179	17.4
	外国語	32	2.8	207	18.0	370	32.3	372	32.4	166	14.5
参加型学習になじめない生徒や、ついてこれられない生徒がいる	国語	165	14.1	523	44.7	249	21.3	185	15.8	49	4.2
	地歴・公民	128	12.7	457	45.5	222	22.1	151	15.0	47	4.7
	数学	90	12.3	322	44.2	179	24.6	109	15.0	29	4.0
	理科	124	12.1	427	41.6	244	23.8	186	18.1	46	4.5
	外国語	156	13.6	494	43.0	248	21.6	198	17.2	53	4.6
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	国語	42	3.6	242	20.7	434	37.1	340	29.1	111	9.5
	地歴・公民	39	3.9	191	19.1	411	41.0	277	27.6	84	8.4
	数学	29	4.0	147	20.2	290	39.9	206	28.3	55	7.6
	理科	29	2.8	190	18.5	409	39.9	294	28.7	103	10.0
	外国語	31	2.7	213	18.6	440	38.4	337	29.4	126	11.0
教員の負担増加に関する悩み											
授業中の教員の負担が増加する	国語	154	13.2	360	30.9	362	31.1	201	17.3	88	7.6
	地歴・公民	171	17.1	303	30.3	277	27.7	181	18.1	69	6.9
	数学	65	8.9	204	28.0	249	34.2	144	19.8	66	9.1
	理科	147	14.4	351	34.3	272	26.6	177	17.3	77	7.5
	外国語	135	11.8	363	31.6	325	28.3	248	21.6	77	6.7
授業前後の教員の負担が増加する	国語	322	27.5	563	48.0	173	14.8	71	6.1	43	3.7
	地歴・公民	343	34.2	448	44.7	125	12.5	56	5.6	31	3.1
	数学	142	19.5	327	44.9	167	22.9	58	8.0	34	4.7
	理科	296	28.8	487	47.4	160	15.6	62	6.0	23	2.2
	外国語	288	25.1	543	47.3	188	16.4	97	8.4	32	2.8
授業準備のための時間が足りない	国語	400	34.3	513	44.0	154	13.2	62	5.3	37	3.2
	地歴・公民	417	41.6	374	37.3	137	13.7	46	4.6	28	2.8
	数学	195	26.8	275	37.8	162	22.3	55	7.6	41	5.6
	理科	373	36.4	447	43.6	136	13.3	45	4.4	25	2.4
	外国語	384	33.4	474	41.3	176	15.3	82	7.1	32	2.8
リソースに関する悩み											
予算が足りない	国語	114	9.8	186	15.9	460	39.3	192	16.4	217	18.6
	地歴・公民	151	15.1	212	21.2	369	36.9	158	15.8	110	11.0
	数学	62	8.5	109	15.0	287	39.5	137	18.8	132	18.2
	理科	173	16.9	235	22.9	351	34.2	167	16.3	100	9.7
	外国語	137	12.0	237	20.7	432	37.8	213	18.6	124	10.8
必要な施設・設備が足りない	国語	173	14.8	315	26.9	362	30.9	178	15.2	143	12.2
	地歴・公民	233	23.3	295	29.5	271	27.1	121	12.1	81	8.1
	数学	87	12.0	168	23.1	239	32.9	124	17.1	108	14.9
	理科	211	20.6	314	30.6	281	27.4	142	13.9	77	7.5
	外国語	219	19.1	393	34.4	280	24.5	156	13.6	96	8.4

続き

項目	教科	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
授業の時間が足りない	国語	250	21.4	417	35.6	321	27.4	116	9.9	66	5.6
	地歴・公民	293	29.3	341	34.1	242	24.2	84	8.4	39	3.9
	数学	120	16.5	214	29.4	261	35.8	78	10.7	56	7.7
	理科	261	25.4	356	34.7	267	26.0	89	8.7	54	5.3
	外国語	192	16.7	377	32.9	351	30.6	170	14.8	57	5.0
一学級当たり生徒数が適切でない	国語	218	18.7	280	24.0	333	28.5	188	16.1	148	12.7
	地歴・公民	187	18.7	223	22.3	324	32.4	131	13.1	134	13.4
	数学	71	9.8	162	22.3	271	37.2	125	17.2	99	13.6
	理科	184	17.9	230	22.4	338	32.9	167	16.3	107	10.4
	外国語	328	28.6	341	29.8	238	20.8	143	12.5	96	8.4
生徒や保護者の理解に関する悩み											
生徒の理解が得られない	国語	14	1.2	71	6.1	380	32.6	417	35.7	285	24.4
	地歴・公民	9	0.9	78	7.8	385	38.6	321	32.2	205	20.5
	数学	12	1.6	60	8.2	281	38.6	251	34.5	124	17.0
	理科	7	0.7	76	7.4	359	35.1	349	34.1	233	22.8
	外国語	14	1.2	91	8.0	366	32.0	446	39.0	226	19.8
保護者の理解が得られない	国語	10	0.9	53	4.5	408	35.0	382	32.7	314	26.9
	地歴・公民	10	1.0	39	3.9	413	41.3	294	29.4	243	24.3
	数学	6	0.8	29	4.0	291	40.1	240	33.1	160	22.0
	理科	11	1.1	29	2.8	400	39.1	326	31.9	257	25.1
	外国語	9	0.8	62	5.4	385	33.7	413	36.2	272	23.8
教員の理解に関する悩み											
組織的な取り組みにならない	国語	88	7.5	309	26.5	442	37.9	207	17.7	121	10.4
	地歴・公民	88	8.8	238	23.8	380	38.1	192	19.2	100	10.0
	数学	42	5.8	169	23.2	296	40.5	130	17.8	93	12.7
	理科	70	6.8	252	24.7	392	38.4	203	19.9	105	10.3
	外国語	73	6.4	278	24.3	379	33.2	273	23.9	140	12.2
教員が参加型学習の必要性を感じていない	国語	23	2.0	165	14.1	460	39.4	316	27.1	203	17.4
	地歴・公民	49	4.9	165	16.5	370	37.0	280	28.0	137	13.7
	数学	29	4.0	120	16.5	303	41.6	177	24.3	99	13.6
	理科	31	3.0	133	13.0	390	38.2	310	30.3	158	15.5
	外国語	27	2.4	169	14.8	375	32.8	351	30.7	220	19.3
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	国語	39	3.3	186	16.0	368	31.6	315	27.0	257	22.1
	地歴・公民	64	6.4	171	17.1	377	37.8	230	23.0	156	15.6
	数学	28	3.9	104	14.3	284	39.1	187	25.8	123	16.9
	理科	39	3.8	162	15.8	359	35.1	286	27.9	178	17.4
	外国語	72	6.3	211	18.5	325	28.4	308	26.9	227	19.9

表 143 参加型授業の悩みの相談相手（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
同校の同教科の教員	820	73.4	594	62.6	511	72.3	629	64.4	820	75.7
同校の他教科の教員	100	9.0	119	12.5	58	8.2	103	10.6	65	6.0
同校の管理職	61	5.5	81	8.5	63	8.9	88	9.0	73	6.7
他校の教員	52	4.7	69	7.3	35	5.0	80	8.2	57	5.3
同校の参加型学習推進担当教員	43	3.8	51	5.4	26	3.7	48	4.9	31	2.9
大学等の研究者	10	0.9	4	0.4	4	0.6	7	0.7	12	1.1
教育委員会関係者	7	0.6	6	0.6	1	0.1	5	0.5	7	0.6
民間の教育支援期間	2	0.2	1	0.1	1	0.1	3	0.3	5	0.5
その他	22	2.0	24	2.5	8	1.1	13	1.3	13	1.2
有効回答数	1,117	100.0	949	100.0	707	100.0	976	100.0	1,083	100.0
非該当	941		1,056		1,376		1,072		947	
無効回答	59		54		24		54		68	
無回答	11		27		11		19		20	
合計	2,128		2,086		2,118		2,121		2,118	

3.2. 尺度構成

本節では、本調査で用いた各質問項目の因子分析の結果を示す。

3.2.1. 教員の様子

教員の様子（露口（2008）自律的改善型コミュニティ尺度を参考に作成）に関する 16 項目とコミットメントに関する 3 項目について、先行研究と探索的因子分析の結果による仮説に基づき確認的因子分析を行なった結果、下表のような結果が得られた。

表 144 教員の様子に関する因子分析の結果

項目	I	II	III	IV	V
教員間の支えあい					
同僚同士が、失敗をカバーしたり、支援し合ったりする雰囲気がある	.940				
新たに採用・着任してきた教員を積極的に支援する雰囲気がある	.922				
仕事の悩みを同僚に率直に話す教員が多い	.665				
教員間の開かれた関係性					
教科の指導内容やその構成・順序などについて、教員が自由に考えて実践できる余地が多い		.821			
教員間で足並みをそろえることよりも、他の教員と異なる実践を展開することの方が重視されている		.929			
会議等では、異なる意見でも言いやすい雰囲気がある		.700			
他の教員の授業や学級経営の方法について、指摘しても構わないという雰囲気がある		.790			
他の教員の授業を気軽に参観することができる		.906			
教員がチームを組んで協力しながら単元開発や教材開発を行っている		.813			
授業改善への意欲					
授業実践を見直し、意欲的に改善しようとする教員が多い			.998		
学習指導や学級経営についての新しい理論や方法を積極的に吸収しようとする教員が多い			.891		
授業改善に向けた情報共有					
文部科学省や教育委員会など行政の施策を意識しながら日々の教育実践を行っている				.952	
新しい授業方法や教育実践についての知識を同僚同士で交換し合っている				.954	
保護者や地域との連携					
本校は、保護者や地域の人々に対して学校通信や学級通信等を積極的に活用して情報をわかりやすく伝えようとしている					.972
保護者や地域の人々から無理な要求や圧力を感じることがある					.977
本校では、保護者や地域の人々と協力した授業づくりや行事づくりを課題として推進している					.903

因子間相関	I	II	III	IV	V
I	—	.910	.904	.910	.748
II		—	.876	.924	.856
III			—	.870	.713
IV				—	.828
V					—

CMIN(94)=1346.133; $p < .001$, NFI=.969, CFI=.971, RMSEA=.079

表 145 教員のコミットメントに関する因子分析の結果

項目	I
コミットメント	
多くの教員がこの学校での仕事に意欲的に取り組んでいる	.918
多くの教員がこの学校の教員であることに満足している	.855
多くの教員が教師としての自信を持っている	.742

3.2.2. 生徒の様子

生徒の様子に関する 8 項目について、探索的因子分析の結果による仮説に基づき確認的因子分析を行った結果、下表のような結果が得られた。

表 146 生徒の様子に関する因子分析の結果

項目	I	II	III
知識・理解・技能			
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能を身につけている	.992		
各教科で必要とされる知識・技能を活用する力を身につけている	.912		
物事を多面的に見る力や、教科を越えて知識・理解を統合する力を身につけている	.914		
思考・表現・コミュニケーション能力			
自分の考えを深める思考力、言語で表現する力を身につけている		.825	
他者と協働するためのコミュニケーション力、協調性、社会性を身につけている		.898	
市民性・課題解決力			
物事や学習に対する積極的な態度を身につけている			.965
日常的問題場面において、適切な解決を行う能力を身につけている			.826
社会の一員としての自覚や、社会の変化に対応する力を身につけている			.933
因子間相関			
I	—	.973	.929
II		—	.963
III			—

CMIN(17)=257.465; $p < .001$, NFI=.989, CFI=.989, RMSEA=.081

3.2.3. 教員の職務行動

学校代表者、カリキュラム・マネジメント担当者、教科主任のカリキュラム・マネジメントに関連する職務行動のそれぞれについて、探索的因子分析の結果による仮説に基づき確認的因子分析を行なった結果、下表のような結果が得られた。

表 147 学校代表者の職務行動に関する因子分析の結果

項目	I	II
組織づくり		
教員同士の組織的な人材育成が図られるよう、チームや学年、教科等による育成システムを構築する	.691	
主幹教諭及び管理職を担い得る人材を発掘し、早い段階から計画的に育成する	.685	
組織運営に関わる内部及び外部環境を把握し、「強み」を生かした教育活動の実現に向けた組織づくりを行う	.770	
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材や施設設備を確保する	.679	
学校代表者として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	.666	
外部関係者との連携		
地域、企業、NPO等の外部の協力を得ながら教育活動を行う		.589
自校の問題解決に向け、教育委員会等の関係機関と適切に連携や調整・折衝を行いながら、対応する		.672
学校目標や教育活動等についての情報を保護者や地域、関係機関等に発信する		.652
因子間相関		
I	—	.790
II		—

CMIN(19)=164.553; $p < .001$, NFI=.970, CFI=.973, RMSEA=.060

表 148 カリキュラム・マネジメント担当者の職務行動に関する因子分析の結果

項目	I	II	III	IV	V	VI
カリキュラムの編成・実施・評価・改善						
学校の実態や学校を取り巻く状況に関する情報を収集し、学校の現状を多面的に把握する	.742					
生徒の意見や要望等を収集し、教育課程や学校経営計画に積極的に反映させる	.575					
保護者、地域、関係機関等の状況や意見、要望等を収集し、教育課程や学校経営計画に積極的に反映させる	.664					
学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえた学校教育目標の策定や、その実現に向けた経営戦略の構築に積極的に関わる	.770					
学校教育目標達成に向けて、教科・科目横断的、統合的な視点に立って、特色ある教育課程(時数・教育内容の調整)や学校経営計画の編成に積極的に関わる	.777					
教育活動や学校運営の状況を客観的に把握した上で、根拠に基づいた評価・改善に努める	.778					
カリキュラム・マネジメント担当者として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	.661					
教務関連の連絡・調整						
学習指導要領に従って教科・科目の単位数や時数を適切に設定する	.742					
教育課程や学校経営計画の編成や改善のための会議を定期的に行う	.696					
方針の周知						
学校教育目標について、教員がその背景や趣旨をよく理解できるよう、周知を図る			.854			
学校課程や学校経営計画について、教員がその背景や趣旨をよく理解できるよう、周知を図る			.874			
自律的な組織づくり						
教員が教材研究や授業・単元開発に取り組むことができるよう仕組みをつくる				.680		
日頃の実施状況の把握し、教育課程や学校経営計画の評価・改善に積極的に関わる				.719		
日常の職務やその他あらゆる機会を通じて、職務に必要な知識や技能、態度などについて具体的に指導・助言を行う				.703		
教員同士で支え合い、学びあえる職場づくりを行うための工夫をする				.763		
教員の学校運営に対する参画意識を高める工夫をする				.779		
教員間の関係性に配慮し、豊かなコミュニケーションを行えるような組織風土づくりを試みる				.738		
教科間の調整が円滑に進むよう各教科の教員に事前に根回しする				.608		
教員に対する成長機会の提供						
国や自治体、学校の教育方針についての理解を深めるような研修や研究会を企画する					.845	
新しい教育方法や先進的な実践事例についての理解を深めるような研修や研究会を企画する					.840	
リソース獲得への働きかけ						
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材を確保(採用や配置)できるよう管理職に働きかける						.819
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な施設設備を確保できるよう管理職に働きかける						.866
地域、企業、NPO等の外部の協力を得ながら教育活動を行う						.499
因子間相関						
I	—	.872	.809	.799	.619	.665
II		—	.730	.724	.508	.580
III			—	.800	.631	.617
IV				—	.686	.702
V					—	.546
VI						—

CMIN(214)=2116.214; p<.001, NFI=.923, CFI=.930, RMSEA=.065

表 149 教科主任の職務行動に関する因子分析の結果

項目	I	II	III	IV	V
カリキュラムの編成・実施・評価・改善					
学校の実態や学校を取り巻く状況に関する情報を収集し、学校の現状を多面的に把握する	.718				
生徒の意見や要望等を収集し、教育活動の充実を図る	.651				
保護者、地域、関係機関等の状況や意見、要望等を収集し、教育活動の充実を図る	.653				
学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえた教科目標の策定や、その実現に向けた経営戦略の構築に積極的に関わる	.787				
学校教育目標達成に向けた特色ある教育課程や学校経営計画の編成・実施に積極的に関わる	.776				
教育活動や学校運営の状況を客観的に把握した上で、根拠に基づいた評価・改善に努める	.769				
教科主任として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	.594				
方針の周知					
教科目標について、教員がその背景や趣旨をよく理解できるよう、周知を図る		.846			
教科の指導計画や授業内容について、教員がその背景や趣旨をよく理解できるよう、周知を図る		.872			
自律的な組織づくり					
教員が教材研究や授業・単元開発に取り組むことができるよう仕組みをつくる			.702		
日頃の実施状況や授業内容を把握し、教育課程や学校経営計画の評価・改善に積極的に関わる			.750		
日常の職務やその他あらゆる機会を通じて、職務に必要な知識や技能、態度などについて具体的に指導・助言を行う			.722		
教員同士で支え合い、学びあえる職場づくりを行うための工夫をする			.759		
教員のロールモデルとして、自らの教育方法や指導技術を公開する			.671		
教員の教科の運営に対する参画意識を高める工夫をする			.760		
教員間の豊かなコミュニケーションを促進するとともに、問題解決や合意形成が協働的に行われるようにする			.727		
教員に対する成長機会の提供					
国や自治体、学校の教育方針についての理解を深めるような研修や研究会を企画する				.837	
新しい教育方法や先進的な実践事例についての理解を深めるような研修や研究会を企画する				.888	
リソース獲得への働きかけ					
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材を確保（採用や配置）できるよう管理職に働きかける					.776
効果的な教育活動の実現に向けて、必要な施設設備を確保できるよう管理職に働きかける					.845
地域、企業、NPO等の外部の協力を得ながら教育活動を行う					.448

因子間相関	I	II	III	IV	V
I	—	.790	.823	.566	.581
II		—	.828	.500	.479
III			—	.631	.629
IV				—	.475
V					—

CMIN(179)=8705.953; $p < .001$, NFI=.928, CFI=.930, RMSEA=.067

3.2.4. カリキュラム・マネジメントへの取り組み状況

学校全体、教科でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況に関する項目について、探索的因子分析の結果による仮説に基づき確認的因子分析を行なった結果、下表のような結果が得られた。

表 150 学校全体でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況に関する因子分析の結果

項目	I	II	III
特色あるカリキュラム編成			
学校教育目標は、学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえ、特色あるものとなっている	.719		
教育課程は、学校教育目標の達成を意識し、授業時数の配当に工夫が加えられている	.744		
学校教育目標の達成を意識した、特色ある教育活動が展開されている	.859		
目標達成に向けたPDCAの推進			
学校教育目標の達成を意識した、教科・科目横断的、統合的な視点に立った教科・科目が実施されている		.601	
各教員が学校教育目標の達成を常に意識しながら教育・指導を行うよう働きかける仕組みがある(研修や研究会、組織体制など)		.740	
教育活動の結果を評価し、根拠に基づいて教育課程の改善を行う仕組みがある		.716	
学校内外のリソース活用			
教育活動に必要な人的・物的資源について、学校内資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている(学校内の施設設備の活用や、教職員などの人材の活用など)			.617
教育活動に必要な人的・物的資源について、学校外資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている(地域、NPO等の活動団体、大学、行政等の施設設備や人材の活用など)			.764
因子間相関			
I	—	.713	.737
II		—	.802
III			—

CMIN(17)=147.993; $p < .001$, NFI=.976, CFI=.978, RMSEA=.060

表 151 教科でのカリキュラム・マネジメントへの取り組み状況に関する因子分析の結果

項目	I	II	III
特色あるカリキュラム編成			
〇〇科の教科目標は、学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえ、特色あるものとなっている	.775		
〇〇科の指導計画や授業内容は、学校教育目標の達成を意識し、授業時数の配当に工夫が加えられている	.684		
〇〇科では、学校教育目標の達成を意識した、特色ある教育活動が展開されている	.850		
目標達成に向けたPDCAの推進			
〇〇科では、学校教育目標の達成を意識した、教科横断・統合的な視点に立った科目・授業が設置されている		.665	
〇〇科には、各教員が学校教育目標の達成を常に意識しながら教育・指導を行うよう働きかける仕組みがある(研修や研究会、組織体制など)		.760	
〇〇科には、教育活動の結果を評価し、根拠に基づいて指導計画や授業内容の改善を行う仕組みがある		.748	
学校内外のリソース活用			
〇〇科では、教育活動に必要な人的・物的資源について、学校内の資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている(学校内の施設設備の活用や、教職員などの人材の活用など)			.566
〇〇科では、教育活動に必要な人的・物的資源について、学校外の資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている(地域、NPO等の活動団体、大学、行政等の施設設備や人材の活用など)			.684
因子間相関			
I	—	.775	.732
II		—	.833
III			—

CMIN(17)=905.232; $p<.001$, NFI=.971, CFI=.972, RMSEA=.070

3.2.5. カリキュラム・マネジメントの悩み

カリキュラム・マネジメント担当者と教科主任のカリキュラム・マネジメントの悩みに関する項目について、探索的因子分析の結果による仮説に基づき確認的因子分析を行なった結果、下表のような結果が得られた。

表 152 カリキュラム・マネジメント担当者のカリキュラム・マネジメントの悩みに関する因子分析の結果

項目	I	II	III	IV	V	VI
カリキュラムの編成・実施に関する悩み						
学校教育目標を、学校の特色を踏まえて具体化できていない	.783					
生徒の実態や学校を取り巻く環境を踏まえて学校の特色を出すのが難しい	.768					
学校教育目標の実現に向けて、教育課程・教育活動をどう具体化すればよいかわからない	.803					
学校教育目標と実際に実施されている教育課程・教育活動との間にずれがある	.728					
カリキュラムの評価・改善に関する悩み						
学校の成果や課題をどう評価・把握すればよいかわからない		.796				
教育課程・教育活動を評価・改善するための時間を確保できない		.704				
評価の結果をどう具体的な改善策につなげればよいかわからない		.864				
管理職や教科主任との連携に関する悩み						
管理職とうまく連携できていない			.757			
教科主任とうまく連携できていない			.832			
自律的な組織づくりに関する悩み						
学校教育目標や学校の方針が教員間で共有できていない				.744		
組織的な教育活動の改善に向けての教員の自主性を引き出せない				.737		
人事異動により組織的な取り組みとならない				.507		
教育課程・教育活動の改善に関する知識や方法や教員間に共有されていない				.810		
教育課程・教育活動の改善に組織的に取り組むための仕組みがない				.702		
教科間の連携・調整に関する悩み						
各教科の時数や教育内容に関する要望を調整するのが難しい					.620	
教科を越えた連携ができていない					.802	
リソースに関する悩み						
教育課程・教育活動の改善に取り組む態勢を整えるには予算が足りない						.618
カリキュラム・マネジメント担当者としての負担が過度に大きい						.606
教育課程・教育活動を改善するための施設設備が足りない						.615
外部の人的・物的資源を活用しながら教育活動の改善に取り組みたいが、そのための外部とのつながりが無い						.592
教科・科目横断的、統合的な取り組みをしたいが、各教科・科目の人員や教材を融通しあうのが難しい						.704

因子間相関	I	II	III	IV	V	VI
I	—	.767	.652	.771	.597	.531
II		—	.576	.765	.648	.555
III			—	.770	.607	.512
IV				—	.826	.651
V					—	.697
VI						—

CMIN(174)=1965.245; $p < .001$, NFI=.909, CFI=.916, RMSEA=.070

表 153 教科主任のカリキュラム・マネジメントの悩みに関する因子分析の結果

項目	I	II	III	IV	V	VI
カリキュラムの編成・実施に関する悩み						
生徒の実態や学校を取り巻く環境を踏まえて学校の特色を出すのが難しい	.619					
学校教育目標の実現に向けて、指導計画や授業内容をどう具体化すればよいかわからない	.810					
学校教育目標と実際に実施されている指導計画や授業内容との間にずれがある	.678					
カリキュラムの評価・改善に関する悩み						
学校の成果や課題をどう評価・把握すればよいかわからない		.767				
教育課程・教育活動を評価・改善するための時間を確保できない		.549				
評価の結果をどう具体的な改善策につなげればよいかわからない		.793				
管理職やカリマネ担当者との連携に関する悩み						
管理職とうまく連携できていない			.792			
カリキュラム・マネジメント担当者とうまく連携できていない			.810			
自律的な組織づくりに関する悩み						
学校教育目標や学校の方針が教員間で共有できていない				.692		
組織的な教育活動の改善に向けての教員の自主性を引き出せない				.713		
人事異動により組織的な取り組みとならない				.520		
指導計画や授業内容の改善に関する知識や方法や教員間に共有されていない				.789		
指導計画や授業内容の改善に組織的に取り組むための仕組みがない				.736		
教科間の連携・調整に関する悩み						
各教員の時数や教育内容に関する要望を調整するのが難しい					.635	
教科を越えた連携ができていない					.683	
リソースに関する悩み						
指導計画や授業内容を改善するための施設設備が足りない						.565
外部の人的・物的資源を活用しながら教育活動の改善に取り組みたいが、そのための外部とのつながりがない						.643
因子間相関						
I	—	.833	.520	.635	.542	.476
II		—	.531	.674	.607	.480
III			—	.779	.674	.453
IV				—	.836	.564
V					—	.723
VI						—

CMIN(104)=4388.206; $p < .001$, NFI=.936, CFI=.937, RMSEA=.062

3.2.6. カリキュラム・マネジメント担当者の能力

カリキュラム・マネジメント担当者の能力に関する 10 項目について、探索的因子分析の結果による仮説に基づき確認的因子分析を行なった結果、下表のような結果が得られた。

表 154 カリキュラム・マネジメント担当者の能力に関する因子分析の結果

項目	I	II	III
指導・教授力			
目標とする学習事項について、素早く的確に習得させること	.653		
生徒たちの学力や特性に合わせて学習指導や進路支援を行うこと	.704		
反社会的な行動をした生徒や学校生活上困難を抱えている生徒に対して適切な指導・支援を行なっていくこと	.615		
生徒一人一人の特性を生かしながらまとまりのある学級集団を形成すること	.683		
組織化力			
学校や学年、教科など、組織の課題を解決するため、率先して同僚と連携すること		.729	
目的とする方策の実現可能性を高めるために、誰にどのような働きかけをすればいいかを理解すること		.780	
情報解釈・活用力			
新しい授業方法や教育内容について情報を得て、積極的に刷新すること			.522
現在の課題に取り組みながら、次に生じる課題を予測すること			.690
国や県、管理職が示した方針について、自分の学校や学年、教科の状況に合わせて実現方策を考えること			.779
国や県、管理職が示した方針をわかりやすくかみくだいて同僚や後輩に伝えること			.727

因子間相関	I	II	III
I	—	.737	.704
II		—	.833
III			—

CMIN(31)=423.123; $p < .001$, NFI=.944, CFI=.948, RMSEA=.077

3.2.7. カリキュラム・マネジメント担当者のリーダーシップ

カリキュラム・マネジメント担当者のリーダーシップに関する4項目について、探索的因子分析の結果による仮説に基づき確認的因子分析を行なった結果、下表のような結果が得られた。

表 155 カリキュラム・マネジメント担当者のリーダーシップに関する因子分析の結果

項目	I	II
適切な指示・助言		
メンバーには、目標の達成にむけて明確な指示を与えている	.858	
現状や課題について細やかに把握し、適切な助言・支援を与えている	.855	
良好な関係づくり		
メンバーのアイデアや意見によく耳を傾け、受容的な態度をとるようにしている		.800
メンバー間の人間関係に配慮し、信頼と協力関係を築きあげるように努力している		.854

因子間相関	I	II
I	—	.666
II		—

CMIN(1)=2.865; n.s., NFI=.999, CFI=.999, RMSEA=.030

3.2.8. 参加型授業のねらい

参加型授業のねらいに関する 24 項目について、過年度の調査と探索的因子分析による仮説に基づき確認的因子分析を行なった結果、下表のような結果が得られた。

表 156 参加型授業のねらいに関する因子分析の結果

項目	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
思考・表現力								
自分の考えを言語で表現する力	.644							
これまでにない発想をしようとする創造性	.710							
自分の考えを深める思考力	.776							
課題解決力								
課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力		.843						
自分で情報を収集し、分析し、整理する力		.841						
課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力		.857						
主体性								
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力			.713					
何事にも積極的に取り組む意欲			.869					
他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲			.857					
市民性								
勤労観や職業観				.742				
社会の一員としての市民性意識				.745				
社会変化に対応できる柔軟性				.842				
自分の生き方についての自覚や将来の進路展望				.847				
協働性								
主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力					.880			
他者と協力するための社会性や協調性					.850			
教科基礎力								
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能						.512		
教科内容に対する知的好奇心						.593		
文章などを正確に読み解く力						.672		
教科応用力								
各教科で身につけた知識・技能を活用する力							.609	
教科を越えた知識や理解の統合							.695	
物事を多面的に見る力							.748	
入試・就職力								
大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力								.741
大学入学試験（一般入試）の問題を解く力								.837
就職で必要となる力								.665

因子間相関	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
I	—	.914	.728	.653	.756	.747	.917	.492
II		—	.672	.633	.611	.689	.830	.433
III			—	.691	.688	.769	.673	.542
IV				—	.547	.746	.733	.588
V					—	.578	.640	.405
VI						—	.819	.689
VII							—	.522
VIII								—

CMIN(219)=5434.841; $p < .001$, NFI=.923, CFI=.926, RMSEA=.070

3.2.9. 参加型授業の学習活動

参加型授業の学習活動に関する 25 項目について、過年度の調査による仮説に基づき確認的因子分析を行なった結果、下表のような結果が得られた。

表 157 参加型授業の学習活動に関する因子分析の結果

項目	I	II	III	IV	V
探究活動型					
個人でテーマを調べる活動	.815				
グループでテーマを調べる活動	.819				
教員が生徒にテーマを与えて調べる活動	.689				
生徒が自分でテーマを設定して調べる活動	.827				
図書館などで書物や論文などの資料を調べる活動	.719				
コンピュータなどの機器を用いて調べる活動	.741				
社会活動型					
博物館など、学校外の施設で調べる活動		.675			
実験室などでの実験や観察		.410			
インタビューや観察、アンケート調査をして調べる活動		.687			
地域の課題解決やボランティアなど、地域の人の役に立つ活動		.716			
外部講師による講演や活動		.703			
自然体験・社会体験活動		.712			
他校の生徒や地域の人など学校外の人との交流活動		.692			
意見発表・交換型					
生徒同士の討論(ディベート)			.631		
生徒同士の議論や話し合い(ディスカッション)			.747		
生徒による発表(プレゼンテーション)			.695		
生徒同士で意見を出し合う活動(ブレインストーミング)			.742		
理解深化型					
学習について自分で客観的にふりかえる活動				.616	
データの整理・分析やレポートなどのまとめ活動				.712	
まとめのプリントや壁新聞などをつくる活動				.660	
生徒同士がお互いに評価し合う活動				.647	
教員による思考の活性化を促す説明や解説				.541	
芸術・創作活動型					
演劇やダンスなどの身体活動					.766
音楽や美術などの芸術活動					.824
写真や映像などを用いた創作活動					.562
因子間相関					
I	—	.686	.681	.863	.425
II		—	.489	.639	.566
III			—	.824	.328
IV				—	.413
V					—

CMIN(265)=6997.508; $p < .001$, NFI=.885, CFI=.889, RMSEA=.049

3.2.10. 参加型授業の工夫

参加型授業の工夫に関する 16 項目について、過年度の調査による仮説に基づき確認的因子分析を行った結果、下表のような結果が得られた。

表 158 参加型授業の工夫に関する因子分析の結果

項目	I	II	III	IV	V
授業方法の工夫					
自作プリントや模型・実物の提示など、アナログな教材教具の工夫	.556				
生徒の発達段階や個性を考慮したグループづくりの工夫	.589				
学習活動の各場面で生徒の学習を促す動機づけの工夫	.814				
生徒にあらかじめ学習のねらいを伝えるなど、学習の到達点を意識させる工夫	.787				
他教員との協力					
他学年との合同の取り組み		.645			
複数の教員による合同の授業の実施		.576			
リソースの整備					
参加型学習に関する教員用の手引書などの整備			.522		
学習時間が十分に保証できるような時間割の工夫			.674		
効果的な授業を実施できる教員（非常勤講師を含む）の確保			.649		
校内リソースの活用					
電子教科書やタブレット端末など、デジタルな教材教具の工夫				.528	
空き教室や特別教室など、学校内の既存スペースの活用				.655	
可動式机など、参加型学習での活用を考慮した学校内スペースの整備				.630	
校外リソースの活用					
公民館など、学校外スペースの活用					.575
外部講師を招いた授業の実施					.618
生徒が自然体験・社会体験できる場の活用					.666
反転授業など、授業外の時間の使い方の工夫					.538

因子間相関	I	II	III	IV	V
I	—	.542	.593	.619	.465
II		—	.743	.700	.881
III			—	.733	.696
IV				—	.700
V					—

CMIN(94)=2214.682; $p < .001$, NFI=.918, CFI=.921, RMSEA=.046

3.2.11. 参加型授業の効果

参加型授業の効果について、過年度の調査と探索的因子分析による仮説に基づき、教員とのコミュニケーションに関する 1 項目を除く 29 項目について確認的因子分析を行なった結果、下表のような結果が得られた。

表 159 参加型授業の効果に関する因子分析の結果

項目	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
思考・表現力								
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	.628							
生徒がこれまでにない発想をするようになった	.657							
生徒が自分の考えを深められるようになった	.745							
課題解決力								
生徒が身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった		.750						
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった		.755						
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった		.766						
主体性								
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった			.684					
生徒の学習習慣(予復習)が身についた			.650					
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった			.788					
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった			.782					
市民性								
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった				.591				
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった				.666				
地域社会との交流や相互理解が深まった				.520				
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった				.682				
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった				.738				
協働性								
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた					.702			
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関わられるようになった					.472			
生徒の社会性や協調性が高まった					.694			
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった					.629			
教科基礎力								
生徒の教科における学業成績(学内定期考査など)が向上した						.557		
生徒の進学実績が向上した						.600		
生徒の教科内容に対する知的好奇心が高まった						.597		
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった						.664		
教科応用力								
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった							.686	
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ							.765	
生徒の物事を多面的に見る力が高まった							.779	
入試・就職力								
大学入学試験(AO・推薦入試など)で必要となる力が高まった								.764
大学入学試験(一般入試)の問題を解く力が高まった								.742
就職で必要となる力が高まった								.597

因子間相関	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
I	—	.983	.810	.793	.901	.905	.916	.752
II		—	.801	.773	.820	.883	.870	.690
III			—	.819	.769	.880	.718	.711
IV				—	.750	.767	.779	.733
V					—	.826	.761	.679
VI						—	.913	.834
VII							—	.677
VIII								—

CMIN(345)=2167.774; $p < .001$, NFI=.888, CFI=.903, RMSEA=.050

3.2.12. 参加型授業の悩み

参加型授業の悩みに関する 26 項目について、過年度の調査と探索的因子分析による仮説に基づき確認的因子分析を行なった結果、下表のような結果が得られた。

表 160 参加型授業の悩みに関する因子分析の結果

項目	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
教育効果に関する悩み								
生徒の教科における学業成績(学内定期考査など)が低下する	.808							
受験に必要な学力に結びつかない	.838							
社会の中で「生きる力」に結びつかない	.670							
進度に関する悩み								
授業の進度が遅くなる		.661						
各教員の授業の進度にばらつきが生じる		.894						
各教員の授業内容にばらつきが生じる		.849						
授業方法や評価に関する悩み								
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい			.673					
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである			.705					
教員の授業スキルが不足している			.510					
生徒の学習態度に関する悩み								
授業内容に関係のない生徒の私語が増える				.810				
生徒の集中力が低下する				.853				
参加型学習になじめない生徒や、ついてこれない生徒がいる				.505				
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない				.670				
教員の負担増加に関する悩み								
授業中の教員の負担が増加する					.601			
授業前後の教員の負担が増加する					.815			
授業準備のための時間が足りない					.725			
リソースに関する悩み								
予算が足りない						.838		
必要な施設・設備が足りない						.816		
授業の時数が足りない						.409		
一学級当たり生徒数が適切でない						.320		
生徒や保護者の理解に関する悩み								
生徒の理解が得られない							.912	
保護者の理解が得られない							.912	
教員の理解に関する悩み								
組織的な取り組みにならない								.707
教員が参加型学習の必要性を感じていない								.839
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある								.758

因子間相関	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
I	—	.516	.560	.622	.247	.161	.543	.497
II		—	.700	.495	.447	.277	.356	.463
III			—	.623	.578	.316	.408	.561
IV				—	.296	.162	.556	.489
V					—	.542	.165	.267
VI						—	.204	.179
VII							—	.526
VIII								—

CMIN(245)=1980.251; $p < .001$, NFI=.879, CFI=.891, RMSEA=.058

調査票A
学校代表者用

高等学校における参加型学習に関する実態調査

東京大学 大学総合教育研究センター
日本教育研究イノベーションセンター (JCERI)

9月5日(火)までに
とりまとめご担当の先生に
提出してください

※ すべての調査票をまとめて、9月8日(金)までに投函していただきますよう、
とりまとめご担当の先生にお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

○調査票の発送・回収に関するお問い合わせ

日本教育研究イノベーションセンター (JCERI)

代表電話番号 03-6811-5569

受付時間 10:00~17:00 (土日祝を除く)

○質問内容、その他調査全般に関するお問い合わせ

東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門 担当 村松、田中、中原

電話番号 03-5841-4913

受付時間 10:00~17:00 (土日祝、夏季休業(8/11-15)を除く)

【調査の概要】

東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門では、日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）と連携し、学習者の能動的な学びへの参加を促す学習（参加型学習）の実態に関する調査を実施しました。本調査では、教員による一方向的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を「参加型学習」と呼びます。参加型学習は、文部科学省が示す「主体的・対話的で深い学び」に相当するものと考えております。今年度は、以下の点を明らかにするための質問をさせていただきます。

① 2015 年度調査以降、参加型学習に関する取り組みに変化はあったか

② 参加型学習に取り組む学校や先生方は、どのような目的でどのような内容の授業を行っているか

本調査の分析結果は、特設ウェブサイト「未来を育てるマナビラボ」<<http://manabilab.jp>>にて、日本全国の教育関係者に無償公開し、共有させていただきます。同ウェブサイトにおいては参加型学習を展開するうえでの手助けとなるような実践的な工夫についての情報も収集・発信しております。授業づくりのお役に立つことができれば幸いです。

お忙しい中恐れ入りますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

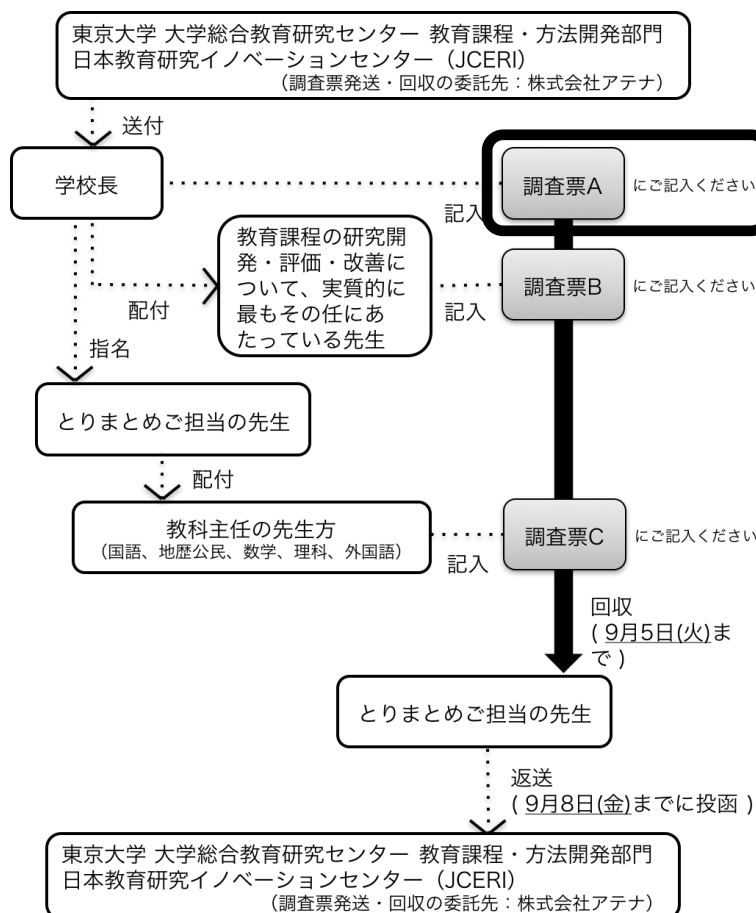
【調査結果の取り扱い】

回収された調査票は、厳重に保管します。また、回答された情報は、統計的に処理し、許可なく個人や学校が特定される形で公表されることはございません。

【注意とお願い】

- ・調査票の著作権は東京大学大学総合教育研究センター及び日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）が有しています。調査票を利用した独自の調査および研究はお控えください。
- ・調査票は指定した宛先のみ返送し、他の機関や個人に送ることはお控えください。

【調査の手順】



【調査票の種類】

本調査には、A、B、Cの3種類の調査票があります。

調査票 A：←本紙はこちら
学校全体としての取り組みについて伺います。学校長をはじめ、「学校の教育活動全体」について把握していらっしゃる学校代表者にご回答をお願いします。

調査票 B：
カリキュラム・マネジメント（学校教育目標に向けた教育課程の研究開発・評価・改善）について伺います。実質的に最もその任にあたっていらっしゃる先生にご回答をお願いします。

調査票 C：
教科ごとの取り組みについて伺います。国語、地歴公民、数学、理科、外国語の教科主任の先生にご回答をお願いします。（各教科1部ずつ計5部）

この調査票は、貴校の取り組みについて、学校を代表される立場の方にお尋ねするものです
特に指定のない場合、今年度（2017年4月～2018年3月）の実績・計画についてお答えください

- 1 回答される方の現在の職階・職務として、最もあてはまるものを1つ選んでください。
1. 校長 2. 副校長 3. 教頭 4. 主幹教諭 5. 主任教諭 6. 指導教諭 7. 教諭
8. 教務主任 9. 進路指導主任 10. 生徒指導主任 11. 学年主任 12. 教科主任
13. 総務主任 14. その他（具体的に ）

貴校の現在の校長についてお尋ねします

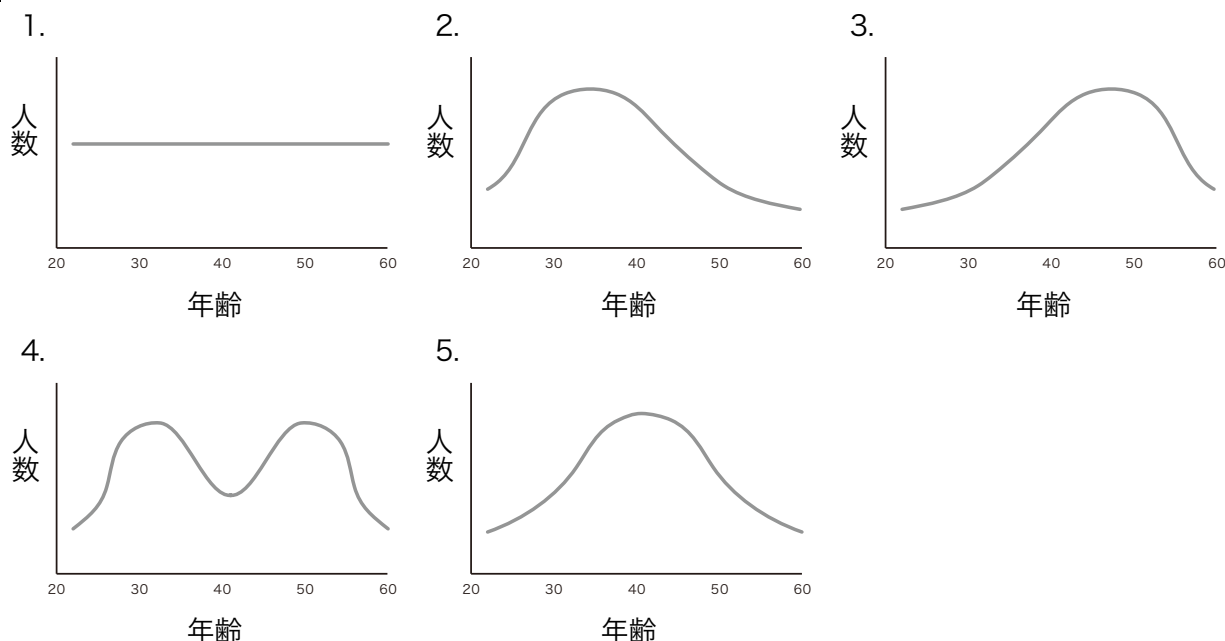
- 2 現在の校長は、貴校に着任して何年目ですか。……………（ ）年目
3 貴校の校長の教職経験年数をすべて合計してお答えください。…（ ）年
4 貴校の校長は、これまで教育委員会や教育センターの指導主事・人事主事を経験したことはありますか。いずれかの経験がある場合には、経験した年数をそれぞれ合計してお答えください。
1. ない
2. ある → ^A指導主事（ ）年 ^B人事主事（ ）年
5 貴校の校長は、教員以外の職業を経験したことがありますか。
1. ない 2. ある（具体的に ）
6 貴校の校長が最後に卒業した学校について、あてはまるものを1つ選んでください。
1. 短期大学 2. 四年制大学(教員養成系) 3. 四年制大学(教員養成系以外)
4. 大学院修士課程(教員養成系) 5. 大学院修士課程(教員養成系以外)
6. 大学院博士課程(教員養成系) 7. 大学院博士課程(教員養成系以外)
8. その他（具体的に ）

貴校についてお尋ねします

- 7 共学校、男子校、女子校の区分について、あてはまるものをすべて選んでください。
1. 共学校 2. 男子校 3. 女子校
8 中学校及び大学との接続について、あてはまるものをすべて選んでください。
1. 単独設置校である 2. 中高一貫教育校（併設型及び連携型）である
3. 中等教育学校である 4. 同じ学校法人が設置する系列大学がある
5. 異なる学校法人が設置する系列大学がある
6. その他（具体的に ）
9 現在、研究指定や重点校指定を受けていますか。受けている文部科学省の研究指定と文部科学省以外の研究指定や重点校指定について、あてはまるものをすべて選んでください。
(1) 文部科学省の研究指定
1. スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 2. スーパーグローバルハイスクール (SGH)
3. スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール (SPH) 4. サイエンスパートナーシッププロジェクト (SPP)
5. 英語教育強化地域拠点事業 6. 地域産業の担い手育成プロジェクト
7. 道徳教育実践研究事業 8. 教育課程研究指定事業
9. 外部専門機関と連携した英語指導力向上事業 10. SGH アソシエイト
11. その他（具体的に ）
(2) 文部科学省以外の研究指定・重点校指定
1. 学力向上推進事業 2. キャリア教育・進路指導・進学指導・就職指導等推進事業
3. 地域連携推進事業 4. ものづくり人材育成事業 5. 特別支援教育推進事業
6. その他（具体的に ）

- 10 貴校に所属する教員数をお答えください。（貴校に勤務する校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、講師、養護教諭、実習助手など。臨時採用教員を含む。）
1. 常勤教員数……………（ ）名
 2. 非常勤教員数……………（ ）名

- 11 貴校に所属する教員の年齢分布として、最もあてはまるものを 1 つ選んでください。



- 12 校長が着任してから離任するまでの期間（異動スパン）は、だいたい何年くらいですか。あてはまるものを 1 つ選んでください。
1. 1年 2. 2年 3. 3年 4. 4年
 5. 5年 6. 6年 7. 7年 8. 8年以上

- 13 教員（初任者は除く）が1つの学校に着任してから離任するまでの期間（異動スパン）は、だいたい何年くらいですか。あてはまるものを 1 つ選んでください。
1. 3年以下 2. 4年 3. 5年 4. 6年
 5. 7年 6. 8年 7. 9年 8. 10年以上

- 14 貴校の学科の設置状況と、学科ごとの学級数・生徒数についてお聞きします。
貴校に設置されている学科について、次の1～15の中からあてはまるものを すべて 選んで、右側の空欄に○をつけて ください。

また、○をつけた学科について、右側の列にそれぞれの学科の 2017年度の第1学年の学級数と生徒数（2017年4月の入学者数）をお答えください。（1～15にあてはまらない学科については、16～18の欄に学科名を記入してください）

A 設置されている学科に○		B 第1学年の学級数	C 第1学年の生徒数
1. 普通科		学級	名
2. 総合学科		学級	名
3. 農業に関する学科		学級	名
4. 工業に関する学科		学級	名
5. 商業に関する学科		学級	名
6. 水産に関する学科		学級	名
7. 家庭に関する学科		学級	名
8. 看護に関する学科		学級	名

A 設置されている学科に○ 		B 第1学年の学級数	C 第1学年の生徒数
9. 情報に関する学科		学級	名
10. 福祉に関する学科		学級	名
11. 理数に関する学科		学級	名
12. 外国語に関する学科		学級	名
13. 国際に関する学科		学級	名
14. 芸術に関する学科		学級	名
15. 体育に関する学科		学級	名
その他	16. ()	学級	名
	17. ()	学級	名
	18. ()	学級	名

- 15 貴校の生徒の卒業後の進路について、2016年度卒業生（2017年3月卒業）の進路別の人数をお答えください。

進路先	A 四年制大学	B 短期大学	C 専修・各種学校	D 就職	E 進学準備	F その他	G 合計
2016年度卒業生	名	名	名	名	名	名	名

あなたの職務や行動についてお尋ねします

- 16 学校代表者としてのあなたの職務や行動についてお尋ねします。以下の項目について、あなたはどのくらい取り組んでいますか。あてはまるものを1つずつ選んでください。

	取り組んでいる とても力を入れて	取り組んでいる 力を入れて	取り組んでいる	取り組んでいない
組織マネジメント				
1. 教員同士の組織的な人材育成が図られるよう、チームや学年、教科等による育成システムを構築する	4	3	2	1
2. 主幹教諭及び管理職を担い得る人材を発掘し、早い段階から計画的に育成する	4	3	2	1
3. 組織運営に関わる内部及び外部環境を把握し、「強み」を生かした教育活動の実現に向けた組織づくりを行う	4	3	2	1
資源の活用				
4. 効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材や施設設備を確保する	4	3	2	1
5. 地域、企業、NPO等の外部の協力を得ながら教育活動を行う	4	3	2	1
6. 自校の問題解決に向け、教育委員会等の関係機関と適切に連携や調整・折衝を行いながら、対応する	4	3	2	1
7. 学校目標や教育活動等についての情報を保護者や地域、関係機関等に発信する	4	3	2	1
8. 学校代表者として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	4	3	2	1

貴校の生徒や教員の様子についてお尋ねします

- [17] 貴校の教員の様子についてお聞きします。以下のそれぞれの項目について、貴校の教員の様子としてあてはまる番号を 1 つずつ 選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
教員集団の雰囲気					
1. 同僚同士が、失敗をカバーしたり、支援し合ったりする雰囲気がある	5	4	3	2	1
2. 新たに採用・着任してきた教員を積極的に支援する雰囲気がある	5	4	3	2	1
3. 仕事の悩みを同僚に率直に話す教員が多い	5	4	3	2	1
教員の自由裁量					
4. 教科の指導内容やその構成・順序などについて、教員が自由に考えて実践できる余地が多い	5	4	3	2	1
5. 教員間で足並みをそろえることよりも、他の教員と異なる実践を展開することの方が重視されている	5	4	3	2	1
6. 文部科学省や教育委員会など行政の施策を意識しながら日々の教育実践を行っている	5	4	3	2	1
7. 会議等では、異なる意見でも言いやすい雰囲気がある	5	4	3	2	1
8. 他の教員の授業や学級経営の方法について、指摘しても構わないという雰囲気がある	5	4	3	2	1
教員の意欲					
9. 授業実践を見直し、意欲的に改善しようとする教員が多い	5	4	3	2	1
10. 学習指導や学級経営についての新しい理論や方法を積極的に吸収しようとする教員が多い	5	4	3	2	1
11. 多くの教員がこの学校での仕事に意欲的に取り組んでいる	5	4	3	2	1
12. 多くの教員がこの学校の教員であることに満足している	5	4	3	2	1
13. 多くの教員が教師としての自信を持っている	5	4	3	2	1
教員間の知識共有					
14. 他の教員の授業を気軽に参観することができる	5	4	3	2	1
15. 教員がチームを組んで協力しながら単元開発や教材開発を行っている	5	4	3	2	1
16. 新しい授業方法や教育実践についての知識を同僚同士で交換し合っている	5	4	3	2	1
パートナーシップ					
17. 本校は、保護者や地域の人々に対して学校通信や学級通信等を積極的に活用して情報をわかりやすく伝えようとしている	5	4	3	2	1
18. 保護者や地域の人々から無理な要求や圧力を感じることもある	5	4	3	2	1
19. 本校では、保護者や地域の人々と協力した授業づくりや行事づくりを課題として推進している	5	4	3	2	1

- 18 貴校の生徒の様子についてお聞きします。以下のそれぞれの項目について、今年度の貴校の生徒の様子としてあてはまる番号を 1 つずつ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 各教科で必要とされる基礎的な知識・技能を身につけている	5	4	3	2	1
2. 各教科で必要とされる知識・技能を活用する力を身につけている	5	4	3	2	1
3. 物事を多面的に見る力や、教科を越えて知識・理解を統合する力を身につけている	5	4	3	2	1
4. 自分の考えを深める思考力、言語で表現する力を身につけている	5	4	3	2	1
5. 他者と協働するためのコミュニケーション力、協調性、社会性を身につけている	5	4	3	2	1
6. 物事や学習に対する積極的な態度を身につけている	5	4	3	2	1
7. 日常的な問題場面において、適切な解決を行う能力を身につけている	5	4	3	2	1
8. 社会の一員としての自覚や、社会の変化に対応する力を身につけている	5	4	3	2	1

- 19 貴校がこれから取り組むべき課題として、あなたのお考えに最もあてはまるものを 1 つ選んでください。

1. 生徒の基本的な生活習慣および学習習慣を確立すること
2. 難関大学への進学率を維持・向上させること
3. 四年制大学への高い進学率を達成すること
4. 高等教育機関（専修学校、短期大学、四年制大学）への進学率を維持・向上させること
5. 生徒の就職希望を叶えること
6. 社会生活に必要な基礎的な学力を身につけること
7. より高度な学問的研究の基礎となる知識や能力を身につけること
8. 責任ある主権者として必要な資質や能力を涵養すること
9. 責任ある職業人として必要な資質や能力を涵養すること
10. 地域社会に参加し活躍する人材を育成すること
11. グローバル社会で活躍する人材を育成すること

ここからは、貴校に設置されている学科のうち 普通科（それに準ずる学科）または 総合学科 で実施されている参加型学習を取り入れた授業への取り組みについてお尋ねします

本調査では、教員による一方的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を総称して「参加型学習」と呼ぶこととします。

具体的には、以下の表に挙げたような手法を取り入れた学習を「参加型学習」と定義します。そして、これらの手法を取り入れた「参加型学習」を、全授業のうち1回でも実施した授業を調査の対象とします。

<u>意見発表・交換型</u> ： 議論や発表を通して、意見を交換・整理する形態	例えば ディベート、話し合い（ディスカッション）、 プレゼンテーション、ブレインストーミング など
<u>理解深化型</u> ： 自分の思考を客観的に振り返り、理解を深める形態	例えば 協調学習、学び合い、ふりかえり（リフレクション）、 自己による学習評価、作文 など
<u>課題解決型</u> ： 課題に対して解決策を提案、または実行する形態	例えば 課題解決型学習、ケーススタディ、探究・調べ学習、 プロジェクト型学習 など

※講義を一方的に聞くだけの授業は、「参加型学習」には含みません。

※教科書の音読や輪読、挙手、一問一答式の発問に対する回答、プリントや問題集の解答、実験・実習・実技、見学、教材の視聴など、生徒が何らかの活動を行うものでも、生徒の思考が活性化しない場合には、本調査での「参加型学習」には含みません。

ただし、「意見発表・交換型」「理解深化型」「課題解決型」等の思考の活性化を伴うプロセスを含むものであれば、本調査での「参加型学習」に含めるものとします。

20 貴校の現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものをすべて選んでください。

1. 本校ではまったく取り組まれていない
2. 学年団として参加型学習に取り組んでいる学年がある
3. 教科として参加型学習に取り組んでいる教科がある
4. 学校全体として参加型学習に関する目標を掲げている
5. 参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している
6. 参加型学習の内容を含む校内研修を行っている
7. 教員に対し、参加型学習に関する校外研修や勉強会への参加を推奨している
8. 参加型学習の実施について、校内の会議などで積極的な呼びかけを行っている
9. その他（具体的に

）

21 貴校の校内研修についてお聞きます。貴校で公式に開催される今年度の参加型学習に関する校内研修の回数とテーマをお答えください。（予定を含む。また国や自治体から課されたものを含む。）

- (1) 今年度の参加型学習に関する校内研修の回数を教えてください。（ ）回
- (2) 今年度、どのようなテーマで参加型学習に関する校内研修を行いますか。あてはまるものをすべて選んでください。
 1. アクティブ・ラーニングとは何か
 2. アクティブ・ラーニングの意義
 3. 次期学習指導要領での扱い
 4. 大学入試改革との関連性
 5. アクティブ・ラーニングの事例紹介
 6. アクティブ・ラーニングの評価方法
 7. 振り返りの方
 8. ファシリテーションの方法
 9. ICT の活用方法
 10. グループワークの方法（ジグソー法、学び合い、ディベートなど）
 11. その他（具体的に

）

22 貴校の今後の参加型学習への取り組み方についてお尋ねします。

(1) 貴校の今後の参加型学習への取り組み方について、あてはまるものを 1つ選んでください。

1. 今後取り組む見込みはない
2. ここ数年間で取り組む予定はない
3. ここ数年間で取り組むことを検討している
4. ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である
5. すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である
6. すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である
7. すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である

(2) (1) の回答について、そのように回答した理由をお書きください。

--

22 (1) で 1～4 のいずれかに回答された学校はここで回答を終えてください

22 (1) で 5～7 のいずれかに回答された学校（すでに参加型学習に取り組んでいる学校）は **23** ～ **27** にお答えください

23 貴校が参加型学習を取り入れた授業をはじめた時期ときっかけについてお聞きます。

(1) 参加型学習に取り組みはじめたのはいつ頃ですか。あてはまるものを 1つ選んでください。

1. 今年から
2. 昨年から
3. 2～3 年前から
4. 4～5 年前
5. 6～9 年前から
6. 10～19 年前から
7. 20 年以上前から

(2) 参加型学習に取り組みはじめたきっかけは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 学習指導要領に記載されているから
2. 次期学習指導要領で重視される方向性だから
3. 大学入試が変わるから
4. 自治体の方針として決まったから
5. 生徒から要望があったから
6. 他の教員の授業を見たり話を聞いたりして効果がありそうだったから
7. 研修や勉強会で学んで効果がありそうだったから
8. 自分が生徒・学生時代に受けた授業に効果があったから
9. 新しい手法に取り組んでみたかったから
10. これまでの手法に限界を感じたから
11. 授業改善の結果たどりついたから
12. 最初から当然のものとしてやっていた
13. その他（具体的に _____）
14. わからない

- 24 貴校において、参加型学習を取り入れた授業の実施により実感した効果はありますか。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合					
1. 生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	5	4	3	2	1
2. 生徒の進学実績が向上した	5	4	3	2	1
3. 生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	5	4	3	2	1
4. 生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	5	4	3	2	1
5. 生徒の教科内容に対する知的好奇心が高まった	5	4	3	2	1
6. 生徒の物事を多面的に見る力が高まった	5	4	3	2	1
言語を活用する力					
7. 生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	5	4	3	2	1
8. 生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	5	4	3	2	1
探究する力					
9. 生徒が身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	5	4	3	2	1
10. 生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	5	4	3	2	1
11. 生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	5	4	3	2	1
12. 生徒がこれまでにない発想をするようになった	5	4	3	2	1
13. 生徒が自分の考えを深められるようになった	5	4	3	2	1
対人関係を築き、協働する力					
14. 生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	5	4	3	2	1
15. 普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関わられるようになった	5	4	3	2	1
16. 生徒の社会性や協調性が高まった	5	4	3	2	1
17. 生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	5	4	3	2	1
18. 社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	5	4	3	2	1
19. 地域社会との交流や相互理解が深まった	5	4	3	2	1
20. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	5	4	3	2	1
21. 生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	5	4	3	2	1
22. 生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	5	4	3	2	1
自ら学びを切り開く力					
23. 生徒の学習習慣（予復習）が身についた	5	4	3	2	1
24. 生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	5	4	3	2	1
25. 生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	5	4	3	2	1
26. 生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	5	4	3	2	1
27. 生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	5	4	3	2	1
卒業後の進路に役立つ力					
28. 大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力が高まった	5	4	3	2	1

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
卒業後の進路に役立つ力					
29. 大学入学試験（一般入試）の問題を解く力が高まった	5	4	3	2	1
30. 就職で必要となる力が高まった	5	4	3	2	1

[25] 参加型学習における生徒の成績評価について貴校で取り組んでいることはありますか。以下の項目について、最もあてはまるものを1つ選んでください。

1. 成績評価の方法は、完全に各教員に任せている
2. 成績評価について、各教科で取り組んでいる方法がある
3. 成績評価について、学校全体で取り組んでいる方法がある

[26] 貴校では、参加型学習の実施によって生じた困難や課題、不安はありますか。以下の項目について、貴校の悩みとしてあてはまるものを1つずつ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
教育効果や評価に関する困難や課題、不安					
1. 生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が低下する	5	4	3	2	1
2. 受験に必要な学力に結びつかない	5	4	3	2	1
3. 社会の中で「生きる力」に結びつかない	5	4	3	2	1
4. 授業の進度が遅くなる	5	4	3	2	1
5. 各教員の授業の進度にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
6. 各教員の授業内容にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
7. 生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	5	4	3	2	1
8. 活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	5	4	3	2	1
授業中の生徒の学習態度に関する困難や課題、不安					
9. 授業内容に関係のない生徒の私語が増える	5	4	3	2	1
10. 生徒の集中力が低下する	5	4	3	2	1
11. 参加型学習になじめない生徒や、ついてこれない生徒がいる	5	4	3	2	1
12. 参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	5	4	3	2	1
教育資源に関する困難や課題、不安					
13. 授業中の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
14. 授業前後の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
15. 教員の授業スキルが不足している	5	4	3	2	1
16. 予算が足りない	5	4	3	2	1
17. 必要な施設・設備が足りない	5	4	3	2	1
18. 授業準備のための時間が足りない	5	4	3	2	1
19. 授業の時数が足りない	5	4	3	2	1
20. 一学級当たり生徒数が適切でない	5	4	3	2	1

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまる	あてはまらない
関係者の理解に関する困難や課題、不安					
21. 生徒の理解が得られない	5	4	3	2	1
22. 保護者の理解が得られない	5	4	3	2	1
23. 組織的な取り組みにならない	5	4	3	2	1
24. 教員が参加型学習の必要性を感じていない	5	4	3	2	1
25. 教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	5	4	3	2	1

- 27 参加型学習に取り組む上で困難や課題、不安を感じたとき、あなたがその解決に向けて相談する相手は誰ですか。最もあてはまるものを 1 つ 選んでください。
- | | | | |
|-------------------|-------------|-------------|----------|
| 1. 同校の管理職 | 2. 同校の教員 | 3. 他校の管理職 | 4. 他校の教員 |
| 5. 同校の参加型学習推進担当教員 | 6. 大学等の研究者 | 7. 教育委員会関係者 | |
| 8. 民間の教育支援機関 | 9. その他（具体的に | | ） |

以上で質問は終わりです

このたびは、東京大学 大学総合教育研究センター・日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）による「高等学校における参加型学習に関する実態調査」にご協力いただき、ありがとうございました。

お手数ですが、回答が終わりましたら、この回答用紙をとりまとめご担当の先生に9月5日（火）までにお渡しください。

調査票 B

カリキュラム・マネジメント
(教育課程の研究開発)担当者用

高等学校における参加型学習に関する実態調査

東京大学 大学総合教育研究センター
日本教育研究イノベーションセンター (JCERI)

9月5日(火)までに
とりまとめご担当の先生に
提出してください

※ すべての調査票をまとめて、9月8日(金)までに投函していただきますよう、
とりまとめご担当の先生にお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

○調査票の発送・回収に関するお問い合わせ

日本教育研究イノベーションセンター (JCERI)

代表電話番号 03-6811-5569

受付時間 10:00~17:00 (土日祝を除く)

○質問内容、その他調査全般に関するお問い合わせ

東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門 担当 村松、田中、中原

電話番号 03-5841-4913

受付時間 10:00~17:00 (土日祝、夏季休業(8/11-15)を除く)

【調査の概要】

東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門では、日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）と連携し、学習者の能動的な学びへの参加を促す学習（参加型学習）の実態に関する調査を実施しました。本調査では、教員による一方向的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を「参加型学習」と呼びます。参加型学習は、文部科学省が示す「主体的・対話的で深い学び」に相当するものと考えております。今年度は、以下の点を明らかにするための質問をさせていただきます。

① 2015 年度調査以降、参加型学習に関する取り組みに変化はあったか

② 参加型学習に取り組む学校や先生方は、どのような目的でどのような内容の授業を行っているか

本調査の分析結果は、特設ウェブサイト「未来を育てるマナビラボ」<<http://manabilab.jp>>にて、日本全国の教育関係者に無償公開し、共有させていただきます。同ウェブサイトにおいては参加型学習を展開するうえでの手助けとなるような実践的な工夫についての情報も収集・発信しております。授業づくりのお役に立つことができれば幸いです。

お忙しい中恐れ入りますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

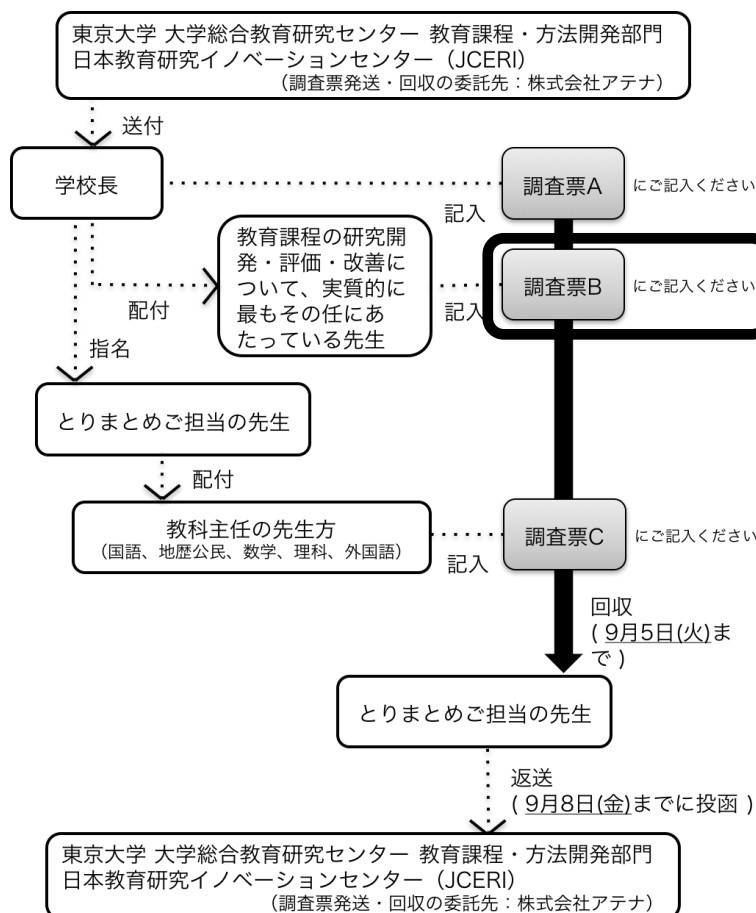
【調査結果の取り扱い】

回収された調査票は、厳重に保管します。また、回答された情報は、統計的に処理し、許可なく個人や学校が特定される形で公表されることはございません。

【注意とお願い】

- ・調査票の著作権は東京大学大学総合教育研究センター及び日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）が有しています。調査票を利用した独自の調査および研究はお控えください。
- ・調査票は指定した宛先のみ返送し、他の機関や個人に送ることはお控えください。

【調査の手順】



【調査票の種類】

本調査には、A、B、Cの3種類の調査票があります。

調査票 A：

学校全体としての取り組みについて伺います。学校長をはじめ、「学校の教育活動全体」について把握していらっしゃる学校代表者にご回答をお願いします。

調査票 B：←本紙はこちら

カリキュラム・マネジメント（学校教育目標に向けた教育課程の研究開発・評価・改善）について伺います。実質的に最もその任にあたっていらっしゃる先生にご回答をお願いします。

調査票 C：

教科ごとの取り組みについて伺います。国語、地歴公民、数学、理科、外国語の教科主任の先生にご回答をお願いします。（各教科1部ずつ計5部）

この調査票は、学校教育目標に向けたカリキュラム・マネジメント（教育課程の研究開発・評価・改善）について、実質的に最もその任にあたっている先生にお尋ねするものです。特に指定のない場合、今年度（2017年4月～2018年3月）の実績・計画についてお答えください。

はじめに、あなた自身のことについてお尋ねします

- ① あなたの現在の職階・職務として、あてはまるものを 1つ 選んでください。
1. 校長 2. 副校長 3. 教頭 4. 教務主任 5. 進路指導主任 6. 生徒指導主任
7. 総務主任 8. その他（具体的に ）
- ② あなたが貴校の学校全体のカリキュラム・マネジメントに携わった年数を合計してお答えください。
.....（ ）年
- ③ あなたの教職経験年数をすべて合計してお答えください。.....（ ）年
- ④ あなたは、これまで教育委員会や教育センターの指導主事・人事主事を経験したことはありますか。
いずれかの経験がある場合には、経験した年数をそれぞれ合計してお答えください。
1. ない
2. ある → ^A指導主事（ ）年 ^B人事主事（ ）年
- ⑤ あなたは、教員以外の職業を経験したことがありますか。
1. ない 2. ある（具体的に ）
- ⑥ あなたがこれまで経験した職階・職務として、あてはまるものを すべて 選んでください。
1. 校長 2. 副校長 3. 教頭 4. 主幹教諭 5. 教務主任 6. 進路指導主任
7. 生徒指導主任 8. 学年主任 9. 教科主任 10. 研究主任 11. 総務主任
12. その他（具体的に ）
- ⑦ あなたが最後に卒業した学校について、あてはまるものを 1つ 選んでください。
1. 短期大学 2. 四年制大学(教員養成系) 3. 四年制大学(教員養成系以外)
4. 大学院修士課程(教員養成系) 5. 大学院修士課程(教員養成系以外)
6. 大学院博士課程(教員養成系) 7. 大学院博士課程(教員養成系以外)
8. その他（具体的に ）

カリキュラム・マネジメント担当者としてのあなたの職務や行動についてお尋ねします

- 8 以下の項目について、あなたはどのくらい取り組んでいますか。あてはまるものを 1 つずつ 選んでください。

	取り組んでいない	取り組んでいる	力を入れて取り組んでいる	とても力を入れている
教育課程の編成・改善				
1. 学校の実態や学校を取り巻く状況に関する情報を収集し、学校の現状を多面的に把握する	4	3	2	1
2. 生徒の意見や要望等を収集し、教育課程や学校経営計画に積極的に反映させる	4	3	2	1
3. 保護者、地域、関係機関等の状況や意見、要望等を収集し、教育課程や学校経営計画に積極的に反映させる	4	3	2	1

	とり組んでいない	とり組んでいる	力を入れてとり組んでいる	とり組んでいる
教育課程の編成・改善				
4. 学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえた学校教育目標の策定や、その実現に向けた経営戦略の構築に積極的に関わる	4	3	2	1
5. 学校教育目標達成に向けて、教科・科目横断的、統合的な視点に立って、特色ある教育課程（時数・教育内容の調整）や学校経営計画の編成に積極的に関わる	4	3	2	1
6. 教育活動や学校運営の状況を客観的に把握した上で、根拠に基づいた評価・改善に努める	4	3	2	1
7. 学習指導要領に従って教科・科目の単位数や時数を適切に設定する	4	3	2	1
8. 教育課程や学校経営計画の編成や改善のための会議を定期的に実施する	4	3	2	1
組織マネジメント				
9. 学校教育目標について、教員がその背景や趣旨をよく理解できるよう、周知を図る	4	3	2	1
10. 教育課程や学校経営計画について、教員がその背景や趣旨、内容をよく理解するよう働きかける	4	3	2	1
11. 教員が教材研究や授業・単元開発に取り組むことができるよう仕組みをつくる	4	3	2	1
12. 日頃の教育活動の実施状況を把握し、教育課程や学校経営計画の評価・改善に積極的に関わる	4	3	2	1
13. 国や自治体、学校の教育方針についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	4	3	2	1
14. 新しい教育方法や先進的な実践事例についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	4	3	2	1
15. 日常の職務やその他あらゆる機会を通じて、職務に必要な知識や技能、態度などについて具体的に指導・助言を行う	4	3	2	1
16. 教員同士で支え合い、学びあえる職場づくりを行うための工夫をする	4	3	2	1
17. 教員の学校運営に対する参画意識を高める工夫をする	4	3	2	1
18. 教員間の関係性に配慮し、豊かなコミュニケーションを行えるような組織風土づくりを試みる	4	3	2	1
19. 教科間の調整が円滑に進むよう各教科の教員に事前に根回しする	4	3	2	1
資源の活用				
20. 効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材を確保（採用や配置）できるよう管理職に働きかける	4	3	2	1
21. 効果的な教育活動の実現に向けて、必要な施設設備を確保できるよう管理職に働きかける	4	3	2	1
22. 地域、企業、NPO 等の外部の協力を得ながら教育活動を行う	4	3	2	1
23. カリキュラム・マネジメント担当者として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	4	3	2	1

貴校の教育課程の編成についてお尋ねします

9 貴校での教育課程の編成体制についてお聞きます。

- (1) 貴校では、教育課程の編成やその原案の作成に、どのような人が携わっていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(A) 原案の作成

1. 校長 2. 副校長 3. 教頭 4. 主幹教諭 5. 主任教諭 6. 指導教諭 7. 教諭
8. 教務主任 9. 進路指導主任 10. 生徒指導主任 11. 学年主任 12. 教科主任
13. 総務主任 14. 外部の有識者 15. その他（具体的に）

(B) 教育課程の編成

1. 校長 2. 副校長 3. 教頭 4. 主幹教諭 5. 主任教諭 6. 指導教諭 7. 教諭
8. 教務主任 9. 進路指導主任 10. 生徒指導主任 11. 学年主任 12. 教科主任
13. 総務主任 14. 外部の有識者 15. その他（具体的に）

- (2) 教育課程の評価・改善について会議や委員会などで公式に話し合う機会は何のくらいありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. ない 2. 数年に1回 3. 年に1回 4. 年に2回以上

10 学校全体の教育課程を編成・実施・評価・改善するという取り組みについてお聞きます。以下のそれぞれの項目について、今年度の貴校の取り組み状況として最もあてはまる番号を1つずつ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
教育課程の編成・改善					
1. 学校教育目標は、学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえ、特色あるものとなっている	5	4	3	2	1
2. 教育課程は、学校教育目標の達成を意識し、授業時数の配当に工夫が加えられている	5	4	3	2	1
3. 学校教育目標の達成を意識した、特色ある教育活動が展開されている	5	4	3	2	1
4. 学校教育目標の達成を意識した、教科・科目横断的、統合的な視点に立った教科・科目が実施されている	5	4	3	2	1
5. 各教員が学校教育目標の達成を常に意識しながら教育・指導を行うよう働きかける仕組みがある(研修や研究会、組織体制など)	5	4	3	2	1
6. 教育活動の結果を評価し、 <u>根拠に基づいて</u> 教育課程の改善を行う仕組みがある	5	4	3	2	1
資源の活用					
7. 教育活動に必要な人的・物的資源について、学校 <u>内</u> の資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている (学校内の施設設備の活用や、教職員などの人材の活用など)	5	4	3	2	1
8. 教育活動に必要な人的・物的資源について、学校 <u>外</u> の資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている (地域、NPO等の活動団体、大学、行政等の施設設備や人材の活用など)	5	4	3	2	1

- 12 教育課程の編成・実施・評価・改善に取り組む上で困難や不安を感じたとき、あなたがその解決に向けて相談する相手は誰ですか。最もあてはまるものを1つ選んでください。

1. 同校の管理職 2. 同校の先輩教員 3. 同校の同僚教員 4. 他校の教員
5. 大学等の研究者 6. 教育委員会関係者 7. 民間の教育支援機関
8. その他（具体的に ）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
教育課程の編成・改善に関する悩み					
1. 学校教育目標を、学校の特色を踏まえて具体化できていない					
2. 生徒の実態や学校を取り巻く環境を踏まえて学校の特色を出すのが難しい	5	4	3	2	1
3. 学校教育目標の実現に向けて、教育課程・教育活動をどう具体化すればよいかわからない	5	4	3	2	1
4. 学校教育目標と実際に実施されている教育課程・教育活動との間にずれがある	5	4	3	2	1
5. 学校の成果や課題をどう評価・把握すればよいかわからない	5	4	3	2	1
6. 教育課程・教育活動を評価・改善するための時間を確保できない	5	4	3	2	1
7. 評価の結果をどう具体的な改善策につなげればよいかわからない	5	4	3	2	1
組織マネジメントに関する悩み					
8. 学校教育目標や学校の方針が教員間で共有できていない	5	4	3	2	1
9. 管理職とうまく連携できていない	5	4	3	2	1
10. 教科主任とうまく連携できていない	5	4	3	2	1
11. 組織的な教育活動の改善に向けての教員の自主性を引き出せない	5	4	3	2	1
12. 人事異動により組織的な取り組みとならない	5	4	3	2	1
13. 教育課程・教育活動の改善に関する知識や方法が教員間に共有されていない	5	4	3	2	1
14. 教育課程・教育活動の改善に組織的に取り組むための仕組みがない	5	4	3	2	1
15. 各教科の時数や教育内容に関する要望を調整するのが難しい	5	4	3	2	1
16. 教科を越えた連携ができていない	5	4	3	2	1
資源の活用に関する悩み					
17. 教育課程・教育活動の改善に取り組む体制を整えるには予算が足りない	5	4	3	2	1
18. カリキュラム・マネジメント担当者としての負担が過度に大きい	5	4	3	2	1
19. 教育課程・教育活動を改善するための施設設備が足りない	5	4	3	2	1
20. 外部の人的・物的資源を活用しながら教育活動の改善に取り組みたいが、そのための外部とのつながりがない	5	4	3	2	1
21. 教科・科目横断的、統合的な取り組みをしたいが、各教科・科目の人員や教材を融通しあうのが難しい	5	4	3	2	1

貴校での、教科・科目横断的、統合的な取り組みについてお尋ねします

13 貴校での、現在の教科・科目横断的、統合的な取り組みについてお尋ねします。

- (1) 貴校には、複数の異なる教科の教員が連携して 1 つの授業を運営するような、教科・科目横断的、統合的な取り組みはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。
1. 本校ではまったく取り組まれていない → **14** にお進みください
 2. 教科横断的・統合的な取り組みがある → (2)(3)にお答えください
 3. 科目横断的・統合的な取り組みがある → (2)(3)にお答えください
- (2) 【(1)に 2 または 3 と答えた方にお聞きます】その取り組み方について、あてはまるものをすべて選んでください。
1. 学校設定科目として実施される授業がある
 2. 総合的な学習の時間として実施される授業がある
 3. 総合的な学習の時間以外の各教科に属する科目として実施される授業がある
 4. 特別活動として実施される授業がある
 5. 課外活動として実施されている
- (3) 【(1)に 2 または 3 と答えた方にお聞きます】その取り組みにはどのような単位で取り組んでいますか。あてはまるものをすべて選んでください。
1. 学校として組織的に取り組んでいる
 2. 学年団として取り組んでいる学年がある
 3. 教科として取り組んでいる教科がある
 4. 独自に取り組んでいる教員がいる

14 貴校の今後の教科・科目横断的、統合的な取り組みについてお尋ねします。

- (1) 貴校の今後の教科・科目横断的、統合的な取り組みについて、あてはまるものを 1 つ選んでください。
1. 今後取り組む見込みはない
 2. ここ数年間で取り組む予定はない
 3. ここ数年間で取り組むことを検討している
 4. ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である
 5. すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である
 6. すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である
 7. すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である
- (2) (1) の回答について、そのように回答した理由をお書きください。

--

貴校での、大学や社会と連携した取り組みについてお尋ねします

15 貴校において、学校としての組織的な取り組みとして、以下のような大学との連携や接続を意識した取り組みはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 大学と連携した授業開発
2. 大学等の研究者を講師に招いて実施している授業等
3. 大学生が支援する授業等
4. 大学生を講師（講演会のゲストスピーカーなど）に招いて実施する授業等
5. 大学で学ぶ力を育むことを意図した探究的な授業等
6. 大学の施設を利用して実施した授業等
7. 大学や学会、研究会の場で教員・生徒が情報発信・提案する実践

16 貴校において、学校としての組織的な取り組みとして、以下のような社会と連携した取り組みはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 地域の特性を生かした授業等（地域住民や市民団体、地域の基幹産業、商店街との連携など）
2. 職業観の育成や生徒のキャリアを意識した授業等（職業体験やインターンシップなど）
3. グローバル社会とのつながりを意識した授業等（海外の学校、企業、大学、研究機関との連携など）
4. 政治や行政とのつながりを意識した授業等（議員や議会、裁判所、市町村の役所、選挙管理委員会、市民団体との連携など）
5. 生涯学習を意識した授業等（博物館や美術館、図書館、青少年センター、生涯学習センターとの連携など）
6. 多様な社会の形成を意識した授業等（障がい者支援施設、市民団体との連携など）

最後に、あなた自身の行動についてお尋ねします

17 同年代の平均的な他の教員と比べて、以下の項目について、あなたはどのくらい達成していますか。あてはまるものを1つずつ選んでください。

	かなり達成している	まあ達成している	どちらでもない	達成していない あまり	達成していない まったく
1. 目標とする学習事項について、素早く的確に習得させること	5	4	3	2	1
2. 新しい授業方法や教育内容について情報を得て、積極的に刷新すること	5	4	3	2	1
3. 生徒たちの学力や特性に合わせて学習指導や進路支援を行うこと	5	4	3	2	1
4. 反社会的な行動をした生徒や学校生活上困難を抱えている生徒に対して適切な指導・支援を行なっていくこと	5	4	3	2	1
5. 生徒一人一人の特性を生かしながらまとまりのある学級集団を形成すること	5	4	3	2	1
6. 学校や学年、教科など、組織の課題を解決するため、率先して同僚と連携すること	5	4	3	2	1
7. 目的とする方策の実現可能性を高めるために、誰にどのような働きかけをすればいいかを理解すること	5	4	3	2	1
8. 現在の課題に取り組みながら、次に生じる課題を予測すること	5	4	3	2	1
9. 国や県、管理職が示した方針について、自分の学校や学年、教科の状況に合わせて実現方策を考えること	5	4	3	2	1
10. 国や県、管理職が示した方針をわかりやすくかみくだいて同僚や後輩に伝えること	5	4	3	2	1

18 あなたのリーダーシップについてお尋ねします。以下の項目について、あなたの行動にあてはまるものを1つずつ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. メンバーには、目標の達成にむけて明確な指示を与えている	5	4	3	2	1
2. 現状や課題について細やかに把握し、適切な助言・支援を与えている	5	4	3	2	1
3. メンバーのアイデアや意見によく耳を傾け、受容的な態度をとるようにしている	5	4	3	2	1
4. メンバー間の人間関係に配慮し、信頼と協力関係を築きあげるように努力している	5	4	3	2	1

以上で質問は終わりです

このたびは、東京大学 大学総合教育研究センター・日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）による「高等学校における参加型学習に関する実態調査」にご協力いただき、ありがとうございました。

お手数ですが、回答が終わりましたら、この回答用紙をとりまとめご担当の先生に9月5日（火）までにお渡しください。

調査票C
教科主任用

高等学校における参加型学習に関する実態調査

東京大学 大学総合教育研究センター
日本教育研究イノベーションセンター (JCERI)

9月5日(火)までに
とりまとめご担当の先生に
提出してください

※ すべての調査票をまとめて、9月8日(金)までに投函していただきますよう、
とりまとめご担当の先生にお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

○調査票の発送・回収に関するお問い合わせ

日本教育研究イノベーションセンター (JCERI)

代表電話番号 03-6811-5569

受付時間 10:00~17:00 (土日祝を除く)

○質問内容、その他調査全般に関するお問い合わせ

東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門 担当 村松、田中、中原

電話番号 03-5841-4913

受付時間 10:00~17:00 (土日祝、夏季休業(8/11-15)を除く)

【調査の概要】

東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門では、日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）と連携し、学習者の能動的な学びへの参加を促す学習（参加型学習）の実態に関する調査を実施しました。本調査では、教員による一方向的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を「参加型学習」と呼びます。参加型学習は、文部科学省が示す「主体的・対話的で深い学び」に相当するものと考えております。今年度は、以下の点を明らかにするための質問をさせていただきます。

① 2015 年度調査以降、参加型学習に関する取り組みに変化はあったか

② 参加型学習に取り組む学校や先生方は、どのような目的でどのような内容の授業を行っているか

本調査の分析結果は、特設ウェブサイト「未来を育てるマナビラボ」<<http://manabilab.jp>>にて、日本全国の教育関係者に無償公開し、共有させていただきます。同ウェブサイトにおいては参加型学習を展開するうえでの手助けとなるような実践的な工夫についての情報も収集・発信しております。授業づくりのお役に立つことができれば幸いです。

お忙しい中恐れ入りますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

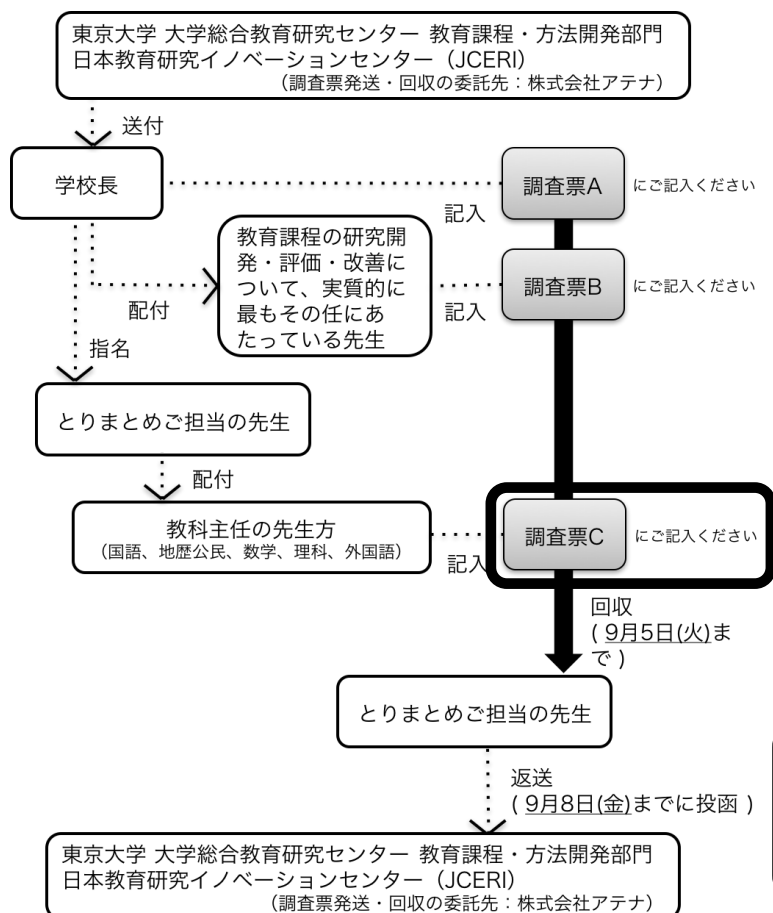
【調査結果の取り扱い】

回収された調査票は、厳重に保管します。また、回答された情報は、統計的に処理し、許可なく個人や学校が特定される形で公表されることはございません。

【注意とお願い】

- ・調査票の著作権は東京大学大学総合教育研究センター及び日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）が有しています。調査票を利用した独自の調査および研究はお控えください。
- ・調査票は指定した宛先のみ返送し、他の機関や個人に送ることはお控えください。

【調査の手順】



【調査票の種類】

本調査には、A、B、Cの3種類の調査票があります。

調査票 A：

学校全体としての取り組みについて伺います。学校長をはじめ、「学校の教育活動全体」について把握していらっしゃる学校代表者にご回答をお願いします。

調査票 B：

カリキュラム・マネジメント（学校教育目標に向けた教育課程の研究開発・評価・改善）について伺います。実質的に最もその任にあたっていらっしゃる先生にご回答をお願いします。

調査票 C：←本紙はこちら

教科ごとの取り組みについて伺います。国語、地歴公民、数学、理科、外国語の教科主任の先生にご回答をお願いします。（各教科1部ずつ計5部）

この調査票は、貴校の〇〇科の取り組みについて、教科主任の方にお尋ねするものです
特に指定のない場合、今年度（2017年4月～2018年3月）の実績・計画についてお答えください

はじめに、あなた自身のことについてお尋ねします

- 1 あなたが教科主任を務めた年数を、他校で務めた年数も合計してお答えください。
.....（ ）年
- 2 あなたの教職経験年数をすべて合計してお答えください。.....（ ）年
- 3 あなたは、これまで教育委員会や教育センターの指導主事・人事主事を経験したことはありますか。
いずれかの経験がある場合には、経験した年数をそれぞれ合計してお答えください。
1. ない
2. ある → ^A指導主事（ ）年 ^B人事主事（ ）年
- 4 あなたは、教員以外の職業を経験したことがありますか。
1. ない 2. ある（具体的に ）
- 5 あなたが最後に卒業した学校について、あてはまるものを 1つ選んでください。
1. 短期大学 2. 四年制大学(教員養成系) 3. 四年制大学(教員養成系以外)
4. 大学院修士課程(教員養成系) 5. 大学院修士課程(教員養成系以外)
6. 大学院博士課程(教員養成系) 7. 大学院博士課程(教員養成系以外)
8. その他（具体的に ）
- 6 以下のそれぞれの項目について、どのくらい機会がありますか。あてはまるものを 1つずつ選んでください。

	かなりある	しばしばある	ときどきある	あまりない	まったくない
1. 授業のことについて、他の教員と会議以外の日常会話の中で話をする機会	5	4	3	2	1
2. 生徒のことについて、他の教員と会議以外の日常会話の中で話をする機会	5	4	3	2	1
3. 仕事とは直接関係ないことについて、他の教員と会議以外の日常会話の中で話をする機会	5	4	3	2	1

あなたの職務や行動についてお尋ねします

- 7 〇〇科の教科主任としてのあなたの職務や行動についてお尋ねします。以下の項目について、あなたはどのくらい取り組んでいますか。あてはまるものを 1つずつ選んでください。

	取り組んでいます とても力を入れて	取り組んでいます 力を入れて	取り組んでいる	取り組んでいない
教育課程の評価・改善				
1. 学校の実態や学校を取り巻く状況に関する情報を収集し、学校の現状を多面的に把握する	4	3	2	1
2. 生徒の意見や要望等を収集し、教育活動の充実を図る	4	3	2	1

	とり組んでいない	とり組んでいる	力を入れて 取り組んでいる	とても力を入れて 取り組んでいる
教育課程の評価・改善				
3. 保護者、地域、関係機関等の状況や意見、要望等を収集し、教育活動の充実を図る	4	3	2	1
4. 学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえた教科目標の策定や、その実現に向けた経営戦略の構築に積極的に関わる	4	3	2	1
5. 学校目標達成に向けた特色ある教育課程や学校経営計画の編成・実施に積極的に関わる	4	3	2	1
6. 教育活動や学校運営の状況を客観的に把握した上で、根拠に基づいた評価・改善に努めている	4	3	2	1
組織マネジメント				
7. 教科目標について、教員がその背景や趣旨をよく理解できるよう、周知を図る	4	3	2	1
8. 教科の指導計画や授業内容について、教員がその背景や趣旨、内容をよく理解するよう働きかける	4	3	2	1
9. 教員が教材研究や授業・単元開発に取り組むことができるよう環境整備を行う	4	3	2	1
10. 日頃の教育活動の実施状況を把握し、教科の指導計画や授業内容の評価・改善に積極的に関わる	4	3	2	1
11. 国や自治体、学校の教育方針についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	4	3	2	1
12. 新しい教育方法や先進的な実践事例についての理解を深めるような研修や研究会を企画する	4	3	2	1
13. 日常の職務やその他あらゆる機会を通じて、職務に必要な知識や技能、態度などについて具体的に指導・助言を行う	4	3	2	1
14. 教員同士で支え合い、学びあえる職場づくりを行うための工夫をする	4	3	2	1
15. 教員のロールモデルとして、自らの教育方法や指導技術を公開する	4	3	2	1
16. 教員の教科の運営に対する参画意識を高める工夫をする	4	3	2	1
17. 教員間の豊かなコミュニケーションを促進するとともに、問題解決や合意形成が協働的に行われるようにする	4	3	2	1
資源の活用				
18. 効果的な教育活動の実現に向けて、必要な人材を確保（採用や配置）できるよう管理職に働きかける	4	3	2	1
19. 効果的な教育活動の実現に向けて、必要な施設設備を確保できるよう管理職に働きかける	4	3	2	1
20. 地域、企業、NPO 等の外部の協力を得ながら教育活動を行う	4	3	2	1
21. 教科主任として、取り組むべき課題に優先順位をつけて、取捨選択する	4	3	2	1

教員や生徒の様子についてお尋ねします

- 8 ○○科の教員の様子についてお聞きます。以下のそれぞれの項目について、○○科の教員の様子としてあてはまる番号を 1 つずつ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
教員集団の雰囲気					
1. 同僚同士が、失敗をカバーしたり、支援し合ったりする雰囲気がある	5	4	3	2	1
2. 新たに採用・着任してきた教員を積極的に支援する雰囲気がある	5	4	3	2	1
3. 仕事の悩みを同僚に率直に話す教員が多い	5	4	3	2	1
教員の自由裁量					
4. 教科の指導内容やその構成・順序などについて、教員が自由に考えて実践できる余地が多い	5	4	3	2	1
5. 教員間で足並みをそろえることよりも、他の教員と異なる実践を展開することの方が重視されている	5	4	3	2	1
6. 文部科学省や教育委員会など行政の施策を意識しながら日々の教育実践を行っている	5	4	3	2	1
7. 会議等では、異なる意見でも言いやすい雰囲気がある	5	4	3	2	1
8. 他の教員の授業や学級経営の方法について、指摘しても構わないという雰囲気がある	5	4	3	2	1
教員の意欲					
9. 授業実践を見直し、意欲的に改善しようとする教員が多い	5	4	3	2	1
10. 学習指導や学級経営についての新しい理論や方法を積極的に吸収しようとする教員が多い	5	4	3	2	1
11. 多くの教員がこの学校での仕事に意欲的に取り組んでいる	5	4	3	2	1
12. 多くの教員がこの学校の教員であることに満足している	5	4	3	2	1
13. 多くの教員が教師としての自信を持っている	5	4	3	2	1
教員間の知識共有					
14. 他の教員の授業を気軽に参観することができる	5	4	3	2	1
15. 教員がチームを組んで協力しながら単元開発や教材開発を行っている	5	4	3	2	1
16. 新しい授業方法や教育実践についての知識を同僚同士で交換し合っている	5	4	3	2	1
パートナーシップ					
17. 保護者や地域の人々に対して学校通信や学級通信等を積極的に活用して情報をわかりやすく伝えようとしている	5	4	3	2	1
18. 保護者や地域の人々から無理な要求や圧力を感じることもある	5	4	3	2	1
19. 保護者や地域の人々と協力した授業づくりや行事づくりを課題として推進している	5	4	3	2	1

- 9 貴校の生徒の様子についてお聞きます。以下のそれぞれの項目について、今年度の貴校の生徒の様子としてあてはまる番号を 1 つずつ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 各教科で必要とされる基礎的な知識・技能を身につけている	5	4	3	2	1
2. 各教科で必要とされる知識・技能を活用する力を身につけている	5	4	3	2	1
3. 物事を多面的に見る力や、教科を越えて知識・理解を統合する力を身につけている	5	4	3	2	1
4. 自分の考えを深める思考力、言語で表現する力を身につけている	5	4	3	2	1
5. 他者と協働するためのコミュニケーション力、協調性、社会性を身につけている	5	4	3	2	1
6. 物事や学習に対する積極的な態度を身につけている	5	4	3	2	1
7. 日常的な問題場面において、適切な解決を行う能力を身につけている	5	4	3	2	1
8. 社会の一員としての自覚や、社会の変化に対応する力を身につけている	5	4	3	2	1

- 10 貴校がこれから取り組むべき課題として、あなたのお考えに最もあてはまるものを 1 つ選んでください。

1. 生徒の基本的な生活習慣および学習習慣を確立すること
2. 難関大学への進学率を維持・向上させること
3. 四年制大学への高い進学率を達成すること
4. 高等教育機関（専修学校、短期大学、四年制大学）への進学率を維持・向上させること
5. 生徒の就職希望を叶えること
6. 社会生活に必要な基礎的な学力を身につけること
7. より高度な学問的研究の基礎となる知識や能力を身につけること
8. 責任ある主権者として必要な資質や能力を涵養すること
9. 責任ある職業人として必要な資質や能力を涵養すること
10. 地域社会に参加し活躍する人材を育成すること
11. グローバル社会で活躍する人材を育成すること

〇〇科における指導計画や授業内容の編成・評価・改善についてお尋ねします

- 11 〇〇科の取り組みについてお聞きます。以下のそれぞれの項目について、今年度の〇〇科の取り組み状況として最もあてはまるものを 1 つずつ選んで○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
指導計画や授業内容の編成・改善					
1. 〇〇科の教科目標は、学校の実態や学校を取り巻く状況を踏まえ、特色あるものとなっている	5	4	3	2	1
2. 〇〇科の指導計画や授業内容は、学校教育目標の達成を意識し、授業時数の配当に工夫が加えられている	5	4	3	2	1

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
指導計画や授業内容の編成・改善					
3. ○○科では、学校教育目標の達成を意識した、特色ある教育活動が展開されている	5	4	3	2	1
4. ○○科では、学校教育目標の達成を意識した、教科横断・統合的な視点に立った科目・授業が設置されている	5	4	3	2	1
5. ○○科には、各教員が学校教育目標の達成を常に意識しながら教育・指導を行うよう働きかける仕組みがある(研修や研究会、組織体制など)	5	4	3	2	1
6. ○○科には、教育活動の結果を評価し、 <u>根拠に基づいて</u> 指導計画や授業内容の改善を行う仕組みがある	5	4	3	2	1
資源の活用					
7. ○○科では、教育活動に必要な人的・物的資源について、学校 <u>内</u> の資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている(学校内の施設設備の活用や、教職員などの人材の活用など)	5	4	3	2	1
8. ○○科では、教育活動に必要な人的・物的資源について、学校 <u>外</u> の資源を十分に活用し、効果的に組み合わせた教育活動が行われている(地域、NPO 等の活動団体、大学、行政等の施設設備や人材の活用など)	5	4	3	2	1

- 12 ○○科の指導計画や授業内容を編成・実施・評価・改善するという取り組みについて、あなたが困難だと感じたり不安だと感じたりしていることは何ですか。以下の項目について、あてはまるものを 1 つ ずつ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
指導計画や授業内容の編成・改善に関する悩み					
1. 生徒の実態や学校を取り巻く環境を踏まえて学校の特色を出すのが難しい	5	4	3	2	1
2. 学校教育目標の実現に向けて、指導計画や授業内容をどう具体化すればよいかわからない	5	4	3	2	1
3. 学校教育目標と実際に実施されている指導計画や授業内容との間にずれがある	5	4	3	2	1
4. 学校の成果や課題をどう評価・把握すればよいかわからない	5	4	3	2	1
5. 指導計画や授業内容を評価・改善するための時間を確保できない	5	4	3	2	1
6. 評価の結果をどう具体的な改善策につなげればよいかわからない	5	4	3	2	1
組織マネジメントに関する悩み					
7. 学校教育目標や学校の方針が教員間で共有できていない	5	4	3	2	1
8. 管理職とうまく連携できていない	5	4	3	2	1
9. カリキュラム・マネジメント担当者とうまく連携できていない	5	4	3	2	1
10. 組織的な教育活動の改善に向けての教員の自主性を引き出せない	5	4	3	2	1
11. 人事異動により組織的な取り組みとならない	5	4	3	2	1
12. 指導計画や授業内容の改善に関する知識や方法が教員間に共有されていない	5	4	3	2	1
13. 指導計画や授業内容の改善に組織的に取り組むための仕組みがない	5	4	3	2	1

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
組織マネジメントに関する悩み					
14. 各教員の時数や教育内容に関する要望を調整するのが難しい	5	4	3	2	1
15. 教科を越えた連携ができていない	5	4	3	2	1
資源の活用に関する悩み					
16. 指導計画や授業内容を改善するための施設設備が足りない	5	4	3	2	1
17. 外部の人的・物的資源を活用しながら指導計画や授業内容の改善に取り組みたいが、そのための外部とのつながりがない	5	4	3	2	1

13. ○○科の指導計画や授業内容の編成・実施・評価・改善に取り組む上で困難や不安を感じたとき、あなたがその解決に向けて相談する相手は誰ですか。最もあてはまるものを 1つ 選んでください。
1. 同校の管理職
 2. 同校のカリキュラム・マネジメント担当教員
 3. 同校の先輩教員
 4. 同校の同僚教員
 5. 他校の教員
 6. 大学等の研究者
 7. 教育委員会関係者
 8. 民間の教育支援機関
 9. その他（具体的に ）
14. ○○科において、教員個人ではなく、教科として取り組んでいることとして、以下のような大学との連携や接続を意識した取り組みはありますか。あてはまるものを すべて 選んでください。
1. 大学と連携した授業開発
 2. 大学等の研究者を講師に招いて実施している授業等
 3. 大学生が支援する授業等
 4. 大学生を講師（講演会のゲストスピーカーなど）に招いて実施する授業等
 5. 大学で学ぶ力を育むことを意図した探究的な授業等
 6. 大学の施設を利用して実施した授業等
 7. 大学や学会、研究会の場で教員・生徒が情報発信・提案する実践
15. ○○科において、教員個人ではなく、教科として取り組んでいることとして、以下のような社会と連携した取り組みはありますか。あてはまるものを すべて 選んでください。
1. 地域の特性を生かした授業等（地域住民や市民団体、地域の基幹産業、商店街との連携など）
 2. 職業観の育成や生徒のキャリアを意識した授業等（職業体験やインターンシップなど）
 3. グローバル社会とのつながりを意識した授業等（海外の学校、企業、大学、研究機関との連携など）
 4. 政治や行政とのつながりを意識した授業等（議員や議会、裁判所、市町村の役所、選挙管理委員会、市民団体との連携など）
 5. 生涯学習を意識した授業等（博物館や美術館、図書館、青少年センター、生涯学習センターとの連携など）
 6. 多様な社会の形成を意識した授業等（障がい者支援施設、市民団体との連携など）

ここからは、〇〇科での参加型学習を取り入れた授業への取り組みについてお尋ねします

本調査では、教員による一方的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を総称して「参加型学習」と呼ぶこととします。

具体的には、以下の表に挙げたような手法を取り入れた学習を「参加型学習」と定義します。そして、これらの手法を取り入れた「参加型学習」を、全授業のうち1回でも実施した授業を調査の対象とします。

意見発表・交換型： 議論や発表を通して、意見を 交換・整理する形態	例えば ディベート、話し合い（ディスカッション）、 プレゼンテーション、ブレインストーミング など
理解深化型： 自分の思考を客観的に振り返り、 理解を深める形態	例えば 協調学習、学び合い、ふりかえり（リフレクション）、 自己による学習評価、作文 など
課題解決型： 課題に対して解決策を提案、 または実行する形態	例えば 課題解決型学習、ケーススタディ、探究・調べ学習、 プロジェクト型学習 など

※講義を一方的に聞くだけの授業は、「参加型学習」には含みません。

※教科書の音読や輪読、挙手、一問一答式の発問に対する回答、プリントや問題集の解答、実験・実習・実技、見学、教材の視聴など、生徒が何らかの活動を行うものでも、生徒の思考が活性化しない場合には、本調査での「参加型学習」には含みません。

ただし、「意見発表・交換型」「理解深化型」「課題解決型」等の思考の活性化を伴うプロセスを含むものであれば、本調査での「参加型学習」に含めるものとします。

16 〇〇科の現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものをすべて選んでください。

1. 〇〇科ではまったく取り組まれていない
2. 独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる
3. 教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている
4. 教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している
5. 参加型学習の実施について、教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている

17 〇〇科の今後の参加型学習への取り組み方についてお尋ねします。

(1) 〇〇科の今後の参加型学習への取り組み方について、あてはまるものを 1つ 選んでください。

1. 今後取り組む見込みはない
2. ここ数年間で取り組む予定はない
3. ここ数年間で取り組むことを検討している
4. ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である
5. すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である
6. すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である
7. すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である

(2) (1) の回答について、そのように回答した理由をお書きください。

--

17 (1) で 1～4 のいずれかに回答された学校はここで回答を終えてください

17 (1) で 5～7 のいずれかに回答された学校 (すでに参加型学習に取り組んでいる学校) は 18～25 に
お答えください

18 ○○科では、参加型学習を通して、生徒にどのような力が身につくことをねらっていますか。以下の項目について、あてはまるものを 1 つずつ選んでください。

	とても重視している	重視している	やや重視している	どちらともいえない	あまり重視していない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合					
1. 各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	5	4	3	2	1
2. 各教科で身につけた知識・技能を活用する力	5	4	3	2	1
3. 教科を越えた知識や理解の統合	5	4	3	2	1
4. 教科内容に対する知的好奇心	5	4	3	2	1
5. 物事を多面的に見る力	5	4	3	2	1
言語を活用する力					
6. 文章などを正確に読み解く力	5	4	3	2	1
7. 自分の考えを言語で表現する力	5	4	3	2	1
探究する力					
8. 課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	5	4	3	2	1
9. 自分で情報を収集し、分析し、整理する力	5	4	3	2	1
10. 課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	5	4	3	2	1
11. これまでにない発想をしようとする創造性	5	4	3	2	1
12. 自分の考えを深める思考力	5	4	3	2	1
対人関係を築き、協働する力					
13. 主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	5	4	3	2	1
14. 他者と協力するための社会性や協調性	5	4	3	2	1
15. 勤労観や職業観	5	4	3	2	1
16. 社会の一員としての市民性意識	5	4	3	2	1
17. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	5	4	3	2	1
自ら学びを切り開く力					
18. 何事にも積極的に取り組む意欲	5	4	3	2	1
19. 他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	5	4	3	2	1
20. 社会変化に対応できる柔軟性	5	4	3	2	1
21. 自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	5	4	3	2	1
卒業後の進路に役立つ力					
22. 大学入学試験 (AO・推薦入試など) で必要となる力	5	4	3	2	1
23. 大学入学試験 (一般入試) の問題を解く力	5	4	3	2	1
24. 就職で必要となる力	5	4	3	2	1

- 19 効果的な参加型学習を進める上で、〇〇科として力を入れて取り組んでいる学習活動はありますか。以下の項目について、あてはまるものを 1つずつ 選んで○をつけてください。

	取り組んでいる とても力を入れて	取り組んでいる 力を入れて	取り組んでいる	取り組んでいない
意見発表・交換型の活動				
1. 生徒同士の討論（ディベート）	4	3	2	1
2. 生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	4	3	2	1
3. 生徒による発表（プレゼンテーション）	4	3	2	1
4. 生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	4	3	2	1
理解深化型の活動				
5. 学習について自分で客観的にふりかえる活動	4	3	2	1
6. データの整理・分析やレポートなどのまとめ活動	4	3	2	1
7. まとめのプリントや壁新聞などをつくる活動	4	3	2	1
8. 演劇やダンスなどの身体活動	4	3	2	1
9. 音楽や美術などの芸術活動	4	3	2	1
10. 写真や映像などを用いた創作活動	4	3	2	1
11. 生徒同士がお互いに評価し合う活動	4	3	2	1
課題解決型の活動				
12. 個人でテーマを調べる活動	4	3	2	1
13. グループでテーマを調べる活動	4	3	2	1
14. 教員が生徒にテーマを与えて調べる活動	4	3	2	1
15. 生徒が自分でテーマを設定して調べる活動	4	3	2	1
16. 図書館などで書物や論文などの資料を調べる活動	4	3	2	1
17. 博物館など、学校外の施設で調べる活動	4	3	2	1
18. コンピュータなどの機器を用いて調べる活動	4	3	2	1
19. 実験室などでの実験や観察	4	3	2	1
20. インタビューや観察、アンケート調査をして調べる活動	4	3	2	1
21. 地域の課題解決やボランティアなど、地域の人の役に立つ活動	4	3	2	1
その他の活動				
22. 教員による思考の活性化を促す説明や解説	4	3	2	1
23. 外部講師による講演や活動	4	3	2	1
24. 自然体験・社会体験活動	4	3	2	1
25. 他校の生徒や地域の人など学校外の人との交流活動	4	3	2	1

- 20 効果的な参加型学習を進める上で、〇〇科が重視して整備した学習環境や授業方法の工夫はありますか。以下の項目について、あてはまるものを 1 つずつ選んでください。

	取り入れていない	取り入れている	力を入れて取り入れている	とても力を入れて取り入れている
学習環境の整備				
1. 参加型学習に関する教員用の手引書などの整備	4	3	2	1
2. 自作プリントや模型・実物の提示など、アナログな教材教具の工夫	4	3	2	1
3. 電子教科書やタブレット端末など、デジタルな教材教具の工夫	4	3	2	1
4. 空き教室や特別教室など、学校内の既存スペースの活用	4	3	2	1
5. 可動式机など、参加型学習での活用を考慮した学校内スペースの整備	4	3	2	1
6. 公民館など、学校外スペースの活用	4	3	2	1
7. 学習時間が十分に保証できるような時間割の工夫	4	3	2	1
8. 効果的な授業を実施できる教員（非常勤講師を含む）の確保	4	3	2	1
授業方法の工夫				
9. 生徒の発達段階や個性を考慮したグループづくりの工夫	4	3	2	1
10. 他学年との合同の取り組み	4	3	2	1
11. 複数の教員による合同の授業の実施	4	3	2	1
12. 外部講師を招いた授業の実施	4	3	2	1
13. 学習活動の各場面で生徒の学習を促す動機づけの工夫	4	3	2	1
14. 生徒にあらかじめ学習のねらいを伝えるなど、学習の到達点を意識させる工夫	4	3	2	1
15. 生徒が自然体験・社会体験できる場の活用	4	3	2	1
16. 反転授業など、授業外の時間の使い方の工夫	4	3	2	1

- 21 〇〇科において、参加型学習を取り入れた授業の実施により実感した効果はありますか。以下の項目について、あてはまるものを 1 つずつ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合					
1. 生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	5	4	3	2	1
2. 生徒の進学実績が向上した	5	4	3	2	1
3. 生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	5	4	3	2	1
4. 生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	5	4	3	2	1
5. 生徒の教科内容に対する知的好奇心が高まった	5	4	3	2	1
6. 生徒の物事を多面的に見る力が高まった	5	4	3	2	1
言語を活用する力					
7. 生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	5	4	3	2	1
8. 生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	5	4	3	2	1
9. 生徒が身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	5	4	3	2	1

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
探究する力					
10. 生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	5	4	3	2	1
11. 生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	5	4	3	2	1
12. 生徒がこれまでにない発想をするようになった	5	4	3	2	1
13. 生徒が自分の考えを深められるようになった	5	4	3	2	1
対人関係を築き、協働する力					
14. 生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	5	4	3	2	1
15. 普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関わられるようになった	5	4	3	2	1
16. 生徒の社会性や協調性が高まった	5	4	3	2	1
17. 生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	5	4	3	2	1
18. 社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	5	4	3	2	1
19. 地域社会との交流や相互理解が深まった	5	4	3	2	1
20. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	5	4	3	2	1
21. 生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	5	4	3	2	1
22. 生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	5	4	3	2	1
自ら学びを切り開く力					
23. 生徒の学習習慣（予復習）が身についた	5	4	3	2	1
24. 生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	5	4	3	2	1
25. 生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	5	4	3	2	1
26. 生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	5	4	3	2	1
27. 生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	5	4	3	2	1
卒業後の進路に役立つ力					
28. 大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力が高まった	5	4	3	2	1
29. 大学入学試験（一般入試）の問題を解く力が高まった	5	4	3	2	1
30. 就職で必要となる力が高まった	5	4	3	2	1

22 ○○科における参加型学習を取り入れた授業の評価方法についてお聞きします。

- (1) ○○科では、参加型学習での生徒の活動や成果物について、何らかの方法で評価し、成績に含めていますか。あてはまるものを 1 つ選んでください。
- 参加型学習での生徒の活動や成果物を評価していない → 23 に進んでください
 - 参加型学習での生徒の活動や成果物を評価しているが、成績には含めていない → (2)(3)にお答えください
 - 参加型学習での生徒の活動や成果物を評価し、成績に含めている → (2)(3)にお答えください
- (2) 【(1)で 2 または 3 を選んだ方（参加型学習の評価を行っている方）にお聞きします】○○科では、参加型学習を取り入れた授業について、誰が評価を行っていますか。評価者としてあてはまるものをすべて選んでください。
- 担当教員（単独）による評価
 - 授業に参加した複数の教員による評価
 - 生徒自身による自己評価
 - 生徒同士による相互評価
 - 活動に関わった学校外の人による評価
 - その他（具体的に

- (3) 【(1)で2または3を選んだ方(参加型学習の評価を行っている方)にお聞きます】〇〇科では、参加型学習を取り入れた授業について、何を評価の対象としていますか。評価対象としてあてはまるものをすべて選んでください。

1. 生徒の関心・意欲
2. 生徒の授業への参加度・積極性
3. 教科での学内考査
4. 作文やレポートなどの提出物
5. 身体活動・芸術活動・課題解決活動などの製作・成果物
6. 生徒による発表(プレゼンテーション)の内容
7. 生徒の記録したノート
8. 活動内容や感想を記録するふりかえりシート
9. 生徒の学習活動の記録(プリント・ワークシート・発表資料など)をとじたファイル
10. その他(具体的に)

- 23 〇〇科における参加型学習を取り入れた授業のカリキュラム評価・改善についてお聞きます。

- (1) 〇〇科では、参加型学習を取り入れた授業について、何らかの方法で評価し、その結果を指導計画や授業内容の改善につなげていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 評価に基づいた指導計画や授業内容の改善を行っている →(2)(3)にお答えください
2. 評価に基づいた指導計画や授業内容の改善を行っていない →24に進んでください

- (2) 【(1)で1を選んだ方(評価・改善を行っている方)にお聞きます】〇〇科では、参加型学習を取り入れた授業の改善について、どのような評価に基づいていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 教員の感覚や経験による評価に基づいて、指導計画や授業内容の改善を行っている
2. 客観的な評価に基づいて、指導計画や授業内容の改善を行っている

- (3) 【(1)で1を選んだ方(評価・改善を行っている方)にお聞きます】〇〇科では、参加型学習を取り入れた授業の評価・改善について、具体的に何を根拠にしていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 生徒の学内考査の成績
2. 生徒の学習活動の様子
3. 生徒の学習活動の成果物(レポートや作品など)
4. 生徒による授業評価
5. 自身による授業評価・自己分析
6. 自校の教員による授業評価
7. 保護者による授業評価
8. 他校の教員や大学の研究者による授業評価
9. その他(具体的に)

- 24 〇〇科では、参加型学習の実施によって生じた困難や課題、不安はありますか。以下の項目について、〇科の悩みとしてあてはまるものを1つずつ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
教育効果や評価に関する困難や課題、不安					
1. 生徒の教科における学業成績(学内定期考査など)が低下する	5	4	3	2	1
2. 受験に必要な学力に結びつかない	5	4	3	2	1
3. 社会の中で「生きる力」に結びつかない	5	4	3	2	1
4. 授業の進度が遅くなる	5	4	3	2	1
5. 各教員の授業の進度にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
6. 各教員の授業内容にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
7. 生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	5	4	3	2	1
8. 活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	5	4	3	2	1

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
授業中の生徒の学習態度に関する困難や課題、不安					
9. 授業内容に関係のない生徒の私語が増える	5	4	3	2	1
10. 生徒の集中力が低下する	5	4	3	2	1
11. 参加型学習になじめない生徒や、ついてこれない生徒がいる	5	4	3	2	1
12. 参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	5	4	3	2	1
教育資源に関する困難や課題、不安					
13. 授業中の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
14. 授業前後の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
15. 教員の授業スキルが不足している	5	4	3	2	1
16. 予算が足りない	5	4	3	2	1
17. 必要な施設・設備が足りない	5	4	3	2	1
18. 授業準備のための時間が足りない	5	4	3	2	1
19. 授業の時数が足りない	5	4	3	2	1
20. 一学級当たり生徒数が適切でない	5	4	3	2	1
関係者の理解に関する困難や課題、不安					
21. 生徒の理解が得られない	5	4	3	2	1
22. 保護者の理解が得られない	5	4	3	2	1
23. 組織的な取り組みにならない	5	4	3	2	1
24. 教員が参加型学習の必要性を感じていない	5	4	3	2	1
25. 教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	5	4	3	2	1

- 25 参加型学習に取り組む上で困難や課題、不安を感じたとき、あなたがその解決に向けて相談する相手は誰ですか。最もあてはまるものを1つ選んでください。
1. 同校の管理職
 2. 同校の参加型学習推進担当教員
 3. 同校の同教科の教員
 4. 同校の他教科の教員
 5. 他校の教員
 6. 大学等の研究者
 7. 教育委員会関係者
 8. 民間の教育支援機関
 9. その他（具体的に ）

以上で質問は終わりです

このたびは、東京大学 大学総合教育研究センター・日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）による「高等学校における参加型学習に関する実態調査」にご協力いただき、ありがとうございました。

お手数ですが、回答が終わりましたら、この回答用紙をとりまとめご担当の先生に9月5日（火）までにお渡しください。

2018 年 10 月 24 日 発行

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った
参加型授業に関する実態調査 2017
報告書

編著者 木 村 充 (JCERI)
村 松 灯 (立教大学)
田 中 智 輝 (立教大学)
町 支 大 祐 (立教大学)
渡 邊 優 子 (立教大学)
裴 麗 瑩 (筑波大学)
吉 村 春 美 (立教大学)
高 崎 美 佐 (立教大学)
中 原 淳 (立教大学)

編集・発行 立教大学 経営学部 中原淳研究室
〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1